教育実習事前指導【小学校】

1004
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
笠原　　清次

〔到達目標〕
小学校教員として必要な使命感、知識、指導技術、心構え、態度を修得するために行う教育実習に向け、
(1) 教育実習の具体的な内容と心構えを理解するとともに、実習記録の取り方のポイントを習得する。
(2) 生活指導及び学習指導のための指導案作成と授業の進め方の基本を理解する。

〔授業の概要〕
１.教育実習中の様々な場面を想定し、実習生としてふさわしい行動がとれるよう話し合うなどして理解する。
２.生活指導や学習指導において指導する際に必要なスキルの基本を、演習を通して互いに確認し合い実習に備える。
３.学習指導案を実地に作成し、習得する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１.学習指導案を作成する(60分)
２.指導案に基づき、45分授業を練習する。(30分)

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
学修の見通しを持ち，教育実習の意義，目的，内容を理解する。
第 2 回　教育実習の準備と留意点
実習校への事前訪問，実習期間中の過ごし方を理解する。
第 3 回　教育実習の実際，学習指導案演習１
実習初日の過ごし方，観察実習から授業実習までのあらましを理解する。
研究授業を想定した学習指導案の書き方を知る。
第 4 回　学習指導案演習２
研究授業を想定した算数科学習指導案の書き方を理解する。
第 5 回　授業演習１
模擬授業を通して，算数科４５分授業(導入，展開，まとめ)を体験する。
第 6 回　授業演習２
模擬授業を通して，算数科４５分授業の進め方の留意点を理解する。
第 7 回　授業演習３
模擬授業を通して，算数科４５分授業の進め方の基本をまとめる。
第 8 回　教育実習記録簿の記入
記録簿への記入の仕方を，項目ごと具体的に理解する。
第 9 回　学習指導案演習３
研究授業を想定し国語科学習指導案の書き方を理解する。
第 10 回　授業演習４
模擬授業を通して，国語科４５分授業(導入，展開，まとめ)を体験する。
第 11 回　授業演習５
模擬授業を通して，国語科４５分授業の進め方の留意点を理解する。
第 12 回　授業演習６
模擬授業を通して，国語科４５分授業の進め方の基本をまとめる。
第 13 回　学習指導案演習４
その他の教科等で学習指導案の書き方を演習する。
第 14 回　授業演習７
前時作成の指導案等を用いて，模擬授業を行う。
第 15 回　教育実習事前指導のまとめ
実習後の手続きを理解するとともに，学修をまとめ実習に備える。

〔成績評価〕
指導案作成・模擬授業(６０％)
毎時間の小レポート(２０％)
学習態度（２０％）

〔教科書〕
芦屋大学「教育実習ハンドブック」
小学校学習指導要領（平成29年3月　文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、小一種、必修

【実務経験の活用】
①小学校における若手教員に対する指導経験を生かし，国語科，特別の教科道徳をはじめ、各教科等における基礎的・基本的事項を抑えた実践的な指導方法を習得するよう指導している。
②教育現場における児童への指導経験や指導主事，管理職、学校心理士として対応してきた経験の蓄積により、児童理解を深めた生徒指導の在り方について指導している。
③学校現場で長年にわたり教育実習生を育成してきた経験を生かし，学生の目的意識的な教育実習等参加の在り方について指導している。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教育実習事前指導【幼稚園】

1005
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
大江　まゆ子　安藝　雅美

〔到達目標〕
・幼稚園教育実習を効果的に実施するため、幼稚園教育の目的や内容、教師の役割や職務内容について学ぶ。
・実習記録およびエピソード記録の書き方、教材準備、指導案作成、援助の方法等を学び、実習において実習生として円滑に学びを深めることができるようにする。

〔授業の概要〕
幼稚園教育実習を円滑に進めるため、実習記録やエピソード記録の書き方、責任実習に必要な教材研究や指導計画について学びを踏める。また、グループワークや模擬保育の実践などを通して、保育者としてのよりよい環境構成や子どもへのかかわり、言葉掛けなど具体的実践について考え、実習に向けての意識と知識及び技術の向上を図る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
※保育現場に実習生として入らせていただくことの自覚を持ち、また新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される状況下であることを踏まえて、日常的に健康管理と感染回避の行動の徹底を行うこと。
【予習】120分
幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、「保育実習・幼稚園教育実習のハンドブック」を熟読しておく。また、ハンドブックを熟読することや教材研究等を通して幼稚園教育実習への意識と具体的なイメージ高め、授業で提示される課題に積極的に取り組み、指導案作成や模擬保育に臨むこと。
【復習】120分
授業での学びを整理し、自己課題を明確にしておくこと。また、実習記録やエピソード記録、指導案や細案の課題に対する分級担当教員からの添削やコメントを通して、各記録や指導案の書き方をハンドブックも活用しながら確認、整理を行い、復習の徹底により書く力を確実に身に付けること。

〔授業計画〕
第 1 回　教育実習についてのオリエンテーション
授業オリエンテーションを行う。また、幼稚園教育実習に向けての意識を高め、実習での学びを深められるよう、実習時の目標となる自己課題を設定する。
第 2 回　実習記録、エピソード記録について
実習記録とエピソード記録の書き方を復習し、演習を行う。
第 3 回　指導案、細案について
指導案、細案の書き方について学ぶ。
第 4 回　模擬保育
模擬保育に向けて教材研究を行い、指導案、細案を作成する。
第 5 回　模擬保育
3歳児を対象とした模擬保育を行い、よかった点、改善点について協議し、指導案作成や教材研究について振り返ることで、事前にどのような準備が必要であるかを明確化する。
第 6 回　模擬保育
4歳児を対象とした模擬保育を行い、よかった点、改善点について協議し、指導案作成や教材研究について振り返ることで、事前にどのような準備が必要であるかを明確化する。
第 7 回　模擬保育
5歳児を対象とした模擬保育を行い、よかった点、改善点について協議し、指導案作成や教材研究について振り返ることで、事前にどのような準備が必要であるかを明確化する。
第 8 回　実習に向けての最終確認と実習生としての心構え
実習前の事務連絡事項および実習生としての心構えについて確認を行う。また、模擬保育の総括を行い、指導案、細案の書き方、実習記録、エピソード記録の書き方の総まとめを行う。

〔成績評価〕
定期試験（50%）、授業内提出物等（30%）、授業への取り組み姿勢（20%）

〔教科書〕
「保育実習・幼稚園教育実習のハンドブック」（大学から配布された冊子）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
その他の参考資料等は授業中に適宜、配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、幼一種、必修
提出物は期限を厳守すること。
授業外学習（事前学習・事後学習）を適宜行うこと。
授業計画はあくまで予定であり、進度に応じて変更する場合がある。

【実務経験の活用】
教育現場経験から、実践的な保育指導を行う。
実践的で、就職後に生かせる実習を行う。現場で経験した諸問題（幼児の姿、保育内容、特別な配慮を要する子どもに対する対応方法等）を具体的に伝えることで、実際の現場での対応に生かせるよう指導する。

〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、各教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で分級担当教員に必ずアポイントメントを取ること。

教育実習【小学校】

1009
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
実務経験有
笠原　　清次

〔到達目標〕
教育実習校において、児童との関わり合いを通じ、一定期間指導教員の指導及び監督のもと、小学校教員として必要な使命感、知識、指導技術、心構え、態度を修得する。

〔授業の概要〕
１.教育実習期間中に、実習生としてふさわしい態度と行動がとれるよう目的意識をもって過ごす。
２.実習校担当教員の指導のもと、自ら指導方法を考えながら学習及び生活指導を行い、小学校教員に必要な技能と知識を習得するよう努める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の学習指導案作成(120分)
授業見学・授業後のまとめ(90分)

〔授業計画〕
第 1 回　教育実習校ガイダンス
学校教育目標、教育課程、地域・家庭環境等を理解する。
第 2 回　教育実習学級ガイダンス
主として教育実習を行う学級の経営目標、年間指導計画を理解する。
第 3 回　学校の課題に関わるガイダンス
学力向上、人権教育、特別支援教育、保健・安全指導、生徒指導、食育等の現状と課題を理解する。
第 4 回　観察実習１
指導教員の授業を観察実習し、授業の進め方のポイントを知る。
第 5 回　観察実習２
他学級の教員による授業を観察実習し、授業の進め方について理解を広げる。
第 6 回　観察実習３
指導教員の学級経営を観察し、児童への指導・支援の仕方を理解する。
第 7 回　観察実習４
他学級教員の学級経営を観察実習し、児童への指導・支援の仕方の理解を広げる。
第 8 回　授業実習１
初発の授業に取り組み、授業を進める際の自身の課題をつかむ。
第 9 回　授業実習２
２回目の授業に取組み、成果と課題をつかむ。
第 10 回　授業実習３
３回目の授業に取組み、課題解決方策を研究する。
第 11 回　授業実習４
研究授業に向けて学習指導案を検討し作成する。
第 12 回　授業実習５
学級指導に取り組み、成果と課題をつかむ。
第 13 回　授業実習６
他学級での研究授業に取り組み、学習指導案を検討する。
第 14 回　授業実習７
研究授業を公表して講評をいただき、授業実習のまとめとする。
第 15 回　教育実習のまとめ
教育実習の記録をまとめ、実習を仕上げる。

〔成績評価〕
実習校による評価（80%）
教育実習記録（20%）

〔教科書〕
芦屋大学教育実習ハンドブック
小学校学習指導要領及び各教科等解説編（平成29年3月・7月　文部科学省）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、小一種、必修

【実務経験の活用】
①小学校における若手教員に対する指導経験を生かし，国語科，特別の教科道徳をはじめ、各教科等における基礎的・基本的事項を抑えた実践的な指導方法を習得するよう指導している。
②教育現場における児童への指導経験や指導主事，管理職、学校心理士として対応してきた経験の蓄積により、児童理解を深めた生徒指導の在り方について指導している。
③学校現場で長年にわたり教育実習生を育成してきた経験を生かし，学生の目的意識的な教育実習等参加の在り方について指導している。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教育実習【幼稚園】

1010
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
実務経験有
大江　　まゆ子　安藝　　雅美

〔到達目標〕
・幼児の実態、幼稚園の目的や機能、幼稚園教諭の職務について理解し、幼稚園教諭としての実践的指導力の基礎を

身につける。
・個々の幼児の姿から内面を受け止め、個と集団へのかかわりという観点を持ち、保育実践に取り組む。
・謙虚な気持ちと新鮮で前向きな気持ちを持ち、幼稚園教諭として常に学び、成長する努力を続ける。

〔授業の概要〕

講義や演習で学んだ基礎的な知識や技術をもとに、幼稚園教育実習を行い、実践的に学ぶ。実際の子どもの姿から、その場に応じたかかわりを模索し、保育の理論や方法論を活用、応用する過程で、自らの保育の知識、技術を深める力を身につけることを目的とする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

※保育現場に実習生として入らせていただくことの自覚を持ち、また新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される状況下であることを踏まえて、日常的に健康管理と感染回避の行動の徹底を行うこと。
実習前に、実習指導案を作成し、クラス担任の指導を受ける。実習中に学んだ内容などは、考察を加えて実習日誌、エピソード記録に詳細に記録し、次の日の朝に提出する。実習中は、クラス担任の指導の下、実習を行う。報告･連絡･相談を行い、積極的に実習に臨む。実習後にその成果と課題について報告と協議を行い、今後の自己課題を明確にする。

〔授業計画〕

第 1 回　幼稚園教育実習
第 2 回　幼稚園教育実習
第 3 回　幼稚園教育実習
第 4 回　幼稚園教育実習
第 5 回　幼稚園教育実習
第 6 回　幼稚園教育実習
第 7 回　幼稚園教育実習
第 8 回　幼稚園教育実習
第 9 回　幼稚園教育実習
第 10 回　幼稚園教育実習
第 11 回　幼稚園教育実習
第 12 回　幼稚園教育実習
第 13 回　幼稚園教育実習
第 14 回　幼稚園教育実習
第 15 回　幼稚園教育実習

〔成績評価〕

実習先評価（60%）、実習日誌（30%）、提出物等（10%）

〔教科書〕

「保育実習・幼稚園教育実習のハンドブック」（大学から配布された冊子）、幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

〔参考文献〕

「特になし」

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教育実践に関する科目、教育実習、幼一種、必修
教育実習条件科目の単位を修得していること
教育実習期間中の欠席は、原則として認められない。

【実務経験の活用】
教育現場経験から、実践的な保育指導を行う。
実践的で、就職後に生かせる実習を行う。現場で経験した諸問題（幼児の動き、保育内容、特別な配慮を要する子どもに対する対応方法等）を具体的に伝えることで、実際の現場での対応に生かせるよう指導する。

〔オフィスアワー〕

後期、水曜日　12：10〜13：40、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ず分級担当教員にアポイントメントを取ること。

図画工作Ⅰ①

1225
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
山子　　陽子

〔到達目標〕

幼児・児童の感性（感受性）をどのように育んでいけばよいか、実技・実践を通して研究していく。
○幼児・児童における造形活動は感性・情緒を大いに養い、人間形成上最も大切なるもので、授業においては造形活動を実践し、そこから発する問題点を詳しく把握して造形教育に対する指導力を高めていく。
○幼児・児童に対してどのように関わっていけばよいか実践を中心として指導者側に立ち、より良い方法を習得していく。

〔授業の概要〕

実際に幼稚園・小学校で実践されている造形（絵画・図画工作）において新たにさまざまなテーマ（課題）を生み出し、オイルパス・水彩絵具などを使用して、実技方法にて授業を進めていく、実技中心の授業形式をとる教科である。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

実技・実践が主となるので、各自で画材や道具を準備する。実技・実践での注意点などを集めて改めて洗いだしていく。

〔授業計画〕

第 1 回　技法1
　　デカルコマニー（合わせ絵）
第 2 回　技法1
　　デカルコマニー（合わせ絵）
第 3 回　造形の基礎1
　　線と面
第 4 回　造形の基礎
　　線と面
第 5 回　技法2
　　はじき絵
第 6 回　技法2
　　はじき絵
第 7 回　技法3
　　スクラッチ
第 8 回　技法3

スクラッチ
第 9 回　色彩1
色の三属性
第 10 回　色彩1
色の三属性
第 11 回　色彩2
色の三原色
第 12 回　色彩2
色の三原色
第 13 回　造形1
紙ねんどで塑像
第 14 回　造形1
紙ねんどで塑像
第 15 回　前期授業1～14の復習

〔成績評価〕
実技を中心に毎回さまざまなテーマで作品を制作する。その制作過程に重点を置き、制作意味・意義を把握して実践していく。
定期試験はなく、対面授業の場合レポート提出とする。LMSの場合レポート提出はなし。
授業形態はLMS授業ですが、状況に応じて対面授業に変更する場合もあります。その際授業内容も変更することもあります。

（対面授業）
授業内での課題作品提出　50%
レポート提出　40%
授業への姿勢　10%

（LMS授業）
授業内での課題作品提出　100%

〔教科書〕
実技に使用するF6サイズのスケッチブック、その他の画材が必要（初回授業時に説明）

〔参考文献〕
文部科学省（最新版）
『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』

〔履修条件〕

〔備考〕
領域に関する専門的事項、図画工作、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、図画工作、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
①前期
②金曜日　11：00～12：00（対面授業の場合）
③場所　講義室（対面授業の場合）
④連絡先　Phollyのメッセージまで
○（対面授業）来室の際は事前にPhollyのメッセージで連絡をください。
○（LMS授業）Phollyのメッセージで質問・相談を随時受け付けます。

幼稚園観察実習

1314
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
安藝　雅美

〔到達目標〕
実際の保育現場を観察することで、幼稚園教育における一日の流れを理解する。また、子どもの遊びや保育者のかかわり方を学ぶとともに、記録の書き方を習得する。
現場での観察と机上での討論を隔週で行うことにより、子ども理解の視点を深め、保育における思考力を培う。

〔授業の概要〕
保育の営みを概観し、子ども理解の視点を深める。そのため、附属幼稚園との連携を図り、隔週で保育現場を観察し、その翌週には観察した子どもの姿をエピソードとして取り上げ、机上にて考察及び討論を行う。この繰り返しにより子ども理解の視点を実際的に深めていくとともに、保育者の姿や保育方法にまで学びを広げていく。
また、教育実習で必要な記録の書き方も、ここで事前に習得する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
常に子どもの姿を意識することで、保育の場における視点は深まっていく。それゆえ、日々の生活において、新聞やニュース等からも子どもに関する情報を得ながら、観察や考察をする姿勢を意識してほしい。

〔授業計画〕
第 1 回　観察実習の意義と実際
幼稚園を観察することの意義と目的、マナーについて
名札作り
第 2 回　子どもを観察する視点
実習記録の書き方について
名札作り
第 3 回　観察練習
DVDを通しての観察　（記録：幼児の活動）
第 4 回　エピソードを通しての子ども理解①
エピソードから見えてくる子どもの姿の実際を討論する
「デイリープログラムと子どもの遊びについて」
第 5 回　観察練習②
DVDを通しての観察　（記録：環境構成）
第 6 回　エピソードを通しての子ども理解②
エピソードから見えてくる子どもの姿の実際を討論する
「子どもの遊びと環境について」
第 7 回　観察練習③
DVDをとおしての観察　（記録：保育者の援助）
第 8 回　エピソードを通しての子ども理解③
エピソードを通して子どもの心の動きを考察し討論する
「子どもの遊びと保育者の援助について」

第 9 回　幼稚園観察④
幼稚園での観察　（記録：実習生の気づき）
第 10 回　エピソードを通しての子ども理解④
エピソードを通して子どもの心の動きを考察し討論する
「個と集団における保育での気づき」
第 11 回　幼稚園観察⑤
幼稚園での観察　（記録：一人の子どもを観察することで見えてくるもの）
第 12 回　エピソードを通しての子ども理解⑤
エピソードから子どもの姿の実際と保育者のかかわりを考察し討論する
「子ども同士のかかわりについて」
第 13 回　幼稚園観察⑥
幼稚園での観察　（記録：エピソード記録の深め方）
第 14 回　エピソードを通しての子ども理解⑥
エピソードから子どもの姿の実際と保育者のかかわりを考察し討論する
「総合的視点からの保育と子ども理解につて」
第 15 回　まとめ
総合的視点から子ども理解を深める

〔成績評価〕
観察実習時の参加態度（30％）、積極的な討論への参加（20％）、提出物の内容及び期限厳守（30％）、最終レポート（20％）をもって、総合評価とする。

〔教科書〕
『幼稚園教育実習』教育情報出版
『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（平成30年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験から、実践的な保育指導を行う。
実践的で、就職後に生かせる実習を行う。現場で経験した諸問題（幼児の動き、保育内容、特別な配慮を要する子どもに対する対応方法等）を具体的に伝えることで、実際の現場での対応に生かせるよう指導する。

〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40　研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

初等教科教育法Ⅶ（図画工作）

1323
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
喜田　　萌子

〔到達目標〕
授業のテーマ及び到達目標及びテーマ：　図画工作科学習指導要領に示された目標や内容を理解すると共に改定の趣旨を理解し、資質・能力、教育実践力を養うことをテーマとする。

〔授業の概要〕
図画工作科学習指導要領の目票や内容及び改定の趣旨を十分理解できるように研究していく。学習内容についての指導上の留意点及び学習評価の考え方について研究していく。子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れ、情報機器及び教材を効果的に活用した授業設計の研究具体的な授業を想定して学習指導案を作成し模擬授業を実施する

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
文部科学省　平成29年版小学校　新学習指導要領解説を熟読しておく
実技や模擬事業に必要な用具を準備して事業に臨む

〔授業計画〕
第 1 回　図画工作科学習指導要領の理解
図画工作科学習指導要領の目標及び主な内容並びに全体構造の理解
第 2 回　事業設計と学習指導案
学習指導案の構成を理解し具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案作成の要領
第 3 回　第１，２学年教材の授業設計
第１，２学年教材の授業設計　児童の認識、思考、学力等の実態を視野に入れることの重要性の理解
第 4 回　第１，２学年教材開発と実技　発表と鑑賞
第１，２学年教材開発と実技　発表と鑑賞
第 5 回　模擬授業
模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につける
第 6 回　第３、４学年の授業設計
第３、４学年の授業設計　情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用する
第 7 回　第３、４学年の教材開発と実技
第３、４学年の教材開発と実技　情報機器の利用　発表と鑑賞
第 8 回　模擬授業の実施
模擬授業の実施と図画工作科の学習内容についての指導上の留意点について考察する
第 9 回　図画工作科と背景となる学問領域
図画工作科と背景となる学問領域との関係を理解し教材研究に活用する
第 10 回　第５、６学年の授業設計
第５、６学年の授業設計　情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用する

第 11 回　第５、６学年の教材開発と実技
　　第５、６学年の教材開発と実技　共同制作　情報機器の利用　発表と鑑賞
第 12 回　模擬授業
　　模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につける
第 13 回　評価の観点
　　評価の観点　図画工作科学習評価の考え方についての理解
第 14 回　鑑賞　美術館の活用
　　鑑賞　美術館の活用
第 15 回　まとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
レポート（30%）実技作品（20%）発表内容（20%）学習指導案（30%）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
図画工作（１～６）年教科書　　参考資料は授業中に適宜配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、図画工作、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
①前期　②土曜日　11時30分～12時10分（昼休みの時間帯）
③場所：講義教室（美術実習室）で対応します。
④連絡先:　kitasyoen@gmail.comにメールか　℡ 090 - 3056 - 9416に事前に連絡してください。

数学概論

1417
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　整七

〔到達目標〕
・中学校３年間の数学の学習範囲を再確認し、それらの問題の解き方や意味を説明できる。
・小学校の算数との系統性を理解できる。
・高校での数Ⅰ、A、数ⅡＢの確率等の分野において理解ができる。

〔授業の概要〕
小学校算数の指導方法や教材の研究を深めるためには、算数の範囲に留まることなく数学の範囲まで広げて数学的な考え方についてもアクティブ・ラーニングを取り入れた探求を行い、算数から数学へどのように発展していくかを研究する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次項の予習を行う(２時間)
授業後のレポート作成や練習問題を行う。(２時間)

〔授業計画〕
第 1 回　数と式（1）
　　数の分類・四則計算の意味・正の数、負の数の意味と四則計算の手順などについて考えあう。
第 2 回　数と式（2）
　　文字を用いた式・一元一次方程式・算数との関連性についてグループで話し合い、理解を深める。
第 3 回　数と式（3）
　　文字を用いた四則演算・文字を用いた式で捉え、互いに説明しあいながら理解を深める。
第 4 回　数と式（4）
　　連立二元方程式とその解の意味について考え、グループで教え合う。
第 5 回　数と式（5）
　　平方根の必要性と意味や式の展開と因数分解についてその手順と意味についてグループで話し合う。
第 6 回　数と式（6）
　　二次方程式の必要性と意味及びその解の意味について理解を深め、グーループで話し合う中で二次方程式を解く。
第 7 回　図形（1）
　　平面図形と空間図形についての問題をペア・グループで解決させていく。また、小学校算数との関連性についても探る。
第 8 回　図形（2）
　　基本的な平面図形と平行線の性質や図形の合同について理解を深め、演習問題をペアで協力としながら解いていく。
第 9 回　図形（3）
　　図形の相似、円周角と中心角、三平方の定理の問題について図を活用して具体的操作をしながらグループで解決させていく。
第 10 回　関数（1）
　　比例と反比例とそのグラフの問題をグループごとに解決させていく。また、小学校算数との関連性についても探る。
第 11 回　関数（2）
　　一次関数の式とグラフの問題を表や図を書き込みながら、全体で話し合う中で、その理解と技能を身に付けていく。
第 12 回　関数（3）
　　二次関数の式とグラフ問題を表や図を書き込みながら、全体で話し合う中で解決させ、その理解と技能を身に付けていく。
第 13 回　データの活用（1）
　　データの分布の傾向の問題をペアやグループで解決させていき、知識・技能のみならず、その意味を説明できる思考力・判断力・表現力を培う。また、小学校算数との関連性についても探る。算数との関連性

第 14 回　データの活用（2）
データの分布の比較や確率の問題についてグループで話し合う中で、その意味を樹形図などを用いながら手順を踏んで説明できるようにする。
第 15 回　データの活用（3）・まとめ
標本調査の必要性と意味についてペアや数人のグループで詳しく説明したり、問題を解いたりする。全体を通して数学の良さについて考える。

〔成績評価〕
毎時間の演習問題（３０％）・筆記試験（７０％）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説　算数編　H29.6　文科省
中学校数学教科書

〔参考文献〕
毎回「授業用テキスト」「演習問題」を提供する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
領域に関する専門的事項、算数、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、算数、小一種、必修

【実務経験の活用】
小中学校の教育現場や教育研究所での経験より、今日的な教育課題、実践的指導力、学校で求められている授業づくりなどについて指導する。

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

保育内容Ⅵ（音楽リズム）

1421
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
石田　　愛子

〔到達目標〕
幼児教育における音楽的表現の理解と実践
① 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、「表現」のねらいと音楽的な内容、指導上の留意点について理解している。
② 幼児の生活経験や発達に応じて、適切な教材を選択し、具体的な保育を想定した指導案を作成できる。
③　保育の流れのなかで、場面や目的に応じてピアノを弾いたり歌ったりできる。

〔授業の概要〕
保育の流れのなかで音楽が果たす役割を理解し、子どもたちとともに楽しめる様々な音楽リズム、表現活動を体験する。うたう・ピアノを弾く・音楽にあわせて身体を動かす等の幅広い音楽表現活動を実践・検討し、保育指導案づくりのレパートリーを増やす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎時、ワークシートを配付するので、きちんとファイルに保管し、復習すること（週30分以上）。
・実技課題については日々の練習を習慣とし（週3回60分以上）、指定された授業時間に発表できるようにすること。
・音楽に合わせて身体を動かす等の活動がしやすい服装・靴で出席すること。

〔授業計画〕
第 1 回　領域「表現」のねらいと内容
幼稚園教育要領における「表現」と音楽の位置づけについて知る。
第 2 回　子どもの発達と音楽表現
子どもの成長・発達段階と音楽教育のあり方について知る。
第 3 回　子どもの生活と音楽環境
子どもの生活やあそびの中での歌唱表現、保育現場の音環境や保育者の援助のあり方について考え、音楽ソフトの活用方法について理解する。情報機器及び教材の活用。
第 4 回　わらべうたと童謡
わらべうたの特徴と伝承あそび、わらべうたと童謡の違いについて知る。
第 5 回　新しいうた、歌唱指導
歌唱活動への導入と進め方、選曲のポイントについて考える。情報機器及び教材の活用。
第 6 回　コダーイの音楽教育、ソルフェージュ
コダーイ・メソッドと、幼児のための音楽教育について知る。
第 7 回　楽器あそび、器楽合奏
楽器あそびの目的と、様々な楽器の正しい奏法について理解を深める。
第 8 回　オルフの音楽教育、模倣と即興
オルフの音楽教育について知り、模倣から始める即興演奏について考える。
第 9 回　ダルクローズの音楽教育、リトミック
ダルクローズの音楽教育とリトミックの活動例について知り、子どもと音楽の関わり方について考える。
第 10 回　ピアノによる表現①動きのリズム
保育におけるピアノの役割と、子どもたちの動きを引き出す表現について考え、実践する。情報機器及び教材の活用。
第 11 回　ピアノによる表現②移調と変奏
歌唱におけるピアノの役割と様々な表現の工夫、電子楽器の活用法について知り、実践する。情報機器及び教材の活用。
第 12 回　指導計画と留意点
幼稚園の「表現」と小学校の「音楽」の円滑な接続と、指導の留意点について考える。
第 13 回　模擬保育①手あそびと読み聞かせ
具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育をおこなう。
第 14 回　模擬保育②製作とリズムあそび、歌唱指導

模擬保育と意見交換を繰り返し、よりよい保育指導案を作成する。
第 15 回　まとめ
子どもの音楽表現についての総括。

〔成績評価〕
実技課題への取組みと実技試験（40%）
指導案作成と模擬保育（30%）
小テスト（筆記試験）（30%）
※小テストと指導案については評価後、コメントを付けて返却します。

〔教科書〕
改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育（教育芸術社）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）
授業中に適宜資料配付

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
領域及び保育内容の指導法に関する科目、保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、幼一種、必修

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導、幼稚園における鍵盤ハーモニカ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕
日時：前期（金）15:30～16:30
場所：石田研究室
質問や相談がある場合は、Phollyのメッセージも活用してください。

視覚障害者の心理･生理･病理

1601
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
川上　　裕子

〔到達目標〕
・視覚障害に関する基礎的な知識を理解する。
・視覚障害教育の現状と課題を理解する。
・視覚障害児者の自立活動の特性を理解し、視覚補助における技能の初歩を習得する。

〔授業の概要〕
視覚障害者の歴史、教育の特性、及び自立活動の内容を学ぶ。実際に点字や介助法を実践してみることで、理解を深める。視覚障害者との交流を通じて、教育実践にフィードバックできるよう、全員で意見交換をする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・点字の法則について、事前に調べておく。
・２日目に、視覚障害者に関する課題を提出、発表する。

〔授業計画〕
第 1 回　視覚障害教育の概要
視覚障害の病理、視機能について、視覚の特性、障害による影響などについて学習する。
第 2 回　視覚障害児者のコミュニケーションツールについて
学習場面での視覚障害児の困難を理解し、視覚補助の方法を考えるとともに、点字の読み書きの実習を行う。
第 3 回　視覚障害がある人の暮らし
視覚に障害があるゲストティーチャーから、これまでの生活や仕事、考えに触れ、視覚障害教育の実際を知る。質疑応答などを通じ、考えを深める。
第 4 回　視覚障害者の心理
障害者自身の声を聴き、教育にフィードバックできるように、お互いに意見交換をする。
第 5 回　視覚障害者との交流のまとめ
視覚障害教育において、大切なことをまとめ、自立活動や日ごろの接し方など、実践に活かす方法を各自が考える。
第 6 回　視覚障害児者の学校生活とスポーツ、文化
盲学校の生活や、視覚障害教育の歴史、スポーツや音楽などの独自の文化を調べ、各自、発表する。
第 7 回　視覚障害児者への支援について
歩行介助や食事介助の方法を学び、実習することで、視覚障害者にわかりやすい説明の仕方や、必要な援助について考え、教育に活かす。
第 8 回　まとめ
視覚障害教育の課題、大切なことなど、これまでの授業のまとめ。試験を行う。

〔成績評価〕
試験・レポート50%
授業内提出物20%
授業外提出物10%
授業への取り組み・発表20%

〔教科書〕
以下も含め、授業中に適宜資料を配布する。

特別支援学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説　総則編・自立編（平成30年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
青柳まゆみ・鳥山由子「視覚障害教育入門」

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目、心身に障害

のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目、中心となる領域【視覚障害者】、含む領域【／】、特支一種、必修

【実務経験の活用】
・視覚障害児への支援の具体的な方法や、自立活動の内容、盲学校での様子、弱視学級や通級の具体的な支援方法を紹介する。
・視覚障害者のコミュニケーションツールである、点字について、実際に点字盤で打ってみる。歩行介助についても、アイマスクを使い体験する、などを指導する。

〔オフィスアワー〕
授業日の昼休み、授業後などで、設定します。
事前にFhollyのメッセージで質問内容や日時の連絡を入れ、相談して下さい。
場所は、講義教室。

聴覚障害者の心理･生理･病理

1603
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
堀田　　修

〔到達目標〕
聴覚障害に関する基礎知識を獲得することを目標とする。具体的には、①聴覚障害の特性である「見えない障害」について理解できる。②聴覚器官の解剖・生理について理解できる。③「聴覚障害の発見」について理解できる。③基本的な聴力検査について理解できる。④基本的な補聴手段について理解できる⑤残存聴力を活用するための基本的な指導法について理解できる。⑥聴覚は学習であり、残存聴力を活用することが脳の発達に結びつくこと、また聾文化についても理解できることを目標とする。さらに、聴覚障害児への指導や保護者との相談を行ううえでの基本的な態度についても理解できることを目標とする。

〔授業の概要〕
聴覚障害は外見からは分かりにくい。また、他の障害に隠れている場合も多い。そのため、まず聴覚障害を「発見」することが重要となる。子どもへの観察や検査、保護者からの情報収集など、聴覚障害を発見するうえで必要な知識について概説する。また、脳を含めた聴覚器官の解剖・生理について、教育機関で実施する聴力検査について、音声言語を獲得するための補聴手段について概説する。さらに、残存聴力を活用するための指導方法について概説し、聴覚は学習を基本としており、残存聴力を活用することが脳の発達に結びつくことを概説する。なお、授業は対話型を基本とし、学生に対し質問を行うので、互いに考えながら授業を進めていきたいと考えている。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前：授業計画の説明(小目標)に示した事項について、事前に予習する(90分)。授業後：授業後のノート作成を行い、取り上げた用語等を確認する(90分)

〔授業計画〕
第 1 回　スピーチチェインと聴覚器官
スピーチチェインについて理解できる。脳を含めた聴覚器官の解剖・生理、聴覚障害の種類(感音性、伝音性、混合性)について理解できる。
第 2 回　「見えない障害」と聴覚障害の発見(1)
聴覚障害は「見えない障害」と呼ばれており、「聴覚障害の発見」の重要性について理解できる。新生児聴覚スクリーニングおよび３歳児健康診査の有効性と問題点、子どもからの情報(観察や検査)、養育者からの情報、他機関からの情報の重要性について理解できる。
第 3 回　「見えない障害」と聴覚障害の発見(2)
難聴ハイリスク因子、情報を得るための問診項目等について理解できる。家族暦、経母体内感染、細菌性髄膜炎、耳毒性薬物、症候群性難聴、アプガーのスコア等について理解できる。
第 4 回　純音聴力検査の実施
基本的な純音聴力検査の実施方法とオージオグラムの書き方について理解できる。オージオメータ、純音、周波数(Hz)、聴力レベル(dB HL)、気導、骨導、平均聴力レベル、聴覚障害の程度等について理解できる。耳栓を用意。
第 5 回　聴覚障害が疑われる場合の方策について
聴覚障害が疑われる場合の医療機関、福祉機関、聴覚特別支援学校等の連携について理解できる。聴覚は学習をベースとすること、音声言語を獲得するための補聴手段の教育的意義や「聾者の文化」について理解できる。
第 6 回　補聴機器装着後の検査等について
補聴機器装着後の検査等について理解できる。音場での聴力検査、音場での語音聴力検査、行動観察、行動評価リスト等について理解できる。補聴機器の装着効果は、保護者からの観察記録が決め手になることも理解できる。
第 7 回　聴覚学習(聴覚活用)について
従来の系統的な聴能訓練の問題点を理解し、聴覚学習(活用)法、トップダウン処理とボトムアップ処理、言語ベースアプローチ、コミュニケーションベースの聴覚学習等について理解できる。音声、文字、手話、指文字等を併用したコミュニケーションの有効性について理解できる。
第 8 回　単位認定試験

〔成績評価〕
単位認定試験の結果により評価する。合格点を60点とする。60点に至らなかった学生の再試験は１回実施する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部指導要領(文部科学省, 2017)

〔参考文献〕
言語聴覚士のための聴覚障害学(第１刷第14版)　医歯薬出版, 2018：言語聴覚士養成用の入門テキスト。耳に関する病気や聴力検査、補聴手段等についてコンパクトにまとめられている。その他、何冊か紹介する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
特別支援教育に関する科目、免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目、中心となる領域【聴覚障害者】、含む領域【／】、特支一種、必修
【実務経験の活用】
聴覚障害の発見、医療・福祉機関との連携、聴力検査、補聴器装用など、聴覚障害の特別支援教育に関する基本的事項について実務経験をとおして講義を行う。
〔オフィスアワー〕
①前期②火曜日：11:30～12:30③場所：授業終了後、講義教室で対応します④LMSで受講の場合は、Phollyのメッセージ機能を利用ください。

知的障害者の心理･生理･病理

1604
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
高岡　　忍

〔到達目標〕
① 知的障害の心理学的な特徴と、生理と病理について理解する
② 知的障害の定義と原因について理解し、その特性を説明できる
③ 知的障害児の教育的支援について説明できる
④ 支援のためのアセスメントについて、基礎的な知識を習得する
〔授業の概要〕
知的障害の障害概念、障害特性、心理学的特徴の概要を学ぶ。知的障害のアセスメント方法を学習し、その結果に基づく支援方法の理解を深める。知的障害の背景にある生理学的・病理学的原因について学習する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
〇知的障害に関連する情報を新聞記事、テレビ、絵本・図書等から収集して記録する。
〇療育・保育・教育の実践現場で参観したり、関係者から聞き取ったりして記録する。
〇配布資料を熟読しておく。
〔授業計画〕
第 1 回　知的障害の概要と定義
知的障害の概要と定義を説明する。
第 2 回　知的障害の原因と症状
知的障害の原因と、知能の発達、遺伝と環境、脳の機能・構造、周産期の障害について説明する。
第 3 回　知的障害児の知覚と認知の発達
知覚と認知発達の側面から、知的障害について学ぶ。
第 4 回　知的障害と運動機能の発達
知的障害の子どもの運動機能の発達とその特性
第 5 回　脳機能の発達と障害
神経心理学からみた脳の発達（脳幹、側・後頭葉、前頭葉）、脳波と行動
第 6 回　知的障害児の学習のしくみと記憶
リハーサル・精緻化、対連合学習と動機づけ、記憶プロセス、短期記憶と長期記憶、言語的符号化、記憶方略、ワーキングメモリー
第 7 回　知的障害の言語コミュニケーション
身振りと言語発達、聞き言葉・話し言葉・書き言葉、言語発達における句構造、言語における行動調整
第 8 回　染色体異常と知的障害
染色体異常の知的障害であるダウン症児の心理的理解と支援
第 9 回　てんかんの病理と知的障害
てんかんの病理と症状、知的障害の関係性について説明する。
第 10 回　知的障害をともなう自閉症スペクトラム児
自閉症スペクトラムの特性と、言語発達、社会性発達、認知的発達による行動適応
第 11 回　知的障害と児童虐待・愛着障害
児童虐待・愛着障害による知的発達の遅れについて
第 12 回　知的障害児のアセスメント
知的障害児のアセスメントの意義と方法について
第 13 回　発達検査と知能検査
K式発達検査、WISC４，DNCAS等のアセスメントの結果を読み解く
第 14 回　知的障害児への支援の方法と関係機関との連携
アセスメントの結果や関係機関との連携から、支援の方法を見出す
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
筆記試験（50%）、 提出物（30%）、 授業へのと取り組み（20%）の総合評価
〔教科書〕
特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成31年３月3版発行、文部科学省）
その他、資料適宜配布
〔参考文献〕
「知的障害の心理学」　小池敏英・北島善夫　北大路書房
「発達障害児の病理と心理」黒田吉孝・小松秀茂　培風館
「DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル」　日本精神神経学会　医学書院
〔履修条件〕
〔備考〕
特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目、中心となる領域【知的障害者】、含む領域【肢体不自由者病弱者】、特支一種、必修
〔オフィスアワー〕
集中講義期間中（8/2・3・4）の講義終了後、教室で受け付けます。

聴覚障害児の教育

1606
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
福山　　恵美子

〔到達目標〕
聴覚障害児教育の基礎的事項について理解する。
聴覚に障害のある幼児・児童生徒への指導・支援の方法を身につける。
〔授業の概要〕
聴覚障害の定義、歴史、教育課程、実態把握の仕方、自立活動や学習指導など聴覚障害教育についての基礎的事項を説明する。
講義はレポートにまとめて発表する、手話学習などの実技があるため積極的な参画が望ましい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次回の講義内容で出された課題をレポートにまとめる。（２時間）
講義後の感想等をレポートにまとめる。（２時間）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　オリエンテーション ：
　　授業の進め方、成績評価
　　聴覚障害の定義・分類・要因、聴力の状態の把握
第 2 回　聴覚障害教育の歴史
　　聴覚障害教育の歴史
　　手話口話論争、トータルコミュニケーション
第 3 回　自立活動（１）
　　聴力検査、オージオグラムの見方、補聴器・人工内耳
第 4 回　自立活動（２）
　　発声・発語器官、発音指導、キュードスピーチ
第 5 回　コミュニケーションの方法について
　　手話、指文字・トータルコミュニケーション
第 6 回　教育課程（１）
　　早期の療育、幼稚部の教育課程
第 7 回　教育課程（２）
　　小・中学部、高等部の教育課程
　　卒業後の進路、課題
第 8 回　まとめ
　　講義のまとめ
〔成績評価〕
講義受講態度（20%）
提出物（ 10%）
レポート試験（ 70%）
〔教科書〕
適宜資料を配布
授業中に適宜資料を配布
特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示、文部科学省）
特別支援学校教育要領学習指導要領解説総則編（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校教育要領学習指導要領自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示、文部科学省）
特別支援学校高等部学習指導要領解説（平成31年2月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
高等学校教員のための特別支援教育入門　大塚玲【編著】2020
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
【実務経験の活用】
特別支援学校等の実務経験を活かし、実践的で具体的な教育内容・方法を指導する。
〔オフィスアワー〕
①学期：前期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。内容によっては時間の調整可。

肢体不自由児の教育Ⅰ

1607
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
橋本　　正巳

〔到達目標〕
・特別支援教育の観点から、肢体不自由とＩＣＦの関係、肢体不自由教育の歴史、教育課程の基本的な考え方と編成、各教科等の指導の工夫、進路指導と職業教育等を理解し、専門的知識を身につける。。
・自立活動の指導として、肢体不自由児の実態、指導方法・内容、評価等を、全般的に理解し、実践力を身につける。。
・個別の指導計画・個別の教育支援計画について理解する。
・肢体不自由特別支援学校の役割について考察する。
・教員として人間性も含めた専門性を習得する。
〔授業の概要〕
・肢体不自由児の理解を基本に据え、肢体不自由とＩＣＦの関係、肢体不自由教育の歴史、教育課程の基本的な考え方と編成を説明する。
・特別支援教育の観点から、肢体不自由児における各教科の指導の工夫、進路指導と職業教育、自立活動、個別の指導計画・個別の教育支援計画などに必要な全般的な知識を説明する。
・肢体不自由特別支援学校の役割についてディスカッションを通して論考する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎日授業終了後、復習時間の課題を設け（90分）、次回授業日に小テストを行い確認する。
前日には予習項目を提案し、予習後（90分）、次回授業日に、質疑応答にて確認する。、
〔授業計画〕
第 1 回　肢体不自由の理解とＩＣＦ
肢体不自由の定義(医学的側面、心理学的教育学的側面)とＩＣＦの相互作用について実例を通した理解
第 2 回　特別支援教育と肢体不自由教育
特別支援教育の基本的な考えと肢体不自由教育の在り方の理解
第 3 回　肢体不自由教育の歴史
肢体不自由教育の児童生徒の変遷を通した歴史的経過の理解
第 4 回　脳性麻痺の理解：心理的理解と特性
脳性麻痺の状態像を通した分類と随伴障害と行動特性の理解
肢体不自由児の知覚の特徴や行動特性の把握と心理的理解
第 5 回　実態把握
肢体不自由児の医学的側面、心理学的・教育学的側面からの実態把握の項目と内容及び方法の理解
第 6 回　教育課程：学習指導要領
肢体不自由教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の編成
第 7 回　各教科等の指導
肢体不自由特別支援学校の幼稚部、小・中学部、高等部の各指導の工夫
第 8 回　進路指導と職業教育
進路指導の意義、配慮事項、進路状況と職業教育
第 9 回　自立活動
自立活動の主な指導内容と指導時間、指導形態と評価
第 10 回　医療的ケア
医療的ケアの概要と意義
第 11 回　情報機器等の活用
肢体不自由児の教育を支援する情報機器等の活用と活用した指導の実際例
第 12 回　個別の指導計画・個別の教育支援計画
個別の指導計画の概要とＰＤＣＡによる作成方法の理解。個別の教育支援計画の意義と作成例の理解
第 13 回　地域のセンター的機能
特別支援教育における肢体不自由特別支援学校の地域のセンター的役割の理解
第 14 回　肢体不自由教育の現状と課題
肢体不自由教育の現状の把握と課題認識そして展望の理解
第 15 回　まとめ
総括

〔成績評価〕
試験・レポートを中心に、学習への参加度による総合評価
筆記試験70%、レポート20%
授業への取り組み10%
〔教科書〕
各講義毎に資料を配付する。
〔参考文献〕
安藤、藤田編：よくわかる肢体不自由教育
ミネルヴァ書房
橋本著：気になる子どもの支援ハンドブック
橋本編：気になる子どもの支援ハンドブックⅡ
橋本編：障害の重い子どもへのかかわりハンドブック　全国心身障害児福祉財団
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ
〔備考〕
特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【肢体不自由者】、含む領域【／】、特支一種、必修
〔オフィスアワー〕
授業後

特別支援学校観察実習

1613
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
福山　　恵美子

〔到達目標〕
特別支援学校（知・肢・病）の教育課程について知り、それぞれの教育課程の特徴を理解する。
特別支援学校の学校行事及び授業観察後に自分の感想や意見をまとめ、発表することができる。
参観者の発表を聞き、質問や感想などの意見交換を通して討議に参加することができる。
〔授業の概要〕
事前指導
特別支援学校（知・肢・病）の教育課程について理解する。観察する学校の概要をHPで事前に把握し、発表、意見交換を通して特別支援学校（知・肢・病）の教育課程や児童生徒、教員の役割等について理解する。
観察実習
特別支援学校の学校行事及び授業観察の際に記録をとり、レポートにまとめる。
事後指導
司会・発表と役割分担をしながら振り返りを行い、事前にまとめた感想文の発表にもとづいて討議する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
あらかじめ観察する特別支援学校の概要をHPで調べておく。（２時間）
観察した特別支援学校の学校行事及び授業の感想をレポートにまとめて提出する。（２時間）
〔授業計画〕
第 1 回　事前指導１
参観する特別支援学校（知・肢・病）等の教育課程について知る。
特別支援学校観察時のマナー等の心構えなどを知る。
第 2 回　事前指導２
車椅子操作について学び実際に体験することで、肢体不自由のある人たちへの接し方を学ぶ。
第 3 回　観察実習
特別支援学校行事である体育祭を観察する。
第 4 回　観察実習
特別支援学校の授業を観察をする。
第 5 回　観察実習
特別支援学校の授業を観察をする。
第 6 回　観察実習
特別支援学校の文化祭を観察する。
第 7 回　事後指導１
観察実習終了後の感想レポートをもとに、司会・発表者などの役割を決めて報告会を行う。
第 8 回　事後指導２
観察実習終了後の感想レポートをもとに、司会・発表者などの役割を決めて報告会を行う。
〔成績評価〕
事前指導における講義への受講態度及び質問、意見等講義への参加度（20%）
観察実習における観察態度（積極性・マナー等）（20%）
事後指導における講義への受講態度及び感想文の発表内容と討議の参加度（60%）
レポート課題については、評価は個別コメントをつけて返却する。
〔教科書〕
適宜資料配付
特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示、文部科学省）
特別支援学校教育要領学習指導要領解説総則編（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校教育要領学習指導要領自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示、文部科学省）
特別支援学校高等部学習指導要領解説（平成31年2月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【知的障害者】、含む領域【肢体不自由者病弱者】、特支一種、必修

【実務経験の活用】
特別支援学校等の実務経験を活かし、特別支援学校の教育現場に即した観察実習指導を行う。
〔オフィスアワー〕
①学期：前期・後期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。
内容によっては時間の調整可。

特別支援教育実習（事前事後含む）

1614
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
3単位　前期
実務経験有
福山　　恵美子

〔到達目標〕
・教育実習を通して障害者理解を深める。
・特別支援学校教員として求められる知識・態度・技能を身につける。
・特別支援学校におけるティーム・ティーチングについて学び理解する。
・将来に見通しを持ち、教育現場で意欲的に取り組む意欲や態度を身につける。
〔授業の概要〕
教育実習事前指導、教育実習、教育実習事後指導
・「特別支援教育実習ハンドブック」を確認し、教育実習への意欲と自覚をもつ。
・実習校に関する予備調査をもとに学習者同士の話し合い活動をする。
・実習校の指導教員の指導を通して、特別支援学校の教員として求められる知識・技能・態度を習得する。
・教育実習終了後に、各々が得た学びをもとに学習者同士の話し合い活動をする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・授業進行に合わせて教材研究をする。
・実習記録記入とともに当日を振り返り、課題検討を行い、実習担当者に指導助言を求め、翌日に備える。
〔授業計画〕
第 1 回　事前指導１
・「特別支援学校教育実習ハンドブック」を通して以下のことを学ぶ。

・教育実習中のマナーや態度、教育実習記録簿の記入の仕方について知る。
第 2 回　事前指導２
・実習校の概要をHPで調べて発表し、各々の実習校について知る。
・特別支援学校の授業のビデオを観て授業の実際を知り、学習指導案をもとに特別支援学校の授業を理解する。
第 3 回　教育実習
・実習校での教育実習・実習巡回指導、実習相談助言
第 4 回　教育実習
・実習校での教育実習・実習巡回指導、実習相談助言
第 5 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 6 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 7 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 8 回　教育実習
・実習校での教育実習　・巡回指導、実習相談助言
第 9 回　教育実習
・実習校での教育実習　・巡回指導、実習相談助言
第 10 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 11 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 12 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 13 回　教育実習
・実習校での教育実習・実習巡回指導、実習相談助言
第 14 回　事後指導１
各実習校での実習報告を発表し、意見交換する。
第 15 回　事後指導２
各実習校での実習報告を発表し、意見交換する。

〔成績評価〕
実習校からだされた評価（50%）・実習記録簿の記載内容（15%）・研究授業参観結果（20%）・事前事後指導における参加態度及び発表内容（15%）

〔教科書〕
適宜資料配付
特別支援学校教育要領学習指導要領解説総則編（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示、文部科学省）
特別支援学校高等部学習指導要領解説（平成31年告示、文部科学省）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習、中心となる領域【／】、含む領域【／】、特支一種、必修

【実務経験の活用】
特別支援学校等の実務経験を活かし、特別支援学校の教育現場に即した教育実習指導を行う。

〔オフィスアワー〕
①学期：前期・後期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。
内容によっては時間の調整可。

知的障害児の教育Ⅰ

1615
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
河南　勝

〔到達目標〕
・知的障害の児童・生徒の実態、教育の現状を理解する
・知的障害教育における教育課程を理解する
・個別の指導計画と個別の教育支援計画について学ぶ
・関係機関との連携について学ぶ

〔授業の概要〕
知的障害児教育の歴史や障害児者の教育権をめぐる国際的な動向をふまえ、特別支援教育の現状と課題を説明する。知的障害児教育の教育課程について具体的に解説し、実践を織り交ぜて基礎を学ぶ。個別の指導計画、個別の教育支援計画について、進路指導や関係機関との連携についても学ぶ。学んだことのふりかえりや話し合いをする授業形式で、より理解を深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布資料にもとづく事前の学習や授業後の感想を含めた復習の課題を設定する。

〔授業計画〕
第 1 回　障害、知的障害の概念と実態
オリエンテーション
障害とは、知的障害とは何かの概念定義から入り、基礎的な知識を学ぶ。
第 2 回　知的障害児教育の歴史
戦前の障害児教育黎明期から戦後の知的障害児教育をめぐる歴史を学ぶ。1979年の養護学校義務

制、2006年の特別支援教育のスタートを軸にその意義とその後の発展について理解する。

第 3 回　障害児教育をめぐる国際的動向と特別支援教育
インクルーシブ教育、特別なニーズ教育、障害者権利条約など国際的な動向を背景に、今日の特別支援教育があることを理解する。

第 4 回　知的障害児教育の教育課程①教育課程の編成
知的障害児教育の教育課程全体について学び、どのように教育課程が編成されているかについて理解する。

第 5 回　知的障害児教育の教育課程②教科指導
知的障害児を対象に実践されている教科指導の集団編成や授業内容など実際を紹介し、教科指導の意義を深める。

第 6 回　知的障害児教育の教育課程③生活単元学習、総合的な学習
知的障害児教育の特徴の一つ、生活単元学習や総合的な学習について、実践例を通して理解する。

第 7 回　知的障害児の教育課程④自立活動、その他
障害児教育独自の教育課程領域である自立活動とは何か、指導内容の実際について学ぶ。また、その他の学校行事であるとか交流教育などについてもふれる。

第 8 回　知的障害児教育の教育課程⑤作業学習
特別支援学校の高等部を中心に実践されている作業学習の歴史や意義をふまえ、今日的な課題を理解する。

第 9 回　知的障害児おける教育における進路指導とキャリア教育
知的障害児教育における進路指導の現状と課題にふれ、近年、進められているキャリア教育についてその意義や課題を考える。また、青年期の学びの意義についても深める。

第 10 回　特別支援学級における教育課程
特別支援学級での教育のあり方、教育内容、交流教育などについて学ぶ。通級指導についてもふれる。

第 11 回　個別の指導計画と個別の教育支援計画①アセスメント
個別の指導計画と個別の教育支援計画のちがいを理解し、計画を立てるにあたり子どもの実態把握（アセスメント）をどのようにするかを学ぶ。

第 12 回　個別の指導計画と個別の教育支援計画②計画と評価
個別の指導計画と個別の教育支援計画の実際例を参考に、計画の立て方・内容および評価について理解する。

第 13 回　関係機関との連携と知的障害児教育の今日的課題①（教育と福祉の連携）
教育と福祉の連携の必要性を知り、兵庫における教育と福祉の連携事業（トライアングル・プロジェクト）を通して具体的に考える。

第 14 回　関係機関との連携と知的障害児教育の今日的課題②（生涯学習）
文科省が推進する障害者の生涯学習推進施策について説明し、兵庫における具体的な取り組みを通して生涯学習について考える。

第 15 回　全体のふりかえり、総括
授業全体のポイントのなる点をふりかえり、感想文などでまとめをする。

〔成績評価〕

試験・提出物、授業への取り組みの総合評価

試験・レポート	50%
提出物	30%
授業への取り組み	20%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

特別支援学校　小学部　中学部学習指導要領（平成29年4月告示、文部科学省）
特別支援学校　高等部学習指導要領（平成31年4月告示、文部科学省）

〔参考文献〕

「キーワードブック障害児教育　特別支援教育時代の基礎知識」：清水貞夫・藤本文朗ほか（クリエイツかもがわ2009年改訂版）
「実践、楽しんでますか？」：木下孝司・川地亜弥子・赤木和重・河南勝
（クリエイツかもがわ2017年）

〔履修条件〕

〔備考〕

特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【知的障害者】、含む領域【肢体不自由者病弱者】、特支一種、必修

【実務経験の活用】

「障害児教育現場の経験を活かし、障害学生の支援に携わる。」「知的障害児の教育の実務経験を活かし、知的障害児教育の基礎的な教育、知的障害青年への相談支援や就労支援への対応を行う。」

〔オフィスアワー〕

①前期
②月曜日：15:30～17:00
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。
④連絡先：kannan@ashiya.ac.jpにメールかPhollyのメッセージで質問・相談をしてください。
⑤その他
　○相談がある場合は事前にアポイントを取ってください。

特別支援教育総論

1994
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
福山　　恵美子　川上　　裕子

〔到達目標〕
特別支援教育に携わる教員に必要な基礎的事項についての知識・理解を深める。

〔授業の概要〕
特別支援教育の歴史、理念と基本的な考え方、特別支援教育の法的位置づけと教育課程の編成、自立活動、通常の学級・特別支援学級・通級による指導、特別支援教育コーディネーターの役割や関係機関等との連携、知的障害・肢体不自由・病虚弱・視覚障害・聴覚障害・言語障害・発達障害の理解と支援、特別な教育的ニーズのある児童生徒等への支援、学校卒業後の社会参加に向けた支援について学ぶ。講義ではレポート発表や実技等を通して主体的に参画できる機会を多く作る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
出された課題をレポートにまとめる。（２時間）

〔授業計画〕
第 1 回　特別支援教育の歴史
授業の進め方、成績評価等について
特別支援教育の歴史について学ぶ
第 2 回　特別支援教育の理念と基本的な考え方
特別支援教育の理念と基本的な考え方について学ぶ
第 3 回　特別支援教育の法的位置づけと教育課程の編成
特別支援教育の法的位置づけと教育課程の編成について学ぶ
第 4 回　自立活動について
自立活動の歴史的経緯・内容について学ぶ
第 5 回　通常の学級における支援、特別支援学級、通級による指導
通常の学級における支援、特別支援学級担当教員の弾力的運用等、通級による指導について学ぶ
第 6 回　特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関等との連携
特別支援教育コーディネーターの役割や校内支援体制、保護者や関係機関等との連携について学ぶ
第 7 回　知的障害の理解と支援
軽度知的障害を含む知的障害のある児童生徒の指導・支援の基礎的事項について学ぶ
第 8 回　肢体不自由の理解と支援
肢体不自由児の理解と指導・支援の基礎的事項について学ぶ
第 9 回　病虚弱の理解と支援
病虚弱児の理解と指導・支援の基礎的事項について学ぶ
第 10 回　視覚障害の理解と支援
視覚障害児の理解と指導・支援の基礎的事項について学ぶ
第 11 回　聴覚障害の理解と支援
聴覚障害児の理解と指導・支援の基礎的事項について学ぶ
第 12 回　言語障害の理解と支援
言語障害児の理解と指導・支援の基礎的事項について学ぶ
第 13 回　発達障害の理解と支援
発達障害児の理解と指導・支援の基礎的事項について学ぶ
第 14 回　特別な教育的ニーズのある子どもたちへの支援
貧困・母国語に課題のある児童生徒への支援について学ぶ
第 15 回　学校卒業後の社会参加に向けて
学校卒業後の社会参加に向けた支援について学ぶ

〔成績評価〕
受講態度（10%）
小レポート（ 20%）
定期試験（70%）
レポート課題については、個別コメントをつけて返却します。

〔教科書〕
適宜資料を配布
特別支援学校教育要領学習指導要領解説総則編（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校教育要領学習指導要領自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解、幼一種、必修
教育の基礎的理解に関する科目、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解、小一種、必修
教育の基礎的理解に関する科目、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解、中一種、高一種、必修
特別支援教育に関する科目、特別支援教育の基礎理論に関する科目、中心となる領域【／】、含む領域【／】、特支一種、必修

【実務経験の活用】
特別支援学校等の実務経験を活かし、視覚障害を除いた障害種の実践的及び基本的な教育内容・方法を指導する。

〔オフィスアワー〕
①学期：前期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。内容によっては時間の調整可。

器楽Ⅰ①

2111
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
石田　　愛子

〔到達目標〕
保育士、幼稚園・小学校教員に必要なピアノ演奏力の習得（基礎～初級）
＜最低限クリアすべき目標＞
① 大譜表の楽譜が読める
② ハ長調の主要三和音（Ⅰ、Ⅳ、ⅤまたはⅤ7）（C、F、GまたはG7）を伴奏とする曲が弾ける
③ バイエル58番程度の曲が弾ける

〔授業の概要〕
対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である。３段階のレベル（ビギナー、ベーシック、ベーシックプラス）のコースを設定し、毎回課題曲を提示するので、各自のレベルに合ったコースを選択して練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術向上に努めること。 なお、シラバスに記載の授業計画は標準的なベーシックコースの内容であり、初心者や中・上級者についてはこの限りでない。学期末に発表会形式の試験を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション／個別面談
受講の目的と方法、注意事項等について説明する。ピアノの経験やレベルに応じたコースを指定するので、各自、入学前教育で提示された課題を一曲以上演奏すること。
第 2 回　ハ長調と ト長調のⅠ・Ⅴによる伴奏
8分音符のレガート奏、アルベルティバス、ト長調の伴奏づけ
第 3 回　付点のリズム
付点4分音符と8分音符、3/4拍子、ハ長調の伴奏づけ
第 4 回　ハ長調と ト長調、移調奏
ハ長調と ト長調のⅠとⅤの和音、調号、♯
第 5 回　ハ長調と へ長調、移調奏
ハ長調と へ長調のⅠとⅤの和音、調号、♭、へ長調の伴奏づけ
第 6 回　ハ長調の主要三和音
ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の和音、いろいろな伴奏型
第 7 回　ハ長調と ト長調の主要三和音
ト長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音、ハ長調の伴奏づけと弾き歌い
第 8 回　ハ長調と へ長調の主要三和音
へ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音、ハ長調の伴奏づけ
第 9 回　いろいろな指使い
アルベルティバスによる伴奏づけ
第 10 回　いろいろな指使い、移調奏
ハ長調と へ長調、アルベルティバスによる伴奏づけと弾き歌い
第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、リズム、指使い、音符と休符
第 12 回　単位認定課題曲の練習②
形式とフレーズ感、強弱記号
第 13 回　単位認定課題曲の練習③
レガート奏、両手のバランス
第 14 回　単位認定課題曲の練習④
速度・発想用語、曲にふさわしいテンポと表情
第 15 回　実技試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕
対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（15%）
実技試験（35%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕
・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編
、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕
質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

器楽Ⅰ②

2112
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
石田　愛子

〔到達目標〕
保育士、幼稚園・小学校教員に必要なピアノ演奏力の習得（基礎～初級）
＜最低限クリアすべき目標＞
① 大譜表の楽譜が読める
② ハ長調の主要三和音（Ⅰ、Ⅳ、ⅤまたはⅤ7）（C、F、GまたはG7）を伴奏とする曲が弾ける
③ バイエル58番程度の曲が弾ける

〔授業の概要〕
対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である。３段階のレベル（ビギナー、ベーシック、ベーシックプラス）のコースを設定し、毎回課題曲を提示するので、各自のレベルに合ったコースを選択して練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術向上に努めること。 なお、シラバスに記載の授業計画は標準的なベーシックコースの内容であり、初心者や中・上級者についてはこの限りでない。学期末に発表会形式の試験を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション／個別面談
受講の目的と方法、注意事項等について説明する。ピアノの経験やレベルに応じたコースを指定するので、各自、入学前教育で提示された課題を一曲以上演奏すること。
第 2 回　ハ長調と ト長調のⅠ・Ⅴによる伴奏
8分音符のレガート奏、アルベルティバス、ト長調の伴奏づけ
第 3 回　付点のリズム
付点4分音符と8分音符、3/4拍子、ハ長調の伴奏づけ
第 4 回　ハ長調と ト長調、移調奏
ハ長調と ト長調のⅠとⅤの和音、調号、♯
第 5 回　ハ長調と へ長調、移調奏
ハ長調と へ長調のⅠとⅤの和音、調号、♭、へ長調の伴奏づけ
第 6 回　ハ長調の主要三和音
ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の和音、いろいろな伴奏型
第 7 回　ハ長調と ト長調の主要三和音
ト長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音、ハ長調の伴奏づけと弾き歌い
第 8 回　ハ長調と へ長調の主要三和音
へ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音、ハ長調の伴奏づけ
第 9 回　いろいろな指使い
アルベルティバスによる伴奏づけ
第 10 回　いろいろな指使い、移調奏
ハ長調と へ長調、アルベルティバスによる伴奏づけと弾き歌い
第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、リズム、指使い、音符と休符
第 12 回　単位認定課題曲の練習②
形式とフレーズ感、強弱記号
第 13 回　単位認定課題曲の練習③
レガート奏、両手のバランス
第 14 回　単位認定課題曲の練習④
速度・発想用語、曲にふさわしいテンポと表情
第 15 回　実技試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕
対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（15%）
実技試験（35%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕
・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編
、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕
質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

特別支援教育実習（事前事後含む）

1614

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4年
3単位　後期
実務経験有
福山　　恵美子

〔到達目標〕
・教育実習を通して障害者理解を深める。
・特別支援学校教員として求められる知識・態度・技能を身につける。
・特別支援学校におけるティーム・ティーチングについて学び理解する。
・将来に見通しを持ち、教育現場で意欲的に取り組む意欲や態度を身につける。

〔授業の概要〕
教育実習事前指導、教育実習、教育実習事後指導
・「特別支援教育実習ハンドブック」を確認し、教育実習への意欲と自覚をもつ。
・実習校に関する予備調査をもとに学習者同士の話し合い活動をする。
・実習校の指導教員の指導を通して、特別支援学校の教員として求められる知識・技能・態度を習得する。
・教育実習終了後に、各々が得た学びをもとに学習者同士の話し合い活動をする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・授業進行に合わせて教材研究をする。
・実習記録記入とともに当日を振り返り、課題検討を行い、実習担当者に指導助言を求め、翌日に備える。

〔授業計画〕
第 1 回　事前指導１
・「特別支援学校教育実習ハンドブック」を通して、教育実習中のマナーや態度、教育実習記録簿の記入の仕方について学ぶ。
第 2 回　事前指導２
・実習校の概要をHPで調べて発表し、各々の実習校について知る。
・特別支援学校の授業のビデオを観て授業の実際を知り、学習指導案をもとに特別支援学校の授業を理解する。
第 3 回　教育実習
・実習校での教育実習・実習巡回指導、実習相談助言
第 4 回　教育実習
・実習校での教育実習・実習巡回指導、実習相談助言
第 5 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 6 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 7 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 8 回　教育実習
・実習校での教育実習　・巡回指導、実習相談助言
第 9 回　教育実習
・実習校での教育実習　・巡回指導、実習相談助言
第 10 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 11 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 12 回　教育実習
・実習校での教育実習・巡回指導、実習相談助言
第 13 回　教育実習
・実習校での教育実習・実習巡回指導、実習相談助言
第 14 回　事後指導１
各実習校での実習報告を発表し、意見交換する。
第 15 回　事後指導２
各実習校での実習報告を発表し、意見交換する。

〔成績評価〕
実習校からだされた評価（50%）・実習記録簿の記載内容（15%）・研究授業参観結果（20%）・事前事後指導における参加態度及び発表内容（15%）

〔教科書〕
特別支援学校教育要領学習指導要領解説総則編（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（平成30年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習、中心となる領域【／】、含む領域【／】、特支一種、必修

【実務経験の活用】
特別支援学校等の実務経験を活かし、特別支援学校の教育現場に即した教育実習指導を行う。

〔オフィスアワー〕
①学期：後期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。
内容によっては時間の調整可。

声楽Ⅰ①

2215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
薬谷　　佳苗

〔到達目標〕
小学校教諭に求められる音楽に関する基礎知識の習得。
基礎的な歌唱の技術の習得。
正確なリズムと音程、明確な日本語で歌唱できることを目標とする。

〔授業の概要〕
音楽の基礎知識（音楽理論）の学習。
読譜のために必要な知識の習得と、それを用いた演奏の実践。（リズム打ち、階名唱　他）
日本語で歌唱をするための技術の習得。（発声、朗読、表現）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
音楽用語などの暗記のための復習。
歌唱、階名唱、リズム打ち課題の復習。

〔授業計画〕
第 1 回　歌うということ
これまでに学習してきた基礎知識の確認。
音楽教育の中での「うた」の役割について。
第 2 回　発声とは
歌声と話し声の違いを知る。（姿勢、呼吸、発声）
音楽の基礎知識①（譜表、音名、臨時記号）
第 3 回　歌唱の四要素
音楽の三要素（リズム、メロディー、ハーモニー）と言葉について学ぶ。
音楽の基礎知識②（音符、休符、音価）
第 4 回　リズムとは
小学校共通教材の歌唱教材についての知識（曲目　他　鑑賞含む）の習得。
音楽の基礎知識③（拍子と弱起、タイ）
リズムパターンの学習。

第 5 回　音程の基礎
全音と半音の知識と、歌い分け。
音楽の基礎知識④（五線譜の各名称と、音符の読み方の学習）
第 6 回　長音階
音楽の基礎知識⑤（長音階の成り立ち）
正確な音程で歌う①長音階の歌唱と、階名唱（ドレミ唱）の実践）
第 7 回　長調と短調
短音階の曲の鑑賞と、歌唱
音楽の基礎知識⑥　ニ度、三度の音程
第 8 回　歌唱における言葉
歌詞とメロディ、強弱の関係を楽譜から読み解く（歌詞の朗読を含む）
音楽の基礎知識⑦（強弱記号、速度記号）
第 9 回　付点のリズム
音楽の基礎知識⑧（付点音符）
付点のリズム打ち、付点のリズムのある曲の歌唱
第 10 回　音程
音楽の基礎知識⑨（四度、五度の音程）
四度、五度の音程を歌う
第 11 回　和音とコード
音楽の基礎知識⑩（和音とコード）
和音の成り立ち、コードの種類と判別、聞きわけ。
第 12 回　様々な形態の歌
唱歌、歌曲、オペラアリアなどの様々な歌を鑑賞する。
輪唱を歌う。
第 13 回　重唱、合唱
合唱曲などの鑑賞を通して、声を合わせて歌う、ハーモニーをつくるということについて学び、実践する。
第 14 回　前期のまとめ
これまでに学んできた音楽理論、演奏技術などを復習し、実際の楽譜、演奏の中で、どう用いられているかなどの検証をする。
第 15 回　演奏の実践（実技試験）
リズム譜、メロディー譜、小学校共通教材の歌唱課題を、一人で演奏できるようにする。

〔成績評価〕
実技試験（リズム打ち、階名唱、歌唱）50点
音楽理論（筆記）50点

〔教科書〕
新版　教員養成課程　小学校音楽科教育法　教育芸術社

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
①前期
②時間　火曜日１１：３０～１２：３０　　１５：２０～１６：００
③場所　授業前後に講義教室で対応します。
④連絡先　yakutani@ashiya-u.ac.jp にメールかPhollyのメッセージに質問、連絡などをしてください。
⑤授業についての個人的な質問、実技の補講の希望がある場合には、必ず事前にメールでアポイントを取ってください。授業終了後すぐの質問に関しては、この限りではありませんが、アポイントがある場合にはそちらが優先されることがあります。

声楽Ⅰ②

2216
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
薬谷　　佳苗

〔到達目標〕
小学校教諭に求められる音楽に関する基礎知識の習得。
基礎的な歌唱の技術の習得。
正確なリズムと音程、明確な日本語で歌唱できることを目標とする。

〔授業の概要〕
音楽の基礎知識（音楽理論）の学習。
読譜のために必要な知識の習得と、それを用いた演奏の実践。（リズム打ち、階名唱　他）
日本語で歌唱をするための技術の習得。（発声、朗読、表現）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
音楽用語などの暗記のための復習。
歌唱、階名唱、リズム打ち課題の復習。

〔授業計画〕
第 1 回　歌うということ
これまでに学習してきた基礎知識の確認。
音楽教育の中での「うた」の役割について。
第 2 回　発声とは
歌声と話し声の違いを知る。（姿勢、呼吸、発声）
音楽の基礎知識①（譜表、音名、臨時記号）
第 3 回　歌唱の四要素
音楽の三要素（リズム、メロディー、ハーモニー）と言葉について学ぶ。
音楽の基礎知識②（音符、休符、音価）
第 4 回　リズムとは
小学校共通教材の歌唱教材についての知識（曲目　他　鑑賞含む）の習得。
音楽の基礎知識③（拍子と弱起、タイ）
リズムパターンの学習。

第 5 回　音程の基礎
全音と半音の知識と、歌い分け。
音楽の基礎知識④（五線譜の各名称と、音符の読み方の学習）
第 6 回　長音階
音楽の基礎知識⑤（長音階の成り立ち）
正確な音程で歌う①長音階の歌唱と、階名唱（ドレミ唱）の実践）
第 7 回　長調と短調
短音階の曲の鑑賞と、歌唱
音楽の基礎知識⑥　ニ度、三度の音程
第 8 回　歌唱における言葉
歌詞とメロディ、強弱の関係を楽譜から読み解く（歌詞の朗読を含む）
音楽の基礎知識⑦（強弱記号、速度記号）
第 9 回　付点のリズム
音楽の基礎知識⑧（付点音符）
付点のリズム打ち、付点のリズムのある曲の歌唱
第 10 回　音程
音楽の基礎知識⑨（四度、五度の音程）
四度、五度の音程を歌う
第 11 回　和音とコード
音楽の基礎知識⑩（和音とコード）
和音の成り立ち、コードの種類と判別、聞きわけ。
第 12 回　様々な形態の歌
唱歌、歌曲、オペラアリアなどの様々な歌を鑑賞する。
輪唱を歌う。
第 13 回　重唱、合唱
合唱曲などの鑑賞を通して、声を合わせて歌う、ハーモニーをつくるということについて学び、実践する。
第 14 回　前期のまとめ
これまでに学んできた音楽理論、演奏技術などを復習し、実際の楽譜、演奏の中で、どう用いられているかなどの検証をする。
第 15 回　演奏の実践（実技試験）
リズム譜、メロディー譜、小学校共通教材の歌唱課題を、一人で演奏できるようにする。

〔成績評価〕
実技試験（リズム打ち、階名唱、歌唱）50点
音楽理論（筆記）50点

〔教科書〕
新版　教員養成課程　小学校音楽科教育法　教育芸術社

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
①前期
②時間　火曜日１１：３０～１２：３０　　１５：２０～１６：００
③場所　授業前後に講義教室で対応します。
④連絡先　yakutani@ashiya-u.ac.jp にメールかPhollyのメッセージに質問、連絡などをしてください。
⑤授業についての個人的な質問、実技の補講の希望がある場合には、必ず事前にメールでアポイントを取ってください。授業終了後すぐの質問に関しては、この限りではありませんが、アポイントがある場合にはそちらが優先されることがあります。

器楽Ⅲ①

2221
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
石田　　愛子

〔到達目標〕
保育士、幼稚園教員に求められるピアノ演奏力の習得（初級～中級）
今期の目標は次のとおりである。
①バイエル終了程度の曲が弾ける
②保育実習・教育実習を想定した童謡・歌唱教材の弾き歌いができる

〔授業の概要〕
対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である（器楽Ⅰ・Ⅱの単位修得者、保育士資格・幼稚園教諭免許状取得希望者対象。人数制限あり）。保育活動に必須のスキル「ピアノ弾き歌い」を中心にレッスンを進める。 毎回、必修と選択、２曲の弾き歌い課題を提示するので、各自のレベルに応じて練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術向上に努めること。学期末に発表会形式の試験 を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕
第 1 回　器楽Ⅱの復習
ハ長調の音階と主要三和音の復習、和音記号とコードネーム、弾き歌い練習の手順の確認
第 2 回　ヘ長調と ト長調
ヘ長調と ト長調の音階と主要三和音の復習、和音記号とコードネーム
第 3 回　いろいろな伴奏型
ハ長調の主要三和音（C、F、G）のいろいろな伴奏型による弾き歌い
第 4 回　生活の歌
登園時や昼食前の歌、保育の場面を想定した弾き歌い
第 5 回　一日の歌
降園時の歌、保育の場面を想定した弾き歌い
第 6 回　マーチ
歩くテンポ、子どもたちの動きを想定したピアノ演奏
第 7 回　夏の歌
季節の歌、保育の場面を想定した弾き歌い
第 8 回　日本の音階
わらべうた、日本古謡の弾き歌い
第 9 回　ニ長調の曲
ニ長調の音階と主要三和音、和音記号とコードネーム
第 10 回　アーティキュレーション、曲想
アーティキュレーション、強弱記号、発想用語、曲にふさわしい表現の工夫
第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、リズム、指使い、音符と休符
第 12 回　単位認定課題曲の練習②
音程、発音、ブレス、歌とピアノのバランス
第 13 回　単位認定課題曲の練習③
前奏の役割、曲にふさわしいテンポと表情
第 14 回　単位認定課題曲の練習④
保育の場面を想定した言葉かけと表現の工夫
第 15 回　実技試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕
対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（5%）
実技試験（45%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕
・改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育（教育芸術社）
・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編 、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、選択

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕
質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

器楽Ⅲ②

2222
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
石田　　愛子

〔到達目標〕
保育士、幼稚園教員に求められるピアノ演奏力の習得（初級～中級）
今期の目標は次のとおりである。
①バイエル終了程度の曲が弾ける
②保育実習・教育実習を想定した童謡・歌唱教材の弾き歌いができる

〔授業の概要〕
対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である（器楽Ⅰ・Ⅱの単位修得者、保育士資格・幼稚園教諭免許状取得希望者対象。人数制限あり）。保育活動に必須のスキル「ピアノ弾き歌い」を中心にレッスンを進める。 毎回、必修と選択、２曲の弾き歌い課題を提示するので、各自のレベルに応じて練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術向上に努めること。学期末に発表会形式の試験 を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕
第 1 回　器楽Ⅱの復習
ハ長調の音階と主要三和音の復習、和音記号とコードネーム、弾き歌い練習の手順の確認
第 2 回　ヘ長調と ト長調
ヘ長調と ト長調の音階と主要三和音の復習、和音記号とコードネーム
第 3 回　いろいろな伴奏型
ハ長調の主要三和音（C、F、G）のいろいろな伴奏型による弾き歌い
第 4 回　生活の歌
登園時や昼食前の歌、保育の場面を想定した弾き歌い
第 5 回　一日の歌
降園時の歌、保育の場面を想定した弾き歌い
第 6 回　マーチ
歩くテンポ、子どもたちの動きを想定したピアノ演奏
第 7 回　夏の歌
季節の歌、保育の場面を想定した弾き歌い
第 8 回　日本の音階
わらべうた、日本古謡の弾き歌い
第 9 回　ニ長調の曲
ニ長調の音階と主要三和音、和音記号とコードネーム
第 10 回　アーティキュレーション、曲想
アーティキュレーション、強弱記号、発想用語、曲にふさわしい表現の工夫
第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、リズム、指使い、音符と休符
第 12 回　単位認定課題曲の練習②
音程、発音、ブレス、歌とピアノのバランス
第 13 回　単位認定課題曲の練習③
前奏の役割、曲にふさわしいテンポと表情
第 14 回　単位認定課題曲の練習④
保育の場面を想定した言葉かけと表現の工夫
第 15 回　実技試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕
対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（5%）
実技試験（45%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕
・改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育（教育芸術社）
・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編 、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、選択

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕
質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

書写

2292
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
喜田　　萌子

〔到達目標〕
小学校の書写学習指導に必要な基礎力の修得
１．造形力　　文字の形を正確に捉えることができる力
２．表現力　　自己の作品として紙面に調和させる力
３．鑑賞力　　作品を的確に鑑賞評価する力
日本語を正確に美しく書き作品を完成させる
・小学校書写の年間授業計画及び学習指導案の立て方の修得

〔授業の概要〕
・字形の整え方ワークシートにより書道の基礎を身につける
・小学校書写の硬筆・毛筆手本による練習により実際の指導力をつける
・漢字の成り立ちや筆順を理解する
・年間指導計画や学習指導案の立て方を学ぶ

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業時間外　　書道や美術の展覧会を鑑賞し美的感覚を養っておく
予習　　筆・墨等書道用品を準備して授業に臨む
復習　　毛筆基本点画とひらがな・カタカナの造形を確実に会得する

〔授業計画〕
第 1 回　小学校書写学習に於ける目標と内容
　　小学校書写学習に於ける目標と内容の理解、書道基本用語と用材用具の理解
第 2 回　ひらがなの基本と楷書
　　ひらがなの基本と楷書の練習　硬筆あいうえお一欄表と字形の整え方の習得
第 3 回　ひらがなの成り立ちと字母
　　ひらがなの成り立ちと字母の学習　毛筆楷書基本点画の習得
第 4 回　カタカナの基本
　　カタカナの基本と楷書の練習
第 5 回　小学校書写硬筆
　　小学校書写硬筆練習と楷書の練習　小学校書写硬筆練習と行書の練習
第 6 回　毛筆書写
　　三体千字文による楷書行書草書の練習
第 7 回　小学校書写硬筆と毛筆
　　小学校書写硬筆練習と毛筆練習
第 8 回　小学校書写硬筆と毛筆練習
　　小学校書写硬筆練習と毛筆練習
第 9 回　小学校書写硬筆練習と毛筆練習
　　小学校書写硬筆練習と毛筆練習
第 10 回　漢字仮名交じり文の毛筆練習
　　漢字仮名交じり文の毛筆練習
第 11 回　小学校書写の年間指導計画
　　小学校書写の年間指導計画の立て方
第 12 回　学習指導案の立て方
　　学習指導案の立て方を学ぶ
第 13 回　学習指導案細案
　　学習指導案の細案の書き方を学ぶ
第 14 回　模擬授業
　　小学校書写の模擬授業を行う
第 15 回　硬筆一般の書式　毛筆多様な表現とまとめ
　　硬筆一般の書式　毛筆多様な表現練習とまとめ

〔成績評価〕
用具・用材の理解と準備（２５％）
提出作品による評価（２５％）
提出指導案による評価（２５％）
試験作品の完成度（２５％）

〔教科書〕
小学校学校学習指導要領（最新版　文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
領域に関する専門的事項、国語、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、国語（書写を含む。）、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
①前期　②土曜日　11時30分～12時10分（昼休みの時間帯）
③場所：講義教室（美術実習室）で対応します。
④連絡先:　kitasyoen@gmail.comにメールか　℡ 090 - 3056 - 9416に事前に連絡してください。

教職論【初等】

2306
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

〔授業の概要〕
教員は責任は重大ですが、やりがいがある職業です。授業を通して教員についてじっくり考えていきましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ボランティア等、多くの体験をしてください。
教職教育支援センターからボランティア活動先を紹介してもらう等。

〔授業計画〕
第 1 回　教職論オリエンテーション
　　本講義の概要や目標を示し、授業の進め方について解説する。
第 2 回　教育の意義

公教育の目的と教員の存在意義を理解する。
進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。
第 3 回　理想の教師像
理想の教師像について意見をまとめ発表する。
第 4 回　教職の役割①
今日の教員に求められる役割を考え発表する。
第 5 回　教師の役割②
教員に求められる資質能力について考え発表する。
第 6 回　教員の職務内容①
幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務全体像を理解する。
第 7 回　教員の職務内容②
教員研修の意義及び制度上の位置づけ並びに専門職として職務を遂行するため生涯にわたっり学び続けることの必要性を理解する。
第 8 回　教員の職務内容③
教員の服務上・身分上の義務について説明することができる。
第 9 回　チーム学校運営
チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性、学校が内外の専門家等と連携、分担して対応する必要性について説明するこができる。
第 10 回　教員の現状①
教員の現状について考える。
第 11 回　教員の現状②
教員の現状を知る。
第 12 回　教員免許と教員採用
教員免許更新制度や教員採用について理解する。
第 13 回　これからの教師
これからの教師に求められる姿と教育方法（ICT・アクティブラーニング）
第 14 回　教育の現状と課題
学校の現状と課題について考え、まとめる。
第 15 回　令和の時代の教育
GIGAスクール構想について説明することができる。

〔成績評価〕
定期試験８０％
授業中に実施する小レポート２０％
以上を総合して評価する。

〔教科書〕
特にありません

〔参考文献〕
特にありません

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。

〔オフィスアワー〕
前期　後期　金曜日　２限
研究室１３（３階）
メールアドレス：mouri@ashiya-u.ac.jp
メールで事前に問い合わせをすること。

教育の方法と技術【初等】

2401
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
砂子　滋美　林　泰子

〔到達目標〕
・教育実践に必要な、授業の方法や技術の基礎を身につけるため、教育方法・技術の基本的諸概念と教師の学習指導の在り方を理解する。
・実践的指導力の土台の構築をする。

〔授業の概要〕
・理論的・実践的に考察し、教育現場の現状や実践例も紹介しながら、現代社会における子どもの意識の変化に対応できる教育の方法について考察を深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・常に教育的環境に目を向けるようにし、教育関係のボランティア活動に取り組むよう常日頃から心がけておく。（教職教育支援センターからボランティア活動先を紹介してもらう等。）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（砂子）
・本講義の概要や目標、授業の進め方について
・近代のさまざまな研究者の教育方法について
第 2 回　学習指導要領の改訂・生きる力と学力（砂子）
・知･徳･体の調和、個人の自立、他者や社会との関係、自然環境、伝統や文化を基盤とした国際社会の日本人について等
・「生きる力 学びの その先へ」文部科学省VTR
第 3 回　子どもの発達と教育との関係（砂子）
・乳児から成人に至る人間の、発達過程における子どもの発達
第 4 回　教育課程の編成、総合的な学習の時間（砂子）
・地域や学校の実態に応じた横断的、総合的な学習の進め方
・「社会に開かれた教育課程の実現について」文部科学省VTR
第 5 回　教科書の教育的役割（砂子）
・教科書の真実性、系統性と学び方を教える教科書について
第 6 回　授業等の指導技術Ｉ（砂子）
・板書の基本と留意点、ノートの意義と使い方の指導、調べ学習の在り方、机間指導の意義や具体的な方法、練習の目的と意義、練習方法の留意点
第 7 回　プログラミング教育の基礎①（林）

・小学校プログラミング教育の必修化のねらい
・プログラミング教育の概念
・情報活用能力とプログラミング教育
第 8 回　プログラミング教育の基礎②（林）
・プログラミング的思考
・プログラムの基礎と練習
第 9 回　プログラミング教育の基礎③（林）
・簡単なプログラミング課題作品の作成
第 10 回　プログラミング教育の基礎④（林）
・作成したプログラミング作品の発表と相互評価
第 11 回　授業等の指導技術Ⅱ（砂子）
・授業過程の展開を構想し、展開を生み出すための方法
・発問の種類と機能、授業における説明の役割
第 12 回　授業等の指導技術Ⅲ（砂子）
・集団づくりの意義と方法、ティーム・ティーチング、子どもたちの居場所がある学級づくり
第 13 回　これからの授業（砂子）
・問われる教師の授業力・保育力
・学習指導・保育案の意義・保育・授業実施の技術
・チーム学校、チーム幼稚園
第 14 回　学習の評価（砂子）
・教育における評価、効果的な評価の進め方、指導要録の変遷等
第 15 回　社会的背景によって変わる教育方法（砂子）
・子どもたちの変化に応じた教育のあり方、今後の学校教育の進むべき方向

〔成績評価〕
・授業中の小テスト等２０％と、期末試験８０％の総合判定

〔教科書〕
幼稚園教育要領解説（平成２９年３月告示、文部科学省）
小学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
教育の方法と技術（柴田義松・山崎準二編）学文社
教育の方法と技術 （多田俊文編）学芸図書
教育の方法と技術 （教育技術研究会）ぎょうせい
新しい教育の方法と技術（篠原正典編）ミネルヴァ書房

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）、幼一種、必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）、小一種、必修

【実務経験の活用】
小学校勤務経験の教員が、小学校児童を対象とした教育方法・技術について、共通する内容や共通に役立つ事項を取り上げながら解説す る。

〔オフィスアワー〕
・前期
・メールで受け付けます。下の連絡先で質問・相談をして下さい。次回の授業までに回答します。
・連絡先：（砂子）sunako@ashiya-u.ac.jp
（林）y.hayashi@ashiya-u.ac.jp

教育相談の理論と方法【初等】

2407
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
林　　知代

〔到達目標〕
1. 教員を志望する学生が、小学校の教育場面で生じている問題を児童発達過程に関与しているとの視点から適正に理解し、対応できるようになることを目標とする。
２．また、問題が生じる前に、普段からどのような対策をしておかねばならないのか、注意しておかねばならないのかについても理解できることを目標とする。

〔授業の概要〕
子どもの発達をどのように理解するか、いじめ・不登校・学級崩壊・インターネット関連のトラブルなど教育現場の問題、集団に障害や疾患のある児童について理解し、児童のもつ力を伸ばす支援を考える。カウンセリングの技法、保護者や教員同士の連携体制づくり、教員のメンタルヘルスにも触れる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習として授業に関連するニュースや身近で知った出来事をレポートする。
復習として、授業で学んだことをもとにして教師としてどうとらえるか、どのように対応するかをレポート具体的な学修内容をご記入すること

〔授業計画〕
第 1 回　開講にあたって
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介をする。
第 2 回　教育相談の意義・概要
学校における教育相談の特徴を生徒指導との違いなどに照らし理解する。
第 3 回　生徒理解　Ⅰ
生徒を理解するとはどういうことか、その方法を発達的視点から学ぶ。
第 4 回　生徒理解　Ⅱ
生徒を理解するとはどういうことか、その方法を発達的視点から学ぶ。
第 5 回　教師におけるカウンセリング技法
カウンセリングについて、基本的な理論と心理療法の技法を学ぶ。
第 6 回　学校における教育相談の在り方
学校という組織の中で教育相談の枠組みと実践の在り方を学ぶ。

第 7 回　学校内の問題について理解と対応　1
いじめ、不登校、中途退学、児童虐待など、学校と関係する生徒の問題について検討考察する。
第 8 回　学校内の問題について理解と対応　Ⅱ
いじめ、不登校、中途退学、児童虐待など、学校と関係する生徒の問題について検討考察する。
第 9 回　問題行動についての理解と対応
リストカット、薬物乱用、家で、暴力行為、インターネット、性の問題について検討考察する。
第 10 回　発達の仕方に注意を要する生徒及び保護者の理解
特に外見上わからないが、大多数とは異なる発達をする生徒に対する気づきと理解を学ぶ。
第 11 回　児童に起こりやすい心身の疾患
自分で気づかないうちに過度に適応的であったりうまく言語化できないことから生じる心理的、身体的症状を学ぶ。
第 12 回　教育相談に必要な連携
学校内での連携と学校外との連携について理解する。
第 13 回　保護者との協力体制
様々なタイプの保護者に対応し、児童のために協力体制をどう取るかを考える。
第 14 回　教員のメンタルヘルス
教職率から教員の仕事のストレスについて考え、対処法を学ぶ。
第 15 回　まとめ
授業を振り返りまとめる。

〔成績評価〕
授業態度(10%)
発表及びレポート(30%)
期末試験(60%)

〔教科書〕
原田真理(2015)：教育相談の理論と方法―中学校・高校編-
玉川大学出版部

〔参考文献〕
学校における教育相談の充実について：文部科学省
小学校学習指導要領解説 総則編 ：文部科学省

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法、幼一種、必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法、小一種、必修

【実務経験の活用】
教育現場経験により、今日的な課題（いじめ・不登校等）の対応を生徒視点と教員、保護者の各視点の多次元的捉え方から問題を個々に応じた方向性に導くことの指導をする。

〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

保育内容Ⅰ【健康】

2431
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
竹安　　知枝

〔到達目標〕
・保育内容の領域「健康」について、他の領域とも関連させながら、説明ができる。
・保育者として必要とされる知識や技能（乳幼児が生活習慣を獲得していくための、子どもとの関り方や援助の方法など）を身に付ける。
・小学校の教科等とのつながりも意識した保育が実践できるように、それらのための資質と能力を身に付ける。

〔授業の概要〕
乳幼児期の発達（認識・思考や運動発達・生理的発達等）について学習し、この時期の基本的生活習慣の獲得（食事・睡眠・運動）について、ディスカッションを行い、具体的に考えていく。また、子どもを取り巻く、現在における問題点について焦点をあて、その改善策について多面的に考えながら、保育者としての役割について様々な観点から考察し、発表を行う。そして、指導案の作成や模擬保育を通して、様々な指導場面を想定した保育実践ができるよう、授業を展開していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】毎回の授業前に『幼稚園教育要領』における「健康」について熟読すること。(2時間)
【復習】授業内容をまとめて、次回に向けて予習を行うこと。また、様々な場面を想定した保育実践について、自分なりに考え（環境構成や子どもとの関わり方などについて）をまとめておくこと。（２時間）

〔授業計画〕
第 1 回　保育内容の領域について
保育内容の領域と領域「健康」のねらいと内容について
第 2 回　領域「健康」の全体構造
領域「健康」の全体構造と保育実践の動向について
第 3 回　乳幼児期の発達　０～3歳児
０～３歳児の心身の発達と発達段階をふまえた関わり方について
第 4 回　幼児期の発達　４～６歳児
４～６歳児の心身の発達と発達段階をふまえた関わり方について
第 5 回　乳幼児期の食事（栄養）と睡眠
乳幼児期の食事と睡眠（生活習慣の獲得）
重要な視点についてディスカッションを行う
第 6 回　乳幼児期の運動（遊び）　０～３歳児
乳幼児期（0～３歳児）の遊び
指導上の留意点（指導方法と安全対策）についてディスカッションを行う
第 7 回　幼児期の運動（遊び）　４～６歳児

幼児期（４～６歳児）の遊び
指導上の留意点（指導方法と安全対策）について
ディスカッションを行う
第 8 回　日常生活物を使用した遊びと自然遊び
日常生活物や固定遊具を用いた遊びについて
自然遊びについて（自然の中での遊びについて学ぶ）
遊びについて、グループごとに話し合い、発表を行う。
第 9 回　基本的生活習慣の獲得
基本的生活習慣の獲得（食事・睡眠・運動）について学ぶ。
教材の研究（重要な視点）と情報機器の操作方法について確認する。
第 10 回　ケガ・病気の予防と感染症
ケガと病気の予防（乳幼児期の対策）
感染症対策（保育現場での対策）
アレルギー（子どもに多いアレルギー）
第 11 回　指導案の作成（１）（書き方の基本）
指導案の作成方法について学ぶ
（書き方の基本について学ぶ）
第 12 回　指導案の作成（２）（テーマごとの作成）
指導案の作成方法について学ぶ
（テーマごとの作成方法について学ぶ）
第 13 回　模擬保育（１）（実践・振り返り）
模擬保育を行う。
実践と振り返りを行う。
第 14 回　模擬保育（２）（振り返り・改善における視点）
模擬保育を行い、実践と振り返りをする。
保育改善における視点についてディスカッションを行う。
第 15 回　安全対策・小学校教科とのつながり・まとめ
安全対策における重要な要素について、意見を出し合う。
小学校教科とのつながりについて学ぶ。
全体のまとめ

〔成績評価〕
提出物（指導案・レポート）50%
模擬保育 20%
学習意欲・授業態度 30%

〔教科書〕
『保育内容健康』近藤幹夫監修　徳安敦編著（青踏社）
幼稚園教育要領（平成29年3月）文部科学省

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
領域及び保育内容の指導法に関する科目、保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、幼一種、必修

〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

初等教科教育法【国語】

3014
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
笠原　　清次

〔到達目標〕
１．小学校国語科における教育目標及び児童の身に付けさせたい資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について理解を深める。
２．いくつかの国語科学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した教材研究をもとに学習指導案を作成し、模擬授業実践を通して授業における基礎・基本の指導スキルを身に付ける。

〔授業の概要〕
１．学習指導要領に示された小学校国語科の目標及び内容についての理解をもとに、言語事項、物語文、説明文、作文等の教材を用いて教材研究の仕方について理解を進める。
２．学習指導案をグループで協議・作成し、模擬授業実践を繰り返すなかで小学校国語科授業の指導に必要な基礎的・基本的スキルを習得する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
(1)教材研究は課題にするので、事前に行うこと。(30分)
(2)模擬授業を行うためのリハーサルは、授業時間外での準備が必要となる。(60分)

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス，学習指導要領改訂の要点 その１
シラバスを確認し，学修の見通しを持つ。
国語科の「目標・内容構成」の改善,「語彙指導」と「情報の扱い方」の改善及び充実について理解する。
第 2 回　学習指導要領改訂の要点 その２
「我が国の言語文化」と「漢字指導」の改善・充実について理解する。
言葉の教材から一つ選び，学習指導略案（以下，学習指導案という。）を作成する。
第 3 回　模擬授業実践１
学習指導略案を用いてグループで模擬授業を行い，交流する。
第 4 回　模擬授業実践２
前時の実践を生かしてグループで模擬授業を行い，授業を行う際の共通課題を協議し選定する。
第 5 回　学習指導要領改訂の要点 その３
「話すこと・聞くこと」,「書くこと」における指導の改善の要点を理解する。
教材を一つ選び，学習指導案を作成する。
第 6 回　模擬授業実践３

学習指導案を用いてグループで模擬授業を行い，交流する。

第 7 回　模擬授業実践４
前時の実践を生かしてグループで模擬授業を行い，成果と課題を明確にする。

第 8 回　学習指導要領改訂の要点 その４
「読むこと（説明的な文章）」における指導の改善の要点を理解する。
説明的な文章の教材から一つ選びグループで学習指導案を協議して作成し，模擬授業をリハーサルする。

第 9 回　模擬授業実践５
グループごとに模擬授業を行い，説明文な文章を指導する際の留意点を協議する。

第 10 回　模擬授業実践６
前時の協議を生かし，グループごとに模擬授業を行い成果と課題を交流する。

第 11 回　模擬授業実践７
引き続きグループごとの模擬授業を交流し、説明的な文章の指導の要点をまとめる。

第 12 回　学習指導要領改訂の要点 その５
「読むこと（文学的な文章）」における指導の改善の要点を理解する。
文学的な文章の教材の中から一つ選んで学習指導案を作成し，グループで模擬授業をリハーサルする。

第 13 回　模擬授業８
グループによる模擬授業を行い，文学的な文章を指導する際の留意点を協議する。

第 14 回　模擬授業９
前時の協議を生かして模擬授業を行い，成果と課題を交流する。

第 15 回　模擬授業10，ICT
引き続き模擬授業を交流し，文学的な文章の指導の要点をまとめる。
インターネットによる情報収集やコンピュータによる発表資料の作成について理解する。

〔成績評価〕
筆記試験（50%）
学習指導案作成・模擬授業実践（50%）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説国語編（平成29年7月　文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、国語（書写を含む。）、小一種、必修

【実務経験の活用】
①小学校における若手教員に対する指導経験を生かし，国語科，特別の教科道徳をはじめ、各教科等における基礎的・基本的事項を抑えた実践的な指導方法を習得するよう指導している。
②教育現場における児童への指導経験や指導主事，管理職、学校心理士として対応してきた経験の蓄積により、児童理解を深めた生徒指導の在り方について指導している。
③学校現場で長年にわたり教育実習生を育成してきた経験を生かし，学生の目的意識的な教育実習等参加の在り方について指導している。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

理科概論

3206
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
渡　　康彦

〔到達目標〕
科学的に探究する能力の基礎を身につける。
自然の事物・現象について科学的な見方や考え方で説明できる。
小学校の理科の三分野「生物とその環境」、「物質とエネルギー」、「地球と宇宙」の基本的学習方法について説明できる。
小学校の理科を指導する上で必要となる基本的な素養を身につける。
生命を尊重し,自然環境の保全に寄与する態度を身につける。
科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることを説明できる。

〔授業の概要〕
「生物とその環境」では植物、昆虫の基本的な構造と環境や季節との関係を、「物質とエネルギー」では水、空気、光などの性質とエネルギーについて、「地球と宇宙」では季節、月、などの基本的な事項と地形と地層の変化について概説する。
オンデマンド授業と対面授業の両方を行っていく。学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布プリントを見直す（120分）
プリントでわからないこと、興味のあることなどを調べる（120分）

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
理科概論で何を学ぶかについて知る。

第 2 回　植物のしくみ
植物の構造と細胞の分化全能性などについて考える。

第 3 回　昆虫のからだ
なぜ昆虫は大きくなれなのかなどについて考える。
第 4 回　環境と生物
いろいろな環境で生物はどのように適応しているのかについて考える。
第 5 回　季節と生物
季節変化にたいして生物はどのように適応しているのかについて考える。
第 6 回　水と氷
氷はなぜ浮くのか、水の性質について考える。
第 7 回　空気
空気の組成、オゾン層の役割と破壊のメカニズムについて考える。
第 8 回　色と光
太陽の光の性質と色の構成について考える。
第 9 回　エネルギー
てこやふりこの位置エネルギーと運動エネルギーについて考える。
第 10 回　水溶液と燃焼
酸性とアルカリ性の水溶液、ろうそくなどの燃焼について考える。
第 11 回　地球と宇宙
季節はなぜあるのか、月の満ち欠けはどうして起こるのかなどについて考える。
第 12 回　土地のつくりと変化
川の流れなどによる地形の変化や火山や地震による地層の変化について考える。
第 13 回　体内時計と睡眠
睡眠障害と体内時計の関係について考える。
第 14 回　子供の睡眠
子供はとくに早寝早起きの習慣が大切であるということについて考える。
第 15 回　まとめ
理科概論についての総括する。

〔成績評価〕
プリント提出（20%）と期末試験（80%）にて評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。
小学校学習指導要領解説 理科編 （平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、理科、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

教育心理学Ⅰ【初等】

3216
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　前期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
教職をめざす学生にとって必要な教育心理学の基本的知識の習得をめざす。従来の教育心理学の主要４領域の内、ここでは主に発達・学習領域を中心に述べる。発達領域では代表的な発達理論、遺伝と環境の関係、各発達段階の発達過程及び特徴の理解を目標とする。学習領域では代表的な学習理論、発達を踏まえた学習指導法、学習意欲、学級集団の特徴、教育評価の在り方などの理解を目指す。

〔授業の概要〕
現代の教育心理学は幅も広く奥も深い学問であって、教職をめざす学生にとっては是非身につけておかなければならない学問である。主に発達過程・学習過程全般について述べるが、この授業では特に初等課程の免許取得希望者を対象として意識した授業を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予め授業計画に相当する教科書の章を読んでおくこと。(90分)
復習として、授業で示された重要キィワードをまとめておくこと。(45分)
発展学習として、まとめた重要キィワードについて図書館やネットで調べてみること。(45分)
授業で配布されたプリントを整理して保存しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の目的、内容、進め方等について
第 2 回　教育心理学とは何か
教育心理学の歴史、内容、立場、方法
第 3 回　発達の理論
発達とは何か　エリクソン、ピアジェ、バルテス等発達の主要理論について
第 4 回　遺伝と環境
成熟優位説　環境優位説　相互作用説　臨界期　発達と教育の関係
第 5 回　乳幼児期の発達
乳幼児期の特徴 身体・運動発達　認知発達　言語発達　母子関係　愛着
第 6 回　児童期の発達
児童期の特徴　身体・運動発達　認知発達　言語発達　社会性の発達
第 7 回　青年期の発達
思春期・青年期の特徴　身体・運動発達　認知発達　アイデンティティ
第 8 回　青年期以降の発達（生涯発達）
成人期　中年期　老年期　生涯発達　ライフサイクル
第 9 回　学習の理論

学習の定義と意義　主要な学習理論　認知理論　社会的学習　学習の過程
第 10 回　認知心理学
情報処理過程　記憶　概念　思考　問題解決　知能
第 11 回　学習意欲（動機づけ）
動機の種類　内発的動機づけ　学習性無力感　学習意欲を高めるために
第 12 回　学習指導
有意味受容学習などのさまざまな学習指導法について　協同学習
第 13 回　学級集団の理解
学級集団の特徴、発達過程　集団づくり　教師のリーダーシップ
第 14 回　教育評価
教育評価の目的、種類、方法　形成的評価　ＰＤＣＡサイクル
第 15 回　まとめ
前期のまとめ

〔成績評価〕
定期試験(100%)

〔教科書〕
『発達と教育の心理学』・八千代出版
小学校学習指導要領（最新版）
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育･保育要領、幼稚園教育要領解説(最新版)

〔参考文献〕
授業中に随時指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程、幼一種、必修
教育の基礎的理解に関する科目、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

児童教育学総論Ⅰ

3430
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
学校という視点から教育の理念、現状、教師として必要な基礎内容について理解し、教育に関する思考を深める。

〔授業の概要〕
学校教育について幅広く学び、「学校」という窓口をとおして教育の問題や課題を理解し、思考を深めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
適時資料を与え、レポートの提出。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
講義の全体像
第 2 回　我が国の教育制度と小学校
学校体系について理解する。
第 3 回　教育の目標
学校教育の目標をまとめる。
第 4 回　学習指導要領①
学習指導要領の性質と「生きる力」について説明することができる。
第 5 回　学習指導要領②
新しい学習指導要領の特徴について説明することができる。
第 6 回　学習指導要領③
教育課程と授業時数について説明することができる。
第 7 回　学習指導要領④
「主体的・対話的で深い学び」について説明することができる。
第 8 回　特別な支援を必要とする子どもたちへの対応
合理的配慮、インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン、アレルギー対応について説明することができる。
第 9 回　教科書
教科書の性質について説明することができる。
第 10 回　令和の時代の教育
GIGAスクール構想とICT教育について説明することができる。
第 11 回　今日的な教育課題①
いじめ、不登校の対応について考えを発表することができる。
第 12 回　今日的な教育課題②
子ども同士のトラブルの対応について考えを発表することができる。
第 13 回　今日的な教育課題③
子どもの人権、児童虐待、個人情報保護について説明することができる。
第 14 回　学校安全と危機管理対応
災害、不審者侵入、事故などの緊急時の対応について理解する。
第 15 回　理想の教師像
これまでの学習から理想とする教師像を考えまとめる。

〔成績評価〕
定期試験60%、授業中の発表20%、課題提出20%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
前期　後期
金曜日　２限
メールアドレス：Phollyメッセージで連絡すること。

保育内容Ⅱ（人間関係）

4227
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
安藝　雅美

〔到達目標〕
・領域・人間関係の理論や実態について理解し説明することができる。
・多様な子どもへの関わりや特別な配慮に積極的に関心を持つ。
・子どもの人間関係育成に必要な多様な人間関係のあり方を身につける。
〔授業の概要〕
現代の希薄になった人間関係の中での子どもの関わりあう力の育成について理解する。また、保護者間、先生間など大人の人間関係が子どものどう影響するかを考える。幼稚園、保育所、家庭、地域社会などが連携し多様な人間関係のなかで子どもを育てていくことの大切さを学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
教科書を読み、学習に必要な意識をたかめる。
〔授業計画〕
第 1 回　子どもの人間関係
　　現代社会と子どもの人間関係の実態とあり方を知る。
第 2 回　子どもを取り巻く環境
　　子どもを取り巻く人間関係が子どもに与える影響と実態を知る。
第 3 回　領域人間関係
　　領域「人間関係」のねらいと内容
第 4 回　子どもの人間関係
　　子どもと保育者の関係、子ども同士の関係、その他の人間関係
第 5 回　保育者の役割
　　仲間関係の育ち　遊びとけんか、保育者の役割を知る
第 6 回　道徳性の芽生え
　　道徳性の芽生え　人間関係から善悪の判断を知る
第 7 回　コミュニケーション
　　人と人とのコミュニケーション
第 8 回　人間関係形成
　　遊びの中における人間関係形成のあり方を知る
第 9 回　保育者の援助方法
　　人間関係を構築する適切な保育者の援助方法
第 10 回　子どもの相互作用
　　保育者と子どもの相互作用
第 11 回　保育内容の立案１
　　人と関わる力を育てる保育内容の立案と実践
第 12 回　保育内容の立案２
　　人と関わる力を育てる保育内容の立案と実践
第 13 回　子どもの援助方法
　　人との関わりが難しい子どもへの援助の方法をしる。
第 14 回　子どもの人権
　　子どもの人権・多様な人間関係の必然性
第 15 回　まとめ
　　まとめ　振り返り
〔成績評価〕
授業態度　２０％
筆記試験　８０％
〔教科書〕
体験する・調べる・考える　領域「人間関係」〈第２版〉
著者　田宮 縁　著版型・頁AB判　136頁（2018/05/06）
ISBN　978-4-89347-292-2
〔参考文献〕
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
その他の参考資料等は授業中に適宜、配布する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
領域及び保育内容の指導法に関する科目、保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、幼一種、必修
提出物は期限を厳守すること。
授業外学習（事前学習・事後学習）を適宜行うこと。
授業計画はあくまで予定であり、進度に応じて変更する場合がある。
〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取る事。

学校インターンシップ

4228
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
笠原　　清次

〔到達目標〕
教職を希望する学生が、教育現場における教員の児童に対する指導の様子を実地に観察し、児童の教育活動を補助したり日常の教職事務を体験したりすることにより、自己の教職への適性を図る機会とするとともに、教職志望をより確かなものにし、専門性を高める動機づけとすることができる。
〔授業の概要〕
週１回の指定された時間を学校内で児童とともに過ごし、教員による児童に対する生活指導や授業の様子を観察したり、担当教員の指示により児童の教育活動を適宜補助・支援する体験を積んだりする。活動の記録を一日ごとにまとめ担当教員に提出し助言を受けたものをもとに、話し合いインターンシップをまとめる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
(1) 授業場面を予習し、学習内容を理解しておく。(30分)
(2) 活動のまとめを記録し、学校担当教員に提出する。（20分）
〔授業計画〕
第１回　インターンシップガイダンス
第２回　学校教員の一日、学習指導時の仕方に対応について
第３回　生活指導・生徒指導時の対応の仕方について
第４回　インターンシップ実施校訪問及び担当教員との打合せ
第５回～第14回
　　8時30分～10時40分
　　芦屋市内8小学校中の指定された小学校におけるインターンシップ体験
　　（学級経営・授業の観察、児童への個別指導・支援、担当教員の補助等）
第15回　インターンシップの報告及びまとめ

〔成績評価〕
学校インターンシップ期間中の意欲・態度（６０％）
活動のまとめ（４０％）
〔教科書〕
特になし。
〔参考文献〕
適宜配付する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
【実務経験の活用】
①小学校における若手教員に対する指導経験を生かし，国語科，特別の教科道徳をはじめ、各教科等における基礎的・基本的事項を抑えた実践的な指導方法を習得するよう指導している。
②教育現場における児童への指導経験や指導主事，管理職、学校心理士として対応してきた経験の蓄積により、児童理解を深めた生徒指導の在り方について指導している。
③学校現場で長年にわたり教育実習生を育成してきた経験を生かし，学生の目的意識的な教育実習等参加の在り方について指導している。
〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

保育内容指導法Ⅰ

4313
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
安藝　　雅美

〔到達目標〕
幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、保育のねらい及び内容について背景となる歴史を理解し小学校との接続を関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を保育現場での実践を通して保育を構想する方法を身に付ける。
〔授業の概要〕
保育方法論における理論と実践を具体的に展開し考察していく。
また、子どもの遊びを総合的視点から考察することで、保育の全体像をつかみ、その内容を深めていく。
さらに、保育の実践を行うにあたり、その核となる歴史や思想等を学ぶなかで、各人の保育観、子ども観の構築を目指す。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
理論を学びながら実際に保育計画を立て、それを附属幼稚園にて実践する機会があるため、授業時間外であっても事前準備等の時間を要する。
〔授業計画〕
第 1 回　授業の進行理解
　　保育内容指導法の目標と内容を理解する。保育の背景となる歴史を学ぶ。
第 2 回　指導案の組み立て
　　子どもの理解とその評価を考え、活動を通して個々の発達を捉えることを学び、自身の指導案（略案）を考える。

第 3 回　グループでの学び
互いの指導案を通して再構成し、グループでの実践保育教材を作成する。情報機器及び教材の活用
第 4 回　予行練習を行う
保育案の予備練習を行い交流する
第 5 回　現場での実践
作成した保育指導案と教材を基に、附属幼稚園にて実践する。情報機器及び教材の活用。
第 6 回　グループでの振り返り
振り返りを行い、子どもの能力を信頼しかかわるという保育の環境と援助の仕方を考える。
第 7 回　反省を生かした指導案つくり
保育内容5領域を考慮し、保育指導案を考え作成する。
第 8 回　現場実践
作成した保育指導案と教材を基に、附属幼稚園にて実践する。
第 9 回　反省から保育環境と援助を学ぶ
振り返りを行い、子どもの発達と能力という関連から、保育の環境と援助の仕方を考える。
第 10 回　自分の指導案を考える
模擬保育用の教材を選び、保育指導案を作成する。
第 11 回　言葉を主に発表する
模擬保育の発表会を順次全員が行う。（主に言葉について考察する）
第 12 回　表現を主に発表する
模擬保育の発表会を順次全員が行う。（主に表現について考察する）
第 13 回　健康を主に考える
模擬保育の発表会を順次全員が行う。（主に健康について考察する）
第 14 回　人間関係において考える
模擬保育の発表会を順次全員が行う。（主に人間関係について考察する）
第 15 回　模擬保育の振り返り
模擬保育を振り返り教材研究と授業について、その要点を整理する。

〔成績評価〕
討論への積極的な参加（20%）、附属幼稚園での保育実践態度（30%）、定期試験等（50%）で総合評価とする。

〔教科書〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）、ここがポイント！３法令ガイドブック新しい『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の理解のために 著者　無藤隆 （著）他　フレーベル館
『幼稚園教育要領解説』平成30年3月告示　文部科学省　フレーベル館

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
領域及び保育内容の指導法に関する科目、保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、幼一種、必修

【実務経験の活用】
教育現場経験から、実践的な保育指導を行う。
実践的で、就職後に生かせる実習を行う。現場で経験した諸問題（幼児の動き、保育内容、特別な配慮を要する子どもに対する対応方法等）を具体的に伝えることで、実際の現場での対応に生かせるよう指導する。

〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

国語概論

4414
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
白江　　恒夫

〔到達目標〕
国語の言語事項に関する諸知識が説明できる。
・人間と言語との関係が説明できる。
・漢字に関する諸知識が説明できる。
・国語表記文字の種類と成立過程が説明できる。
・敬語の種類と運用が説明できる。
・国歌「君が代」の歌詞が説明できる。

〔授業の概要〕
・言語の一般的特徴を概説する。
・国語に関する基礎的知識を概説する。
・漢字に関する知識「六書」を概説する。
・漢字熟語の構造と用例を概説する。
・字音の種類と時代を概説する。
・国語表記文字の発明と種類を概説する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
（予習 1時間）
・購入テキストを事前に通読する。
・授業計画欄に即した内容をテキストや参考文献で確認する。
（復習2時間）
・毎回の講義で とったノートを読み返す。
・上記ノートを、テキストや参考文献で補う。

〔授業計画〕
第 1 回　言語について
・F・ソシュールと言語の一般的特徴について。
第 2 回　人間と言語
・乳幼児～児童期における子どもの言語の獲得と発達について。
第 3 回　国語学の諸分野

・国語教育と日本語教育。
・国語学の諸分野について。
第 4 回　国語音韻について
・国語の音韻的特徴。
・国語音韻の歴史的変化。
第 5 回　文字の性格と本質
・文字の成り立ちと文字体系。
・国語表記の文字について。
第 6 回　六書について―漢字の構成法―
・漢字の構成法とその具体例の類別。
第 7 回　六書について―漢字の運用法―
・漢字の運用法とその具体例の類別。
第 8 回　熟語の種類
・二字熟語の構造と具体例。
・四字熟語の構造と具体例。
・付属語を伴う熟語の構造と具体例。
第 9 回　字音の系統と種類
・字音の種類と伝来。
・字音語の熟語の具体例について。
第 10 回　字訓と仮名（カナ）
・字訓の固定。
・仮名の出現―模倣と発明―。
第 11 回　仮名の種類―真仮名（マガナ）―
①マ（真）の意味。カナ（仮名）の意味。マガナ（真仮名）の意味。
②真仮名の種類と具体例。
第 12 回　仮名の種類―平仮名と片仮名―
・ヒラ（平）の意味。カタ（片）の意味。
・平仮名と片仮名の発生と使用場面。
・『古今和歌集』の成立と国語表記文字「平仮名」の確定。
第 13 回　仮名遣い―音声（発音）と文字―
・仮名遣いとは何か。
・歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いと効用。
第 14 回　敬語
・敬語の種類。
・敬語の機能と使用場面。
・敬語の効用と使用場面。
第 15 回　「君が代」について
①『古今和歌集』所載歌との比較。
②「君の代」と「君が代」。
③国歌「君が代」の歌詞・語釈・歌意。

〔成績評価〕
・学期末考査（筆記試験）で評価する（100%）。
・再試験は行わない。

〔教科書〕
・『国語学』（宇野義方編、学術図書出版刊）と授業中に配付の資料。
・小学校学習指導要領（平成29年7月告示、文部科学省）解説（国語編）。

〔参考文献〕
・『日本語百科大事典』（大修館書店）。
・『国語学大辞典』（東京堂）。
・山崎 馨『日本語の泉』（和泉書院）。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
領域に関する専門的事項、国語、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、国語（書写を含む。）、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
質問等は講義終了後に受け付けます。

幼児理解の理論と方法

5219
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
大江　　まゆ子

〔到達目標〕
・幼児理解の意義を述べることができる。
・保育現場での映像や事例における幼児の姿から発達や学びを捉える力を身に付ける。
・幼児理解を深める視点と基本的姿勢を身に付ける。

〔授業の概要〕
幼児理解は、幼児期の保育の基本となるものである。具体的な事例（保育者と幼児の関わり、幼児同士の関わりの姿、年齢による遊びの違いなど）から幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び、その過程で生じるつまずきを理解し、援助方法について考える。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】
テキスト該当箇所及び配布資料等を読み、疑問点を整理する。（60分）
毎回指定時間内の発表を課すため、事前に内容を調べて発表準備を行い、レポート作成及び事前提出を行うこと。（60分）
【復習】
テキスト該当箇所及び配布資料を読み返し、学習した内容について整理する。（120分）

〔授業計画〕
第 1 回　保育における幼児理解とは
「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」の源流となる「保育要領」に触れることから、日本の保育者がどのような子ども観のもとで何を重視し、保育を行ってきたかを考える。
第 2 回　幼児の発達と現代的課題について
幼児を取りまく環境と現代的課題について考え、子どもの育ちを保障するための保育および保育環境、保育者のありかたについて考える。
第 3 回　幼児にふさわしい園生活の展開
幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の学習から

幼児にふさわしい園生活の展開を考える力を養う。

第 4 回　幼児理解のための保育者の基本姿勢（1）受容、傾聴、共感的理解について
幼児理解のための保育者の基本姿勢として、受容、傾聴、共感的理解について具体的なエピソード及び幼稚園での子どもと保育者の関わりの映像を視聴しながら理解を深める。

第 5 回　幼児理解のための保育者の基本姿勢（2）計画と評価の一体化、省察と専門性について
幼児理解のための保育者の基本姿勢として、保育の計画と評価の一体化、省察と専門性についての理解を深める。

第 6 回　幼児理解を支える記録の重要性（1）どのような視点をもつか
幼児理解を行う上で必要となる視点と記録の重要性について学習し、複数の具体的な記録例から学びを深める。

第 7 回　幼児理解を支える記録の重要性（2）どのように記録するか
幼児理解を深める記録としてエピソード記録を取り上げる。幼稚園での子どもの様子の映像を視聴し、エピソード記録を書き、グループディスカッションを行う。

第 8 回　幼児理解と援助・指導の具体的方法
子どもの育ちを支える保育者の援助と指導の具体的方法について学ぶ。また、すべての援助の根底に位置する幼児理解の重要性について確認する。

第 9 回　幼児の生活・遊びと保育形態
子どもの発達と遊び、多様な保育形態についての学びから、幼児が主体的に周囲の環境との関わりによって育つ保育について考える。

第 10 回　保育の計画と実践
園生活の軸となる保育の計画の基本的な構造と実践のつながりに対する理解を深める。

第 11 回　個と集団を育む保育実践とは
具体的な保育実践から、個と集団を育む保育実践について考える。

第 12 回　幼児理解のための視点（1）観察及び記録の意義と目的
観察及び記録の意義と目的について学習する。そのことにより保育者として幼児理解のための基本的姿勢を養う。

第 13 回　幼児理解のための視点（2）レッジョ・エミリア及びテ・ファリキから学ぶ
幼児理解のための視点として、レッジョ・エミリアの保育とテ・ファリキの子どもの学びに焦点を当てた子ども理解の視点を学ぶ。

第 14 回　幼児理解のための視点（3）個々の発達の理解及び多様な発達観に学ぶ
発達とは何かを考えることから、多面的な幼児理解を可能とする視点の獲得を目指す。

第 15 回　幼児理解を深める保護者との関係構築
保護者との連携の中で幼児理解を深めることの重要性とその意義について考える。

〔成績評価〕
定期筆記試験（60%）、授業内発表内容（20%）、提出物（20%）

〔教科書〕
広岡義之編著『新しい保育・幼児教育方法』ミネルヴァ書房

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針。
その他、適宜、配布・紹介する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
幼児理解の理論及び方法、幼一種、必修

【実務経験の活用】
保育現場経験より、幼児理解を深めるための視点や子ども同士の学びを促す保育のあり方について指導する。

〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　13：50〜15：20、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

児童福祉Ⅰ

5311
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
木下　　隆志

〔到達目標〕
児童福祉Ⅰでは、子どもの最善の利益（子どもが安心して成長発達できることを最優先すること）を探求する。歴史的変遷、保育との関連性、子どもの人権、成長発達を保障する制度や、制度を運用する実施体系を学び、次の世代を担う子どもが希望を持つことができる社会を築くため、現状と課題について、保育専門職として理解を深める。

〔授業の概要〕
授業の途中で「今日のポイント」について協議する時間をつくる。１回目の理念を学ぶ授業では、愛護される子ども、主体性のある子ども、について理解する。例えば「しつけ」のあり方における、子どもの主体性について話し合う場を持つ。毎回発言の機会があるので積極的に参加してほしい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
この授業はテキストを使用するが、毎回次の授業の「今日のポイント」について事前に提示する。各授業の予習として、「今日のポイントに関する事前学習を90分」、授業後の振り返りとして「自分の意見のまとめとして30分の復習」をすること。

〔授業計画〕
第 1 回　現代社会における児童家庭福祉の理念

子どもは愛され、守られるべき存在から、子どもの主体性を尊重する理念に変化してきた。愛護と主体性の理解を学ぶ。「今日のポイント：しつけのあり方」

第 2 回　児童家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向
子どもを所有物とみる文化的背景により、子どもの権利は守られていたわけではない。その歴史の変遷から今の子どもをとらえる視点を学ぶ。「今日のポイント：児童労働の実態」

第 3 回　児童家庭福祉と保育
保育者はある意味、家族よりも子どもと過ごす時間が多い専門職である。子どもの変化をとらえ、家族と協働で子どもの成長発達を守る支援者のあり方を学ぶ。「今日のポイント：発達の違い」

第 4 回　児童の人権擁護と児童家庭福祉
子どもの権利条約では、子どもの主体性を保証する権利が保障されている。子どもの主体性について理解する。「今日のポイント：子どもの主体性」
☆１回目ミニテスト

第 5 回　児童家庭福祉の制度と実施体制
日本の子どもと家庭を支援する法律や制度を学び、働きながら子育てをする家庭や、ひとり親家庭、生活困窮や病気の場合、どのような制度で支援できるかを学ぶ。「今日のポイント：子育て環境」

第 6 回　児童家庭福祉施設と専門職
子どもを支援する専門職は保育者だけではなく、子どもと家庭の状況に応じて多様な専門職が存在する。その専門職の理解を広げる。
「今日のポイント：具体的な連携とは」

第 7 回　少子化と子育て支援サービス
少子高齢化はこれからの大きな社会的課題である。子どもは少なくなっているが、待機児童の課題など地域それぞれの子育て環境が違う。少子化の影響ついて学ぶ「今日のポイント：なぜ子どもは増えない」

第 8 回　母子保健と児童の健全育成
この回から各論に入る。子どもと母親の健康について学ぶ母子保健、すべての子どもの遊びと学びを深める場として健全育成について学ぶ
「今日のポイント：子どもの健康」

第 9 回　多様な保育サービスへの対応
多様な働き方にともない、保育の延長、休日対応をする保育所が増加している。多様な生活様式に合わせて生まれてきた保育サービスの現状を学ぶ。
「今日のポイント：24時間保育」2回目ミニテスト

第 10 回　児童虐待防止およびDV防止法の理解
子どもや女性を威圧し、自由を奪う暴力について考える。
「今日のポイント：虐待」

第 11 回　社会的養護施設
親と生活することができない子どもの居場所について考える。日本の社会的養護の特徴は施設養護が中心であるが、里親にも力を入れている。
「今日のポイント：家族とは」

第 12 回　障がいのある児童への対応
療育や難病で社会的支援や、医療的ケアを必要とする子どもについて学ぶ。
「今日のポイント：出生前診断」

第 13 回　少年非行等への対応
少年非行の内容がクローズアップされ、法律は厳罰化の傾向にある。
厳罰化することが少年非行の抑制につながるのであろうか。更生の視点から少年犯罪、少年非行を考える。
「今日のポイント：逸脱心理」

第 14 回　次世代育成支援と児童家庭福祉の推進
安心して子育てができる地域社会とは。社会保障と生産性を軸とする基本的施策と地域の子育て支援力の関係について学ぶ。
「今日のポイント：子どもにとっても地域とは」

第 15 回　保育・教育・療育・医療等との連携とネットワーク
保育者として、子育て支援に携わる関係機関、多職種とのネットワークについて学ぶ。
「今日のポイント：社会福祉ネットワークにおける保育者の役割」

〔成績評価〕
最終レポート50点
平常点（今日のポイントの発言等）30点
ミニテスト20点

〔教科書〕
みらい×子どもの福祉ブックス児童家庭福祉、出版社みらい

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
授業終了後講義室で対応します

初等教科教育法Ⅷ（家庭）

5323
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
島岡　　敦子

〔到達目標〕
・学習指導要領に示された小学校家庭科の目標や内容を理解する。
・基礎的な家庭科の学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業計画を行う方法を身　に付ける。
・小学校家庭科の教育的意義を理解し、児童の実態を踏ま

えた家庭科の授業計画を基に、実戦　的指導に必要な資質を養う。

〔授業の概要〕

・小学校家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示され　た家庭科の学習内容について理解を深める。

・数人のグループ編成を行い、指導と評価の一体化を常に意識して、子どもたちの主体的な学　習場面を想定した指導案をグループ毎に立案して模擬授業を実施する。

・模擬授業後は毎回全員で検討会を行い、児童にとってより良い指導展開や指導方法について　話し合う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・次回の授業予定に該当する学習指導要領解説（家庭）部分を読んでおく。（事前）

・模擬授業で実施することになった題材について、各自教材研究を深める。（事前）

・模擬授業の指導案作成の完成と、授業準備物の作成や発問計画の完成。（事後）

〔授業計画〕

第 1 回　学習指導要領（家庭）の目標と内容
家庭科の目標と内容構成の全体と各内容の関連を理解する。

第 2 回　家庭科の学習指導と評価の一体化
家庭科で育てたい力を明確にし、PDCA（計画・実行・評価・改善）を見通した学習指導計画の立て方を理解する。

第 3 回　A「家族・家庭生活」の指導
ガイダンスの実践授業で活用した教材や情報機器を基に、空間軸・時間軸を意識した指導法を理解する。

第 4 回　B「衣食住の生活」の指導
衣食住の生活の個別の学習内容について指導上の留意点を理解する。

第 5 回　調理実習の指導方法
「米飯とみそ汁」の題材を基に、情報機器及び教材の活用を含めた具体的な指導計画の作成方法を理解する。

第 6 回　衣生活・住生活の指導
衣服と住まいの今日的課題を把握して、指導上の留意点を理解する。

第 7 回　生活に役立つ物の製作の指導
不織布を用いて袋の試作活動を行い、基礎的な技能の定着を図る指導法を理解する。

第 8 回　C「消費生活・環境」の指導
消費者教育の視点を取り入れた指導例を参考にしながら、指導上の留意点を理解する。

第 9 回　指導題材の決定と指導案検討
グループ毎に指導題材を決め、課題解決学習を取り入れた指導法を検討する。

第 10 回　指導案の決定と資料作成
グループ毎に模擬授業で実施する指導案を決定し、指導案を基に板書と発問を計画して児童の学びを助けるための資料を作成する。

第 11 回　模擬授業の実施と評価?
「家族・家庭生活」の内容の模擬授業を実施し、評価シートを基に意見交換を行う。

第 12 回　模擬授業の実施と評価②
「衣・住生活」の内容の模擬授業を実施し、評価シートを基に意見交換を行う。

第 13 回　模擬授業の実施と評価③
「食生活」の内容の模擬授業を実施し、評価シートを基に意見交換を行う。

第 14 回　模擬授業の実施と評価④
「消費生活・環境」の内容の模擬授業を実施し、評価シートを基に意見交換を行う。

第 15 回　家庭科教育の意義とねらい
社会の変遷に伴うグローバル的視野で家庭科教育の変遷をとらえ、家庭科教育の果たす役割を理解する。

〔成績評価〕

定期試験（筆記）　５０％
毎回の授業で提出する小レポート　３０％
模擬授業の発表内容　２０％

〔教科書〕

小学校学習指導要領解説　家庭編（平成２９年３月告示、文部科学省）
新しい家庭　5・6　（東京書籍）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、家庭、小一種、必修

【実務経験の活用】

実務経験期間の授業実践の写真や授業で活用した指導資料の実物を学生にできる限り紹介しながら、学生が指導要領の内容を具体的にイメージできるように心がけて指導している。

指導案の作成や検討を行うだけでなく、模擬授業を多く取り入れてディスカッションを活発に行い、教育実習に参加した時に生かせるようにスキルアップを図っている。

〔オフィスアワー〕

日時：授業終了後
場所：各教室
質問や相談がある場合は、LMSのメッセージ機能も活用してください。

乳児保育Ⅰ

6001
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
大江　　まゆ子

〔到達目標〕
・乳児保育の意義について述べることができる。
・乳児の生活や遊びおける発達を保障する保育士の援助や配慮への関心を高める。
・多様化する保育ニーズに応える乳児保育の課題を討議することを通して、保育士に求められる役割について説明することができる。

〔授業の概要〕
乳児保育の理論および実際についての学習から、乳児の育ちを支える保育士としての実践力を身に付けることを目指す。保育所及び乳児院等で過ごす子どもたちの豊かな成長発達の保障に必要な知識と実際の保育における技術を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】
テキスト該当箇所及び配布資料等を読み、疑問点を整理する。（120分）
【復習】
テキスト該当箇所及び配布資料を読み返し、学習した内容について整理する。（120分）

〔授業計画〕
第 1 回　乳児保育の意義と役割
乳児保育が求められる背景および発達段階における乳児期の重要性を学習することにより、乳児保育を行う保育士の役割に対する高い意識をもつ。
第 2 回　乳児保育における養護及び教育
養護および保育を一体的に行う乳児保育への理解を深めることにより、乳児の主体性を引き出す適切な関わりについて考える力を養う。
第 3 回　生涯発達からみた乳児期について
エリクソンによる人間性の発達段階から乳児期の重要性について学ぶ。
第 4 回　0歳前半の発達の特徴
0歳前半の発達のおおよその道筋を学習したうえで、視聴覚教材を用いて0歳前半の姿の具体的なイメージをもつ。
第 5 回　0歳前半の発達を促す保育
0歳前半の発達の道筋の学習に基づき、0歳前半の育ちを支えるための具体的な援助の方法や環境構成について実践例を通して考える。
第 6 回　0歳後半の発達の特徴
0歳後半の発達のおおよその道筋を学習したうえで、視聴覚教材を用いて0歳後半の姿の具体的なイメージをもつ。
第 7 回　0歳後半の発達を促す保育
0歳後半の発達の道筋の学習に基づき、0歳後半の育ちを支えるための具体的な援助の方法や環境構成について実践例を通して考える。
第 8 回　1歳児の発達の特徴と保育
1歳児期の発達のおおよその道筋を学習したうえで、視聴覚教材を用いて1歳児の姿の具体的なイメージをもつ。また、1歳児の育ちを支えるための具体的な援助の方法や環境構成について実践例を通して考える。
第 9 回　2歳児の発達の特徴と保育
2歳児期の発達のおおよその道筋を学習したうえで、視聴覚教材を用いて2歳児の姿の具体的なイメージをもつ。また、2歳児の育ちを支えるための具体的な援助の方法や環境構成について実践例を通して考える。
第 10 回　乳児の発達を保障する保育者の視点と援助の基本的姿勢
乳児期の身体的発達、社会的発達および精神的発達に関する視点を踏まえ、応答的な保育環境と関わりについて考える。
第 11 回　乳児保育における計画・記録・評価及び職員間の連携・協働
3歳未満児に必要な一人ひとりの子どもに対する個別的な計画の意義について理解するとともに、子ども理解を深めるための職員間での情報共有や会議にもとづく計画、記録の作成と評価の重要性を理解する。
第 12 回　保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
児童福祉施設の一つである乳児院での子どもとの関わりについて視聴覚教材を用いながら考え、学びを深める。
第 13 回　3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
現代社会の中で3歳未満児である乳児をもつ家庭が置かれている子育て環境を考え、子どもの発達にとってよりよい環境の形成と保育士に求められる役割について考える。
第 14 回　子育て家庭に対する社会的状況と自治体や地域関係機関との乳児保育における連携・協働
多様化する保育ニーズとそのニーズの背景にあるものについて考え、地域の関係機関との連携について学ぶ。また、乳児保育の現状と課題について理解する。
第 15 回　乳児保育の歴史的変遷と目的及び機能
乳児保育の歴史的変遷から、乳児保育の意義と目的について理解を深め、現代社会における乳児保育が果たす機能および保育士の責務について考える。

〔成績評価〕
定期筆記試験（70%）、授業内提出物（15%）、授業への取組姿勢（15%）

〔教科書〕
乳児保育研究会編　『改訂5版　資料でわかる乳児の保育新時代』　ひとなる書房
〔参考文献〕
・厚生労働省、『保育所保育指針＜平成29年告示＞』、フレーベル館
・文部科学省　厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』、フレーベル館
・その他、授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

保育内容総論

6003
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
大谷　　彰子

〔到達目標〕
保育内容の歴史的変遷、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の考え方、乳幼児の発達と生活など、保育における基本的事項を身に付けている。
保育の全体構造について把握し、保育内容3つの視点と養護、教育のねらい、内容を説明することができる。
子どもの発達の特性等を積極的に学び、観察や記録の観点を身に付けている。
保育者として求められる姿や援助について、自ら考える態度を持つ。
〔授業の概要〕
乳幼児保育の基本と保育内容を理解し、子どもの育ちを支える保育者の役割について説明することができる。要領、指針の読み方を理解し、保育の全体構造を把握し、５領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）と共に子ども理解や保育方法について身に付けている。
環境を通して行う保育、遊びを通しての総合的指導についてグループワークを行い、主体的に考える態度を身に付けている。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次回のテーマについて該当箇所の教科書を熟読し、自身の意見を持ち授業に参加すること。(30分)
乳幼児、保育に関するニュースについて日頃から関心、問題意識を持ち､授業で発表を行えるようまとめておく。(30分)
授業で出された課題を行い、次回提出する。(60分)
〔授業計画〕
第 1 回　保育とは
　　保育の基本と保育内容の概要について理解する。
第 2 回　保育所・幼稚園・認定こども園の役割
　　保育所・幼稚園・認定こども園の役割と法的根拠を説明できる。
第 3 回　保育所・幼稚園・認定こども園での生活
　　保育所・幼稚園・認定こども園での子どもの生活の流れと遊びについて理解する。
第 4 回　保育における日本と世界の動向
　　子どもを巡る社会の現状、課題と保育の動向について理解する。
第 5 回　保育のねらいと内容
　　保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容、3つの視点と養護、教育のねらい、内容を説明できる。
第 6 回　乳幼児の発達の特性と保育内容
　　乳幼児の発達の特性と保育内容の関連について身に付けている。
第 7 回　養護と教育が一体的に展開する保育
　　乳児、幼児の保育における養護と教育が一体的に展開する保育について説明できる。
第 8 回　5領域の保育内容
　　5領域のねらいと内容を学び、相互に関連し合って行われるものであることが説明できる。
第 9 回　遊びによる総合的保育
　　保育は、遊びによる総合的保育を通して行われることを実体験を通して説明することができる。
第 10 回　環境を通して行う保育
　　保育は環境を通して行われること、乳児、幼児にとってよりよい保育環境について説明できる。
第 11 回　保育における子ども理解と記録
　　保育における子ども理解の重要性と記録する際の視点について説明できる。
第 12 回　保育理論の変遷
　　保育理論の歴史的変遷と現代の保育理論について身に付けている。
第 13 回　保育内容の歴史的変遷
　　保育内容の歴史的変遷について理解する。
第 14 回　家庭、地域、小学校との連携
　　家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育について理解する。
第 15 回　まとめ
　　保育における保育者の役割や保育のやりがいについて理解し説明できる。
〔成績評価〕
定期試験（50%）
授業内提出物（20%）
ホームワーク提出物等（20%）
授業への参画度（10点）
※提出物については、評価後個別コメントをつけて返却します。
〔教科書〕
①井上孝之、山崎敦子編著「子どもと共に学び合う・演習・保育内容総論」第２版、みらい、2018。
② 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども

園教育・保育要領 原本 （平成29年告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省）チャイルド本社

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

資格取得希望者のみ

〔備考〕

【実務経験の活用】

保育現場における、子ども理解(発達や遊びの深化)、保育者理解（保育者の役割や保育における配慮）、保育理解(環境構成、教育課程）等について説明し、保育における保育者の役割や保育のやりがいについて理解し、保育者意識が涵養するよう指導する。

〔オフィスアワー〕

時間：前期　水曜日13：50～15：20

場所：研究室２（201教室の前）

来室の際は、事前にpholly のメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

病弱者の心理・生理・病理

6300
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
藤井　清美

〔到達目標〕

1. 病弱の概念や歴史、学校現場での病弱児に対する支援について理解する。
2. 発達障害とその支援の方向性について理解する。
3. 慢性疾患をもつ子どもの心理・病態とその支援について理解する。
4. 病弱な子どもの自己管理を可能にするための健康とセルフケアについての概念を理解し、そ
の自己管理能力を高めるための支援方法を探る。

〔授業の概要〕

病弱の概念について理解し、特別支援教育としての病弱児教育について学ぶ。また、インクルーシブ教育が進められている中、教師として理解しなければならない医学的知識や支援について学ぶ。さらに、病弱な子どもの心理・生理・病理の理解とその支援への基本的姿勢について学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

※各回の授業終了時に提示されたテーマをレポートすること。（計30H）

1. 人体の構造と機能について（10H）
2. 疾患について（15H）
3. 発達障害について（5H）

〔授業計画〕

第 1 回　病弱の概念及び病弱教育の歴史／全身の構造と機能　＊授業ガイダン
病弱の概念や病弱児教育の歴史から特別支援教育の中病弱教育の在り方を学ぶ。
全身の構造と主な臓器の機能について理解すると共に、健康について考える。

第 2 回　子どもの成長・発達
子どもの成長・発達の一般原則を理解し、機能的発達の特徴を学ぶ。

第 3 回　発達障害と二次障害
知的障害を伴わない発達障害とその二次障害について学ぶ。
＊自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害

第 4 回　呼吸器系疾患の理解と支援
肺の構造と機能を中心に、呼吸器系疾患（症状・治療）を理解し、支援について学ぶ。
＊気管支喘息

第 5 回　循環器系疾患、先天性心疾患の理解 と支援①
心臓の構造と機能を中心に、循環器系疾患（症状・治療）を理解し、支援について学ぶ。
＊心房中隔欠損、心室中隔欠損、ファロー四徴症

第 6 回　循環器系疾患、先天性心疾患の理解 と支援②
心臓の構造と機能を中心に、循環器系疾患（症状・治療）を理解し、支援について学ぶ。
＊不整脈、川崎病

第 7 回　消化器系疾患の理解と支援
消化器の構造と機能を中心に、消化器系疾患（症状・治療）を理解し、支援について学ぶ。
＊下痢、便秘、嘔吐、胃・十二指腸潰瘍、肝炎

第 8 回　腎・泌尿器系疾患の理解と支援
腎・泌尿器の構造と機能を中心に、腎・泌尿器系疾患（症状・治療）を理解し、支援について学ぶ。
＊腎不全、ネフローゼ症候群

第 9 回　内分泌系疾患、成長障害の理解と支援
内分泌系の機能を中心に、内分泌系疾患と染色体異常による疾患（症状・治療）を理解し、支援について学ぶ。
＊低身長、糖尿病、ダウン症

第 10 回　脳神経疾患系の理解と支援
脳神経の構造と機能を中心に、脳神経系疾患（症状・治療）を理解し、支援について学ぶ。
＊脳性マヒ、てんかん、けいれん

第 11 回　運動器・筋系疾患の理解と支援
運動器・筋系の構造と機能を中心に脳神経系・運動器疾患（症状・治療）を理解し、支援について学ぶ。
＊脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー、ペルテス病

第 12 回　悪性腫瘍の理解と支援
悪性腫瘍の症状・治療について理解し、支援について学ぶ。
＊白血病・脳腫瘍

第 13 回　病気・障害をもつ子どもの心理的特性
病気や障害をもつ子どもと家族に与える心理社会的問題について理解する。

第 14 回　病気・障害の受容とセルフケア
病気や障害の受け止め方と心理・情緒面について理解し、支援について学ぶ。

第 15 回　教育・医療・保健・福祉の連携と支援
地域で暮らすということを踏まえ、QOL（生活の質）を高めるための支援について学ぶ。
＊医療的ケア児

〔成績評価〕
筆記試験：60%
レポート課題：40%（4点×10）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
小野次朗 監修：病弱児の生理・病理・心理，ミネルヴァ書房
深草瑞穂 監修：特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携，ジ
アース教育新社
丹羽登 監修：特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものガイドブック，ジアース
教育新社
坂井建雄･橋本尚詞 著:ぜんぶわかる人体解剖図,正美堂出版
美田誠二 編集：からだのしくみが目で見てわかる 得意になる解剖生理，照林社

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目、中心となる領域【病弱者】、含む領域【知的障害者肢体不自由者】、特支一種、必修

〔オフィスアワー〕
対面授業終了後のみ。

大学生活入門　児童

8145
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
竹安　知枝　渡　康彦　中村　整七

〔到達目標〕
学科の特色を理解しキャリアデザインの基礎を身につける。
幼児・児童に関わる教育者に必要な基礎知識を学ぶ。
教育者に必要な資質、能力の基礎を身につける。

〔授業の概要〕
大学共通のテーマに基づく、講義や演習の機会を複数設け、大学生としての一般常識を修得する機会とする。
体験型の授業と振り返りを通して、理論と実践力を身に着けていく。
グループ活動など学生の能動的かつ自立的な学習を継続していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業のふり返り（１２０分）
次時への予習・準備（１２０分）

〔授業計画〕
第 1 回　受講方法・授業概要・評価について
受講方法に関する説明
授業概要・評価について
第 2 回　大学について理解する①
大学の施設について
担任制度について
第 3 回　大学について理解する②
大学の各部署とその役割について
第 4 回　大学生としての心構え
大学生としての心構えについて
4年間のロードマップの作成
第 5 回　一般教養①
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 6 回　一般教養②
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 7 回　生活習慣（1）食事
食事の重要について学ぶ。
第 8 回　生活習慣（2）運動
運動の重要性について学ぶ。
第 9 回　生活習慣（3）
睡眠の重要性について学ぶ。
第 10 回　一般教養③
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 11 回　ハラスメントについて
様々なハラスメントについて、具体的に学ぶ。
第 12 回　違法薬物
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。
第 13 回　一般教養④
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 14 回　一般教養⑤
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 15 回　授業の振り返りとレポートについて
前期のまとめと授業の振り返り
レポートについて

〔成績評価〕
レポート評価100%
小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価を行う。
授業内での発表や参加態度を評価に加味する。

〔教科書〕
大学生活入門
～幼・小・特支教員、保育士を目指す学生のためのキャリアデザイン～　（開成出版）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　児童

8241
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
石田　愛子　丹下　秀夫　福山　恵美子

〔到達目標〕
教員・保育者を目指す児童教育学科の仲間との交流を図りながら、コミュニケーション力・自己表現力・基礎学力の向上を目指す。取得希望免許・資格取得までの道筋を理解し、主体的・計画的に準備を進められるようにする。
〔授業の概要〕
テキスト講読、グループ活動やクラス内発表、体験学習「赤ちゃん先生」などを通して、読む・聴く・書く・話す力を身につけ、教育実習に向けての心構えや態度を養う。また、学修状況や進路について、個別面談を随時行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキスト『大学生活入門』を常時携帯し、熟読すること。授業内容に関連するページの予習復習を習慣づけること。(60分)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
キャリアデザインの目的と内容、自己紹介
教科書「大学生活入門」の説明
第 2 回　心構えとロードマップ
大学生活の心構えと、この一年間にすべきことの再確認（テキストp.1~4）
個人面談①
第 3 回　Gmail,パソコンの使い方
大学メールの使い方の再確認、メールの書き方とマナー（テキストp.10）
個人面談②
第 4 回　学力確認テスト
国語、算数・数学の基礎学力確認テスト
第 5 回　学習習慣と生活習慣
ノートの取り方やレポートの書き方の再確認、健康的な生活について（テキストp.5~8,11~16）
第 6 回　教師の仕事
ある小学校教師の仕事から学ぶ
第 7 回　大学生活の振り返り
ここまでの大学生活を見つめ直す機会とする
（　授業出席状況、課題提出、日常生活など）
第 8 回　読書感想文を書く
各自のお勧めの本を紹介する。
第 9 回　一般常識　①
言葉遣い、手紙の書き方などの再確認（テキストp.9,21~24）
第 10 回　一般常識　②
お礼の手紙を書く（お世話になっている人に感謝のお手紙を書く）
第 11 回　学園祭に向けて
学園祭に向けての企画立案とディスカッション
第 12 回　教育実習に向けて
教育実習の意義・目的の確認（テキストp.47~52）、幼稚園・小学校教育実習参加資格テストの要項配付
第 13 回　個別面談／テキスト学習①
実習参加資格テストのための学習計画と課題確認
第 14 回　個別面談／テキスト学習②
実習参加資格テストのための学習計画と課題確認
第 15 回　前期を振り返って
前期を振り返り、自己評価と今後の課題をレポートにまとめる
〔成績評価〕
授業への取組み・意欲・態度（40%）
授業内課題・レポート提出（30%）
期末レポート（30%）
〔教科書〕
笠原清次・渡康彦　監修／石田愛子・竹安知枝　編著／安藝雅美・大江まゆ子・大谷彰子・木下隆志・種子田香・丹下秀夫・福山恵美子　著『大学生活入門～幼・小・特支教員、保育士を目指す学生のためのキャリアデザイン』(開成出版)
〔参考文献〕
授業中に適宜配付
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
代表の時間帯と連絡先
水曜日　14時～15時　研究室11
tange@ ashiya-u.ac.jp

演習Ⅰ【音楽表現】

8303
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
石田　愛子

〔到達目標〕
①自分の好みとレベルに応じた曲を選んで、自主的・計画的に練習できる。
②自分の興味・関心のあるテーマについて、調べたり考えたりしたことを文章にまとめることができる。
③自分の長所・短所、得意なことや苦手なことを知り、自分に合った職業について考えたり調べたりできる。

〔授業の概要〕
①音楽実技：卒業演奏を最終目標として、いろいろな曲を練習し、演奏技術の向上を目指す。
②レポート作成：卒業論文の作成に向けて、自分の興味・関心のあるテーマを絞り込み、文章を書く力を養う。
③キャリアデザイン：最適な進路＝“天職”に向けて、自分の個性・適性を見極め、必要な準備を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
いろいろな音楽を聴き、楽譜を読み、自分に合った曲を選択すること。演奏技術の向上には日々の練習が不可欠である。練習時間を確保し、必ず実行すること。（最低週４日120分以上）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　年間計画、自己紹介、選曲
第 2 回　基礎演習①楽譜を読む
　　楽典（音名・リズム・調号・楽語など）の復習
第 3 回　基礎演習②コードネームと伴奏づけ
　　音程とコードネーム、和音記号の復習、伴奏づけ演習
第 4 回　基礎演習③楽典、ソルフェージュ
　　楽典（リズム・音程・階名）の復習、視唱、階名唱
第 5 回　基礎演習④初見演奏、楽曲分析
　　楽典（拍子・調性・形式）の復習、初見演奏
第 6 回　個人レッスン①
　　レベルに応じた練習計画と練習方法の立案
第 7 回　個人レッスン②
　　読譜と練習方法の確認
第 8 回　個人レッスン③
　　技術的な課題の反復練習
第 9 回　個人レッスン④
　　曲にふさわしい表現を考える
第 10 回　中間発表
　　練習できた範囲で、互いの演奏を聴き合う
第 11 回　アンサンブル
　　連弾、ピアノ以外の楽器を用いた合奏
第 12 回　個人レッスン⑤
　　練習計画の再確認
第 13 回　個人レッスン⑥
　　練習方法の見直しと部分練習
第 14 回　個人レッスン⑦
　　仕上げ練習と演奏発表の準備
第 15 回　クラスコンサート
　　仕上げた１曲を披露、学園祭での演奏発表について意見交換、期末レポート
〔成績評価〕
演習への取組み・意欲・態度（50%）
小テスト・提出物（25%）
期末演奏（25%）
〔教科書〕
・『大学生活入門～幼・小・特支教員、保育士を目指す学生のためのキャリアデザイン～』（開成出版）
・個別に指定した楽譜・教則本
〔参考文献〕
適宜資料配付
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
日時：前期・後期（金）15:30～16:30
場所：石田研究室
質問や相談がある場合は、Phollyのメッセージも活用してください。

演習Ⅰ【幼児教育学】

8304
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
安藝　雅美

〔到達目標〕
卒業論文を書くにあたって、テーマを一年かけて練っていく。自分の教育観を掘り下げる。
〔授業の概要〕
幼児教育における具体的な保育内容や指導方法、保育形態等の考察、さらには、自らの保育観や子ども観等の
構築を目指すことで保育者としての資質を追究する。また、理論と実践との関係性を常に視野に入れながらの
演習となるので、机上と保育現場との双方から学びを深めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
論文やゼミで使用する本を予習する。
〔授業計画〕
第 1 回　自己紹介、一年の進め方
　　自分の興味あることを書き出してみる
第 2 回　モンテッソーリ教育の読書会
　　モンテッソーリ教育について1章を話し合う
第 3 回　モンテッソーリ教育の読書会
　　モンテッソーリ教育について2章を話し合う。
　　モンテッソーリ教育実践
第 4 回　モンテッソーリ教育の読書会
　　モンテッソーリ教育について3章を話し合う。
　　モンテッソーリ教育実践。
第 5 回　モンテッソーリ教育の読書会
　　モンテッソーリ教育について4章を話し合う。
　　平和教育とは、を考える。
第 6 回　附属幼稚園フィールドワーク１
　　それぞれの目的をもって観察する。
第 7 回　附属幼稚園フィールドワーク１振り返り
　　記録の振り返りを行う。
第 8 回　モンテッソーリ教育の読書会
　　モンテッソーリ教育について５章を話し合う。
　　日本におけるモンテッソーリ教育。
第 9 回　附属幼稚園フィールドワーク2
　　附属幼稚園にて、目的をもって取り組む。
第 10 回　附属幼稚園フィールドワーク2振り返り

書いたものを整理する。
第 11 回　モンテッソーリ園の見学
一日を通して実際を見学する。
第 12 回　論文に向けて振り返る
子どもとは、もう一度再考する。
第 13 回　論文の書き方１
論文の書き方の基礎を知る。
第 14 回　論文の書き方２
論文の書き方の基礎を知る。
第 15 回　1年間のまとめ
来年に向けて取り組みを固める。

〔成績評価〕
口頭発表（35%），論文（35%）その他のゼミ活動への取り組み（30%）

〔教科書〕
「モンテッソーリの幼児教育 ママ,ひとりでするのを手伝ってね!」 相良 敦子 (著)

〔参考文献〕
参考論文

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10〜13：40、
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

演習Ⅰ【生命工学】

8329
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
渡　　康彦

〔到達目標〕
生物に接し、自然のしくみを調べる。
小学校教員希望者は理科の基本を身につける。

〔授業の概要〕
植物などの栽培及び昆虫や魚の飼育観察を通して、卒論のテーマを模索する。
学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
参考文献を探して読んでおく（120分）。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
演習内容の説明をする。
第 2 回　温室での植物栽培
栽培する植物を決定する。
第 3 回　温室での植物栽培
栽培する植物の種をまく、または苗を定植する。
第 4 回　温室での植物栽培
栽培する植物の世話をする。
第 5 回　温室での植物栽培
自分の育てている植物について調べ、発表する。
第 6 回　昆虫や魚の飼育・観察
飼育する昆虫や魚を決定する。
第 7 回　昆虫や魚の飼育・観察
昆虫や魚を飼育条件に移す。
第 8 回　昆虫や魚の飼育・観察
昆虫や魚の世話をする。
第 9 回　昆虫や魚の飼育・観察
昆虫や魚の世話をする。
第 10 回　昆虫や魚の飼育・観察
自分の育てている昆虫や魚につて調べ、発表する。
第 11 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 12 回　文献の講読
各自の興味のあることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 13 回　文献の講読
各自の興味のあることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 14 回　文献の講読
各自の興味のあることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 15 回　まとめ
振り返り、意見交換をする。

〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢（主体性・積極性など、50%）と発表内容（50%）により評価

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

演習Ⅰ【臨床心理学研究】

8340
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
林　　知代

〔到達目標〕
ゼミの研究活動を通して「必要な能力と心理的問題への関心の意識化・明確化」を身につける。
課題を見つけるための事象への関心と課題を深める能力を身につける。

〔授業の概要〕
研究方法としては、文献研究だけにとどまらず、観察・実験・調査など実証的な方法以外に半構造化面接法や臨床心理学では重要な事例研究法など、幅広くある研究法を学びます。このような研究対象と研究方法の広がりのなかで、受講生一人ひとりの自由な問題関心にもとづき、文献レビュー、卒論研究、さらに卒業論文に関わる研究と執筆への展開に進んでいきます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業毎に取り組みの課題を出します。それが予習となります。復習は授業の進行に沿って レポートを作成します。
〔授業計画〕
第 1 回　開講にあたって
ゼミの進め方にについて概説します。
第 2 回　?　卒業論文とは何か
研究方法の概説を行います。1. 卒論の意味 2. 卒論を書くための技能 3. 卒論完成までのステップ
第 3 回　卒業論文を書くとは　1
興味のあるテーマを出していくことから始めます。
第 4 回　卒業論文を書くとは　2
興味のあるテーマを絞っていきます。
第 5 回　研究テーマを考える 1
臨床心理学における研究の視点を学びます。
第 6 回　研究テーマを考える　2
自分の研究の領域を決めていきます。
第 7 回　研究テーマを考える　3
図書館で参考文献利用の仕方を説明してもらいます。
第 8 回　論文の基本ルール　1
論文を書くにあたり、基本的なルールを学びます。
第 9 回　論文の基本ルール　2
論文を書くにあたり、基本的なルールを学びます。
第 10 回　学術文献の検索
ジャーナルや専門誌を参考文献として検索する方法を学びます。
第 11 回　実験計画法
実験研究法について学びます。
第 12 回　参与観察
参与観察研究法について学びます。
第 13 回　事例研究
事例研究について学びます。
第 14 回　研究論文
研究論文について説明します。
第 15 回　調査研究
調査研究について学びます。
〔成績評価〕
卒論が完成に至るまでの研究計画，実施，及びデータ分析の過程や妥当性が評価の基準となります。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
小笠原喜康（2009）新版　大学生のためのレポート・論文術.　講談社現代新書
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

演習Ⅰ【学校教育が抱える課題とその対応】

8356
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
4単位　前期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
種々の学校教育が抱える課題を捉え、その対応策を考察する力を身につける。
演習課題に取り組みながら、能動的で自立した学習者としての知見を深める。
〔授業の概要〕
課題図書を輪読する。演習課題を調査研究し、相互評価し合いながら個々の探求意欲を高めていく。個々「の研究テーマの具現化を図る。思考力、調査力、表現力を養う。
基本的に、「輪読、課題発見・解決方法の探求、レポート発表」を繰り返しながら、学生各自の研究テーマを模索していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
演習課題を調査研究し、ゼミでの輪読に臨むこと。そして、毎時の振り返りを整理すること。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
専門演習の到達目標、内容の概要を確認し合う。
第 2 回　課題図書の選定
輪読演習の課題図書を選定し、輪読順番と課題レポートの順番を決定する。
第 3 回　輪読と課題発見①
学生全員で課題図書の輪読。輪読箇所についての内容整理。課題提示とその解決に向けての資料収集方法と担当の確認。
第 4 回　課題提示と解決のための資料交流①
前時に決めた担当から課題解決のための資料を提示し、討論をする。
第 5 回　レポート発表①
前時の討論から各学生がまとめたレポートを発表し合う。
第 6 回　輪読と課題発見②
学生全員で課題図書の輪読。輪読箇所についての内容整理。課題提示とその解決に向けての資料収集方法と担当の確認。
第 7 回　課題提示と解決のための資料交流②
前時に決めた担当から課題解決のための資料を提示し、討論をする。

第 8 回　レポート発表②
前時の討論から各学生がまとめたレポートを発表し合う。
第 9 回　輪読と課題発見③
学生全員で課題図書の輪読。輪読箇所についての内容整理。課題提示とその解決に向けての資料収集方法と担当の確認。
第 10 回　課題提示と解決のための資料交流③
前時に決めた担当から課題解決のための資料を提示し、討論をする。
第 11 回　レポート発表③
前時の討論から各学生がまとめたレポートを発表し合う。
第 12 回　輪読と課題発見④
学生全員で課題図書の輪読。輪読箇所についての内容整理。課題提示とその解決に向けての資料収集方法と担当の確認。
第 13 回　課題提示と解決のための資料交流④
前時に決めた担当から課題解決のための資料を提示し、討論をする。
第 14 回　レポート発表④
前時の討論から各学生がまとめたレポートを発表し合う。
第 15 回　前期のまとめ
前期の振り返りをする。夏季休業中の学生個々の研究課題や研修図書（資料）の交流をする。

〔成績評価〕
レポート50%　意欲・態度50%

〔教科書〕
授業中に課題図書の指定をする。また、適宜資料を配布する

〔参考文献〕
適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
中学校での英語指導の経験を活かしながら、英語教育の小中連携に関する研究を進める。

〔オフィスアワー〕
tange @ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　研究室11

演習Ⅰ【特別支援教育】

8363
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
福山　　恵美子

〔到達目標〕
特別支援教育、福祉分野の知識や技術を得ることにより、特別支援教育についての理解を深める。
教育、福祉を始め多様な時事問題に興味を持ち、意見交換を通して自分の考えをまとめる力を身に付ける。
卒業論文のテーマを決定し、論文作成に向けて主体的に取り組むことができる。

〔授業の概要〕
卒業論文テーマの基礎となる教育・福祉分野等の知見を深める。
ニュースや新聞記事の感想を発表し意見交換をする。
長期休業等を活用し、福祉や教育の現場を実際に体験し、レポートにまとめ意見交換をする。
教育・福祉に関する文献講読をし、意見をまとめ発表する。
卒業論文テーマに関して興味のあることを発表、検討する。
卒業論文テーマを決定、研究の背景・意義・方法について検討する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
興味を持ったニュースや新聞記事の感想をレポートにまとめる。
体験活動の感想や意見をレポートにまとめる。
卒業論文テーマに関して出された課題をレポートにまとめる。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション
学生便覧・シラバス を参考に自分の履修内容の検討をする。
第 2 回　卒業論文作成にむけて（1）
興味のあるニュースや新聞記事について発表し意見交換する。（以降、毎回行う）
手話学習（以降、毎回行う）
第 3 回　卒業論文作成に向けて（2）
卒業論文とは何か、について学ぶ。
第 4 回　卒業論文作成に向けて（3）
興味のあることについて発表し、意見交換する。
第 5 回　卒業論文作成に向けて（4）
興味のある分野やテーマについて話し合い、整理する。
教育・福祉の現場体験についての話し合いをして、体験場所を決定する。
第 6 回　卒業論文の作成に向けて（5）
興味のある分野やテーマについて話し合い、整理する。
第 7 回　卒業論文作成に向けて（6）
興味のある分野やテーマについて話し合い、整理する。
第 8 回　卒業論文作成に向けて（7）
興味のある分野またはテーマについて図書館で文献を収集する。
第 9 回　卒業論文作成に向けて（8）
興味のある分野またはテーマについて図書館で文献を収集する。
第 10 回　卒業論文作成に向けて。（9）
収集した文献・資料等をもとに研究したいテーマを絞る。
第 11 回　卒業論文作成に向けて。（10）
収集した文献・資料等をもとに研究したいテーマを決定する。

第 12 回　卒業論文作成に向けて（11）
研究の背景・意義・方法について検討する。
第 13 回　卒業論文作成について（12）
研究の背景・意義・方法について検討する。
第 14 回　卒業論文のテーマ決定（13）
研究の背景・意義・方法について発表する。
第 15 回　福祉の現場体験について
福祉の現場体験の感想を発表しあう。

〔成績評価〕
・毎回の講義受講態度（30%）・レポートの提出（30%）・現場体験のマナー、態度（10%）
・卒業論文作成への主体的な姿勢（30%）

〔教科書〕
適宜資料を配布

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①学期：前期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。内容によっては時間の調整可。

演習Ⅰ【運動指導】

8365
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
竹安　　知枝

〔到達目標〕
・スポーツ全般に対して興味や関心を示す。
・ケガの予防法や安全管理に関する知識を身に付ける。
・文献調査の方法を修得する。

〔授業の概要〕
子どもの発達段階について学び、対象者に応じた運動（遊び）指導の方法について、ディスカッション形式で全員で意見を出し合う。また、情報機器の操作方法について再確認し、文献の調査方法についても学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】子どもの発達や運動指導に関する文献調査を行うこと。（２時間）
【復習】その日に取り組んだ内容についてまとめること。また、今後の課題について明確にすること。（２時間）

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス・卒業論文（研究）について
卒業論文に関する説明
今後の進め方・研究計画について
第 2 回　運動の効果について
運動の効果（心身に与える影響）について具体的に調べる
第 3 回　子どもの発達段階
子ども（０～12歳頃まで）の発達段階（運動能力）について調べる
第 4 回　幼児期の体育（遊運動び）
幼児期の運動遊びについて調べる
（ケガの予防と安全管理も含む）
第 5 回　児童期の体育（運動遊び）
児童期の運動遊びについて調べる
（ケガの予防と安全管理も含む）
第 6 回　青年期の運動
青年期の運動について調べる
（ケガの予防と安全管理も含む）
第 7 回　老年期の運動
老年期の運動について調べる
（ケガの予防と安全管理も含む）
第 8 回　障がい者スポーツ
障がい者スポーツ（障がい者スポーツ施設も含む）について調べる
（ケガの予防と安全管理も含む）
第 9 回　情報機器の操作①
Wordの基本的操作
第 10 回　情報機器の操作②
Excel・Power Point の基本的操作
第 11 回　文献調査について
文献の検索方法について
第 12 回　ボランティア①
地域におけるボランティア活動について調べる
第 13 回　ボランティア②
スポーツ系のボランティア活動について調べる
第 14 回　レポート作成
半年間の学びや活動に関するレポートを作成
全体でディスカッションを行う
第 15 回　発表・まとめ
発表（学び・活動について）
まとめ

〔成績評価〕
授業内の提出物（30%）
レポートの提出（30%）
学習意欲・授業態度（40%）

〔教科書〕
【体育編】小学校学習指導要領解説（平成29年告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室

【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

演習Ⅰ【児童理解を伴う指導力】

8368
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
中村　　整七

〔到達目標〕
・小学校における学級経営，生活指導の現状と課題把握に基づいて，対応方策を考察することができる。
・小学校における教育課題を把握し，その課題解決に向けて集団討議をしたり，小論文に表したりすることができる。

〔授業の概要〕
・小学校の教科指導、生活指導（生徒指導）及び学級経営を行うにあたり、児童理解を基に諸問題を解決する方策について考察・研究する。
・小学校教員としての実践的指導力の基礎を身に付けるための諸課題を把握し，実践的な研究をする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次時で話し合う小学校教育の諸課題について調べる。(２時間)
授業での課題を詳しく調べる。(２時間)

〔授業計画〕
第 1 回　子ども理解の意義と方法
「子どもを理解する」ということはどういうことなのか？ どのような方法があるのだろうか?子ども理解の意味と方法について話し合う。
第 2 回　子ども理解のアセスメントについて
子どもを理解するアセスメントの方法にはどんなものがあるのかを考え、実践例をもとに話し合う。
第 3 回　小学校の生徒指導について
小学校の「生徒指導」 は、どんなねらいがあり、どのようなことをするのかを考え、話し合う。
第 4 回　生徒指導での児童理解について
生徒指導の心理と児童生徒理解について、どんな児童理解が必要なのかを読み取り(生徒指導提要　第3章より)、考え、話し合う。
第 5 回　「いじめ」の認知とその予防
学校で起こる「いじめ」を発見・認知するためにどのようなことが必要なのか、」「いじめを起こさないようにするための手立てとは?」を資料から考え、討議を深める。
第 6 回　「体罰事案」と「不登校」について
「体罰」とはどういうことなのかを認知したうえで、どうしてなくならないのかについて資料を基に話し合う。「不登校」の課題には、どのように対応したらいいのかについてグループエンカウンターを行う。
第 7 回　新学習指導要領で期待されている学びとは
育成すべき資質・能力の３つの柱について理解し、それら資質・能力を育むことができる授業について話し合う。
第 8 回　授業づくりについて
「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなどのような授業のことなのかについて認識を広げ、授業を観察するときに「何を」「どのように」観ればよいのかを見つけあう。
第 9 回　特別支援教育の課題について
インクルーシブ教育・合理的配慮・ユニバーサルデザインなどの課題について認識を深め、課題解決に向けた具体策を考えあう。
第 10 回　学校現場の「教育課題」について
スクールロイヤー制度・スクールセクハラ・教職員の勤務時間・ICTの活用などについて、認識を深めあう。
第 11 回　授業観察
芦屋市立岩園小学校へ出向き、1年生の国語の授業を記録を取りながら観察する。
第 12 回　授業観察から
岩園小学校の観察から見つけたこと、考えたこと、思ったことなどについて見つけたことを出し合い、授業づくりで大切なことを見つける討議をする。
第 13 回　「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業について
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる指導案の作り方について資料から学び、指導案を作成する。
第 14 回　模擬授業
3年算数「あまりのあるわり算」の模擬授業を行い、そこから見つけたこと、考えたこと、思ったことをまとめる。
第 15 回　模擬授業から見つけたこと
それぞれの模擬授業の良さや改善点について研究協議を行う。

〔成績評価〕
毎時間書きまとめる「振り返りレポート」から評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
「生徒指導提要」など授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

演習Ⅱ【音楽表現】

8403
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
石田　　愛子

〔到達目標〕
・音楽的な技術と表現力を高め、自分なりに完成した演奏や作品を卒業演奏会で発表する。
・音楽と保育・教育との関わりについて理解を深めるとともに、特に興味・関心のあるテーマについて研究し、論文にまとめる。
〔授業の概要〕
卒業演奏会に向けての個人レッスンと並行して、研究テーマについての検討（グループ）と論文指導（個別）を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業演奏にふさわしい曲を選び、計画的に練習すること。（週４日120分以上）
研究テーマに基づき、研究計画の立案・実践・論文執筆を進め、随時（毎月一回以上）進捗状況のチェックを受けること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
卒業演奏会と卒業論文提出日までの年間計画を確認し、候補曲と研究テーマを絞り込む
第 2 回　論文の構成と執筆要領
過去の卒業論文を閲覧し、論文の構成と執筆要領について理解する
第 3 回　パソコン操作と文献調査
基礎的なパソコン操作と文献調査の方法を再確認する
第 4 回　研究テーマについて
研究テーマを決定し、研究の動機・目的・方法・計画について書く
第 5 回　研究方法について
研究の目的と、具体的な研究方法について検討、意見交換する
第 6 回　研究計画について
卒業論文完成までの日程を考慮した、具体的な研究計画の立案
第 7 回　個人レッスン①
卒業演奏会を最終目標とした選曲と、練習計画の立案
第 8 回　個人レッスン②
読譜、レベルに応じた練習方法の確認
第 9 回　個人レッスン③
曲の全体像の把握、技術的な課題の反復練習
第 10 回　個人レッスン④
曲にふさわしい表現を考える
第 11 回　中間発表とアンサンブル
演奏・研究の進捗状況の中間発表、器楽合奏
第 12 回　個人レッスン⑤
練習計画、練習方法の再確認
第 13 回　個人レッスン⑥
仕上げ段階の基礎練習、部分練習
第 14 回　個人レッスン⑦
仕上げ練習と演奏発表の準備
第 15 回　クラスコンサート
互いの演奏を聴き合い、学園祭での演奏発表について意見交換する
〔成績評価〕
演習への取組み・態度・意欲（60%）
課題・提出物（20%）
期末演奏（20%）
〔教科書〕
個別に指定した曲集など
〔参考文献〕
適宜、資料配付
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
日時：前期・後期（金）15:30～16:30
場所：石田研究室
質問や相談がある場合は、Phollyのメッセージも活用してください。

演習Ⅱ【生命工学】

8430
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
渡　　康彦

〔到達目標〕
自分自身の興味や関心に沿ったテーマを準備する。
計画的に論文作成を行う。
〔授業の概要〕
卒業論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の検討、研究方法の検討を経て、自分自身の研究を進めていく。
学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自らのテーマに沿った文献を読んでおく（120分）。
〔授業計画〕
第 1 回　卒論のテーマ設定
卒論のテーマを設定し、意見交換をする。
第 2 回　卒論のテーマ設定
卒論のテーマを設定し、意見交換をする。
第 3 回　卒論のテーマ設定
卒論のテーマを設定し、意見交換をする。
第 4 回　先行研究の検討
先行研究の論文を探し、意見交換をする。
第 5 回　先行研究の検討
先行研究の論文を探し、意見交換をする。
第 6 回　先行研究の検討
先行研究の論文を探し、意見交換をする。
第 7 回　研究方法の検討

卒論のテーマに合った研究方法を検討し、意見交換をする。
第 8 回　研究方法の検討
卒論のテーマに合った研究方法を検討し、意見交換をする。
第 9 回　研究方法の検討
卒論のテーマに合った研究方法を検討し、意見交換をする。
第 10 回　データの収集
実験、観察などを行いデータを収集する。
第 11 回　データの収集
実験、観察などを行いデータを収集する。
第 12 回　データの収集
実験、観察などを行いデータを収集する。
第 13 回　データの収集
集まったデータについて意見交換をする。
第 14 回　データの収集
集まったデータについて意見交換をする。
第 15 回　まとめ
振り返りをして、意見交換をする。

〔成績評価〕
取り組みの態度、進捗状況などによって総合的に評価する。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

演習Ⅱ【臨床心理学研究】

8441
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
林　　知代

〔到達目標〕
ゼミの研究活動を通して「必要な能力と心理的問題への関心の意識化・明確化」を身につける。
＜課題を見つけるための事象への関心と課題を深める能力＞

〔授業の概要〕
研究方法としては、文献研究だけにとどまらず、観察・実験・調査など実証的な方法以外に半構造化面接法や臨床心理学では重要な事例研究法など、幅広くある研究法を学びます。このような研究対象と研究方法の広がりのなかで、受講生一人ひとりの自由な問題関心にもとづき、文献レビュー、卒論研究、さらに卒業論文に関わる研究と執筆への展開に進んでいきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業毎に自分の論文課題を出します。それが予習となります。復習は論文の進行に沿って修正をします。

〔授業計画〕
第 1 回　論文全体の見通し
論文全体の見通しを各自論じます。
第 2 回　論文試案　1
論文の表紙、序章、章立てを完成させます。
第 3 回　論文試案　2
論文の表紙、序章、章立てを完成させます。
第 4 回　自分の研究方法　1
先行研究・先行文献を各自探し、書き留める作業をします。
第 5 回　自分の研究方法　2
先行研究・先行文献を各自探し、書き留める作業をします。
第 6 回　自分の研究方法　3
先行研究・先行文献を各自探し、書き留める作業をします。
第 7 回　理論体系の構築　1
論文の拠って立つ理論について書き進めます。
第 8 回　理論体系の構築　2
論文の拠って立つ理論について書き進めます。
第 9 回　理論体系の構築　3
論文の拠って立つ理論について書き進めます。
第 10 回　理論体系の構築　4
論文の拠って立つ理論について書き進めます。
第 11 回　理論体系の構築　5
論文の拠って立つ理論について書き進めます。
第 12 回　理論体系の構築　6
論文の拠って立つ理論について書き進めます。
第 13 回　論文の独自性の探求　1
各自、論文の独自性の探求をしながら書き進めます。
第 14 回　論文の独自性の探求　2
各自、論文の独自性の探求をしながら書き進めます。
第 15 回　論文の独自性の探求　3
論文の独自性の探求先行文献、データの実証を踏まえた論理展開をしていきます。

〔成績評価〕
卒論が完成に至るまでの研究計画，実施，及びデータ分析の過程や妥当性が評価の基準となります。取り組みの姿勢も含みます。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
小笠原喜康（2009）新版　大学生のためのレポート・論文術．講談社現代新書

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

演習Ⅱ【学校教育が抱える課題とその対応】

8457
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
種々の学校教育が抱える課題を捉え、その対応策を考察する力を養う。
演習課題に取り組みながら、能動的で自立した学習者としての知見を深める。
卒業論文を作成する。
〔授業の概要〕
卒業論文作成に向けての資料収集、経過、課題など発表しながら、相互評価し合いながら個々の探求意欲を高めていく。個々の研究テーマの深化を図る。思考力、調査力、表現力を養う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業論文作成に向けての調査研究、執筆、発表
〔授業計画〕
第 1 回　卒業論文テーマ及び調査研究方法
学生の卒業論文テーマとその調査研究方法の確認
第 2 回　序論作成①
研究の動機を中心に序論を書く
第 3 回　序論作成②
互いの研究動機を交流し、序論を完成させる。
第 4 回　研究方法の確認と交流
学生個々の研究方法及び当面の資料に関する確認と交流
第 5 回　資料収集、調査研究、執筆①
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で
経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 6 回　資料収集、調査研究、執筆②
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 7 回　資料収集、調査研究、執筆③
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 8 回　資料収集、調査研究、執筆④
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 9 回　資料収集、調査研究、執筆⑤
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 10 回　中間交流①
卒業論文作成の経過と個々の課題を交流し、相互評価をする。
第 11 回　資料収集、調査研究、執筆⑥
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 12 回　資料収集、調査研究、執筆⑦
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 13 回　資料収集、調査研究、執筆⑧
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で
経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 14 回　資料収集、調査研究、執筆⑨
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 15 回　中間交流②
卒業論文の進捗状況を交流し、お互いの論文作成に関する課題とその解決方法を考察する。
〔成績評価〕
レポート50%　　発表内容、意欲　50%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　　研究室11

演習Ⅱ【児童理解を伴う指導力】

8461
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
中村　　整七

〔到達目標〕
・小学校の教科指導，生活指導（生徒指導）及び学級経営を行うにあたり，児童理解を基に諸問題を解決する方策について考察・研究を進めることができる。
・小学校教員としてしての実践的指導力の基礎を身に付けるための諸課題を把握し，実践的な研究を深めることができる。
〔授業の概要〕
・卒業論文のテーマと関わる課題の現状と課題把握に基づいた改善方策を考察する。
・卒業論文のテーマに沿って，調査・研究を行う。
・テーマに係る文献を読み，論文執筆のための資料を整理する。
・研究論文の執筆を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
研究論文執筆のための資料の収集の準備をする。(２時間)
研究論文執筆のためのアンケートなどの作成をする。(２時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
3年次に作成した研究論文の前文を読み返し、研究構想の再確認や検討を行う。
第 2 回　先行研究の調査1
先行研究には、どのようなものがあるのかをWEB等を活用して調査する。
第 3 回　先行研究の調査2
先行研究をWEB等で調査し、研究内容の視点を焦点化していく。
第 4 回　先行研究の調査3
調査した先行研究をまとめ、研究内容の方向性をつくり、考えを交流する。
第 5 回　論文の作成計画1
見定めた研究内容の視点に基づき、研究論文の作成計画を立てる。
第 6 回　論文の作成計画2
研究論文の具体的な作成手順を考え、交流し、アドバイスをしあう中で計画をより明確にする。
第 7 回　論文の作成計画3
研究論文の具体的な作成手順を決め、交流する中で、修正を加え、完成させる。
第 8 回　調査事項の検討1
何をどのように調査研究していくのかを考え、まとめる。
第 9 回　調査事項の検討2
調査事項の具体的な方法・対象を考え、交流することでより明確にしていく。
第 10 回　調査事項の検討3
調査研究する内容の作成を行う。
第 11 回　調査事項の集約と分析1
調査事項のアンケート等の調査を集約する。
第 12 回　調査事項の集約と分析2
調査研究した結果の数値化と分析を行う。
第 13 回　調査事項の集約と分析3
調査研究した結果をグラフなどの映像的な見やすいものにまとめ、分析を行う。
第 14 回　調査事項の集約と分析4
調査研究したもののグラフ化し、分析したものを小論文にまとめる。
第 15 回　交流会
調査研究した事柄をまとめた小論文を本論をにつなげる構想を発表しあう。
〔成績評価〕
演習参画度を評価する。(３０%)
研究論文の執筆のために作成した調査研究資料や小論文を評価する。(７０%)
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

演習Ⅱ【特別支援教育】

8462
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
4単位　前期
福山　　恵美子

〔到達目標〕
卒業論文作成に主体的に取り組むことができる。
卒業論文作成の進捗状況についてまとめ、発表、意見交換を通して、適切に修正し卒業論文を完成する。
〔授業の概要〕
興味のあるニュースや新聞記事について発表し意見交換する。
手話学習
卒業論文作成の進捗状況をお互いに発表し、検討し合う。
中間発表をする
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業論文発表箇所をまとめる。
発表、検討後に修正しまとめる。
〔授業計画〕
第 1 回　卒業論文作成について（1）
興味のあるニュースや新聞記事について発表し意見交換する。（以降、毎回行う）
手話学習（以降、毎回行う）
各々の進捗状況について発表し意見交換する。
中間発表をする。
第 2 回　卒業論文作成について（2）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 3 回　卒業論文作成について（3）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 4 回　卒業論文作成について（4）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 5 回　卒業論文作成について（5）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 6 回　卒業論文作成について（6）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 7 回　卒業論文作成について（7）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 8 回　卒業論文作成について（8）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 9 回　卒業論文作成について（9）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 10 回　卒業論文作成について（10）
進捗状況について発表し意見交換する。

第 11 回　卒業論文作成について（11）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 12 回　卒業論文作成について（12）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 13 回　卒業論文作成について（13）
中間発表をする。
第 14 回　卒業論文作成について（14）
中間発表をする。
第 15 回　卒業論文作成について（15）
中間発表をする。

〔成績評価〕
卒業論文作成に主体的に取り組むことができる。（30%）
卒業論文進捗状況（70%）

〔教科書〕
適宜資料を配布

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①学期：前期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。内容によっては時間の調整可。

演習Ⅱ【幼児教育学】

8465
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
安藝　雅美

〔到達目標〕
卒業論文を書く。
自分の教育観を掘り下げる。

〔授業の概要〕
幼児教育における具体的な保育内容や指導方法、保育形態等の考察、さらには、自らの保育観や子ども観等の構築を目指すことで保育者としての資質を追究する。また、理論と実践との関係性を常に視野に入れながらの演習となるので、机上と保育現場との双方から学びを深めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
論文やゼミで使用する本を予習する。
論文を書き進める。

〔授業計画〕
第 1 回　3年4年合同自己紹介、一年の進め方
自分のテーマを発表しあう。
第 2 回　章立てを行う１。
自分の調べたいことを章立てし、全体像をつかむ。
第 3 回　章立てを行う２
自分の調べたいことを章立てし、全体像をつかむ。
第 4 回　学園祭に向けて発表を考える
子どもたちに向けた発表のアイデアを出し合う。
第 5 回　研究目的を書く。
研究目的を考え、進めていく。
第 6 回　発表の中身を決める。
皆で考える。
第 7 回　作成。論文を進める
3年と一緒に、準備を進める。
第 8 回　卒論を進める。
論文検索。
第 9 回　卒論を進める。
論文検索をし、中身を再考する。
第 10 回　卒論を進める。
書いたものを整理する。
第 11 回　モンテッソーリ園の見学
一日を通して実際を見学する。
第 12 回　卒論を進める。
内容の精査
第 13 回　卒論を進める
内容の精査
第 14 回　卒論を進める
内容の精査
第 15 回　前期まとめ
前期までのしあげを振り返る

〔成績評価〕
口頭発表（35%），論文（35%）その他のゼミ活動への取り組み（30%）

〔教科書〕
「モンテッソーリの幼児教育 ママ,ひとりでするのを手伝ってね!」 相良 敦子 (著)

〔参考文献〕
参考論文

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、
来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

演習Ⅱ【運動指導】

8467
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
竹安　知枝

〔到達目標〕
・論文（調査方法）に関する基本的知識について身に付ける。
・体力測定のスキルを身に付ける。
・アンケート調査の手法を身に付ける。

〔授業の概要〕
調査（アンケート調査・体力測定）を実施し、結果について分析を行い、その内容についてまとめて（反省点と課題等も含め）、全体でディスカッションする。そして、卒業論文の執筆に向けての準備を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】子どもの発達や運動指導に関する文献調査を行うこと。（２時間）
【復習】その日に取り組んだ内容についてまとめること。また、今後の課題について明確にすること。（２時間）
〔授業計画〕
第 1 回　授業の進め方・調査の実施計画
授業の進め方
調査（活動）の実施計画を具体的に立てる
第 2 回　調査①
班ごとに（各自）、調査の手法・スケジュール等の確認
対象者との調整
第 3 回　調査②
アンケート調査票の作成
第 4 回　調査③
体力測定種目の検討
測定機材の確認
第 5 回　調査④
体力測定表の作成
第 6 回　調査⑤
アンケート調査を実施する
第 7 回　調査⑥
体力測定を実施する
第 8 回　結果の分析①
アンケート調査の結果をエクセルに入力する
第 9 回　結果の分析②
体力測定の結果をエクセルに入力する
第 10 回　結果の分析③
アンケート結果・体力測定の結果を入力する
各結果の分析方法を検討
第 11 回　結果の分析④
アンケート調査を分析する
第 12 回　結果の分析⑤
体力測定の結果を分析する
第 13 回　結果の分析⑥
アンケート調査・体力測定の分析結果の確認
第 14 回　発表・まとめ
発表（今期の活動について）
半年間のまとめ（各自の活動について）
第 15 回　振り返りと今後の課題（計画）
これまでの活動を振り返る
今後の計画（卒業論文執筆計画）を立てる
〔成績評価〕
研究計画書の作成（30%）
調査関連資料の作成（30%）
学習意欲・授業態度（40%）
〔教科書〕
【体育編】小学校学習指導要領解説（平成29年告示、文部科学省）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

子どもの文学Ⅰ

1221
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
白江　　恒夫

〔到達目標〕
ことばによる「表現と理解」を学ぶ。
・子どもの言語獲得の過程が説明できる。
・近代日本の子どもの文学史の概略が説明できる。
・子どもの文学の諸分野が類別できる。
・子どもの文学の働きが説明できる。
〔授業の概要〕
１、人間と言語との関係を概説する。 ２、子ども向け文学作品の史的展開を概説する。
３、子ども向け文学作品を鑑賞する。 ４、国内外の子ども向け文学や絵本類を読み聞かせる。 ５、読み聞かせ作品の「梗概と所感」を発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・教科書『絵本ガイド』内の作品一冊を任意に選び、その書名・作者名・梗概をノートする。（予習1時間）。
・授業中に紹介した読み聞かせ作品の小課題（作品名、作者名、梗概と所感）を完成させる。（復習1時間）。
〔授業計画〕
第 1 回　人間と言語。
・言語の本質とはたらきについて。
・絵本とその読み聞かせモデルの紹介。
第 2 回　子どもの心と言語。
・子どもの心と言語の獲得について。
・絵本とその読み聞かせの実践。
第 3 回　学校教育制度と草創期の児童図書。
・明治4～19年（1871～86）ー文部省設置、「学制」公布、「小学校令」公布、義務教育の開始ー。
・近代日本児童文学の起点。
第 4 回　『こがね丸』と『小公子』。

・巌谷小波作『こがね丸』の文体と内容（主題）・思想。
・バーネット作・若松賤子訳『小公子』の文章と内容及び子ども観。
第 5 回　近代日本児童文学のはじまり。
・小川未明『赤い船』、北原白秋『思ひ出』、他。
・絵本とその読み聞かせの実践。
第 6 回　芸術的創作の模索。
・『愛子叢書』。藤村「眼鏡」、花袋「小さな鳩」、秋声「めぐりあひ」、晶子
「八つの夜」、弥生子「人形の望」。
・子ども向け文学作品の読み聞かせモデル紹介。
第 7 回　児童雑誌類の創刊。
・鈴木三重吉『赤い鳥』の創刊とその影響。
・子ども向け文学作品の読み聞かせ実践。
第 8 回　童話童謡と童心主義。
・児童の表現活動と児童中心主義。
・子ども向け文学作品の読み聞かせ実践。
第 9 回　唱歌と新興童謡。
・唱歌ー学校から家庭へ、歌う楽しさ。
・伝承童謡と新興童謡。
・子ども向け文学作品の読み聞かせ実践。
第 10 回　童謡の創作ー北原白秋と野口雨情ー。
・北原白秋と野口雨情について。
・白秋と雨情の作品と鑑賞。
第 11 回　童謡の創作ー西条八十と三木露風ー。
・西条八十と三木露風について。
・八十と露風の作品と鑑賞。
第 12 回　児童文学作家と作品。
・坪田譲治、千葉省三、宮沢賢治、壺井栄、椋鳩十、新美南吉等の作品と鑑賞。
第 13 回　幼年童話。
・幼年童話の魅力。
・今江祥智、寺村輝夫、中川李枝子、あまんきみこ等の作品と鑑賞。
第 14 回　読み聞かせたい絵本や児童書。
・各自が推薦する絵本や児童書の紹介発表。
・紹介図書の書名、作者名、梗概、対象年齢、推薦理由。
第 15 回　日本の神話と説話。
・古代人の思惟と神話。
・国生み神話。ヤマタノオロチ神話。因幡の白兎。海幸山幸。ヤマトタケル。
定期考査（筆記試験又はレポート提出）。

〔成績評価〕
・定期考査（8割）と各回講義中の最後に提出する小課題（2割）とで評価する。
・再試験は行わない。

〔教科書〕
・『読み方からおススメまで絵本ガイド』（全日本私立幼稚園連合会・全日本私立幼稚園幼児
教育研究機構 刊）。
・授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
・『日本の童話名作選ー明治・大正篇ー』（講談社 刊）。
・『日本の童話名作編ー昭和篇』（講談社 刊）。
・『はじめて学ぶ日本児童文学史』（鳥越 信 編、ミネルヴァ書房 刊）。
・『古事記』（新潮日本古典集成）。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
質問等は各講義後に受け付ける。

演習Ⅱ【生命工学】

8430
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
渡　康彦

〔到達目標〕
卒論作成を通して、広い視野を身につける。

〔授業の概要〕
卒論を準備するにあたり、文献、資料収集の仕方を体得する。論文の構成、書き方を学ぶ。
学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒論に関する文献講読と卒論執筆（120分）

〔授業計画〕
第 1 回　卒論作成
卒論の概要を発表し、相互批評をする。
第 2 回　卒論作成
卒論の概要を発表し、相互批評をする。
第 3 回　卒論作成
卒論の概要を発表し、相互批評をする。
第 4 回　卒論作成
卒論の概要を発表し、相互批評をする。
第 5 回　卒論作成
卒論の概要を発表し、相互批評をする。
第 6 回　卒論作成
卒論の概要を発表し、相互批評をする。
第 7 回　卒論作成
卒論の概要を発表し、相互批評をする。
第 8 回　卒論作成
卒論の概要を発表し、相互批評をする。
第 9 回　個別指導
卒論を仕上げる。
第 10 回　個別指導
卒論を仕上げる。
第 11 回　個別指導
卒論を仕上げる。
第 12 回　個別指導
卒論を仕上げる。
第 13 回　個別指導
卒論を仕上げる。

第 14 回　個別指導
卒論を仕上げる。
第 15 回　個別指導
卒論を完成させる。
〔成績評価〕
卒論への取り組み、卒論の内容を総合的に評価。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

演習Ⅰ【生命工学】

8329
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
渡　　康彦

〔到達目標〕
生物に接し、自然のしくみを調べる。
小学校教員希望者は理科の基本を身につける。
〔授業の概要〕
植物などの栽培及び昆虫や魚の飼育観察を通して、卒論のテーマを模索する。
学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
参考文献を探して読んでおく（120分）。
〔授業計画〕
第 1 回　昆虫や魚の飼育・観察
昆虫や魚の世話をする。
第 2 回　昆虫や魚の飼育・観察
昆虫や魚の世話をする。
第 3 回　昆虫や魚の飼育・観察
昆虫や魚の世話をする。
第 4 回　昆虫や魚の飼育・観察
昆虫や魚の世話をする。
第 5 回　昆虫や魚の飼育・観察
自分の育てている昆虫や魚につて調べ、発表する。
第 6 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 7 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 8 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 9 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 10 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 11 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 12 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 13 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 14 回　文献の講読
各自の興味あることに関する文献を講読し、意見交換をする。
第 15 回　まとめ
振り返りをし、意見交換をする。
〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢（主体性・積極性など、50%）と発表内容（50%）により評価
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

演習Ⅱ【音楽表現】

8403
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
石田　　愛子

〔到達目標〕
・音楽的な技術と表現力を高め、自分なりに完成した演奏や作品を卒業演奏会で発表する。
・音楽と保育・教育との関わりについて理解を深めるとともに、特に興味・関心のあるテーマについて研究し、論文にまとめる。
〔授業の概要〕
卒業演奏会に向けての個人レッスンと並行して、論文の個別指導を行う。学内演奏発表会および卒業演奏会については、３年生と合同で行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業演奏会に向けて、計画的に練習すること。（週４日120分以上）

１月は卒業演奏の練習に専念できるよう、卒業論文については12月中旬までに完成し、提出できる状態にしておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　研究の進捗状況確認、学園祭に向けて
第 2 回　個人レッスン①
　　演奏発表に向けた練習計画の確認
第 3 回　個人レッスン②
　　本番直前の基礎練習、仕上げ練習
第 4 回　個人レッスン③
　　完成度を高めるための練習、曲目紹介文を書く
第 5 回　リハーサル
　　演奏会会場の設営とステージマナーを確認し、コンディションを整える
第 6 回　学内演奏発表会
　　演奏会当日の運営や過ごし方について理解を深め、実践する
第 7 回　ふりかえり
　　学園祭の総括と、卒業演奏に向けた課題の確認
第 8 回　論文指導①
　　内容精査（独自研究部分）
第 9 回　論文指導②
　　内容精査（引用部分）
第 10 回　論文指導③
　　内容精査（序論・本論・結論の整合性）
第 11 回　論文指導④
　　校正（レイアウト、誤字脱字チェック）
第 12 回　論文指導⑤
　　最終チェックの後、表紙・目次を作成し、提出用の体裁を整える
第 13 回　卒業論文ゼミ内発表会
　　卒業論文要旨を作成し、研究成果をゼミ内で全員発表する（パワーポイント使用推奨）
第 14 回　リハーサル
　　卒業演奏会場の設営、準備、予行
第 15 回　卒業演奏会

〔成績評価〕

演習への取組み・態度・意欲（40%）
課題・提出物（30%）
演奏・作品発表（30%）

〔教科書〕

個別に指定した曲集など

〔参考文献〕

適宜、資料配付

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

日時：前期・後期（金）15:30〜16:30
場所：石田研究室
質問や相談がある場合は、Phollyのメッセージも活用してください。

器楽Ⅱ②

2112
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
実務経験有
石田　　愛子

〔到達目標〕

保育士、幼稚園・小学校教員に必要なピアノ演奏力の習得（初級）
＜最低限クリアすべき目標＞
① ハ長調、ト長調、ヘ長調の音階が弾ける
② 各調の主要三和音を伴奏とする曲が弾ける
③ 各調の簡単な童謡が弾ける

〔授業の概要〕

対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である。３段階のレベル（ベーシック、 ベーシックプラス、アドバンス）のコースを設定し、毎回課題曲を提示するので、各自のレベルに合ったコースを選択して練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術 向上に努めること。 なお、シラバスに記載の授業計画は標準的なベーシックプラスコースの内容であり、初心者や中・上級者についてはこの限りでない。学期末に発表会形式の試験 を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕

第 1 回　器楽Ⅰの復習
　　ハ長調の主要三和音、音階の指使い、ハ長調の伴奏づけ
第 2 回　ハ長調と ト長調のスケール
　　ハ長調の音階、ト長調の音階、伴奏づけと移調奏
第 3 回　三連符
　　ト長調の主要三和音と音階、三連符
第 4 回　ヘ長調の主要三和音
　　ヘ長調の主要三和音、三連符による伴奏づけ
第 5 回　ヘ長調のスケール①
　　ヘ長調の音階の指使い、伴奏づけ
第 6 回　ヘ長調のスケール②
　　ヘ長調の音階、アルベルティバス、伴奏づけと移調奏
第 7 回　臨時記号
　　調号と臨時記号、♮、伴奏づけ
第 8 回　臨時記号
　　スラーとスタッカート、タイ、強弱記号、伴奏づけと弾き歌い

第 9 回　転調①
転調、関係調、臨時記号、伴奏づけ
第 10 回　転調②
アーティキュレーション、強弱記号、伴奏づけと弾き歌い
第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、付点のリズム、指使い、音符と休符
第 12 回　単位認定課題曲の練習②
形式とフレーズ感、強弱記号
第 13 回　単位認定課題曲の練習③
アーティキュレーション、保続音、両手のバランス
第 14 回　単位認定課題曲の練習④
速度・発想用語、曲にふさわしいテンポと表情
第 15 回　期末試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕
対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（15%）
実技試験（35%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕
・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編 、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕
質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

器楽Ⅳ①

2221
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
実務経験有
石田　愛子

〔到達目標〕
保育士、幼稚園教員に求められるピアノ演奏力の習得（初級～中級）
今期の目標は次のとおりである。
①様々な童謡の弾き歌いができる
②マーチ等、動きのリズムに応じた曲が弾ける
③簡単な伴奏づけ、変奏や移調奏ができる

〔授業の概要〕
対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である（器楽Ⅰ～Ⅲの単位修得者、保育士資格・幼稚園教諭免許状取得希望者対象。人数制限あり）。保育活動に必須のスキル「ピアノ弾き歌い」を中心にレッスンを進める。 毎回、必修と選択、２曲の弾き歌い課題を提示するので、各自のレベルに応じて練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術向上に努めること。学期末に発表会形式の試験 を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕
第 1 回　器楽Ⅲの復習
ハ長調の主要三和音のコードネームの復習、伴奏づけと弾き歌い
第 2 回　掛け合い歌（エコーソング）
ハ長調のエコーソング、保育の場面を想定した弾き歌い
第 3 回　スキップリズム
遊び歌、生活の歌、スキップリズムの表現
第 4 回　レガート奏法
レガート、タッチと音色、曲にふさわしい表情
第 5 回　リズム指導
手拍子やリズム打ちを伴う歌唱指導と弾き歌い
第 6 回　呼びかけ指導
あそびや動きを伴う歌唱指導と弾き歌い
第 7 回　マーチ
子どもたちの動き（あるく）や場面を想定したテンポ感、いろいろなマーチ
第 8 回　ト長調
ト長調の弾き歌い、曲にふさわしい表現の工夫

第 9 回　ニ長調
ニ長調の復習、保育の場面を想定した弾き歌い
第 10 回　へ長調
クリスマスの歌、曲にふさわしい表現の工夫
第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、リズム、指使い、音符と休符
第 12 回　単位認定課題曲の練習②
音程、発音、ブレス、歌とピアノのバランス
第 13 回　単位認定課題曲の練習③
前奏の役割、曲にふさわしいテンポと表情、ペダリング
第 14 回　単位認定課題曲の練習④
保育の場面を想定した言葉かけと表現の工夫
第 15 回　実技試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕
対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（5%）
実技試験（45%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕
・改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育（教育芸術社）
・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編 、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、選択

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕
質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

器楽Ⅱ①

2111
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
実務経験有
石田　愛子

〔到達目標〕
保育士、幼稚園・小学校教員に必要なピアノ演奏力の習得（初級）
＜最低限クリアすべき目標＞
① ハ長調、ト長調、へ長調の音階が弾ける
② 各調の主要三和音を伴奏とする曲が弾ける
③ 各調の簡単な童謡が弾ける

〔授業の概要〕
対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である。３段階のレベル（ベーシック、 ベーシックプラス、アドバンス）のコースを設定し、毎回課題曲を提示するので、各自のレベルに合ったコースを選択して練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術 向上に努めること。 なお、シラバスに記載の授業計画は標準的なベーシックプラスコースの内容であり、初心者や中・上級者についてはこの限りでない。学期末に発表会形式の試験 を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕
第 1 回　器楽Ⅰの復習
ハ長調の主要三和音、音階の指使い、ハ長調の伴奏づけ
第 2 回　ハ長調と ト長調のスケール
ハ長調の音階、ト長調の音階、伴奏づけと移調奏
第 3 回　三連符
ト長調の主要三和音と音階、三連符
第 4 回　へ長調の主要三和音
へ長調の主要三和音、三連符による伴奏づけ
第 5 回　へ長調のスケール①
へ長調の音階の指使い、伴奏づけ
第 6 回　へ長調のスケール②
へ長調の音階、アルベルティバス、伴奏づけと移調奏
第 7 回　臨時記号
調号と臨時記号、♮、伴奏づけ
第 8 回　臨時記号
スラーとスタッカート、タイ、強弱記号、伴奏づけと弾き歌い

第 9 回　転調①
転調、関係調、臨時記号、伴奏づけ
第 10 回　転調②
アーティキュレーション、強弱記号、伴奏づけと弾き歌い
第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、付点のリズム、指使い、音符と休符
第 12 回　単位認定課題曲の練習②
形式とフレーズ感、強弱記号
第 13 回　単位認定課題曲の練習③
アーティキュレーション、保続音、両手のバランス
第 14 回　単位認定課題曲の練習④
速度・発想用語、曲にふさわしいテンポと表情
第 15 回　期末試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕
対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（15%）
実技試験（35%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕
・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編 、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕
質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

器楽Ⅳ②

2222
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
実務経験有
石田　愛子

〔到達目標〕
保育士、幼稚園教員に求められるピアノ演奏力の習得（初級～中級）
今期の目標は次のとおりである。
①様々な童謡の弾き歌いができる
②マーチ等、動きのリズムに応じた曲が弾ける
③簡単な伴奏づけ、変奏や移調奏ができる

〔授業の概要〕
対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である（器楽Ⅰ～Ⅲの単位修得者、保育士資格・幼稚園教諭免許状取得希望者対象。人数制限あり）。保育活動に必須のスキル「ピアノ弾き歌い」を中心にレッスンを進める。 毎回、必修と選択、２曲の弾き歌い課題を提示するので、各自のレベルに応じて練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術向上に努めること。学期末に発表会形式の試験 を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕
第 1 回　器楽Ⅲの復習
ハ長調の主要三和音のコードネームの復習、伴奏づけと弾き歌い
第 2 回　掛け合い歌（エコーソング）
ハ長調のエコーソング、保育の場面を想定した弾き歌い
第 3 回　スキップリズム
遊び歌、生活の歌、スキップリズムの表現
第 4 回　レガート奏法
レガート、タッチと音色、曲にふさわしい表情
第 5 回　リズム指導
手拍子やリズム打ちを伴う歌唱指導と弾き歌い
第 6 回　呼びかけ指導
あそびや動きを伴う歌唱指導と弾き歌い
第 7 回　マーチ
子どもたちの動き（あるく）や場面を想定したテンポ感、いろいろなマーチ
第 8 回　ト長調
ト長調の弾き歌い、曲にふさわしい表現の工夫

第 9 回　ニ長調
ニ長調の復習、保育の場面を想定した弾き歌い
第 10 回　ヘ長調
クリスマスの歌、曲にふさわしい表現の工夫
第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、リズム、指使い、音符と休符
第 12 回　単位認定課題曲の練習②
音程、発音、ブレス、歌とピアノのバランス
第 13 回　単位認定課題曲の練習③
前奏の役割、曲にふさわしいテンポと表情、ペダリング
第 14 回　単位認定課題曲の練習④
保育の場面を想定した言葉かけと表現の工夫
第 15 回　実技試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕
対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（5%）
実技試験（45%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕
・改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育（教育芸術社）
・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編 、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、選択

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕
質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　児童

8241
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
丹下　秀夫　石田　愛子　福山　恵美子

〔到達目標〕
教員・保育者を目指す仲間や先輩との交流を図りながら、コミュニケーション力・自己表現力・基礎学力のさらなる向上を目指す。卒業後の進路を見据え、必要な免許・資格取得に向けて主体的・計画的に、着実に準備を進められるようにする。

〔授業の概要〕
グループ活動や体験学習を通して、実習に向けて意欲を高める。ゲストティーチャーや先輩の講話を聴き、採用試験や就職活動、将来の仕事について具体的なイメージをつかむ。また、学修状況や進路、実習のための各種手続きについて、個別面談を随時行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキスト『大学生活入門』を常時携帯し、熟読すること。授業内容に関連するページの予習復習を習慣づけること。（60分）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
キャリアデザインⅡの授業計画確認
夏休みの出来事を交流する。
第 2 回　教育実習・保育実習に向けて
幼稚園・小学校教育実習参加資格テストの学習
第 3 回　学園祭準備
学園祭準備期間についての計画と役割分担
第 4 回　学園祭を終えて
学園祭の総括と来年度に向けて（レポートと発表）
第 5 回　個人面談①
自主学習と個人面談
第 6 回　個人面談②
自主学習と個人面談
第 7 回　卒業生の話を聴く
学校現場で働いている本学卒業生の話から学ぶ
第 8 回　卒業生の話を聴く
幼稚園で働いている本学卒業生の話から学ぶ
第 9 回　先輩からの話
教員採用試験合格者からの話から学ぶ
第 10 回　就職部からの話
就職活動の動向と最新情報について、就職部アドバイザーのお話を聴く
第 11 回　卒業生に学ぶ
一般企業就職した本学卒業生の話から学ぶ
第 12 回　教育実習に向けて
教育実習のための各種手続き、事前準備、諸注意（テキストp.63~65）
第 13 回　専門演習について
3年生からの専門演習の概要を知る

第 14 回　個別面談／履修カルテ
教職課程科目の履修状況について確認
第 15 回　2年次を振り返って
将来の目標を見据え、現時点での到達度（自己評価）と、今後の課題をレポートにまとめる

〔成績評価〕
授業への取組み・意欲・態度（40%）
授業内課題・レポート提出（30%）
期末レポート（30%）

〔教科書〕
笠原清次・渡康彦　監修／石田愛子・竹安知枝　編著／安藝雅美・大江まゆ子・大谷彰子・木下隆志・種子田香・丹下秀夫・福山恵美子　著『大学生活入門～幼・小・特支教員、保育士を目指す学生のためのキャリアデザイン』（開成出版）

〔参考文献〕
授業中に適宜配付

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
代表の時間帯と連絡先
水曜日　14時～15時　研究室11
tange@ ashiya-u.ac.jp

初等教科教育法Ⅵ（音楽）

3019
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
石田　　愛子

〔到達目標〕
小学校音楽科教育法の理解と実践
①小学校学習指導要領における音楽科の目標と内容、指導上の留意点を理解している。
②指導の目的に応じて適切な教材を選択し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成できる。
③歌唱共通教材の模範的な演奏ができる。

〔授業の概要〕
小学校音楽科の目標、各学年の目標や内容、教材について理解を深め、具体的な指導方法を研究する。指導案作成や模擬授業には、積極的に取り組んでもらいたい。
歌唱共通教材の歌唱・ソプラノリコーダー演奏、器楽合奏などの実技も随時行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎時、ワークシートを配付するので、きちんとファイルに保管し、復習すること（週45分以上）。模擬授業の時間は限られているので、各教材について、自分なりの授業計画を立ててみることが大切である。
・音楽科の授業には実技指導が不可欠である。共通教材（全24曲）については、歌唱はもちろん、ピアノ、ソプラノリコーダーで正しく演奏できるよう、各自練習しておくこと（週2回45分以上）。

〔授業計画〕
第 1 回　小学校音楽科の目標
学習指導要領と音楽科の目標、児童の発達段階と各学年の目標について理解し、音楽科の役割について考える。
第 2 回　低学年の歌唱共通教材
第１・第2学年の歌唱共通教材の特徴と指導のポイントについて理解する。
第 3 回　器楽の導入とリズム譜
導入に適した器楽教材の選び方、リズム譜の活用のしかたを考える。
第 4 回　低学年の鑑賞教材
低学年向けの鑑賞教材を聞き、教材選択のポイント、音楽ソフトの活用方法について理解する。
第 5 回　中学年の歌唱共通教材
第3・第4学年の歌唱共通教材の特徴と指導のポイントについて理解する。
第 6 回　ソプラノリコーダーの導入
ソプラノリコーダーの導入に適した教材の選び方、指導のあり方について考える。
第 7 回　読譜の指導と階名唱
ト音譜表、ハ長調の音階、階名について理解を深める。
第 8 回　中学年の鑑賞教材
中学年向けの鑑賞教材を聞き、様々な楽器や演奏形態について理解を深める。
第 9 回　高学年の歌唱共通教材
第5・第6学年の歌唱共通教材の特徴と指導のポイントを理解し、情報機器を活用した授業展開について考える。
第 10 回　ソプラノリコーダーの指導法、移調
ソプラノリコーダーの指導上の留意点、ハ長調とイ短調の音階、移調について理解を深める。
第 11 回　高学年の鑑賞教材
高学年向けの鑑賞教材を聞き、楽器編成や楽曲の構造について知る。また、西洋音楽史、和楽器や我が国の音楽、国歌「君が代」について理解を深める。
第 12 回　指導計画の作成と評価
指導計画の作成および評価に関する留意点について知り、指導案を作成する。
第 13 回　模擬授業
作成した指導案をもとに模擬授業を行う。意見交換し、よりよい指導案を作成する。
第 14 回　模範演奏
望ましい範唱・範奏のあり方を考え、実践する。
第 15 回　まとめ
小学校音楽科で取り扱う事項についての総括。

〔成績評価〕
筆記試験（50%）、歌唱・ピアノ・ソプラノリコーダー実技試験（30%）、指導案作成と模擬授業（20%）

〔教科書〕
教員養成課程　小学校音楽科教育法（教育芸術社）
〔参考文献〕
小学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）
小学校学習指導要領解説　音楽編（平成29年3月告示、文部科学省）
授業中に適宜資料を配布
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、音楽、小一種、必修

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導、幼稚園における鍵盤ハーモニカ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。
中学校音楽科の指導経験より、音楽科の授業方法、評価等を指導している。
〔オフィスアワー〕
日時：後期（金）15:30～16:30
場所：石田研究室
質問や相談がある場合は、Phollyのメッセージも活用してください。

演習Ⅰ【音楽表現】

8303
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
石田　　愛子

〔到達目標〕
①自分の好みとレベルに応じた曲を選んで自主的・計画的に練習し、演奏発表できる。 ②自分の興味・関心のあるテーマについて、調べたり考え たりしたことを文章にまとめることができる。 ③実習等を通して、自分のアピールポイントや課題について考え、卒業後の進路に向けて目的意識を持ち、具体的に行動できる。
〔授業の概要〕
①音楽実技：各自のレベルと嗜好に応じて選曲し、学園祭および学年末の演奏発表会に向けて練習する。また、希望進路に応じた弾き歌い課題なども練習する。メンバーにより、ピアノ連弾、アンサンブルも行い、演奏発表につなげる。
②レポート作成：演奏する曲や作曲者について調べ、文章を書く力を養う。
③キャリアデザイン：卒業後の進路について、自分の個性・適性を見極め、必要な準備を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
いろいろな音楽を聴き、楽譜を読み、自分に合った曲を選択すること。演奏技術の向上には日々の練習が不可欠である。練習時間を確保し、必ず実行すること。（最低週４日120分以上）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　年間計画の確認、学園祭に向けて
第 2 回　個人レッスン①
　　演奏発表に向けた練習計画の確認
第 3 回　個人レッスン②
　　曲にふさわしい表情と表現について考える
第 4 回　個人レッスン③
　　完成度を高めるための練習、曲目紹介文を書く
第 5 回　リハーサル
　　演奏会会場の設営方法、ステージマナー
第 6 回　学内演奏発表会
　　演奏会当日の運営について理解し実践する
第 7 回　ふりかえり
　　学園祭の総括と今後の課題の確認
第 8 回　卒業論文について①概要
　　卒業論文の概要、体裁、過去の卒業論文について
第 9 回　卒業論文について②
　　テーマについての検討、意見交換
第 10 回　個人レッスン④
　　学年末演奏発表に向けて、練習計画の確認
第 11 回　個人レッスン⑤
　　自分なりの表現を考える
第 12 回　楽曲分析
　　作曲者や作品の背景、構成などについて調べ、レポートにまとめる
第 13 回　個人レッスン⑥
　　演奏発表に向けた仕上げ練習
第 14 回　個人レッスン⑦
　　演奏発表の準備、曲目紹介文を書く
第 15 回　演奏発表会
　　仕上げた１曲を披露、１年間のふりかえり（事後レポート）
〔成績評価〕
演習への取組み・意欲・態度（40%）
学内演奏会・期末演奏（40%）
レポート・提出物（20%）
〔教科書〕
個別に指定した楽譜・教則本
〔参考文献〕
適宜資料配付
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
日時：前期・後期（金）15:30～16:30
場所：石田研究室
質問や相談がある場合は、Phollyのメッセージも活用してください。

教育心理学Ⅱ

3216
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
授業テーマとして、従来の教育心理学の主要４領域の内、後期は主に人格、評価領域を中心に述べる。また、前期の内容を補足し、発展的に述べる。
到達目標としては、教職をめざす学生にとって必要な教育心理学の基本的知識の習得をめざす。また、教育心理学的思考力、教育現場での心理学的判断力の習得を目指す
〔授業の概要〕
現代の教育心理学は幅も広く奥も深い学問であって、教職をめざす学生にとっては是非身につけておかなければならない学問である。
ここでは、人格や適応全般について述べる。
授業理解のため、下記にある予習・復習を行い、主体的に学ぶこと。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予め授業計画にある項目について調べておくこと。(90分)
復習として、授業で示された重要キィワードをまとめておくこと。(45分)
発展学習として、まとめた重要キィワードについて図書館やネットで調べてみること。(45分)
授業で配布されたプリントを整理して保存しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　授業の目的・予定、評価方法、参考文献と資料の紹介

第 2 回　教育心理学とは
　　教育心理学の領域、教育心理学の新しい動向、学校心理学などについて
第 3 回　学習指導①
　　授業の設計、有意味受容学習、プログラム学習、発見学習について

第 4 回　学習指導②
　　適性処遇交互作用、協同学習による指導、自己学習能力について
第 5 回　個性を伸ばす①
　　個人差、パーソナリティ、知能の個人差、適性、個性について

第 6 回　個性を伸ばす②
　　自己意識、気質、親の養育態度、養育者との相互作用について
第 7 回　こころの悩み①
　　欲求不満と不適応、問題行動、性格的弱点を補うための工夫について
第 8 回　こころの悩み②
　　カウンセリングの種類と機能、学校におけるカウンセリングについて
第 9 回　学級集団①
　　学級集団とは何か、リーダーシップPM理論、教師とは何かについて

第 10 回　学級集団②
　　チームワーク、開発型学級、日本の学級集団の特徴について
第 11 回　教育評価①
　　測定とは、評価とは、教育評価とは、教育評価の目的・方法について

第 12 回　教育評価②
　　教育評価に生かせる検査、教育評価と数量的なデータについて
第 13 回　感情と教育
　　感情の理論、感情と教育、心理教育プログラムについて

第 14 回　脳と教育
　　脳科学の基礎知識、脳のシステム、神経系の発達、脳科学と教育について
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
定期試験(100％)
〔教科書〕
テキストは用いない。
〔参考文献〕
授業中に随時指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

社会概論

4021
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
杉島　　威一郎

〔到達目標〕
指導計画案を作成できるようになる
年間の指導計画を作成できるようになる
〔授業の概要〕
戦後の社会科教育史を概観し、社会科成立の趣旨を理解し、小学校の社会科教育は公民的資質の基礎を養うことを目標

にしていることについて理解を深める。
社会科の授業は、学習指導要領に基づいて指導計画を作成し授業を展開する。その為に目標と内容から児童に何を理解させ、どのように指導するのか、年間の指導計画を作成することによって、教科の総合的理解を図る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業のおわりに、まとめの課題を付す。
授業冒頭に前回授業の小テストを行う。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
社会科好きな教師になるために、目的、授業の予定、教科書、資料等の紹介
第 2 回　社会科誕生まで
戦後教育改革の中での小学校社会科の誕生について学ぶ
第 3 回　社会科教育の変遷（1）
小学校社会科の変遷…問題解決学習と系統学習の変遷について学ぶ
第 4 回　社会科教育の変遷（2）
学習指導要領の変遷について学ぶ
第 5 回　問題解決的な学習
体験的な学習と問題解決的な学習の関係について学ぶ
第 6 回　社会科の特質
全学年の目標と内容を理解する
第 7 回　学習内容（1）
中学年の地域学習の目標と内容について理解し、指導計画を立てる
第 8 回　学習内容（2）
５年生の産業学習の目標と内容について理解し、指導計画を立てる
第 9 回　学習内容（3）
６年生の歴史学習の目標と内容について理解し、指導計画を立てる
第 10 回　教科書の活用
学び方を学ぶ教科書の活用の仕方について学ぶ
第 11 回　現場学習
中学年の現場での驚きと疑問を学習問題へ転化する
第 12 回　社会科における言語活動
体験を定着させる言語活動について学ぶ
第 13 回　社会科の評価
指導計画と評価計画について学ぶ
第 14 回　指導計画
地域に根差したカリキュラムの立て方について学ぶ…中学年の地域学習から
第 15 回　学習指導案
教材観と児童観(どのように教え、どのように学ぶのか)を中心に指導案を立てる
〔成績評価〕
期末に筆記テスト（70パーセント）
授業時の小テスト（30パーセント）
〔教科書〕
小学校学習指導要領解説 社会編
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、社会、小一種、必修
〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

声楽Ⅱ①

2215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
薬谷　佳苗

〔到達目標〕
保育者、幼稚園教諭に求められる、音楽知識の習得と、歌唱技術の向上。
言葉と、それに結びついた表現豊かな歌唱を、実際に保育、幼児教育の現場で活用できる形で実現する。
〔授業の概要〕
声楽Ⅰで学んだ音楽理論を実践に用いられるようにする。
しっかりとした声と発声で歌うための訓練をする。
弾き歌いや、伴奏付けに役に立つコードの学習。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
特に歌唱においての復習として、楽器を用いての正しい音程の確認と、楽器がない状態でもしっかりと歌唱できるだけの練習が必要。
〔授業計画〕
第 1 回　保育、幼児教育においての歌唱
子どもたちにとって、保育士、幼稚園教諭が音感、歌唱においての重要な役割を担っていることを学習する。
第 2 回　拍子Ⅰ
単純拍子の構成と、リズムパターンの実践。
表情記号、速度記号による表現の変化を学ぶ。
第 3 回　拍子Ⅱ
複合拍子、混合拍子の構成とリズムパターンの実践。
アクセント、強弱記号、テヌート、スタッカートなどの表現を学ぶ。
第 4 回　言葉
子音、母音、言葉の発音による表現とそれに伴うブレスの使い方を学ぶ。
第 5 回　短調の音階
短調の音階の構成と種類（自然短音階、和声的短音階、旋律的短音階）を学ぶ。
楽譜から音程とリズムを読む。

第 6 回　タイとシンコペーション
タイを含むリズム打ちと、シンコペーションによる強拍の移動。
第 7 回　イントネーション
日本語と欧米の言葉の違い（日本語の高低アクセントについて）を学ぶ。
言葉のリズム、高低の音程で作る音楽を読み解く。
第 8 回　コードネーム
楽譜に書かれているコードを読み取る練習をする。
第 9 回　童謡を歌うⅠ
教科書に掲載されている歌唱教材を鑑賞、歌唱する。
第 10 回　童謡を歌うⅡ
絵描き歌、遊び歌などの動きのあるものを歌う。
第 11 回　聴音
簡単なコード、音を聞きわける訓練をする。（伴奏付けへのアプローチ）
第 12 回　関係調
調と調の関係を学ぶ。
第 13 回　反復記号
反復記号を読み取って演奏順を理解したり、反復記号を用いて、楽譜を短く書き直すなど、反復記号について学ぶ。
第 14 回　後期のまとめ
楽譜に書かれている記号や、言葉、コードなどを総合的に見ながら、子どもたちの前で表現豊かな模範歌唱ができるように、工夫する。
第 15 回　演奏の実践（実技試験）
正確なリズムと、楽器を用いないでも崩れない音程を見につける。
表現豊かに歌う。

〔成績評価〕
実技試験（リズム打ち、階名唱、歌唱）60点
筆記試験（音楽理論）40点

〔教科書〕
改定　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育　教育芸術社

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
①後期
②時間　火曜日１１：３０～１２：３０　　１５：２０～１６：００
③場所　授業前後に講義教室で対応します。
④連絡先　yakutani@ashiya-u.ac.jp にメールかPhollyのメッセージに質問、連絡などをしてください。
⑤授業についての個人的な質問、実技の補講の希望がある場合には、必ず事前にメールでアポイントを取ってください。授業終了後すぐの質問に関しては、この限りではありませんが、アポイントがある場合にはそちらが優先されることがあります。

声楽Ⅱ②

2216
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
薬谷　佳苗

〔到達目標〕
保育者、幼稚園教諭に求められる、音楽知識の習得と、歌唱技術の向上。
言葉と、それに結びついた表現豊かな歌唱を、実際に保育、幼児教育の現場で活用できる形で実現する。

〔授業の概要〕
声楽Ⅰで学んだ音楽理論を実践に用いられるようにする。
しっかりとした声と発声で歌うための訓練をする。
弾き歌いや、伴奏付けに役に立つコードの学習。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
特に歌唱においての復習として、楽器を用いての正しい音程の確認と、楽器がない状態でもしっかりと歌唱できるだけの練習が必要。

〔授業計画〕
第 1 回　保育、幼児教育においての歌唱
子どもたちにとって、保育士、幼稚園教諭が音感、歌唱においての重要な役割を担っていることを学習する。
第 2 回　拍子Ⅰ
単純拍子の構成と、リズムパターンの実践。
表情記号、速度記号による表現の変化を学ぶ。
第 3 回　拍子Ⅱ
複合拍子、混合拍子の構成とリズムパターンの実践。
アクセント、強弱記号、テヌート、スタッカートなどの表現を学ぶ。
第 4 回　言葉
子音、母音、言葉の発音による表現とそれに伴うブレスの使い方を学ぶ。
第 5 回　短調の音階
短調の音階の構成と種類（自然短音階、和声的短音階、旋律的短音階）を学ぶ。
楽譜から音程とリズムを読む。
第 6 回　タイとシンコペーション
タイを含むリズム打ちと、シンコペーションによる強拍の移動。
第 7 回　イントネーション
日本語と欧米の言葉の違い（日本語の高低アクセントについて）を学ぶ。
言葉のリズム、高低の音程で作る音楽を読み解く。

第 8 回　コードネーム
楽譜に書かれているコードを読み取る練習をする。
第 9 回　童謡を歌うⅠ
教科書に掲載されている歌唱教材を鑑賞、歌唱する。
第 10 回　童謡を歌うⅡ
絵描き歌、遊び歌などの動きのあるものを歌う。
第 11 回　聴音
簡単なコード、音を聞きわける訓練をする。（伴奏付けへのアプローチ）
第 12 回　関係調
調と調の関係を学ぶ。
第 13 回　反復記号
反復記号を読み取って演奏順を理解したり、反復記号を用いて、楽譜を短く書き直すなど、反復記号について学ぶ。
第 14 回　後期のまとめ
楽譜に書かれている記号や、言葉、コードなどを総合的に見ながら、子どもたちの前で表現豊かな模範歌唱ができるように、工夫する。
第 15 回　演奏の実践（実技試験）
正確なリズムと、楽器を用いないでも崩れない音程を見につける。
表現豊かに歌う。

〔成績評価〕
実技試験（リズム打ち、階名唱、歌唱）60点
筆記試験（音楽理論）40点

〔教科書〕
改定　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育　教育芸術社

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
①後期
②時間　火曜日１１：３０～１２：３０　　１５：２０～１６：００
③場所　授業前後に講義教室で対応します。
④連絡先　yakutani@ashiya-u.ac.jp にメールかPhollyのメッセージに質問、連絡などをしてください。
⑤授業についての個人的な質問、実技の補講の希望がある場合には、必ず事前にメールでアポイントを取ってください。授業終了後すぐの質問に関しては、この限りではありませんが、アポイントがある場合にはそちらが優先されることがあります。

保育内容Ⅴ（絵画制作）

4017
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
喜田　　萌子

〔到達目標〕
・幼稚園教育要領における基本、表現領域（造形表現）のねらい及び内容並びに全体構造を理解すると共に、資質・能力、教育・保育実践力を養う

〔授業の概要〕
幼稚園教育要領における基本、表現領域（造形表現）のねらい及び内容ならびに全体構造が十分理解できるよう研究していく。表現領域のねらい及び内容を踏まえ幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点、評価の考え方、領域ごとの関連性や小学校の教科とのつながりの研究。幼児の発達や学びの課程を理解し具体的な場面を想定して保育を構想する方法の研究。情報機器及び教材の活用と実際の保育を想定した指導案の作成の研究

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
幼稚園教育要領解説を熟読しておく
実技や模擬授業に必要な用具を準備して授業に臨む

〔授業計画〕
第 1 回　幼稚園教育要領
幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本表現領域のねらい及び内容と全体構造の理解
第 2 回　表現領域のねらいと内容
表現領域のねらいと内容を踏まえ幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点の理解
第 3 回　評価について
幼稚園教育における評価の考え方についての理解
第 4 回　表現領域（造形表現）と小学校の教科等との繋がり
表現領域（造形表現）で幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等との繋がりの理解
第 5 回　指導案の構成
指導案の構成の理解と作成要領
第 6 回　指導案の作成
具体的な保育を想定した指導案の作成
第 7 回　保育の構想
保育の構想　幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解
第 8 回　造形表現
造形表現　実技　絵画制作
第 9 回　模擬保育
模擬保育　実践の振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける
第 10 回　保育の構想
保育の構想　表現領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し活用する
第 11 回　造形表現　実技

造形表現　実技　折紙遊び
第 12 回　造形表現　実技
造形表現　実技　作って遊ぶ
第 13 回　模擬保育
模擬保育　実践の振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける
第 14 回　表現領域の特性
表現領域の特性に応じた保育実践の動向を知り保育構想の向上の取り組みを行う
第 15 回　まとめ
まとめ

〔成績評価〕
レポート（25%）
実技作品（25%）
発表内容（25%）
学習指導案（25%）

〔教科書〕
文部科学省（最新版）
幼稚園教育要領
幼稚園教育要領解説

〔参考文献〕
文部科学省（最新版）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

〔履修条件〕

〔備考〕
領域及び保育内容の指導法に関する科目、保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、幼一種、必修

〔オフィスアワー〕
①後期　②土曜日　11時30分～12時10分（昼休みの時間帯）
③場所：講義教室（美術実習室）で対応します。
④連絡先:　kitasyoen@gmail.comにメールか　℡ 090 - 3056 - 9416に事前に連絡してください。

児童教育学総論Ⅱ

3431
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
大江　まゆ子　大谷　彰子　安藝　雅美

〔到達目標〕
・保育の意義および目的、基本的な考え方について理解する。
・保育に関する法令および制度を理解し、保育所保育指針における保育の基本を身につける。
・保育の思想と歴史を学び、保育の現状と課題について理解する。

〔授業の概要〕
保育の意義、目的について保育に関する法令を踏まえて理解し、保育所保育指針における保育者の役割、保育の歴史、思想、制度などを具体的な視聴覚教材などを用いて学び、保育者として身につけておくべき保育の基本に関する理解を深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次回のテーマについて各自、情報収集し、自身の意見を持ち授業に参加すること。(60分)
乳幼児、保育に関するニュースについて日頃から関心、問題意識を持ち、授業で発表を行えるようまとめておく。(30分)
授業で出された課題を行い、次回提出する。(60分)

〔授業計画〕
第 1 回　保育の意義および目的
保育の理念と目的、保育の意義について理解する。
第 2 回　子どもの最善の利益と保育
保育の役割と責任について理解する。
第 3 回　子ども家庭福祉と保育
保育の多様化と現代における保育の課題について理解する。
第 4 回　教育・保育に関する法令および制度
子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令について理解する。
第 5 回　子ども子育て支援新制度
子ども子育て支援新制度を中心に、具体的な子育て支援の取り組みについて学ぶ。
第 6 回　保護者支援
保育所における保護者支援の基本について学ぶ。
第 7 回　保育所保育指針における保育の基本（1）
保育所における基本原則について理解する。
第 8 回　保育所保育指針における保育の基本（2）
保育の形態と保育内容について理解する。
第 9 回　保育所保育指針における保育の基本（3）
保育の環境と保育方法について理解する。
第 10 回　諸外国の保育の思想と歴史（1）
ルソーの教育思想を『エミール』を中心に学ぶ。
第 11 回　諸外国の保育の思想と歴史（2）
フレーベルの教育思想を『人間の教育』や恩物を中心に学ぶ。
第 12 回　諸外国の保育の思想と歴史（3）
モンテッソーリの教育思想と保育の実際について学ぶ。
第 13 回　諸外国の保育の思想と歴史（4）
シュタイナーの教育思想と保育の実際について学ぶ。
第 14 回　日本の保育の思想と歴史
倉橋惣三の保育思想と保育の実際について学ぶ。
第 15 回　保育の現状と課題
諸外国の保育と日本の保育の現状と課題について学ぶ。

〔成績評価〕
①レポート課題（60%）
②授業の取り組み姿勢・態度（毎回の授業レポート提出期限、内容など）（40点）
※提出物については、評価後個別コメントをつけて返却します。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （平成29年告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省）
〔履修条件〕
資格取得希望者のみ
〔備考〕
【実務経験の活用】
保育に求められる普遍的な役割と現代社会において求められる課題について講義し、新しい時代に対応した保育の在り方や基本的な知識など、保育現場で活かすことのできるスキルや基本的な知識を指導する。
〔オフィスアワー〕
時間：前期　水曜日13：50～15：20
場所：各担当教員の研究室
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

生活概論

3018
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
生活科の特質とこれからの生活科、生活科の学習展開と具体的な支援や体験を通して生活科の授業の在り方を学ぶ。
〔授業の概要〕
・講義ごとのテーマに沿った資料を準備して講義を行う。
・できるだけ活動や体験を取り入れ授業をすすめる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・生活科で使用する各種のグッズ製作や教室に掲示する花ごよみ作成
〔授業計画〕
第 1 回　生活科とは
「生活」の基本的な概念
第 2 回　生活科の目標
生活科のねらいを理解する。
第 3 回　生活科の学習内容の体験Ⅰ
「学校探検をしよう」探検体験と発表
第 4 回　生活科の学習内容の体験Ⅱ
「町探検をしよう」町探検をしたことをまとめる。
第 5 回　生活科の学習内容の体験Ⅱ
「町探検をしよう」町探検をしてまとめたことの発表
第 6 回　生活科の授業づくりⅠ
「秋となかよし」の授業体験（野外観察）
第 7 回　生活科の授業づくりⅠ
「秋となかよし」発見したことのまとめ
第 8 回　生活科の授業づくりⅠ
「秋見つけをしよう」発見したことの発表・交流①
第 9 回　生活科の授業づくりⅠ
「秋見つけをしよう」発見したことの発表・交流②
第 10 回　生活科の授業づくりⅡ
「おもちゃランド」授業の構想
第 11 回　生活科の授業づくりⅡ
「おもちゃランド」　手作りおもちゃ制作
第 12 回　生活科の授業づくりⅡ
「おもちゃランド」　手作りおもちゃの交流
第 13 回　生活科の授業の実際
「自分の成長記録をつくろう」授業の構想
第 14 回　生活科の授業の実際
「自分の成長記録をつくろう」作業、完成して提出
第 15 回　生活科の授業の実際
「自分の成長記録をつくろう」発表
〔成績評価〕
定期試験６０％、提出物、課題等総合的に評価４０％
〔教科書〕
「せいかつ探検ブック」（啓林館）
小学校学習指導要領　解説　生活科編　（文科省編平成２９年）
生活科教科書（文科省検定教科書）
〔参考文献〕
小学校学習指導要領　解説　生活科編　（文科省編平成２９年）
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
自然観察を学外で実施予定。
学外での活動を含むため、保険料として一人当たり300円前後の負担が発生します。
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
前期　後期　金曜日　２限
研究室13（３階）
メールアドレス：mouri@ashiya-u.ac.jp
前もってメールで連絡すること。

初等教科教育法Ⅳ（理科）

5012
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
・学習指導要領における理科の目標・内容を通して、理科の基本的な知識、考え方、授業の進め方について理解を深

める。
・理科の中心的な活動である実験・観察の技術の習得や市域・栽培活動の方法について基礎となる事項について学ぶ。
〔授業の概要〕
授業は、主体的な学びとなるように、講義を聞くだけでなく、実験・観察などの体験活動を取り入れた授業を行う。また、授業の最後に振り返りを行い、自分の考えをまとめる活動を行う。毎回の授業レポートを講義後に提出する。感想や質問をとりまとめ、次回の講義の冒頭で紹介、応答する。他の学生の感想や考え方にふれることで、より深い学びにつなげる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で使う実験観察の準備物、自然観察レポート、指導案作成などの連絡を行う。
〔授業計画〕
第 1 回　理科教育①
理科教育とは（理科教育のめざすもの）

第 2 回　理科教育②
理科教育の目標と内容
第 3 回　理科教育③
理科の指導方法（問題解決学習のプロセス）
第 4 回　実験・観察①
安全で正しい野外観察の実際
第 5 回　実験・観察②
実験器具の正しい使い方
第 6 回　実験・観察③
薬品、試薬の使い方、薬品の処理の仕方
第 7 回　理科の学習①
３年生の理科内容と学習指導
第 8 回　理科の学習②
４年生の理科内容と学習指導
第 9 回　理科の学習③
５年生の理科の内容と学習指導
第 10 回　理科の学習④
６年生の理科の内容と学習指導
第 11 回　模擬授業①
指導案作成と授業計画
第 12 回　模擬授業②
模擬授業、評価と討論
第 13 回　理科と他教科の関連など
理科と生活科、総合的な学習の時間の関連とICT活用
第 14 回　発展教材
ものづくり教材と発展教材
第 15 回　指導と評価
理科における評価とまとめ
〔成績評価〕
定期試験60%、授業中の小レポート20%、課題提出20%
〔教科書〕
小学校学習指導要領（文科省編平成２9年告示）
小学校理科教科書（文科省検定）
〔参考文献〕
小学校理科の観察，実験の手引き（文部科学省）
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
自然観察を学外で実施予定。
学外での活動を含むため、保険料として一人当たり300円前後の負担が発生します。

教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、理科、小一種、必修

【実務経験の活用】
学校現場における教員経験より、理科教育の目標と学習指導要領に示された内容と教材研究及び授業の進め方が理解できるように講義する。
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
前期　後期
金曜日　２限
研究室１３（３階）
メールアドレス：mouri@ashiya-u.ac.jp
前もってメールで連絡すること。

教育学概論Ⅱ①

4208
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
津田　　徹

〔到達目標〕
この講義では、教育とは何かについて、その理念と歴史を理解することができます。教育という概念が登場してきた西洋や日本における歴史について理解することができます。また教育作用が発生してきた社会背景や、子どもに対するとらえ方の変遷、教育機関としての学校や教育方法がどのように発生してきたかを理解し、こうした内容を前提として、教育現象や教育問題を自分で考察し分析し、最終的に説明できることが目標です。
〔授業の概要〕
この講義では、西洋の教育理念の復讐、日本の教育理念の流れを解説します。人類の歴史とともに教育の歴史が発生した経緯を確認し、教育作用が発生してきた古代ギリシアから、西洋中世、ルネサンス、近代教授学の時代、啓蒙時代、近代社会の到来と公教育機関の成立と整備、学習者中心の教育観の芽生え、学校教育におけるユニークな教育理念の展開や教育実践の展開について解説します。また後半以降においては日本の教育理念の展開について、近代以前と近代以後、そして現代の日本の教育や学校教育、学校教育の仕組みについて触れていきます。授業中にどんどん問題提起をします。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分）。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介
第 2 回　西洋教育のめばえ
古代ギリシアの教育理念、古代ローマ・キリスト教の教育理念、西洋中世の教育理念、ルネサンスの教育理念
第 3 回　西洋教育の成長・発展
宗教改革の教育理念、バロック時代の教育理念、啓蒙時代の教育、ロック、ルソー、カントの各教育
第 4 回　西洋教育の成熟
近世の教育、ペスタロッチ、デューイの各教育、20世紀の教育
第 5 回　西洋教育の現在
改革教育、新教育運動、新自由主義、アメリカの教育実践研究
第 6 回　日本の古代の教育
大学・国学、貴族の学校、旧仏教と新仏教と教育
第 7 回　日本の中世の教育
足利学校、金澤学校、家訓と武家社会、世阿弥の思想、貝原益軒の思想
第 8 回　江戸時代の教育（1）
昌平坂学問所、藩校、郷学
第 9 回　江戸時代の教育（2）
私塾、寺子屋
第 10 回　明治時代の教育（1）
学制、公教育の登場、福沢諭吉の思想
第 11 回　明治時代の教育（2）
森有礼の思想、改正教育令、学校令、教育勅語
第 12 回　大正時代の教育
新教育運動、教育研究運動、戦前の教育（国民学校）
第 13 回　戦後の新しい教育
教育基本法、学校教育法、民主主義教育
第 14 回　昭和から平成の学校教育
学習指導要領とその特徴、教育改革の特徴
第 15 回　まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答
〔成績評価〕
定期試験（70%）、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）
〔教科書〕
広岡義之編、『新しい教育原理ー第2版ー』、ミネルヴァ書房。この書は第1回目から使用します。
内閣府・文部科学省・厚生労働省編、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年）
文部科学省編、『幼稚園教育要領』（平成29年）、東山書房。
文部科学省編、『小学校　学習指導要領』（平成29年）、東洋館出版。
文部科学省編、『中学校　学習指導要領』（平成29年）、東山書房。
文部科学省編、『高等学校　学習指導要領』（平成30年）、東山書房。
〔参考文献〕
レーブレ（広岡他訳）、『教育学の歴史』、青土社、2015年。
パーマー（広岡他訳）、『教育思想の50人』、青土社、2012年。
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜3時間目前休み時間。

教育行政学【初等】

1040
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
三羽　光彦

〔到達目標〕
①学校教育を中心とする教育行政の基礎知識を習得する。②教育政策や教育法の改正動向を知る。③近年の教育行政学の研究成果や論点を整理する。④教育と教育行政を動かす法的メカニズムを学校教育の現場に即して理解する。以上を到達目標とし、あわせて将来学校教員となる者のための教職教養としての観点から、学校現場で教育行政的知見を活用できるようにする。
〔授業の概要〕
授業内容は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地方公務員法、地方教育行政法、学習指導要領など、法制度的な枠組みを軸に、重要な教育行政の基礎知識や研究成果、論点を明らかにする。授業はあらかじめ講義概要と参考文献、参考資料を提示し、それに基づいて自学自習したうえでレポートを提出、そのレポート教師に基づいて学習者同士の話し合を行う形で進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業概要と参考文献や資料を示すのでそれにあたって読んでおくこと(予習100分)、授業内容に即したレポート課題を出すので、それを作成すること、授業後のレポート作成（100分）。
〔授業計画〕
第 1 回　教育行政の意義と機能

教育目的としては個人と国家・社会という二重性、人権保障のシステムとしては自由権と社会権の二重性、教育政策的には、人権保障のシステムとしての理念的側面と人材養成としての現実的側面、それらが矛盾しながら複合している教育行政について理解する。

第 2 回　日本国憲法と教育を受ける権利
日本国憲法の教育条項の意義について、歴史的、国際的に理解し、法解釈をめぐる諸学説を整理する。あわせて教育を受ける権利をめぐる今日的課題を考察する。

第 3 回　教育基本法の意義と論点
2006年に改正された教育基本法（新教育基本法）を1947年に制定された旧教育基本法と照らし合わせながら、各条項の意義、問題点、論点などを整理する。

第 4 回　学習権保障と義務教育制度
現代日本の義務教育法制の基礎を理解した上で、学習権、就学権保障の問題を理解し、夜間中学や義務教育学校、義務教育年限延長や学校統廃合問題について考察する。

第 5 回　教職員の権利と責務
学校教員の勤務条件と権利、専門職としての教員のあり方、さまざまな学校職員の役割と関係、教員の養成・採用・研修のあり方を理解し、あわせて教師の教育の自由についてその法的考察を行う。

第 6 回　公教育の無償制と教育財政
公教育における私費負担問題、公教育の機会均等の原則と無償制原則、高等教育財政と高等教育無償制、私学助成、幼児教育無償制などを理解した上で、日本の文教予算の動向について考察する。

第 7 回　教育行政の原理と教育委員会制度
教育の自主性を尊重し、教育の地方自治を原理とする教育と教育行政の関係、教育条件整備を目的とする教育行政のあり方について考察する。

第 8 回　教育委員会制度の変遷と教育行政改革
戦前教育行政の諸問題、教育委員会制度の理念と原理、教育委員会制度の変遷を理解するとともに、今日の教育行政改革について考察する。

第 9 回　教育課程行政の制度と課題
教育課程行政の仕組み、学習指導要領の役割と法的性格、教科書の検定・採択・使用等について理解した上で、家永教科書裁判が提起した問題について考察する。

第 10 回　初等・中等教育の学校制度とその原理
近代学校の成り立ちと、統一学校運動、中等教育一元化の歴史、戦後日本の中等教育改革の意義を理解し、あわせて2007年学校教育法改正の諸問題を考察する。

第 11 回　近年の学校制度改革の動向
単位制高等学校、総合学科の設置、学校選択制の導入、中等教育学校・義務教育学校の創設などを理解し、学校制度の諸問題を考察する。

第 12 回　幼稚園・保育所の現状と幼児教育の諸問題
幼児教育の義務化問題、無償化の動向、幼保一元化・一体化の課題を理解した上で、あるべき幼児教育を考察する。

第 13 回　高等教育行政と大学
公教育機関としての大学の理念、学問の自由、教育を受ける権利を基礎とした大学自治、大学の質保障・大学評価の問題を理解し、大学教育のあり方を考察する。

第 14 回　特別支援教育の制度と学校の危機管理
特別支援学校の種類、特別支援学級、通級指導について理解し、特別支援教育の理念と制度について考察する。また、学校安全、災害対応、感染症対策など学校の危機管理についても理解を深める。

第 15 回　まとめ
全体として授業を振り返り、学校教育を中心とする教育行政のしくみと課題を復習する。

〔成績評価〕
レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%によって評価する。

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
井深・大橋・中嶋・川口編著『テキスト教育と教育行政』勁草書房、2015年。
文部科学省『小学校学友指導要領』、『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

教育学概論Ⅱ②

4209
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
三羽　光彦

〔到達目標〕
この授業では教育の古典ともいえる名著を紹介して、それを解説する形で進めます。古代から現代に至る教育思想家の思索の跡をたどることによって、混迷を深める現代日本の教育を考察する観点を養ってもらいたいと思います。①紹介した思想家の業績、著作の内容、思想の特徴を理解する。②紹介した古典の文章に即してその論点を把握する。

④進んで全文を読み進めて自己の教育観と比べながら対話的に考察する。以上が到達目標です。

〔授業の概要〕

教員採用の教職教養の試験問題として、古今東西の著名な教育家の思想や著書を問う問題が頻出しています。しかし読書離れが進んでいるといわれる学生諸君は、そんな古典をじっくり読むことがあるでしょうか。試験対策として人や書物の名前を棒暗記するだけではいかにも悲しいものがあります。「どのようなものであれ、良書を読むことは、その著者である過去の時代のもっとも優れた人たちと会話を交わすようなものである。」とフランスの哲学者デカルトはいいました。今、対話的で深い学力や読解力の必要性が叫ばれています。すぐれた過去の教育家との対話の旅に出かけましょう。何か興味を持った著作があったら、進んで全文を読んでもらえれば案内者として幸せです。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

講義概要にそって各教育家の思想の特徴と、著作の内容を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって探し、読んでおいて下さい（100分）、授業後には小レポートを作成して提出して下さい（100分）。

〔授業計画〕

第 1 回　プラトンの『ソクラテスの弁明』を読む
ソクラテスは著作を残しておりませんが、プラトンの対話編によってその思想を知ることができます。『ソクラテスの弁明』は、「青少年を惑わした」という理由で裁判にかけられたソクラテスが、市民に向かって自分の信念を述べた様子をプラトンが描いた書です。

第 2 回　孔子の『論語』を読む
『論語』は孔子の死後、弟子たちが編纂した孔子とその弟子の言行録で、儒教の根本的な書とされています。さまざまな名言に富み、古来から中国を始め韓国や日本で人間形成のための基本文献とされてきました。

第 3 回　エラスムスの『愚神礼讃』を読む
『愚神礼讃』は、著名な人文主義者エラスムスによる風刺文学です。ローマ教皇や教会の偽善を皮肉っており、この教会批判はルターの宗教改革をまねいたといわれています。しかしエラスムスは信仰義認説をとるルターにはくみしていません。キリスト教の句磯を学びながら、愚神礼賛さんを読んでいきましょう。

第 4 回　ロックの『統治論』を読む
ロックの『統治論』は、『統治二論』『市民政府二論』ともよばれ、名誉革命を推進した思想を理論化したもので、人民主権に基づく社会契約説が説かれています。子どもの教育についても、さまざまな含蓄のある文章が随所に見られます。

第 5 回　ルソーの『エミール』を読む
最も有名な教育古典ともいえるルソーの『エミール』は、孤児エミールが理想的な教師のもとで成長していく過程を描いた教育小説です。子どもが本来持っている自然な人間性の発達を尊重し、人為的な干渉を控える消極教育が主張されています。

第 6 回　カントの三批判書を読む
人間の認識能力としての理性を理論的に検討した『純粋理性批判』、人間の道徳的能力としての実践理性を検討した『実践理性批判』、対象からその根拠となる普遍的なものを導き出す反省的な判断力を検討した『判断力批判』、この三つを三批判書といいます。難解な書ですがその要点、教育との関係をを考えます。

第 7 回　ペスタロッチーの『隠者の夕暮れ』を読む
ペスタロッチー（1746-1827）は、スイスの教育者で孤児や貧しい家庭の子どもたちの教育に献身しました。数多くの名著がありますが、『隠者の夕暮れ』の味わい深い教育論を読んでみましょう。

第 8 回　コンドルセの『公教育の原理』を読む
『公教育の原理』は、フランス革命の最中に革命議会にコンドルセが提案した公教育組織論です。これは実際には実現しませんでしたが、近代以降の公教育思想の原型を示すものとして評価されています。

第 9 回　貝原益軒の『和俗童子訓』を読む
福岡藩の藩儒であった貝原益軒は、近世を代表する学者であったが、民衆に対する教訓書として『和俗童子訓』を著している。幼少期の教育を重視するとともに、子どもの発達段階を意識した教育論となっており、近世日本を代表する教育思想です。

第 10 回　福沢諭吉の『学問のすゝめ』を読む
「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」というフレーズは誰もがよく知っています。しかし諭吉がいいたかったことはこのあとです。「されば」とつないで、現実には貴賤貧富など人間に雲泥の差があるのはなぜかと問いかけます。教育の必要性を説いた明治期のベストセラーです。

第 11 回　フレーベルの『人間の教育』を読む
フレーベル（1782-1852）はドイツの教育家で幼稚園の創設者として有名です。子どもの遊技の用具として「恩物」を考案したことで有名です。『人間の教育』では「子どもの本姓にある神性の自己展開をはかるのが教育の目的である」と説きました。

第 12 回　デューイの『学校と社会』を読む
児童中心主義と社会改革を志向する経験主義の立場から、プラグマティズムの教育学を確立したのがデューイ（1859-1952）です。その出発点となったシカゴ大学附属の実験学校の報告書が、この『学校と社会』です。

第 13 回　ブルーナの『教育の過程』を読む
スプートニクショック後、全米から教育家を集めてウッズホール会議が開催されました。その議長がブルーナー（1915-2016）でした。その会議をまとめたものが、彼の主著『教育の過程』です。

この書は、教育の現代化の理論的基礎を提供しました。

第 14 回　イリイチの『脱学校論』を読む
イリイチ（1926－2002）は、過剰な効率性を追い求めるなかで人間の自律性を喪失させる現代文明を批判しました。そうした文明の組織の最たるものとして学校教育を位置づけています。『脱学校論』はラディカルな現代教育批判として有名です。

第 15 回　フレイレの『被抑圧者の教育学』を読む
フレイレ（1921-1997）はブラジルの思想家で、貧困と抑圧からの解放を自己の思想のよりどころとしています。支配者に都合のいい有能な人材になるのではなく、抑圧からの自己解放を支援する教育こそが真の教育であると説いています。

〔成績評価〕

レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%、合計100点によって評価します。

〔教科書〕

教科書は使いません。適宜資料を紹介または提示します。

〔参考文献〕

寺﨑・古沢・増井『教育課程新書・名著解題』共同出版、2009年。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

教職実践演習（幼・小）

2306
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　整七

〔到達目標〕

・教育現場で教員として通用するためには使命感や責任感、児童生徒に対する深い愛情が必要であることの認識を豊かにすることができる

・幅広い社会性や良好な対人関係を構築する力をつけることができる。

・子どもたちや保護者の思いをどのように理解し、指導していくために教育現場に起こる様々な具体的テーマに対して、対応できる基本的な資質能力を身に付けることができる。

〔授業の概要〕

・学校園現場に山積する様々な教育課題を中心にテーマを設定し、具体的な内容で授業を展開する。「事例研究」「ロールプレイング」「場面指導」「集団討論」「模擬授業」を中心にして授業を進めていく。また、学校園の現場に出かけ、授業を参観したり、最新の子どもたちの現状などについての情報の収集を行ったりする。（フィールドワーク）神戸市・芦屋市教育委員会とも連携し、指導主事や学校現場の優秀な指導者を招き、学習指導や生徒指指導などの最新の情報を得ることで教師を目指すための意欲や心構えを確固たるものにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

事前学習 : 反転学習による事前レポート作成など(2時間)
事後学習 : 実践の振り返りレポート作成など(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
本演習による目的と計画をグループで討議する中で自己目標の設定を行う。

第 2 回　履修カルテ及び教育実習の振り返り①
(1) 授業について
今までに大学で学んだことや教育実習などでの実体験から授業づくりについて自分の考えをまとめ、意見交換をする。

第 3 回　履修カルテ及び教育実習の振り返り ②
(2) 児童理解について
今までに大学で学んだことや教育実習などでの実体験から児童理解について自分の考えをまとめ、意見交換をする。

第 4 回　望ましい幼児理解のあり方
具体的な子ども理解の方法を学び、グループ討議をする

第 5 回　幼稚園の職務
附属幼稚園長から職務上の課題について話を聞き、討議する。

第 6 回　幼小連携のあり方
事例をもとに、具体的な方法をグループ別に考え、討議する。

第 7 回　学級経営
学級経営案をグループで作成し、模擬学級会を行う。

第 8 回　児童の意欲を高める学習指導
現場教員から子どもの思いや願いを活かす学習指導について学ぶ。

第 9 回　魅力ある授業づくり
模擬授業などを通して「主体的・対話的で深い学び」について考える。

第 10 回　特別に支援を必要とする幼児児童への対応
特別支援教育の現状を、現地見学等を通して考える。

第 11 回　家庭・地域との望ましい連携
学校園の理想的な家庭・地域との連携の具体的方策をロジカルシンキングで研究する。

第 12 回　学級担任の危機管理
学校の問題事案で保護者等への対応を学び、ロールプレイングで考える。

第 13 回　生徒指導上の諸問題（いじめ）
「いじめ問題」への対応についてグループで討議する。

第 14 回　生徒指導上の諸問題(体罰等)
体罰やセクハラの実態と懲戒について学び、グループで討議する。
第 15 回　実践発表会
グループ別実践発表会を行い、全体のまとめをする。

〔成績評価〕
実践発表会の発表内容（50%）
フィールドワークや討議、ロールプレイングなどからの論作文（50%）

〔教科書〕
幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、
小学校学習指導要領、生徒指導提要　文部科学省（最新版）

〔参考文献〕
適宜、対象項目の資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教職実践演習、幼一種、必修
教育実践に関する科目、教職実践演習、小一種、必修

【実務経験の活用】
小中学校の教育現場や教育研究所での経験より、今日的な教育課題、実践的指導力、学校で求められている授業づくりなどについて指導する。

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

初等教科教育法Ⅱ（社会）

6250
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
砂子　滋美

〔到達目標〕
・小学校社会科教育の本質、目標、指導の内容や方法、評価のあり方や今日的課題等について解説する。
・適切な指導事例を取り上げて児童の実態を視野に入れた、教材研究の方法や指導上の留意点を考察する。

〔授業の概要〕
・社会科の目標、内容を理解し、指導方法、授業案づくり、模擬授業などを通して、実践力を身につけていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・常に教育的環境に目を向けるようにし、教育関係のボランティア活動に取り組むよう常日頃から心がけておく。（教職教育支援センターからボランティア活動先を紹介してもらう等。）

〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領の総説
・社会科の意義・変遷
第 2 回　社会科の目標
・教科の目標、学年目標、各学年の内容
第 3 回　社会科の内容
・各学年の内容の取扱い、各学年の指導法
第 4 回　３年指導計画と学習指導案立案Ⅰ
・単元『店ではたらく人と仕事「店ではたらく人と様子」』
・模擬授業の準備、学習指導案、授業細案の作成等
第 5 回　３年指導計画と学習指導案立案Ⅱ
・単元『店ではたらく人と仕事「店ではたらく人と様子」』
・模擬授業の準備（掲示物、板書計画、ワークシート、資料（映像を含む）収集等）
第 6 回　模擬授業、事後研究Ⅰ
・単元『店ではたらく人と仕事「店ではたらく人と様子」』の授業実施（各人）
・授業の振り返り、改善点などの考察
第 7 回　模擬授業、事後研究Ⅱ
・単元『店ではたらく人と仕事「店ではたらく人と様子」』の授業実施（各人）
・授業の振り返り、改善点などの考察
第 8 回　模擬授業、事後研究Ⅲ
・単元『店ではたらく人と仕事「店ではたらく人と様子」』の授業実施（各人）
・授業の振り返り、改善点などの考察
第 9 回　５年指導計画と学習指導案立案Ⅰ
・単元『未来を支える食料生産「水産業のさかんな地域」』
・模擬授業の準備、学習指導案、授業細案の作成等
第 10 回　５年指導計画と学習指導案立案Ⅱ
・単元『未来を支える食料生産「水産業のさかんな地域」』
・模擬授業の準備（掲示物、板書計画、ワークシート、資料収集等）
第 11 回　模擬授業、事後研究Ⅰ
・単元『未来を支える食料生産「水産業のさかんな地域」』の授業実施（各人）
・授業の振り返り、改善点などの考察
第 12 回　模擬授業、事後研究Ⅱ
・単元『未来を支える食料生産「水産業のさかんな地域」』の授業実施（各人）
・授業の振り返り、改善点などの考察
第 13 回　模擬授業、事後研究Ⅲ
・単元『未来を支える食料生産「水産業のさかんな地域」』の授業実施（各人）
・授業の振り返り、改善点などの考察
第 14 回　模擬授業と検討Ⅰ
・発問、進め方、話し方等
第 15 回　模擬授業と検討Ⅱ

・板書内容、教師の動き、働きかけ等

〔成績評価〕

・模擬授業への取組態度４０％、期末試験６０％の総合判定。

〔教科書〕

・小学校社会３・４年上、５年上（教育出版）

・小学校学習指導要領解説社会科編（平成２９年３月告示、文部科学省））

・授業中に適宜資料を配布

〔参考文献〕

・小学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）

・小学校社会教師用指導書３・４年上、５年上（教育出版）

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、社会、小一種、必修

【実務経験の活用】

小学校教諭経験の教員が、社会科の科目について学習指導要領に示されている社会科教育内容を構成する方法など現場に沿った内容で指導する。

〔オフィスアワー〕

・後期

・曜日､時間：対面授業日は、13：40～14：40・授業終了後（13：40～14：40）、講義教室で対応します。（事前にメールで内容をお知らせください。）

・対面授業日以外はメールで受け付けます。次回の授業までに回答します。

・連絡先：sunako@ashiya-u.ac.jpにメールかPhollyのメッセージで質問・相談をして下さい。

演習Ⅱ【臨床心理学研究】

8441
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
林　　知代

〔到達目標〕

ゼミの研究活動を通して「必要な能力と心理的問題への関心の意識化・明確化」を身につける。

＜課題を見つけるための事象への関心と課題を深める能力＞

〔授業の概要〕

研究方法としては、文献研究だけにとどまらず、観察・実験・調査など実証的な方法以外に半構造化面接法や臨床心理学では重要な事例研究法など、幅広くある研究法を学びます。このような研究対象と研究方法の広がりのなかで、受講生一人ひとりの自由な問題関心にもとづき、文献レビュー、卒論研究、さらに卒業論文に関わる研究と執筆への展開に進んでいきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業毎に自分の論文課題を出します。それが予習となります。復習は論文の進行に沿って修正をします。

〔授業計画〕

第 1 回　研究実践　1
研究実践を進めていきます。

第 2 回　研究実践　2
研究実践を進めていきます。

第 3 回　研究実践　3
研究実践を進めていきます。

第 4 回　研究実践　4
研究実践を進めていきます。

第 5 回　考察　1
考察を仕上げていきます

第 6 回　考察　2
考察を仕上げていきます。

第 7 回　考察　3
考察を仕上げていきます。

第 8 回　考察　4
考察を仕上げていきます。

第 9 回　終章
終章を仕上げます。

第 10 回　論文仕上げ
完成論文の形にしていきます。

第 11 回　論文仕上げ
完成論文の形にしていきます。

第 12 回　発表　1
論文発表をします。

第 13 回　発表　2
論文発表をします。

第 14 回　発表　3
論文発表をします。

第 15 回　総括
振り返りをします。

〔成績評価〕

卒論が完成に至るまでの研究計画，実施，及びデータ分析の過程や妥当性が評価の基準となります。取り組みの姿勢も含みます。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

演習Ⅰ【臨床心理学研究】

8340
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
林　　知代

〔到達目標〕
ゼミの研究活動を通して「必要な能力と心理的問題への関心の意識化・明確化」を身につける。
　課題を見つけるための事象への関心と課題を深める能力を身につける。

〔授業の概要〕
研究方法としては、文献研究だけにとどまらず、観察・実験・調査など実証的な方法以外に半構造化面接法や臨床心理学では重要な事例研究法など、幅広くある研究法を学びます。このような研究対象と研究方法の広がりのなかで、受講生一人ひとりの自由な問題関心にもとづき、文献レビュー、卒論研究、さらに卒業論文に関わる研究と執筆への展開に進んでいきます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業論文作成に即し個々に伝えます。
〔授業計画〕
第 1 回　半構造化面接
　　代表的なインタビュー面接法について学びます。
第 2 回　論文の題名　1
　　自分の論文の題名候補を考えます。
第 3 回　論文の題名　2
　　表紙を作成します。
第 4 回　序章作成　1
　　序章の 書き方について説明します。
第 5 回　序章作成　2
　　序章を書いていきます。
第 6 回　序章作成　3
　　序章を書いていきます。
第 7 回　序章作成　4
　　序章を書いていきます。
第 8 回　発表　1
　　ここまでできたところを発表します。
第 9 回　発表　2
　　ここまでできたところを発表します。
第 10 回　発表　3
　　ここまでできたところを発表します。
第 11 回　発表　4
　　ここまでできたところを発表します。
第 12 回　章立ての作成　1
　　章立ての説明をします。
第 13 回　章立ての作成　2
　　章立てを完成させていきます。
第 14 回　章立ての作成　3
　　章立てを完成させていきます。
第 15 回　章立ての作成　4
　　章立てを完成させていきます。
〔成績評価〕
授業への取り組み姿勢：通常点（40%）
第15回目　提出論文（60%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

肢体不自由児の教育Ⅱ

1607
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
橋本　　正巳

〔到達目標〕
○肢体不自由児の指導実践における理論や方法論を理解し、事例を通して具体的な指導と支援の実際を学び、自立活動の相互関連性とＰＤＣＡサイクルを踏まえた根拠のある指導・支援ができるような実践的な力量を習得する。
・肢体不自由の理解を基本に据え、特別支援教育の観点から、肢体不自由児の実態把握、実践における理論や指導方法・内容を理解する。
・事例を通して具体的な指導と支援の技能を習得し、実際に指導モデルを提案する。
・個別の指導計画の作成を通してＰＤＣＡサイクルの実践体系を身に付け、実際に事例に合わせ作成し説明する。。
・教員として人間性も含めた専門性を習得する。
〔授業の概要〕
○肢体不自由児の指導について、自立活動の指導を中心に、①トップダウン、ボトムアップの観点、②自立活動の相互関連性、③自立活動の指導における配慮事項を踏まえ、個別の指導計画、個別の支援計画の作成を通して、ＰＤＣＡサイクルの実践体系として学び、教員としての専門性を修得する。
・肢体不自由児の実態把握、実践における理論や指導法・内容を参考文献を通して説明する。
・事例を通して具体的な指導と支援の実際を、実技を通して具体的に提案し、実際にグループワークにより指導モデルを作成する。
・個別の指導計画の作成を通してＰＤＣＡサイクルの実践体系を実践例を挙げプレゼンテーションにより説明する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎日授業終了後、復習時間の課題を設け（90分）、次回授業日に小テストを行い確認する。
前日には予習項目を提案し、予習後（90分）、次回授業日に、質疑応答にて確認する。
〔授業計画〕
第 1 回　肢体不自由児の発達と特性理解

肢体不自由児の発達的観点からの項目毎の特性理解と指導の手立て
第 2 回　自立活動の相互関連性と一般化
自立活動の６つの内容の相互関連的理解と教育活動全体における一般化の理解
第 3 回　肢体不自由児の指導１：運動・動作
肢体不自由児の運動・動作を中心とした基本的指導技法の理解と実際
第 4 回　肢体不自由児の指導２：感覚・知覚
肢体不自由児の感覚・知覚を中心とした指導理論の理解と実際
第 5 回　肢体不自由児の指導３：認知・コミュニケーション
肢体不自由児の認知・コミュニケーション機能の理解と指導の実際
第 6 回　肢体不自由児の指導４：言語
肢体不自由児の言語機能と言語指導の理論と実際
第 7 回　肢体不自由児の指導５：食事
肢体不自由児の摂食指導の理論と実際
第 8 回　肢体不自由児の指導６：教科等
肢体不自由児の教科指導における姿勢及び認知機能の理解と指導
第 9 回　重度・重複障害児の指導と医療的ケア
重度・重複肢体不自由児の指導の実際と医療的ケアの実際
第 10 回　個別の指導計画の作成
個別の指導計画の作成手順の理解と作成の実際
第 11 回　個別の教育支援計画の作成
個別の教育支援計画の作成の実際
第 12 回　地域のセンター的役割の実際
肢体不自由特別支援学校の地域におけるセンター的役割の基幹を担う巡回相談を通したコンサルテーションの実際
第 13 回　事例検討１：理解
実践例から指導方法、内容の理解
第 14 回　事例検討２：指導計画
事例提案し、指導方法・内容を決め指導計画の作成。
第 15 回　まとめ
総括

〔成績評価〕
試験・レポートを中心に、学習への参加度による総合評価
筆記試験70%、レポート20%、
授業への取り組み10%

〔教科書〕
各講義毎に資料をを配付する。

〔参考文献〕
安藤、藤田編：よくわかる肢体不自由教育
ミネルヴァ書房
橋本著：気になる子どもの支援ハンドブック
橋本編：気になる子どもの支援ハンドブックⅡ
橋本編：障害の重い子どもへのかかわりハンドブック　全国心身障害児福祉財団

〔履修条件〕

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【肢体不自由者】、含む領域【／】、特支一種、必修

〔オフィスアワー〕
授業後

障害児臨床

1026
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
浜崎　仁子

〔到達目標〕
・自閉スペクトラム症をはじめとする発達障害の子どもの実態を理解する。
・発達障害の子どもの指導・支援について、具体的な事例から学び、自己の考えを深める。
・発達に応じた個別の指導計画の作成を通して、子どもの将来を見据えた指導力を身につける。

〔授業の概要〕
・発達障害についての概要講義と疑似体験を通して理解を深める。
・各種発達検査について調べ、グループ発表をする。
・教育現場における発達障害の子どもの指導について、個別の指導計画を作成し、発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・次時の授業に向けての予習（宿題）はその都度指示する。
・発達特性のある子どもと実際に触れ合い、行動特性・思考特性・感覚特性等、個人の特性を理解し、その子に対する指導の在り方について考える。身の回りに発達特性のある子どもがいない場合は、ネット等で事例を探して指導の在り方について考える。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス　発達障害についての概要①
・授業のテーマ・予定等、演習方法や評価方法について知る。
・自己紹介を兼ねて、自分の中の強い部分と弱い部分について考え発表する。
・発達障害についての定義と、関連する法律について知る。
第 2 回　発達障害についての概要②
・発達障害の特性について調べたり疑似体験をしたりして理解を深める。
・発達障害に関わる当事者（保護者・教師・本人）の記録を読み、具体的な質問事項や疑問を考える。
第 3 回　発達障害についての概要③

・発達障害の子どもを取り巻く現状について知り、教育支援、福祉支援を考える。
・教育現場での具体的指導（発達障害児への直接的な指導と健常児に対する障害観教育）について学ぶ。

第 4 回　発達障害者及び保護者や教師の思いを知る
・第２回の質問や疑問について、当事者（保護者・教師・本人）からの回答をもとに現状と今後の展望について考える。

第 5 回　指導・支援のための個別の指導計画①
・発達障害の子どもに対する指導・支援のための「個別の指導計画」について知り、学習指導・自立活動の指導等、具体的な指導方法についての演習を行う。

第 6 回　子ども理解のための発達検査について
・幼児・児童・生徒理解のための発達検査について調べたことを元に概観する。
WISC-4　新版K式　K-abc等

第 7 回　指導・支援のための個別の指導計画②
・個々に作成した「個別の指導計画」について、アドバイスをもとにより良いものに修正する。

第 8 回　まとめ
・今までの学習内容についての知見をもとに、今後の自分像を描く。

〔成績評価〕
・毎回の授業内容についてのレポート課題　70%（10%×7回）
・最終レポート課題　30%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
・特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（平成30年３月告示、文部科学省）
・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（平成30年３月告示、文部科学省）
・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（平成30年３月告示、文部科学省）
・授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【重複・LD等領域】、含む領域【肢体不自由者病弱者】、特支一種、必修

〔オフィスアワー〕
①後期
②火曜日：11：30～12：00
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。
④h-hamasaki@ashiya-u.ac.jp

家庭概論

5013
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
島岡　　敦子

〔到達目標〕
・社会的なニュースに関心を寄せて、家庭生活、衣生活、食生活、住生活、消費生活において　子どもたちの置かれている現状と課題を把握し、指導上の留意点を理解することができる。
・家庭・衣食住・消費生活と環境において学生自身の生活を見つめて課題を把握し、具体的な　課題解　決策を実践し、報告会でみんなが共有できるように伝えることができる。
・グループで協力してミシン実習や調理実習を行って実習の楽しさをを味わいながら、児童の　安全に配慮した指導のポイントをつかむことができる。

〔授業の概要〕
現代の子どもたちの家族や家庭生活の在りかたで社会的に課題になっていることを、新聞記事やニュースを基に意識しながら、その課題を解決するために子どもたちにどのような学びをさせていけばよいかということを一貫して考えさせる。
さらに、授業を通して学生自身の家庭生活（一人暮らしや寮生活も含めて）見つめ直し、生活上の課題を発見してその課題解決の具体的な方策を考えて実践していくよう意識を高める。
そうして、実践した課題解決策と実践した結果改善できたことを報告し合って、仲間と共有していく学びの方法を身に付けさせる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習内容に関連した社会的なニュースを読んでおく。（予習）
自分の家庭生活を見つめて生活上の課題を見つける。（予習・復習）
生活上の課題解決の具体的方策を考えて、日々実践する。（予習・復習）
生活上の課題解決に取り組んだ経緯や結果についての発表内容をまとめておく。（予習）

〔授業計画〕
第 1 回　小学校家庭科の役割
指導要領改訂の趣旨に沿って、小学校家庭科の役割について考える。

第 2 回　「家族・家庭生活」の指導
家族と家庭生活の現状と課題を把握し、小学校で指導する内容を理解する。

第 3 回　衣生活の現状と課題
依生活の現状と課題を把握し、衣服の働きや手入れについて理解を深める。

第 4 回　依生活の指導
小学校で取り扱う布を用いた製作学習の内容を把握し、手縫いとミシン縫いの基礎を理解する。

第 5 回　ミシン縫いの指導

小物（ポケットティッシュカバー）製作の実習を通して、ミシン各部の機能と操作について指導上の留意点を理解する。

第 6 回　製作実習?
ネームプレート製作の活動を通して、ボタン付けと手縫いの基本的な技能を習得させる指導方法理解する。

第 7 回　製作実習②
生活に役立つ小物の製作活動を通して、実習計画の立て方や指導上の留意点について理解する。

第 8 回　食生活の指導
食生活の現状と課題を把握し、食事の大切さについて理解を深める。

第 9 回　食育指導
神戸市の小学校現場で行われているフードモデルを用いた食育を体験し、５大栄養素や食事の役割について理解を深める。

第 10 回　卵と野菜の調理指導
卵と野菜の食品価値と調理方法について、指導上の留意点を理解する。

第 11 回　調理実習
卵と野菜を用いて、切る、ゆでる、炒める、焼くなどの調理の基本技能を身に付けるとともに指導上の留意点を理解する。

第 12 回　住生活の指導
採光、通風、換気等の具体的な例を通して、快適な住まい方の工夫について理解を深める。

第 13 回　消費生活・環境の指導
消費生活の現状と課題を把握し、買い物の仕方や消費者の役割について理解を深める。

第 14 回　実践報告会
各自の生活課題に関して、解決策を考えて実践してきた結果と現状について一人一人報告する。

第 15 回　まとめ
家庭概論で学び得たことを振り返り、互いに共有する。

〔成績評価〕
定期試験（筆記）５０％
製作や実習への取り組みと提出物　３０％
実践報告　２０％

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説　家庭編（平成２９年３月告示、文部科学省）
新しい家庭　5・6　（東京書籍）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、家庭、小一種、必修

【実務経験の活用】
市教委指導課の経験より、実習指導を多く取り入れて調理実習や手縫いやミシンでの製作活動を経験させ、指導上の工夫や留意点を子どもの立場で実感しながら考えさせる指導を心がけている。

〔オフィスアワー〕
日時：授業終了後
場所：各教室
質問や相談がある場合は、LMSのメッセージ機能も活用してください。

日本教育史

1028
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
廣岡　　義之

〔到達目標〕
日本における古代から現代までの教育の流れをたどり発展の軌跡を追うことによって未来の望ましい教育を構想する。

〔授業の概要〕
日本の教育を、①古代、中世の教育　②明治、大正時代の教育　③昭和、平成時代の教育と区分することによって、最終的に現代の日本の教育がどうしてこのような形で実現されているのかを再検証する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストに沿って進むので、毎回予習・復習を行うこと。
毎回発表（プレゼンテーション）を課すので、内容を事前に調べておくこと。(90分)
特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。(90分)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
講義の進め方、試験方法等について理解する。

第 2 回　古代の教育制度と教育の歴史
大和時代、奈良時代、平安時代の教育と教育制度について理解する。

第 3 回　中世の教育制度と教育の歴史
中世の教育と教育制度について理解する。

第 4 回　明治維新と教育（1）
学制、学校令について、詳細に説明することができる。

第 5 回　明治維新と教育（2）
師範学校について詳細に説明することができる。

第 6 回　近代国家の確立と教育（1）
教育勅語について詳細に説明することができる。

第 7 回　近代国家の確立と教育（2）
学校教育制度の整備と拡充について詳細に説明することができる。

第 8 回　大正ﾃﾞﾓｸﾗｼｰと教育
大正自由教育運動、八大教育主張について理解する。

第 9 回　戦時下体制の教育
国民学校と青年学校、学徒動員等、戦時体制下の特徴を説明することができる。

第 10 回　戦後の教育政策（1）
占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、について説明を加えることができる。
第 11 回　戦後の教育政策（2）
教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
第 12 回　1950～80年代の教育制度の状況
1950年代～80年代の特徴について説明を加えることができる。
第 13 回　2000年以降の教育制度の状況
2000年以降の教育改革の諸相を理解する。
第 14 回　改正教育基本法について
改正教育基本法の特徴について解説することができる。
第 15 回　教育制度と教職員
教職員をとりまく制度と環境について解説することができる。
定期試験

〔成績評価〕
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

〔教科書〕
広岡義之他著『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』ミネルヴァ書房、2019

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
Phollyのメッセージで相談・質問をしてください。

演習Ⅱ【学校教育が抱える課題とその対応】

8457
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
種々の学校教育が抱える課題を捉え、その対応策を考察する力を養う。
演習課題に取り組みながら、能動的で自立した学習者としての知見を深める。
卒業論文を作成する。

〔授業の概要〕
卒業論文作成に向けての資料収集、経過、課題など発表しながら、相互評価し合いながら個々の探求意欲を高めていく。個々の研究テーマの深化を図る。思考力、調査力、表現力を養う

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業論文作成に向けての調査研究、執筆、発表の準備

〔授業計画〕
第 1 回　中間交流③
夏季休業中の調査研究と論文の進捗状況を交流する。
第 2 回　資料収集、調査研究、執筆⑩
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 3 回　資料収集、調査研究、執筆⑪
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 4 回　資料収集、調査研究、執筆⑫
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 5 回　資料収集、調査研究、執筆⑬
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 6 回　資料収集、調査研究、執筆⑭
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 7 回　資料収集、調査研究、執筆⑮
研究テーマに関する資料収集、調査研究、執筆状況を確認し合った順番で、経過報告し合いながら卒論作成を進める。
第 8 回　中間交流③
卒業論文進捗に関する最終の交流をし、卒業論文の改善への課題を確認し合う。
第 9 回　卒業論文内容の交流
各学生の卒業論文内容を交流し合う。
第 10 回　プレゼンテーションの手順
各学生の卒業論文を発表するためのプレゼンテーションの手順を確認し合う。
第 11 回　プレゼンテーション資料作成①
パワーポイントや発表時の資料を作成する。
第 12 回　プレゼンテーション資料作成②
パワーポイントや発表時の資料を作成する。
第 13 回　プレゼンテーション資料作成③
パワーポイントや発表時の資料を作成する。
第 14 回　ゼミ内卒論発表会
本ゼミ内で卒業論文の発表会を行う。
第 15 回　児童教育学科卒業論文発表会
児童教育学科の卒業論文発表会に参加し、学生の研究成果をプレゼンテーションする。

〔成績評価〕
卒業論文への取組み　50%
卒業論文の内容及びプレゼンテーション　50%

〔教科書〕
適宜授業中に配布する

〔参考文献〕
適宜授業中に配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　　研究室11

キャリア基礎　児童

8145
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
竹安　知枝　渡　康彦　中村　整七

〔到達目標〕
種々の体験を通して、個々のキャリアデザインの基礎を構築する。
幼児・児童に関わる教育者に必要な基礎知識を学ぶ。
教育者に必要な資質、能力の基礎を身に着ける。
〔授業の概要〕
大学共通のテーマに基づく、講義や演習の機会を複数設け、大学生としての一般常識を修得する機会とする。
体験型の授業と振り返りを通して、理論と実践力を身に着けていく。
グループ活動など学生の能動的かつ自立的な学習を継続していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習・準備（2時間）
各回で取り上げる内容について、事前に自分で調べて項目別に記録しておく。
復習（2時間）
その日に学んだ内容に関して、重要な要素について再度確認し、今後の課題について明確にする。
〔授業計画〕
第 1 回　授業の概要・リーダーシップ論
授業の概要
リーダーシップとは
自分の特性について
第 2 回　キャリア形成①（SPI、就職、教職試験対策）
社会人に必要とされるスキルとは
就職・教員採用試験とは
第 3 回　学園祭について
学園祭とは
学園祭の企画・運営について
第 4 回　社会保障制度について
社会保障制度とは
社会保障制度の目的と仕組み
第 5 回　一般教養①
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 6 回　一般教養②
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 7 回　一般教養③
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 8 回　一般教養④
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 9 回　一般教養⑤
教科書を使って、児童教育に必要な基礎知識を学ぶ。
第 10 回　キャリア形成②
働くことの意義
様々な職業について
第 11 回　キャリア形成③
就職活動・教員採用試験までの流れ、SPI対策など
第 12 回　裁判員制度について
裁判員制度とは
裁判員制度の目的と仕組みについて
第 13 回　図書館について
図書館の活用方法
図書の検索方法
第 14 回　キャリア形成④
就職内定者・教員採用試験合格者・インターンシップ経験者（先輩）による講話
第 15 回　後期の振り返り・レポートについて
後期の授業について振り返る
レポートについて
〔成績評価〕
レポート評価100%
小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価を行う。
授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
〔教科書〕
大学生活入門
～幼・小・特支教員、保育士を目指す学生のためのキャリアデザイン～　（開成出版）
〔参考文献〕
適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

演習Ⅰ【学校教育が抱える課題とその対応】

8356
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
丹下　秀夫

〔到達目標〕
種々の学校教育が抱える課題を捉え、その対応策を考察する力を養う。
演習課題に取り組みながら、能動的で自立した学習者とし

ての知見を深める。
卒業論文の研究テーマを決める。
〔授業の概要〕
課題図書を輪読する。演習課題を調査研究し、相互評価し合いながら個々の探求意欲を高めていく。個々の研究テーマの具現化を図る。思考力、調査力、表現力を養う。
基本的に、「輪読・課題発見、課題解決方法の探求、レポート発表」を繰り返す。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
演習課題を調査研究し、ゼミでの輪読に臨むこと。そして、毎時の振り返りを整理すること。
〔授業計画〕
第 1 回　自由研究課題の発表と交流
学生個々の夏季研究内容の発表と交流。後期、課題図書の選定及び輪読の割り当てを決定する。
第 2 回　輪読と課題発見①
学生全員で課題図書の輪読。輪読箇所についての内容整理。課題提示とその解決に向けての資料収集方法と担当の確認。
第 3 回　課題提示と解決のための資料交流①
前時に決めた担当から課題解決のための資料を提示し、討論をする。
第 4 回　レポート発表①
前時討論のまとめのレポートを交流する。
第 5 回　輪読と課題発見②
学生全員で課題図書の輪読。輪読箇所についての内容整理。課題提示とその解決に向けての資料収集方法と担当の確認。
第 6 回　課題提示と解決のための資料交流②
前時に決めた担当から課題解決のための資料を提示し、討論をする。
第 7 回　レポート発表②
前時討論のまとめのレポートを交流する。
第 8 回　輪読と課題発見③
学生全員で課題図書の輪読。輪読箇所についての内容整理。課題提示とその解決に向けての資料収集方法と担当の確認。
第 9 回　課題提示と解決のための資料交流③
前時に決めた担当から課題解決のための資料を提示し、討論をする。
第 10 回　レポート発表③
前時討論のまとめのレポートを交流する。
第 11 回　卒業論文作成の手順
過去の論文を読み、卒業論文作成の手順を確認する。
第 12 回　マッピング
卒業論文のテーマ探索のためのマッピングを行う。
第 13 回　マッピンングの交流
各自のマッピングを発表し、相互評価を行う。
第 14 回　研究テーマ発表
学生個々の研究テーマと調査研究の方法を交流する。
第 15 回　まとめ
後期のまとめのレポートを作成する。
〔成績評価〕
レポート50%　意欲・態度50%
〔教科書〕
適宜資料を配布する
〔参考文献〕
適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　研究室11

社会福祉

5311
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
武並　朋美

〔到達目標〕
社会福祉とは何かを考え、そのうえで、社会福祉の歴史や制度、実施体系等を学び、日常の暮らしと社会福祉のつながりを理解することができる。
子ども家庭支援の視点や意義を理解し、それを具現化するための保育士として求められる相談援助の基本を学ぶ。
共生社会の実現に向け、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉にも理解を深める。
〔授業の概要〕
日常の暮らしの中で起こるさまざまな事例を通し、社会福祉の意義やその制度や法律、サービスなどを理解できるようにする。
保護者や地域住民の子育て支援を担う保育士に求められるソーシャルワークの基礎を、ワークを取り入れながら学ぶ。
授業内で意見交換できる時間を設ける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストの予習（該当範囲を読む）
授業内で出された課題に取り組む
〔授業計画〕
第 1 回　社会福祉とは
社会福祉とは何か、社会福祉の理念を学ぶ。
ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、エンパワメント、権利擁護について概要を学ぶ。
第 2 回　保育と社会福祉
私たちが暮らす社会とは、少子高齢化、都市化、過疎化、家族や世帯の変化など現代社会の特徴や課題を理解し、社会福祉の必要性を理解する。
第 3 回　社会福祉の歩み
日本と海外の社会福祉の歴史的な流れを把握することができる。
第 4 回　社会福祉の制度と法体系
社会福祉に関する法律や制度の種類や役割について基礎的な知識を身に付ける。

第 5 回　社会福祉の実施機関と行財政
社会福祉の実施機関である行政機関、民間専門機関等ついて学び、社会福祉の行財政のしくみを理解する。
第 6 回　社会福祉の施設と専門職
社会福祉施設の種類、概要を学ぶ。
対人援助における専門職の資格や定義、役割を理解する。
地域における多職種及び、地域との連携・協働の動向を知る。
第 7 回　暮らしを支える社会保障制度
わが国の社会保障の体系、社会保険制度の内容を学び、どのように私たちの暮らしを守っているかを理解する。
第 8 回　子ども家庭支援と社会福祉
子どもを取り巻く社会的課題を考え、子ども家庭支援の意義、子どもと家庭を支える制度や方法について学ぶ。
第 9 回　保育とソーシャルワーク
相談援助の意義、理論、機能について学ぶ
保育士に求められるソーシャルワークについて理解する。
第 10 回　相談援助の方法と技術1
相談援助の展開過程、技術やアプローチ方法を学ぶ。
第 11 回　相談援助の方法と技術2
保育所での様々な場面において、保育士としてどのように相談援助を展開していくか、事例を通して考える。
第 12 回　福祉サービスの利用支援と権利擁護
権利擁護とは何かを考え、社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みを学ぶ。
第 13 回　共生社会と障害者福祉
障がいのとらえ方と障がい者の現状を学ぶ。障がい者福祉の法律や共生社会の実現に向けた取り組みについて学ぶ。
第 14 回　高齢者の福祉と介護保険
高齢者の現状を知り、高齢者保健福祉の法制度や介護保険制度について学ぶ。地域共生社会に向けた動向について学ぶ。
第 15 回　地域福祉の推進
地域福祉とは何かを学び、その担い手や推進方法を学ぶ。
保育所における地域子育て支援を考える。

〔成績評価〕
定期試験　50%
平常点（意見交換での発言、課題への取り組み等）30%
ミニテスト20%

〔教科書〕
みらい×子どもの福祉ブックス 「社会福祉」 志濃原亜美編　株式会社　みらい

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
学期：後期
時間：水曜日13:50～15:20
場所：研究室
来所の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ってください

社会的養護Ⅰ

6004
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　前期
武並　朋美

〔到達目標〕
①社会的養護とは何か、その意義や歴史的変遷、制度や実施体制を理解する。②社会的養護の対象となる子供たちの現状と背景を理解する。③子供の権利について考察し、社会的養護の担い手である、保育士、専門職としての倫理観や役割を理解する。
自分の考えや意見を述べることができるようになる。

〔授業の概要〕
「子どもの権利擁護」を中心に、社会的養護の基本的な原理原則、しくみや制度を理解し、社会的養護における専門職としての倫理観を含む基本的な児童との関わりかたを考察し理解できるよう、視聴覚教材やワークを取り入れながら授業を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストの予習（該当範囲を読む）、授業内で出された課題に取り組む

〔授業計画〕
第 1 回　社会的養護とは(概要)
社会的養護とは何かを学び、その基本的理念と基本原理を理解する
第 2 回　現代社会における社会的養護のニーズ
社会的養護を必要とする子どもの現状と児童養護問題の発生背景から対象となる子供と家庭、地域について理解する。
第 3 回　社会的養護のあゆみ
欧米における社会養護の歴史、我が国における社会的養護の歴史を学ぶ。またその歴史をふまえ、子ども観の変遷について理解する。
第 4 回　子どもの権利擁護
子どもの権利とは何かを考察し、社会的養護としてどのようにその権利を保障していくのか、子どもの権利擁護の取り組みについて学ぶ。
第 5 回　被措置児童等の虐待防止
子どもの虐待とは何かを理解し、虐待の現状を知り、その発生要因や課題について考察する。
第 6 回　社会的養護の制度と法体系

社会的養護の制度とその背景、児童福祉法の概要や関連法規を学び、我が国の社会的養護の制度と法体系について理解する。

第 7 回　社会的養護の基本的な仕組みと実施体制
施設養護、家庭養護、在宅支援の社会的養護の体系を知り、その実施体制と関わる専門機関について理解する。

第 8 回　社会的養護の領域と概要①
家庭養護（里親、ファミリーホーム、養子縁組）の基本原則と現状、課題について理解する。

第 9 回　社会的養護の領域と概要②
施設養護の特質や展開過程を知る。乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設におけるそれぞれの施設の目的と支援内容、課題を学ぶ。

第 10 回　社会的養護の領域と概要③
障害児の入所支援の目的と現状を理解し、児童心理治療施設、児童自立支援施設、自立援助ホームにおけるそれぞれの施設の目的と支援内容を知る。

第 11 回　児童養護施設の入り口と出口、支援者のできること
ＤＶＤを鑑賞し、そこから虐待、児童養護施設での生活や子どもの気持ちを考え、支援者としてできること、大切にしたいことを考え、発表する。

第 12 回　社会的養護にかかわる専門職
社会的養護に求められる専門性や資格、児童福祉施設の専門職の種類や役割を学ぶ。
施設の運営管理について学ぶ。

第 13 回　社会的養護とソーシャルワーク
社会的養護の対象者を支援する手段・方法としてさまざまな場面で用いられるソーシャルワークの援助技術、援助過程を学ぶ。

第 14 回　社会的養護における保育士等の倫理と責務
対人援助を行う専門職に求められる倫理とは何かを学び、社会的養護における保育士の役割について、話し合い、理解を深める。

第 15 回　社会的養護と地域福祉
地域福祉とは何かを理解する。社会的養護関係の施設の機能を発揮し、地域における子育て支援の役割について学ぶ。

〔成績評価〕
定期テスト 50%
平常点（授業内での発言、課題への取り組み）30%
ミニテスト 20%

〔教科書〕
大竹智、山田利子編集 「学ぶ・わかる・みえる保育と社会的養護Ⅰ」 みらい

〔参考文献〕
適宜資料を配布する

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
時間：前期　水曜日13:50～15:20
場所：研究室
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ってください

視覚障害児の教育

1601
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
1単位　後期
実務経験有
川上　　裕子

〔到達目標〕
・視覚障害のある幼児・児童・生徒について、支援の実際を理解する。
・通常学級における、視覚障害児者への具体的な教育法や配慮すべき内容について、学び、考える。
・視覚障害者との交流を通じ、支援教育にフィードバックする。

〔授業の概要〕
・視覚障害教育、特に、自立活動において大切なことを、点字や歩行介助の実習を通じ、具体的に理解する
・視覚障害模擬体験を通じ、教材の工夫や具体的な支援法について考える。
・視覚障害者と交流し、社会環境やバリアフリーなどについて、意見交換し、そこから支援教育のありかたを考える。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
点字の50音表記（凹面）を、事前に予習しておく。
翌日提出の課題と、その課題の発表も行う。

〔授業計画〕
第 1 回　視覚障害、視覚障害教育の概要
視覚障害について、視覚障害教育の概要について、教材の工夫や補助具についても学ぶ。

第 2 回　視覚障害教育における自立活動の具体的な内容
視覚障害教育における自立活動の重要なポイント、具体的な内容を学び、点字の実技実習も行う。点字実技内容は提出する。

第 3 回　視覚障害者との交流Ⅰ
ゲストティーチャーの講話から、弱視の見え方、視覚障害者の暮らしと進路、バリアフリーについてなどを学び、考え、意見交換を行う。

第 4 回　視覚障害者との交流Ⅱ
アイマスク体験を通じ、生活の中での気づきを、障害者とも意見交換し、視覚障害教育に活かすポイントを考える。課題予告。

第 5 回　社会や教育の中での支援について
視覚障害者の手引きと、戸外での支援の声かけについて、介助実習を行い、役割を交代して、アイ

マスク体験も行う。課題について各自発表し、提出。
第 6 回　視覚障害の見え方体験
視覚障害疑似体験のためのキットを使い、教室の中での見えにくさについて体験し、気づいたことや、教育に活かせることを意見交換する。
第 7 回　通常の学級における視覚障害教育
ここまでの授業をふまえ、通常の学級において、視覚障害のある子どもたちが困っていること、その解決法、配慮すべき点などを、課題に応じて具体的に考え、意見交換する。
第 8 回　視覚障害児の教育について、まとめ
視覚障害教育におけるポイントのまとめとレポート提出。

〔成績評価〕
授業への取り組み・発表　20%
授業内提出物　20%
授業外提出物　10%
試験・課題レポート　50%

〔教科書〕
以下の資料も含め、授業中に適宜資料を配布する

特別支援学校学習指導要領（平成30年３月告示、文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（平成30年３月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【視覚障害者】、含む領域【／】、特支一種、必修

【実務経験の活用】
・視覚障害児への支援の具体的な方法や、自立活動の内容、盲学校での様子、弱視学級や通級の具体的な支援方法を紹介する。
・視覚障害者のコミュニケーションツールである、点字について、実際に点字盤で打ってみる。歩行介助についても、アイマスクを使い体験する、などを指導する。

〔オフィスアワー〕
集中講義の日程に合わせ、講義の前後に時間を設定する。
必ずFhollyのメールを通じ、質問の内容や時間などを連絡、相談、確認すること。
場所は、講義教室。

演習Ⅱ【運動指導】

8467
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
竹安　　知枝

〔到達目標〕
・論文執筆に関する知識を身に付ける。
・論文を執筆するために必要とされる基本的技能について身に付ける。
・プレゼンテーションの基本的スキルを身に付ける。

〔授業の概要〕
卒業論文の構成（章立て等）について確認する。先行研究（文献調査）を行い、実験内容についてまとめて、全体でディスカッションする。そして、本文の構成を具体的に決め、執筆作業を行う。最後に卒論発表会で発表を行い、振り返りを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】子どもの発達や運動指導に関する文献調査を行うこと。（２時間）
【復習】その日に取り組んだ内容についてまとめること。また、今後の課題について明確にすること。（２時間）

〔授業計画〕
第 1 回　授業の進め方・卒業論文の執筆①
授業の進め方
論文の構成について確認する・文献調査を行う
第 2 回　卒業論文の執筆②
目的・調査方法について書く
文献調査を行う
第 3 回　卒業論文の執筆③
調査結果について書く
（分析結果について、図表を作成する）
第 4 回　卒業論文の執筆④
アンケート結果に関する考察を書く
第 5 回　卒業論文の執筆⑤
体力結果に関する考察を書く
第 6 回　卒業論文の執筆⑥
まとめと今後の課題について書く
全体（文章・文献・図表等も含め）の流れについて確認する
第 7 回　卒業論文の校正①
本文の確認（文章表現の確認）
第 8 回　卒業論文の校正②
本文の確認（文章表現の確認）
図表・文献の確認
第 9 回　卒業論文の校正③
本文の確認（文章表現の確認）
資料・目次・表紙等の確認
第 10 回　卒業論文の校正④
本文・参考文献等、全体の確認を行う
第 11 回　卒業論文の最終確認
卒業論文の最終確認を行う
グループごとに確認を行う

第 12 回　卒業論文の発表準備①
卒業論文の発表に向けて、パワーポイントを作成する
第 13 回　卒業論文の発表準備②
卒業論文の発表に向けて、練習と最終確認を行う
第 14 回　卒業論文の発表
卒業論文の発表を行う
第 15 回　卒業論文の発表・まとめ
卒業論文の発表とディスカッションを行う
全体のまとめ

〔成績評価〕
卒業論文（80%）
学習意欲・授業態度（20%）

〔教科書〕
【体育編】小学校学習指導要領解説（平成29年告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00〜17:00　【後期】月曜日:16:00〜17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

幼児体育

4231
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
竹安　　知枝

〔到達目標〕
・幼児期の子どもにとっての運動遊びの重要性について説明できる。
・運動の指導スキル（幼児の発達年齢に応じた段階的な指導方法）を身に付ける。
・幼児期における多種多様な運動遊びに関する指導方法について興味・関心を示す。

〔授業の概要〕
実技を中心に行うが、グループごとに実技の練習方法や指導方法について、ディスカッションし、全体で発表を行う。実技においては、ボールやフラフープを使用した遊びや器械・器具を使った運動遊びを中心に、それらの指導方法について実践的に学ぶ。
講義においては、主に「幼児期の運動（遊び）の重要性」「安全対策」に関する知識について取り上げる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】準備運動をしっかりと行い、その日に実施予定の実技の練習も行うこと。また、その日に実施する運動の特徴や環境構成・安全対策についても調べておくこと。（２時間）
【復習】授業内容について自分なりにまとめること。また、苦手な運動種目については、授業後に練習を行い、ストレッチ体操も十分に行うこと。（２時間）

〔授業計画〕
第 1 回　①授業の概要　②幼児期の発育・発達
①授業の概要・評価について
②幼児期における心身の発達について
第 2 回　多様な動きを身につける遊び①
バランス能力を養う遊び
第 3 回　多様な動きを身につける遊び②
音楽を用いた（リズム感覚を養う）遊び
第 4 回　ごっこ遊び
いろいろな鬼ごっこの遊び方
第 5 回　ボール遊び①
０〜２歳児向けのボール遊び
第 6 回　ボール遊び②
３〜５歳児向けのボール遊び
第 7 回　縄跳び運動（短縄）
前跳び・後ろ跳びができるようになるための段階的な遊び
第 8 回　縄跳び運動（長縄）
長縄を用いた年齢別の遊び方や指導方法
第 9 回　フラフープ遊び
フラフープ（大・小）を用いた様々な遊び
第 10 回　マット運動・跳び箱運動
前転・後転・側転等の指導方法
跳び箱の指導方法
第 11 回　鉄棒・平均台
鉄棒や平均台を用いた遊びと指導方法
第 12 回　パラバルーン
パラバルーンの遊び方と指導方法
第 13 回　サーキット遊び
多種多様な動きの組み合わせによる遊びの展開
第 14 回　幼児期の運動（遊び）の重要性・安全対策
幼児期の遊び（運動）が心身に与える影響について
安全対策（遊具の安全点検・応急処置等）について
第 15 回　振り返りとまとめ
様々な場面における運動（遊び）について（ディスカッション）
全体の振り返りとまとめ（発表）

〔成績評価〕
実技テスト　50%
提出物（レポート）30%
学習意欲・授業態度　20%

〔教科書〕
幼稚園教育要領（平成29年3月）文部科学省

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
領域に関する専門的事項、体育、幼一種、必修

〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

演習Ⅰ【運動指導】

8365
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
竹安　　知枝

〔到達目標〕
・運動指導やボランティア活動（施設・イベント等）へ関心を示す。
・主体的に活動計画（ボランティアや運動指導等）を立てることができる。
・調査・分析（アンケート・体力測定等）に関する基本スキルを身に付ける。

〔授業の概要〕
各年代に対する運動指導の方法について、ディスカッションにより、全員で意見を出し合う。スポーツ系のイベントや障がい者のスポーツ施設等について調べて、ボランティアの活動計画を立て、計画表を作成し発表を行う。そして、ボランティア活動の後にはディスカッション形式で振り返りを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】子どもの発達や運動指導に関する文献調査を行うこと。（２時間）
【復習】その日に取り組んだ内容についてまとめること。また、今後の課題について明確にすること。（２時間）

〔授業計画〕
第 1 回　①授業の進め方　②スポーツ施設について
①授業の進め方
②スポーツ施設（障がい者スポーツ施設も含む）について調べる
第 2 回　ボランティアについて
様々なボランティア活動（スポーツイベント・災害ボランティアも含む）について調べる
第 3 回　ボランティア活動の計画①
ボランティア活動の計画を立てる
（計画書の作成）
第 4 回　ボランティア活動の計画②
ボランティア活動の計画について、各自発表を行い、全体でディスカッション（方法・準備等に関して）する
第 5 回　ボランティア活動報告①
ボランティア活動に関する報告書を作成する
第 6 回　ボランティア活動報告②
発表を行い、全体でディスカッションする
第 7 回　卒業論文の構成
卒業論文の構成について
テーマについて検討する
第 8 回　卒業論文のプロット
卒業論文のプロットについて検討する
第 9 回　調査目的と方法①
目的を明確にする・調査方法について検討する
アンケート調査と体力測定の方法について
第 10 回　調査目的と方法②
調査方法について明確にし、日程・内容等、詳細について検討する
第 11 回　研究計画書①
研究計画書の作成方法について
第 12 回　研究計画書②
研究計画書を作成する
第 13 回　研究計画の発表
発表を行い、全体でディスカッションする
第 14 回　レポートの作成
半年間の学びや活動に関するレポートを作成
全体でディスカッションを行う
第 15 回　発表・まとめ
発表（学び・活動について）
まとめ

〔成績評価〕
活動計画表（30%）
レポート（30%）
学習意欲・授業態度（40%）

〔教科書〕
【体育編】小学校学習指導要領解説（平成29年告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

初等教科教育法Ⅸ（体育）

1024
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
竹安　　知枝

〔到達目標〕
・小学校体育科の目標および内容に関して説明できる。
・小学校の体育で実践する運動種目の基本技能と指導スキルを身に付ける。
・体育を指導する教員としての資質と能力を身に付ける。

〔授業の概要〕
学習指導要領における小学校体育科の目標と運動領域に関する知識を身に付ける。そして、各運動領域については、

運動の実践やディスカッションを交えながら、それぞれの運動特性について理解を深め、運動技能についても習得していく。

また、指導案の作成や模擬授業などを通して、実践的に深く学び、指導上の留意点や授業改善の観点について考察し、ディスカッションや発表なども行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

【予習】小学校体育科の目標や内容について熟読しておくこと。また、準備運動をしっかりと行い、その日に実施予定の実技の練習もしておくこと。（２時間）

【復習】授業内容について自分なりにまとめること。また、苦手な運動種目については、授業後に練習を行い、ストレッチ体操も十分に行うこと。（２時間）

〔授業計画〕

第 1 回　①授業の概要　②学習指導要領（体育編）の内容
授業の概要・評価について
体育科の目標および内容（教科の目標・学年の目標）
各領域の内容について

第 2 回　運動領域について
運動領域の構成（各種目の運動の特性について）

第 3 回　体つくり運動・器械運動
体つくり運動・器械運動の指導法
指導上の留意点（指導方法と安全対策）について

第 4 回　陸上運動・ボール運動
陸上運動・ボール運動の指導法
指導上の留意点（指導方法と安全対策）について

第 5 回　表現運動・水遊び（水泳）
表現運動・水遊び（水泳）の指導法
指導上の留意点（指導方法と安全対策）について

第 6 回　保健領域・各領域に関する理解
健領域、各運動領域の指導法
指導上の留意点についてのまとめ

第 7 回　運動場面に応じた教材の研究
各運動場面に応じた教材の研究
教材の使用方法について（ディスカッション）

第 8 回　学習評価の考え方と授業設計
学習の評価に関する考え方について
授業の設計方法について（グループごとに話し合い、発表を行う）

第 9 回　教材の活用方法・情報機器の操作
各教材の特性について
教材の活用方法について
情報機器の操作方法について

第 10 回　模擬授業（１）（授業計画）
模擬授業の計画（テーマ・授業概要・準備物・時間配分等の確認）

第 11 回　模擬授業（２）（授業計画・指導案の作成）
指導案の作成方法について
指導案の作成

第 12 回　模擬授業（３）（授業実践）
模擬授業（内容に関して、グループごとに意見を出し合い考察する）

第 13 回　模擬授業（４）（授業実践・振り返り）
実践内容の振り返り（反省点や今後の課題について）
全体でのディスカッション

第 14 回　模擬授業（５）授業の改善
授業改善の視点について
模擬授業のまとめ

第 15 回　まとめ（実技の指導法・指導案・模擬授業）
各運動領域と指導法についての振り返り
指導案の作成・模擬授業についての振り返り
授業全体のまとめ

〔成績評価〕

提出物（指導案・レポート）50%
模擬授業 20%
学習意欲・授業態度 30%

〔教科書〕

【体育編】小学校学習指導要領（平成29年3月31日告示）文部科学省

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する.

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、体育、小一種、必修

〔オフィスアワー〕

【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

保育内容Ⅲ（環境）

1033
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
安藝　雅美

〔到達目標〕

保育における環境を具体的に考え、その重要性を確認する。また、実際の保育環境から、その意図を考え討論を行い最終的には「環境を通して行う保育」の意味を個人で再確認する。また、自分たちで理想の環境を提案し発表していくことで、これからの保育環境の形を考えていく。

〔授業の概要〕

幼児教育において、子どもの発達を助長するうえで環境の果たす役割は非常に重要である。
子どもは様々な環境に出会うことにより成長していくといっても過言ではない。それゆえ、子どもの活動を的確に見通し、流動的に保育環境を展開していく力を培っていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
特になし
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業方針の説明等
第 2 回　教育要領・保育指針
幼稚園教育要領における領域「環境」の「ねらい」・「内容」
第 3 回　保育の環境とは
保育環境の重要性と必要性を考える
第 4 回　好奇心や探究心を育てる環境とは
好奇心や探究心が芽生えるはたらきかけ
第 5 回　人的環境と物的環境
保育者や友達とのかかわりがもたらす環境とは
第 6 回　時間・空間の環境
目には見えない環境の重要性
第 7 回　保育環境を考える①
幼稚園の園庭の環境をデザイン
第 8 回　保育環境を考える②
幼稚園の園庭を各自、プレゼンテーションして発表
第 9 回　自然の環境を観察する
芦屋の自然に触れながら、動植物の観察を行う
第 10 回　幼稚園の環境を観察する
芦屋大学附属幼稚園にて、環境観察
第 11 回　遊具を考える
遊具をデザインし、各自プレゼンテーションして発表
第 12 回　遊具の安全性
遊具の安全性を理解する
第 13 回　子どもの遊びを育む保育環境①
自分の考える保育室をレイアウトしてみよう
第 14 回　子どもの遊びを育む保育環境②
自分のデザインした保育室を、プレゼンテーションして発表
第 15 回　まとめ
「環境を通して行う保育」の意味を考え、その重要性について再確認する
〔成績評価〕
授業への取組姿勢　10%
筆記試験　60%
実技試験 10%
提出物 20%
定期試験は筆記試験とする。
〔教科書〕
文部科学省 『幼稚園教育要領解説』
フレーベル館 （￥190）
〔参考文献〕
適宜配布する
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
領域及び保育内容の指導法に関する科目、保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、幼一種、必修
〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

教育実習【小学校】

1010
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
笠原　清次

〔到達目標〕
教育実習校において、児童との関わり合いを通じ、一定期間指導教員の指導及び監督のもと、小学校教員として必要な使命感、知識、指導技術、心構え、態度を修得する。
〔授業の概要〕
１.教育実習期間中に、実習生としてふさわしい態度と行動がとれるよう目的意識をもって過ごす。
２.実習校担当教員の指導のもと、自ら指導方法を考えながら学習及び生活指導を行い、小学校教員に必要な技能と知識を習得するよう努める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の学習指導案作成(120分)
授業見学・授業後のまとめ(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　教育実習校ガイダンス
学校教育目標、教育課程、地域・家庭環境等を理解する。
第 2 回　教育実習学級ガイダンス
主として教育実習を行う学級の経営目標、年間指導計画を理解する。
第 3 回　学校の課題に関わるガイダンス
学力向上、人権教育、特別支援教育、保健・安全指導、生徒指導、食育等の現状と課題を理解する。
第 4 回　観察実習１
指導教員の授業を観察実習し、授業の進め方のポイントを知る。
第 5 回　観察実習２
他学級の教員による授業を観察実習し、授業の進め方について理解を広げる。
第 6 回　観察実習３
指導教員の学級経営を観察し、児童への指導・支援の仕方を理解する。
第 7 回　観察実習４
他学級教員の学級経営を観察し、児童への指導・支援の仕方の理解を広げる。
第 8 回　授業実習１
初発の授業に取り組み、授業を進める際の自身の課題をつかむ。
第 9 回　授業実習２
２回目の授業に取り組み、成果と課題をつかむ。
第 10 回　授業実習３

３回目の授業に取り組み、課題解決方策を研究する。
第 11 回　授業実習４
研究授業に向けて学習指導案を検討し作成する。
第 12 回　授業実習５
学級指導に取り組み、成果と課題をつかむ。
第 13 回　授業実習６
他学級での研究授業に取り組み、学習指導案を検討する。
第 14 回　授業実習７
研究授業を公表して講評をいただき、教育実習のまとめとする。
第 15 回　教育実習のまとめ
教育実習の記録をまとめ、実習を仕上げる。

〔成績評価〕
実習校による評価（80%）
教育実習記録（20%）

〔教科書〕
芦屋大学教育実習ハンドブック
小学校学習指導要領及び各教科等解説編（平成29年3月・7月　文部科学省）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
①前　期：.水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

演習Ⅱ【児童理解を伴う指導力】

8461
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
中村　　整七

〔到達目標〕
小学校の教科指導，生活指導（生徒指導）及び学級経営を行うにあたり，児童理解を基に諸問題を解決する方策について考察・研究を進めることができる。
小学校教員としての実践的指導力の基礎を身に付けるための諸課題を把握し，実践的な研究を行い、論文にまとめることができる。

〔授業の概要〕
・研究論文のテーマと関わる課題の現状と課題把握に基づいた改善方策を考察する。
・研究論文のテーマに沿って，調査・研究を行う。
・テーマに係る文献を読み，論文執筆のための資料を整理する。
・研究論文の執筆を行い，完成させ、発表会を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前・事後学習は、論文執筆のための資料の収集、整理などを行う。(各2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
研究論文作成の進度を確認し合い、執筆計画を再検討する。
第 2 回　研究論文の構成
前期の調査研究の成果に基づいて、論文の構成・章立てを検討する。
第 3 回　研究論文の概要作成
構成計画を踏まえて、具体的な執筆に向けて概要をまとめる。
第 4 回　研究論文の執筆1
課題や問題点を踏まえて、研究論文の執筆を進める。
第 5 回　研究論文の執筆2
課題や問題点を踏まえて、研究論文の執筆を進める。
第 6 回　研究論文の執筆3
課題や問題点を踏まえて、研究論文の執筆を進める。
第 7 回　研究論文の執筆4
調査研究結果を踏まえて、研究論文の執筆を進める。
第 8 回　研究論文の執筆5
調査研究結果を踏まえて、研究論文の執筆を進める。
第 9 回　研究論文の執筆6
調査研究結果を踏まえて、研究論文の執筆を進め、中間報告会に向けた準備をする。
第 10 回　研究論文中間報告
論文の中間発表会をゼミ内で行い、相互に意見を出し合い、内容についての吟味を行う。
第 11 回　研究論文の執筆7
中間報告会の検討を踏まえ、研究論文の執筆を進める。
第 12 回　研究論文の執筆8
論文全体の構成を見直しながら、研究論文の執筆を進める。
第 13 回　論文完成
研究論文の構成全体を完成させ、印刷製本し、発表レジメと原稿を作成する。
第 14 回　論文発表
完成させた研究論文の発表を行い、研究内容を相互評価し、共有する。
第 15 回　学科卒業論文発表会
児童教育学科の卒業論文の発表会を行い、研究内容を互いに評価し、共有する。

〔成績評価〕
・演習での意見参画度で評価する。(20%)
・研究論文の内容で評価する。(80%)

〔教科書〕
特になし。
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

教育実習事後指導【小学校】

1004
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
実務経験有
笠原　　清次

〔到達目標〕
１．教育実習で体験した児童との関わりや学習・生活指導等について互いに伝え合うことにより、小学校教員に必要な資質について考察を広げ深める。
２．小学校教員を目指すに当たっての自己の課題をつかみ、解決方策を探求する。
〔授業の概要〕
1. 教育実習を終えた感想をまとめて交流・協議し、教員としての在り方について認識を深める。
2. 小学校教員になるに当たって共通の課題を選定し、課題ごとに協議しながら研修しまとめる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１．研修課題について文献等を用いて調べたり、学校関係者に尋ねたりして調査する。(60分)
２．研修課題を探求した成果をまとめる。(30分)
〔授業計画〕
第 1 回　教育実習に向けて
教育実習中の授業，生活指導等を想定し最終準備する。
第 2 回　教育実習報告・協議１
教育実習で体験したことを報告し合い，教員として大切にしたいこと，自らの課題を聞き合う。
第 3 回　教育実習報告・協議２
報告を続け，教員になるにあたり在学中に解決する必要があること（研修課題）を出し合う。
第 4 回　教育実習報告・協議３
さらに報告を続け，共通する研修課題（学級経営に関すること，授業づくりに関すること，生徒指導に関すること，その他必要なこと等）を選定する。
第 5 回　教育実習報告・協議４
報告をまとめ，協議して具体的な研修課題を確定する。
第 6 回　研修課題解決への取組み
研修課題の解決に向けた調査・研究の仕方を協議し，決定する。
第 7 回　研修課題１の調査
「研修課題１（これからの授業づくり)」について調査・研究する。
第 8 回　研修課題１の協議・まとめ
調査・研究にもとづき協議し，自身の考え及び取組みをまとめ表現する。
第 9 回　研修課題２の調査
「研修課題２（望ましい学級経営の在り方)」について調査・研究する。
第 10 回　研修課題２の協議・まとめ
調査・研究にもとづき協議し，自身の考え及び取組みをまとめ表現する。
第 11 回　研修課題３の調査
「研修課題３（生徒指導の課題解決に向けて)」について調査・研究する。
第 12 回　研修課題３の協議・まとめ
調査・研究にもとづき協議し，自身の考え及び取組みをまとめ表現する。
第 13 回　研修課題４の調査
「研修課題４（その他必要なこと)」について調査・研究する。
第 14 回　研修課題４の協議・まとめ
調査・研究にもとづき協議し，自身の考え及び取組みをまとめ表現する。
第 15 回　教育実習事後指導のまとめ
教育実習及び本授業を通じて考察したことに基づき，小学校教員になるにあたっての決意をまとめる。
〔成績評価〕
１．実習の報告（25%）
２．研修課題への取組み（50%）
３．授業ごとの感想（25%）
〔教科書〕
「教育実習ハンドブック」（芦屋大学）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、小一種、必修
〔オフィスアワー〕
①前　期：.水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッ

セージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

生徒・進路指導の理論と方法【初等】

2406
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
笠原　　清次

〔到達目標〕
生徒指導は、一人ひとりの人格を尊重し個性の伸張を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。そのために教育活動全体を通して行われ、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。教職員が共通理解を図り組織的な取り組みができるよう生徒指導上求められる資質や能力を身に付ける。
進路指導は、児童生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の人生によりよく適応し、能力を伸張するよう教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的視野に立った人間形成を目指す教育活動である。そのために組織的に必要な知識や素養を身に付ける。
〔授業の概要〕
生徒指導の意義と課題を確認したうえで、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関する法的制度、家庭・地域・関係機関との連携など生徒指導全般について協議し学ぶ。
進路指導では、キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動の実践、ガイダンスやカウンセリングなどの実践方法などについて協議し学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次回に学習するテキスト（生徒指導提要）ほか関係資料の該当箇所を読み、下調べをしてくること。(６０分)
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス1
生徒指導・進路指導の目標、意義を理解する。
第 2 回　ガイダンス2
生徒指導・進路指導の現状と課題を把握する。
第 3 回　生徒指導1
生徒指導の基本的な進め方を理解する。
第 4 回　生徒指導2
教育課程と生徒指導の関係を理解する。
第 5 回　生徒指導3
児童生徒理解の目的、具体的な内容を知る。
第 6 回　生徒指導4
児童生徒理解の具体的な方法を理解する。
第 7 回　生徒指導5
生徒指導における教育相談の目的と役割を理解する。
第 8 回　生徒指導6
教育相談の具体的に実践する。
第 9 回　生徒指導7
学級・ホームルーム経営と生徒指導の関係を理解する。
第 10 回　生徒指導8
個別の課題に対する生徒指導（問題行動の理解，喫煙・飲酒等）の在り方について考える。
第 11 回　生徒指導9
個別の課題に対する生徒指導（暴力行為，いじめ）について考える。
第 12 回　生徒指導10
個別の課題に対する生徒指導（児童虐待，不登校）について考える。
第 13 回　進路指導1
進路指導とキャリア教育の関係、キャリア教育の進め方を理解する。
第 14 回　進路指導2
発達段階に応じたキャリア教育の進め方を理解する。
第 15 回　進路指導3
生徒指導・進路指導にかかる教師の在り方について考える。
〔成績評価〕
確認小テスト（70%）
授業後の小レポート（30%）
〔教科書〕
生徒指導提要（文部科学省）
〔参考文献〕
授業担当者自作の講義用資料ほか関係資料を配布する。
小学校学習指導要領（平成29年3月　文部科学省）
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、生徒指導の理論及び方法、小一種、必修

【実務経験の活用】
①小学校における若手教員に対する指導経験を生かし，国語科，特別の教科道徳をはじめ、各教科等における基礎的・基本的事項を抑えた実践的な指導方法を習得するよう指導している。
②教育現場における児童への指導経験や指導主事，管理職、学校心理士として対応してきた経験の蓄積により、児童理解を深めた生徒指導の在り方について指導している。
③学校現場で長年にわたり教育実習生を育成してきた経験を生かし，学生の目的意識的な教育実習等参加の在り方について指導している。
〔オフィスアワー〕
①前　期：.水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

道徳教育の指導法【初等】

6202
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
笠原　　清次

〔到達目標〕
道徳の意義や原理等を踏まえ、教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、学校が定める全体計画、指導計画、指導の重点化等を理解するとともに、教材研究、学習指導案作成、模擬授業実践と授業評価を行うことによって、実践的な指導力を身に付ける。

〔授業の概要〕
道徳教育の意義、道徳教育の目標と内容、児童の道徳性の発達と道徳教育の在り方について理解させる。さらに、道徳教育の全体計画、年間指導計画、道徳の時間の指導内容について、主に新学習指導要領をもとに理解するよう指導する。これを基に、グループごとに協議しながら学習指導案を作成し分担して模擬授業演習を行うことによって、道徳の時間における基礎的・基本的な指導スキルを話し合いを通して確認し・習得させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
(1) テキストは，指定された箇所を事前に読んでおくこと。(３０分)
(2) 模擬授業実践のため，授業時間外に各自で練習しておく必要がある。(６０分)

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス1
道徳教育の意義、役割を理解する。
第 2 回　ガイダンス2
道徳教育上の課題をつかみ、今次の小学校学習指導要領改訂の趣旨を理解する。
第 3 回　目標
児童の道徳性の発達を踏まえ、小学校における道徳教育の目標について理解する。
第 4 回　指導内容1
小学校における道徳教育の目標に関連させ、指導内容について理解する。
第 5 回　指導内容2
道徳教育を推進する学校における全体計画及び年間指導計画の内容と意義を理解する。
第 6 回　指導内容3
教科等における道徳教育について理解する。
第 7 回　学習指導1
道徳の時間の指導項目の内容を理解するとともに、教材研究の仕方を理解する。
第 8 回　学習指導2
道徳の学習指導案作成の要領を理解する。
第 9 回　学習指導3
道徳の学習指導案を作成する。
第 10 回　学習指導4
各自が作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。（自分自身）
第 11 回　学習指導5
各自が作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。（人との関わり）
第 12 回　学習指導6
各自が作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。（集団や社会との関わり）
第 13 回　学習指導7
各自が作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。（生命や自然、崇高なものとの関わり）
第 14 回　学習指導8
模擬授業のなかから、道徳授業のポイントをまとめ理解する。
第 15 回　まとめ
これからの道徳教育の方向、要点について理解する。

〔成績評価〕
筆記試験（５０％）
模擬授業（３０％）
授業後の小レポート(２０％)

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編（平成29年7月　文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、道徳の理論及び指導法、小一種、必修

【実務経験の活用】
①小学校における若手教員に対する指導経験を生かし，国語科，特別の教科道徳をはじめ、各教科等における基礎的・基本的事項を抑えた実践的な指導方法を習得するよう指導している。
②教育現場における児童への指導経験や指導主事，管理職、学校心理士として対応してきた経験の蓄積により、児童理解を深めた生徒指導の在り方について指導している。
③学校現場で長年にわたり教育実習生を育成してきた経験を生かし，学生の目的意識的な教育実習等参加の在り方について指導している。

〔オフィスアワー〕
①前　期：.水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

演習Ⅱ【特別支援教育】

8462
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
福山　　恵美子

〔到達目標〕
卒業論文作成に主体的に取り組むことができる。
卒業論文作成の進捗状況についてまとめ、発表、意見交換を通して、適切に修正し卒業論文を完成する。
〔授業の概要〕
興味のあるニュースや新聞記事について発表し意見交換する。
手話学習
卒業論文作成の進捗状況をお互いに発表し、検討し合う。
完成した卒業論文をパワーポイントにより発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業論文発表箇所をまとめる。
発表、検討後に修正しまとめる。
〔授業計画〕
第 1 回　卒業論文作成について（1）
興味のあるニュースや新聞記事について発表し意見交換する。（以降、毎回行う）
手話学習（以降、毎回行う）
各々の進捗状況について発表し意見交換する。
第 2 回　卒業論文作成について（2）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 3 回　卒業論文作成について（3）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 4 回　卒業論文作成について（4）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 5 回　卒業論文作成について（5）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 6 回　卒業論文作成について（6）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 7 回　卒業論文作成について（7）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 8 回　卒業論文作成について（8）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 9 回　卒業論文作成について（9）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 10 回　卒業論文作成について（10）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 11 回　卒業論文作成について（11）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 12 回　卒業論文作成について（12）
完成した卒業論文の要旨をまとめる。
第 13 回　卒業論文作成について（13）
完成した卒業論文の要旨をまとめる。
第 14 回　卒業論文作成について（14）
卒業論文をパワーポイントにより発表する。
第 15 回　卒業論文作成について（15）
卒業論文をパワーポイントにより発表する。

〔成績評価〕
卒業論文作成に主体的に取組むことができる。（30%）
卒業論文の評価（70%）

〔教科書〕
適宜資料を配布
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①学期：後期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。内容によっては時間の調整可。

演習Ⅰ【特別支援教育】

8363
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
福山　　恵美子

〔到達目標〕
特別支援教育や関連する福祉分野の知識や技術を得ることにより、特別支援教育についての理解を深める。
教育、福祉を始め多様な問題に興味を持ち、意見交換を通して自分の考えをまとめる力を身に付ける。
卒業論文作成に主体的に取り組むことができる。
〔授業の概要〕
ニュースや新聞記事の感想を発表し意見交換をする。
福祉や教育の現場を実際に体験し、レポートにまとめ意見交換する。
卒業論文の研究概略を検討し、発表する。
卒業論文の進捗状況を検討、発表し意見交換を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
教育・福祉の現場体験の感想をレポートにまとめる
卒業論文作成に関して出された課題をレポートにまとめる
〔授業計画〕
第 1 回　卒業論文作成について（1）
興味のあるニュースや新聞記事について発表し意見交換する。（以降、毎回行う）
手話学習（ 以降、毎回行う）
卒業論文の研究概略を検討する。
第 2 回　卒業論文作成について（2）
卒業論文の研究概略を検討する。
第 3 回　卒業論文作成について（3）
卒業論文の研究概略を検討する。
第 4 回　卒業論文作成について（4）
卒業論文の研究概略を検討する。

第 5 回　卒業論文作成について（5）
卒業論文の研究概略を検討する。
第 6 回　卒業論文作成について（6）
卒業論文の研究概略を検討する。
第 7 回　卒業論文作成について（7）
卒業論文の研究概略をパワーポイントにより発表する。
第 8 回　卒業論文作成について（8）
卒業論文の研究概略をパワーポイントにより発表する。
第 9 回　卒業論文作成について（9）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 10 回　卒業論文作成について（10）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 11 回　卒業論文作成について（11）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 12 回　卒業論文作成について（12）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 13 回　卒業論文作成について（13）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 14 回　卒業論文作成について（14）
進捗状況について発表し意見交換する。
第 15 回　卒業論文作成について（15）
進捗状況について発表し意見交換する。

〔成績評価〕
講義受講態度（30%）
レポート提出（20%）
現場体験のマナー、態度（20%）
卒業論文作成への主体的な取組（30%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布。

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①学期：前期・後期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。内容によっては時間の調整可。

特別支援学校観察実習

1613
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
実務経験有
福山　　恵美子

〔到達目標〕
特別支援学校（知・肢・病）の教育課程について知り、それぞれの教育課程の特徴を理解する。
特別支援学校の学校行事及び授業観察後に自分の感想や意見をまとめ、発表することができる。
参観者の発表を聞き、質問や感想などの意見交換を通して討議に参加することができる。

〔授業の概要〕
事前指導
特別支援学校（知・肢・病）の教育課程について理解する。観察する学校の概要をHPで事前に把握し、発表、意見交換を通して特別支援学校（知・肢・病）の教育課程や児童生徒、教員の役割等について理解する。
観察実習
特別支援学校の学校行事及び授業観察の際に記録をとり、レポートにまとめる。
事後指導
司会・発表と役割分担をしながら振り返りを行い、事前にまとめた感想文の発表にもとづいて討議する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
あらかじめ観察する特別支援学校の概要をHPで調べておく。（２時間）
観察した特別支援学校の学校行事及び授業の感想をレポートにまとめて提出する。（２時間）

〔授業計画〕
第 1 回　事前指導１
参観する特別支援学校（知・肢・病）等の教育課程について知る。
特別支援学校観察時のマナー等の心構えなどを知る。
第 2 回　事前指導２
車椅子操作について学び実際に体験することで、肢体不自由のある人たちへの接し方を学ぶ。
第 3 回　観察実習
特別支援学校行事である体育祭を観察する。
第 4 回　観察実習
特別支援学校の授業を観察をする。
第 5 回　観察実習
特別支援学校の授業を観察をする。
第 6 回　観察実習
特別支援学校の文化祭を観察する。
第 7 回　事後指導１
観察実習終了後の感想レポートをもとに、司会・発表者などの役割を決めて報告会を行う。
第 8 回　事後指導２

観察実習終了後の感想レポートをもとに、司会・発表者などの役割を決めて報告会を行う。

〔成績評価〕

事前指導における講義への受講態度及び質問、意見等講義への参加度（20%）

観察実習における観察態度（積極性・マナー等）（20%）

事後指導における講義への受講態度及び感想文の発表内容と討議の参加度（60%）

レポート課題については、評価は個別コメントをつけて返却する。

〔教科書〕

適宜資料配付

特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示、文部科学省）

特別支援学校教育要領学習指導要領解説総則編（平成30年3月告示、文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（平成30年3月告示、文部科学省）

特別支援学校教育要領学習指導要領自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示、文部科学省）

特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年告示、文部科学省）

特別支援学校高等部学習指導要領解説（平成31年2月告示、文部科学省）

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【知的障害者】、含む領域【肢体不自由者病弱者】、特支一種、必修

【実務経験の活用】

特別支援学校等の実務経験を活かし、特別支援学校の教育現場に即した観察実習指導を行う。

〔オフィスアワー〕

①学期：前期・後期

②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30

③場所：本館４階　教育相談所

④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp

⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。
内容によっては時間の調整可。

知的障害児の教育Ⅱ

1615
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
福山　　恵美子

〔到達目標〕

知的障害教育の教育課程の独自性を理解し、他の障害種の教育課程との違いを説明できる。

知的障害教育の教育課程に基づいた指導について必要な知識と理解を深める。

個別の指導計画に基づいた学習指導案について学び、実際に学習指導案を作成、模擬授業を通して知的障害教育の授業について理解を深める。

〔授業の概要〕

知的障害教育の教育課程や学習指導案について理解し、学習指導案を作成、模擬授業を行う。

模擬授業実施後に、感想や意見をまとめて発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

次回の講義に関して出された課題をまとめる。（２時間）

模擬授業までに、担当教員の指導助言のもとに、学習指導案を作成し提出する。（２時間）

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション ・知的障害教育の今
特別支援教育の仕組み及び現状について理解する

第 2 回　知的障害の定義と子ども理解
知的障害の定義を通して、知的障害のある子どもの理解を深める

第 3 回　知的障害教育の教育課程
知的障害教育に携わる教員が知っておくべきことを学び、知的障害教育の各教科のルーツや教育課程の特徴について理解する

第 4 回　教科別の指導
知的障害の教科書や教科別の指導を実施する際の留意点について学び、教科別の指導を実際の展開を通して理解する。

第 5 回　知的障害教育の指導法（１）
日常生活の指導や遊びの指導を学び、子どもの実態に応じた具体的な指導内容を考える

第 6 回　知的障害教育の指導法（２）
生活単元学習について学び、子どもの実態に応じた内容や展開の仕方を考える

第 7 回　知的障害教育の指導法（３）
作業学習について学び、子どもの実態に応じた内容や展開の仕方を考える

第 8 回　知的障害教育の指導法（４）
知的障害の自立活動について学び、子どもの実態に応じた内容や展開を考える

第 9 回　ティーム・ティーチングについて
特別支援学校におけるティーム・ティーチングについて学ぶ

第 10 回　学習指導案について

特別支援学校の学習指導案について、具体例を通して様式及び特徴を学ぶ
第 11 回　教育実習を終えた先輩の話を聞く
教育実習を終えた先輩の話を聞き、知的障害特別支援学校の授業づくり等を具体的に学ぶ
第 12 回　学習指導案作成
子どもの実態やニーズに応じた各教科や各教科等を合わせた指導の学習指導案を作成する
第 13 回　教材作成
子どもの実態に応じた教材を作成する
第 14 回　模擬授業（１）
お互いの模擬授業を参観して、意見交換をする。
第 15 回　模擬授業（２）
お互いの模擬授業を参観して、意見交換をする。

〔成績評価〕
受講態度（10%）
レポート（30%）
学習指導案及び模擬授業評価（ 60%）

〔教科書〕
適宜資料を配布
特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示、文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（平成30年3月告示、文部科学省）
特別支援学校教育要領学習指導要領自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
【参考文献】
・太田俊己、佐藤慎二　編著『改訂版　知的障害教育総論』一般社団法人　放送大学教育振興会2020
・大塚玲　編著『高等学校教員のための特別支援教育入門』萌文書林2020
・全日本特別支援教育研究連盟編　名古屋恒彦　責任編集『基礎から学ぶ知的障害教育』日本文化科学社2010

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【知的障害者】、含む領域【肢体不自由者病弱者】、特支一種、必修

【実務経験の活用】
特別支援学校等の実務経験を活かし、実践的で具体的な教育内容・方法を指導する。

〔オフィスアワー〕
①学期：後期
②曜日：月曜日11:30-12:30　金曜日11:30-12:30
③場所：本館４階　教育相談所
④連絡先：fukuyama@ashiya-u.ac.jp
⑤その他：できれば事前にメールで連絡をしてください。内容によっては時間の調整可。

重複障害教育の理論と実際

1618
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
高岡　　忍

〔到達目標〕
①重複障害児・生徒の障害の特性を理解し、事例から指導の理論や様々な技法を習得する。
②重複障害児・生徒の学校教育の実態を知り、その指導の在り方と支援の方法を習得する
③重複障害児・生徒のおかれている生活実態と医療、福祉等の関係機関との連携の在り方を学び、ＱＯＬの向上と、教育的支援について述べることができる。

〔授業の概要〕
重複障害（言語障害・情緒障害・LD・ADHDを含む）の概念と重度・重複障害の児童・生徒の実態、障害の診断、状態、特性を理解し、教育課程、指導法、個別の教育支援計画、個別の指導計画等について学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
特別支援学校学習指導要領及び特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編を熟読し、配布資料の復讐をする。

〔授業計画〕
第 1 回　重複障害教育の概要と理解
障害（肢体不自由・知的障害・病弱・聴覚障害・視覚障害・自閉症スペクトラム・学習障害・注意欠如多動性障害等）の特性を理解し、重複障害の概念、心理的理解、生理的・病理的メカニズムを知る。
第 2 回　重複障害児教育における配慮事項と教育課程の工夫
学習指導要領に準じて、重複障害の児童・生徒への配慮事項と教育課程の取り扱いと指導方法とその工夫
第 3 回　重複障害教育の歴史的経緯とインクルーシブ教育
重複障害児の就学猶予・就学免除の歴史の概観を理解し、今後のインクルーシブ教育について学ぶ。
第 4 回　重複障害児・生徒の指導法①ー視覚障害と聴覚障害
視覚障害と聴覚障害を重複する児童・生徒の実態を理解し、情報機器などのIT教材を工夫した授業の実践を学ぶ
第 5 回　重複障害児・生徒の指導法②ー知的障害と肢体不自由
知的障害と肢体不自由の重複障害のある児童・生徒の自立活動を通して、その生涯の実態と指導法を理解する。
第 6 回　重複障害児・生徒の指導法③ー知的障害と自閉症
自閉症で知的障害の児童・生徒の理解とその指導法と技法
行動分析・PECS・TEACCHプログラム・SST等を

取り入れ、心理面に配慮した実践事例を通して学ぶ

第 7 回　重複障害児・生徒の指導法④ー医療的ケアと訪問教育
医療的ケアの概要とケアの必要な児童・生徒の実態把握及びその対応。
訪問教育における指導法

第 8 回　個別の指導計画と関係機関との連携
重複障害の児童・生徒に対する、教育行政、福祉、医療保健・労働機関等の関連機関との連携と支援のための個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成

〔成績評価〕
筆記試験（50%）、 提出物（30%）、 授業へのと取り組み（20%）の総合評価

〔教科書〕
特別支援学校幼稚部・小学部・中学部学習指導要領（平成31年3月5日第3版発行、文部科学省）
特別支援学校教育法量・学習指導要領解説　自立編（平成31年3月5日第3版発行、文部科学省）
その他、適宜資料配布

〔参考文献〕
重度・重複障害児の興味の開発法　明治図書
重度・重複障害児の自立活動と個別の指導計画　明治図書
特別支援教育の授業づくり＆指導案作成ガイド　明治図書

〔履修条件〕

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【重複・LD等領域】、含む領域【／】、特支一種、必修

〔オフィスアワー〕
後期　月曜日
講義終了後　17：00～17：30までの間、講義教室で受け付けます。

教育実習事後指導【幼稚園】

1005
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
実務経験有
大江　まゆ子　安藝　雅美

〔到達目標〕
・幼稚園教諭の役割と意義についての理解を深め、幼稚園教諭に求められる力の基礎を身に付ける。

〔授業の概要〕
事後指導においては、実習体験を振り返り、互いの学びを共有するとともに、実習を評価・反省し、自己課題の明確化を行う。また、集大成としての実習報告会にて、各自の学びを発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
実習先へのお礼状の作成、送付を行う。
実習記録の実習先への提出と大学への提出を期限内に速やかに行う。
実習報告書の作成を行う。

〔授業計画〕
第 1 回　実習体験の共有
実習体験を共有し、具体的な事例の討議を行い、互いの体験から幼稚園教諭の役割と意義についての学びを深める。

第 2 回　実習評価と自己課題の明確化
実習を通して得た経験を基に自己を見つめ今後に生かす。

第 3 回　個別の実習評価と反省
実習を通して得た経験を基に自己を見つめ今後に生かす。

第 4 回　個別の実習評価と反省
実習を通して得た経験を基に自己を見つめ今後に生かす。

第 5 回　個別の実習評価と反省
実習を通して得た経験を基に自己を見つめ今後に生かす。

第 6 回　個別の実習評価と反省
実習を通して得た経験を基に自己を見つめ今後に生かす。

第 7 回　個別の実習評価と反省
実習を通して得た経験を基に自己を見つめ今後に生かす。

第 8 回　個別の実習評価と反省
実習を通して得た経験を基に自己を見つめ今後に生かす。

〔成績評価〕
授業内提出物等（70%）、授業への取り組み姿勢(30%)

〔教科書〕
「保育実習・幼稚園教育実習のハンドブック」（大学から配布された冊子）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、幼一種、必修
提出物は期限を厳守すること。
授業外学習（事前学習・事後学習）を適宜行うこと。

【実務経験の活用】
教育現場経験から、実践的な保育指導を行う。
実践的で、就職後に生かせる実習を行う。現場で経験した諸問題（幼児の姿、保育内容、特別な配慮を要する子どもに対する対応方法等）を具体的に伝えることで、実際の現場での対応に生かせるよう指導する。

〔オフィスアワー〕
後期、水曜日　12：10〜13：40、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で分級担当教員に必ずアポイントメントを取ること。

教育実習【幼稚園】

1009
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
実務経験有
大江　　まゆ子　安藝　　雅美

〔到達目標〕
・幼児の実態、幼稚園の目的や機能、幼稚園教諭の職務について理解し、幼稚園教諭としての実践的指導力の基礎を身につける。
・個々の幼児の姿から内面を受け止め、個と集団へのかかわりという観点を持ち、保育実践に取り組む。
・謙虚な気持ちと新鮮で前向きな気持ちを持ち、幼稚園教諭として常に学び、成長する努力を続ける。
〔授業の概要〕
講義や演習で学んだ基礎的な知識や技術をもとに、幼稚園教育実習を行い、実践的に学ぶ。実際の子どもの姿から、その場に応じたかかわりを模索し、保育の理論や方法論を活用、応用する過程で、自らの保育の知識、技術を深める力を身につけることを目的とする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
※保育現場に実習生として入らせていただくことの自覚を持ち、また新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される状況下であることを踏まえて、日常的に健康管理と感染回避の行動の徹底を行うこと。
実習前に、実習指導案を作成し、クラス担任の指導を受ける。実習中に学んだ内容などは、考察を加えて実習日誌、エピソード記録に詳細に記録し、次の日の朝に提出する。実習中は、クラス担任の指導の下、実習を行う。報告･連絡･相談を行い、積極的に実習に臨む。実習後にその成果と課題について報告と協議を行い、今後の自己課題を明確にする。
〔授業計画〕
第 1 回　幼稚園教育実習
第 2 回　幼稚園教育実習
第 3 回　幼稚園教育実習
第 4 回　幼稚園教育実習
第 5 回　幼稚園教育実習
第 6 回　幼稚園教育実習
第 7 回　幼稚園教育実習
第 8 回　幼稚園教育実習
第 9 回　幼稚園教育実習
第 10 回　幼稚園教育実習
第 11 回　幼稚園教育実習
第 12 回　幼稚園教育実習
第 13 回　幼稚園教育実習
第 14 回　幼稚園教育実習
第 15 回　幼稚園教育実習
〔成績評価〕
実習先評価（60%）、実習日誌（30%）、提出物等（10%）
〔教科書〕
「保育実習・幼稚園教育実習のハンドブック」（大学から配布された冊子）、幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
〔参考文献〕
「特になし」
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、幼一種、必修
教育実習条件科目の単位を修得していること
教育実習期間中の欠席は、原則として認められない。

【実務経験の活用】
教育現場経験から、実践的な保育指導を行う。
実践的で、就職後に生かせる実習を行う。現場で経験した諸問題（幼児の動き、保育内容、特別な配慮を要する子どもに対する対応方法等）を具体的に伝えることで、実際の現場での対応に生かせるよう指導する。
〔オフィスアワー〕
後期、水曜日　12：10〜13：40、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ず分級担当教員に必ずアポイントメントを取ること。

幼稚園参加実習

1314
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1年
1単位　後期
実務経験有
大江　　まゆ子　大谷　　彰子

〔到達目標〕
・附属幼稚園で行われている保育から、保育の実際を理解し、将来、保育者を目指す者としての自覚と責任感、使命感等を持つようになる。
・実習記録およびエピソード記録を書く力を獲得する。
・実際の保育をよく観察し、記録することを通して、子ども理解や保育者の援助の意図を理解する力を身に付ける。
〔授業の概要〕
附属幼稚園での実際の保育に参加することで、保育方針や保育方法、子どもの生活環境など、保育の基本を理解する。また、子ども及び保育者の姿や保育環境をよく観察し、保育の実際について実習体験を通して理解し、保育者としての態度や技術を学ぶ。実習後には体験の共有を行い、学習者同士の話し合いを行い、意見をまとめて発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
※保育現場に実習生として入らせていただくことの自覚を持ち、また新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される

状況下であることを踏まえて、日常的に健康管理と感染回避の行動の徹底を行うこと。
また実習記録は保育者としての視点を養うために必要であるため、必ずその日中に書き終え、翌日に提出を行うこと。
「保育実習・幼稚園教育実習ハンドブック」を熟読し、実習のイメージを形成し、実習生に求められる姿勢について理解しておくこと。
【予習】授業前のハンドブックの該当箇所の熟読（90 分）
【復習】授業後の学びレポートや実習後の実習記録、エピソード記録の作成（90 分）

〔授業計画〕

第 1 回　授業オリエンテーション、記録の書き方
授業オリエンテーションを通して附属幼稚園での実習に向けて意識を高め、実習に必要な事項を確認する。記録の書き方について学ぶ。

第 2 回　附属幼稚園実習、実習記録の作成・提出
附属幼稚園実習を行う。その後、実習記録を作成し、翌日、分級担当教員の研究室に提出する。

第 3 回　実習記録の振り返り、書き方の再確認
実習後に作成した実習記録を振り返り、書き方について学びを深める。

第 4 回　エピソード記録の書き方
エピソード記録の書き方について学ぶ。

第 5 回　附属幼稚園実習、エピソード記録の作成・提出
附属幼稚園実習を行う。その後、エピソード記録を作成し、翌日、分級担当教員の研究室に提出する。

第 6 回　エピソード記録の振り返り、書き方の再確認
実習後に作成したエピソード記録を振り返り、書き方について学びを深める。

第 7 回　附属幼稚園実習での学びの共有
子どもの姿や保育者の姿、環境構成など附属幼稚園での保育の実際を通して、各自が得た学びを共有する。

第 8 回　実習体験の振り返りと自己課題の明確化
実習生として保育現場に身を置く実習体験を終え、最も感動したこととその理由を考察するとともに、保育者を目指すものとしての自己課題を明確化する。

〔成績評価〕
参加実習時の取り組み姿勢（50%）、実習記録（15%）、エピソード記録（15%）、授業内提出物、取り組み姿勢等（20%）

〔教科書〕
「保育実習・幼稚園教育実習のハンドブック」（大学から配布された冊子）

〔参考文献〕
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）、その他、必要に応じて授業内で適宜配布する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
※参加実習の欠席は、原則として認められない。
【実務経験の活用】
教育現場経験から、実践的な保育指導を行う。

〔オフィスアワー〕
後期、水曜日　12：10〜13：40、各教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で担当教員に必ずアポイントメントを取ること。

演習Ⅱ【幼児教育学】

8465
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
安藝　雅美

〔到達目標〕
卒業論文を書く。
自分の教育観を掘り下げる。

〔授業の概要〕
幼児教育における具体的な保育内容や指導方法、保育形態等の考察、さらには、自らの保育観や子ども観等の構築を目指すことで保育者としての資質を追究する。また、理論と実践との関係性を常に視野に入れながらの演習となるので、机上と保育現場との双方から学びを深めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
論文やゼミで使用する本を予習する。
論文発表会に参加する。

〔授業計画〕

第 1 回　3年4年合同自己紹介、一年の進め方
自分のテーマを発表しあう。

第 2 回　章立てを行う１。
自分の調べたいことを章立てし、全体像をつかむ。

第 3 回　章立てを行う２
自分の調べたいことを章立てし、全体像をつかむ。

第 4 回　学園祭に向けて発表を考える
子どもたちに向けた発表のアイデアを出し合う。

第 5 回　研究目的を書く。
研究目的を考え、進めていく。

第 6 回　発表の中身を決める。
皆で考える。

第 7 回　作成。論文を進める
3年と一緒に、準備を進める。

第 8 回　卒論を進める。
論文検索。

第 9 回　卒論を進める。
論文検索をし、中身を再考する。

第 10 回　卒論を進める。
書いたものを整理する。

第 11 回　自分の興味ある園を見学する
一日を通して実際を見学する。

第 12 回　卒論を進める。

内容の精査
第 13 回　卒論を進める
内容の精査
第 14 回　卒論を進める
卒論の要旨を作成する。
第 15 回　発表
皆の前で発表し、成果の共有をする。
〔成績評価〕
口頭発表（35%），論文（35%）その他のゼミ活動への取り組み（30%）
〔教科書〕
〔参考文献〕
参考論文
「よくわかる卒論の書き方」第２版
やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ
白井利明／著　高橋一郎／著　出版社名ミネルヴァ書房
出版年月　2013年2月
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

演習Ⅰ【幼児教育学】

8304
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
安藝　雅美

〔到達目標〕
卒業論文を書くにあたって、テーマを一年かけて練っていく。自分の教育観を掘り下げる。
〔授業の概要〕
幼児教育における具体的な保育内容や指導方法、保育形態等の考察、さらには、自らの保育観や子ども観等の
構築を目指すことで保育者としての資質を追究する。また、理論と実践との関係性を常に視野に入れながらの
演習となるので、机上と保育現場との双方から学びを深めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
論文やゼミで使用する本を予習する。
〔授業計画〕
第 1 回　前期振り返り
自分の興味あることを書き出してみる
第 2 回　本の読者会
最善の関わり 1 .2.3
第 3 回　本の読書会
最善の関わり4.5.6
第 4 回　読書会
最善の関わり7.8.9
第 5 回　読書会
最善の関わり10.11.12
第 6 回　読書会
最善の関わり13.14.15
第 7 回　読書会
最善の関わり16.17.18
第 8 回　読書会
最善の関わり19.20.初めの部分
第 9 回　フィールドワーク
目的をもって取り組む。
第 10 回　フィールドワーク　振り返り
書いたものを整理する。
第 11 回　保育者の役割について
意見交換
第 12 回　論文に向けて振り返る
子どもとは、もう一度再考する。
第 13 回　論文の書き方１
論文の書き方の基礎を知る。
第 14 回　論文の書き方２
論文の書き方の基礎を知る。
第 15 回　1年間のまとめ
来年に向けて取り組みを固める。
〔成績評価〕
口頭発表（35%），論文（35%）その他のゼミ活動への取り組み（30%）
〔教科書〕
「ちょっと気になるとなりの保育 」寶川雅子 (著)　一藝社
〔参考文献〕
参考論文
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

保育内容指導法Ⅱ

4313
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
安藝　雅美

〔到達目標〕
幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、保育のねらい及び内容について背景となる歴史を理解し小学校との接続を関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を保育現場での実践を通して保育を構想する方法を身に付ける。
〔授業の概要〕
保育方法論における理論と実践を具体的に展開し考察していく。

また、子どもの遊びを総合的視点から考察することで、保育の全体像をつかみ、その内容を深めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業時間外であっても事前準備等の時間を要する。

〔授業計画〕

第 1 回　授業の進行理解
保育内容指導法の目標と内容を理解する。

第 2 回　「となりの保育」を読み進める
子どもの理解を深める。
集団討議。

第 3 回　「となりの保育」を読み進める
子どもの理解と保育者の関わりについてを深める。
集団討議。

第 4 回　「となりの保育」を読み進める
子どもの理解と保育者の関わりについてを深める。
集団討議。

第 5 回　「となりの保育」を読み進める
子どもの理解と保育者の関わりについてを深める。
集団討議。

第 6 回　「となりの保育」を読み進める
子どもの理解と保育者の関わりについてを深める。
集団討議。

第 7 回　「となりの保育」を読み進める
子どもの理解と保育者の関わりについてを深める。
集団討議。

第 8 回　現場実践に向けて
認定こども園での実践に向けて準備する。

第 9 回　現場実践に向けて
認定こども園での実践に向けて準備する。

第 10 回　自分の指導案を考える
模擬保育用の教材を選び、保育指導案を作成する。

第 11 回　現場発表
実際の子どもの前で発表する

第 12 回　発表後の反省を行う
良かったこと。
反省点を確認し、次に生かす。

第 13 回　子どもの権利条約について
グループ討議

第 14 回　子どもの権利条約について
グループ討議

第 15 回　まとめ
子どもの最善の利益を再度話し合う。

〔成績評価〕

討論への積極的な参加（20%）、附属幼稚園での保育実践態度（30%）、定期試験等（50%）で総合評価とする。

〔教科書〕

「ちょっと気になるとなりの保育 」寶川雅子 (著)　一藝社

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）、ここがポイント！３法令ガイドブック新しい『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の理解のために 著者　無藤隆 （著）他　フレーベル館
『幼稚園教育要領解説』平成30年3月告示　文部科学省　フレーベル館

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

領域及び保育内容の指導法に関する科目、保育内容の指導法Ｉを受けていること
幼一種、必修

【実務経験の活用】

教育現場経験から、実践的な保育指導を行う。
実践的で、就職後に生かせる実習を行う。現場で経験した諸問題（幼児の動き、保育内容、特別な配慮を要する子どもに対する対応方法等）を具体的に伝えることで、実際の現場での対応に生かせるよう指導する。

〔オフィスアワー〕

前期、水曜日　12：10～13：40、研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

図画工作Ⅱ①

1225
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
山子　　陽子

〔到達目標〕

幼児・児童の感性（感受性）をどのように育んでいけばよいか、実技・実践を通して研究し、各自に感性・技術力を高める。幼児・児童教育における造形活動に対して、その内容をさらに深め研究していく。

〔授業の概要〕

後期授業では、前期授業で学んだ実技内容をふまえながら、また違ったテーマ（課題）でより深く洞察していく。実技中心の授業形式をとる教科である。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

実技・実践が主となるので、各自で画材や道具を準備する。実技・実践を通して、幼児・児童が持つ感性を自分なりに十分理解また習得することができたかを復習する。

〔授業計画〕

第 1 回　技法4
ちぎり絵

第 2 回　技法4
ちぎり絵

第 3 回　色彩3
　　明度
第 4 回　色彩3
　　明度
第 5 回　色彩4
　　寒色・暖色
第 6 回　色彩4
　　寒色・暖色
第 7 回　技法5
　　吹き絵
第 8 回　技法5
　　吹き絵
第 9 回　平面造形
　　壁面飾り
第 10 回　平面造形
　　壁面飾り
第 11 回　平面造形
　　壁面飾り
第 12 回　造形2
　　パッケージ制作
第 13 回　造形2
　　パッケージ制作
第 14 回　造形2
　　パッケージ制作
第 15 回　後期授業1～14の復習

〔成績評価〕

実技を中心に毎回さまざまなテーマで作品を制作する。その制作過程に重点を置き、制作意味・意義を把握して実践していく。
定期試験はなく、対面授業の場合レポート提出とする。LMS授業の場合レポート提出はなし。

授業形態はLMS授業ですが、状況に応じて対面授業に変更する場合もあります。その際授業内容も変更することがあります。

（対面授業）
授業内での課題作品提出　50%
レポート提出　40%
授業への姿勢　10%

（LMS授業）
授業内での課題作品提出　100%

〔教科書〕

実技に使用するF6サイズのスケッチブック、その他の画材が必要（初回授業時に説明）

〔参考文献〕

文部科学省（最新版）
『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』

〔履修条件〕

〔備考〕

領域に関する専門的事項、図画工作、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、図画工作、小一種、必修

〔オフィスアワー〕

①後期
②金曜日　11：00～12：00（対面授業の場合）
③場所　講義室（対面授業の場合）
④連絡先　Phollyのメッセージまで
○（対面授業）来室の際は事前にPhollyのメッセージまで連絡ください。
○（LMS授業）Phollyのメッセージで質問・相談を随時受け付けます。

特別活動の指導法【初等】

6201
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
中岡　　禎雄

〔到達目標〕

特別活動は、望ましい集団活動を通して、人格の調和的な発達を図り、健全な社会生活を営む上で、必要な資質を養うことを目標とする教育である。
○ 特別活動の重要性について理解を深める。
○ 特別活動の歴史、教育課程上の位置づけ等について理解を深める。
○ 特別活動の意義・内容・指導方法等についての理解を深める。
○ 将来、教員として、特別活動に積極的に取り組む自覚を持てるようにする。

〔授業の概要〕

特別活動は、子どもたちの学校生活の楽しさや満足度に大きく貢献していると言われるほど重要な役割を担っている。本授業では、特別活動の教育課程における位置、教育活動としての意義・内容・指導方法等について、学校の状況や児童の実態についても触れながら授業を進める。また、教育現場で生きる授業にするため、話し合いや意見をまとめ発表する場を設定し、自主的・実践的な態度を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎時間の講義の内容を、講義資料やテキストをもとに復習し、特別活動についての理解を確実なものにするための授業後のレポート作成（90 分）

〔授業計画〕

第 1 回　開講にあたって
　　授業予定・評価方法・テキスト紹介・特別活動の位置づけ・人間形成と特別活動・自らの特別活動の振り返り
第 2 回　特別活動の歴史、児童の現状と特別活動
　　特別活動の歴史・児童の現状と特別活動の役割
第 3 回　特別活動に関わる指導理論
　　自主性と指導性の関係・個と集団の関係・リーダー性の育成
第 4 回　特別活動の教育的意義、全体指導計画
　　特別活動の教育的意義・全体指導計画
第 5 回　学級活動(1)
　　学級活動の目標・内容・指導計画

第 6 回　学級活動(2)
こどもの発達に応じた指導の要点と学級活動指導案の作成
第 7 回　学級活動(3)
学級活動と学級経営との関連
第 8 回　学級活動と学級経営との関連
学級におけるグループワークによる人間関係育成
第 9 回　児童会活動(1)
児童会活動の目標・内容・指導計画
第 10 回　児童会活動の目標・内容・指導計画
児童会活動の組織（代表委員会活動・委員会活動）
第 11 回　クラブ活動(1)
クラブ活動の目標・内容・特質
第 12 回　クラブ活動(2)
クラブ活動の指導上の留意点
第 13 回　学校行事
学校行事の目標・内容・特質・指導上の留意点
第 14 回　特別活動と他の教育活動との関連
特別活動と各教科との関連
第 15 回　特別活動の指導姿勢、特別活動の評価、まとめ
特別活動の指導姿勢の在り方・特別活動の評価・本授業のまとめ

〔成績評価〕
筆記試験・課題提出・自主的な授業態度等を総合的に評価する。
（定期試験60%、授業への取り組み20%・授業内課題20%）

〔教科書〕
小学校学習指導要領特別活動編（平成29年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法、小一種、必修

〔オフィスアワー〕
後期ＬＭＳにおいて随時質問及び相談を受け付ける。

演習Ⅰ【児童理解を伴う指導力】

8368
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
中村　　整七

〔到達目標〕
・テーマに係る文献やデータを読み，論文執筆のための資料を整理することができる。
・卒業論文テーマを決定し，序論を書きまとめることができる。

〔授業の概要〕
・児童理解を基に諸問題を解決する方策について互いに意見を交換させて考察することで、個々の卒業論文テーマを探る。
・論文テーマについてその目的や研究方法を明確にしていきながら序論を作成していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
論文テーマ決定に関わる文献、資料を探す。(予習2時間)
演習の内容をレポートにまとめる探す。(復習2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　テーマ設定に向けて
研究テーマ設定に向けてのオリエンテーションと協議をする。
第 2 回　授業研究から見えたこと
教育実習の研究授業観察から考えたことを出し合い、授業づくりの要点について考えを深める。
第 3 回　卒業論文のテーマ
卒業論文として研究してみたいことを考え、発表しあい、アドバイスし合う中で方向性を見つける。
第 4 回　卒業論文のテーマの現状と課題
卒業論文として研究してみたいことについて教育現場での現状と課題について調べ、研究の意味や方法を考え、話し合う。
第 5 回　小学校の教育実習から考えたこと
教育実習の実体験から現場での教育課題と卒業論文のテーマとの関連を考える。
第 6 回　卒業論文のテーマの吟味
卒業論文のテーマ設定の理由について発表しあい、その良し悪しについて討議をする。
第 7 回　卒業論文の研究の背景について
研究テーマにしようと思っている事柄の先行研究と現状、課題について資料文献などを探し、理解を深める。
第 8 回　卒業論文についての交流
研究テーマ設定の理由や研究の目的・研究する意味や価値などについてまとめたものを互いに発表しあい、改善点を見つけていく。
第 9 回　卒業論文についての交流 2
研究方法や研究成果の活かし方などについてまとめたものを互いに発表しあい、改善点を見つけていく。
第 10 回　卒業論文の資料集め
論文の内容と関わる文献を読んだり、WEB検索で見つけたものを調べたりして、手間と関わることがらについて認識を深める。
第 11 回　卒業論文の資料集め2
論文の内容と関わる文献を読んだり、WEB検索で見つけたものを調べたりして、情報交流を行いながら、研究内容と関わることがらについて認識を深める。
第 12 回　卒業論文の序論作成

序論の中身であるテーマ設定の理由、教育現場の現状と課題、研究の目的・研究する意味や価値、研究の方法、研究成果の活かし方などについて大筋で書きまとめていく。

第 13 回　卒業論文の序論をまとめる
卒業論文のテーマ設定の理由やそのテーマの現状と課題などをコンピューターに入力する。

第 14 回　研究論文の序論をまとめる2
卒業論文の研究の目的・研究する意味や価値などをコンピューターに入力したものを発表しあい、改善点を見つける。

第 15 回　研究論文の序論をまとめる3
卒業論文の研究の方法や研究成果の活かし方などをコンピューターに入力し、まとめる。

〔成績評価〕
演習の参画度を評価する。(３０％)
作成した序論の内容を評価する。(７０％)

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

初等教科教育法Ⅲ（算数）

3224
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　整七

〔到達目標〕
・小学校算数の目標と学習内容を学びとり，各学年の指導方法について理解を深めることができる。
・「小学校学習指導要領解説（算数編）」や教科書をもとに，実際の指導場面を想定して，演習的な協議・研究を積極的に行うことができる。
・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した算数の模擬授業を創りあうことができる。
・算数、数学の基礎基本用語が理解できている。

〔授業の概要〕
新学習指導要領に対応した算数科の指導について考える。
各学年における指導目標と指導内容の概要を学びとる。
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業の創り方やプログラミング学習とのかかわりについて学ぶ。
４領域から単元を選び，具体的な指導方法を全体で意見を交流させる。
指導案を作成し，受講者全員で対話することを通して模擬授業を創りあう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・次回の対象となる項の指導要領解説を読み、調べる。(予習２時間)
・毎時間の最後に「授業のまとめ」として，問題演習や簡単なレポートを課す。(復習２時間)
「授業のまとめ」は学びの重要な資料となるので丁寧にファイリングしておく。

〔授業計画〕

第 1 回　算数科の価値と目標
算数科の価値と各領域の目標と学年ごとの目標について学ぶ

第 2 回　算数科の特質と指導内容
算数科の特質と各領域の指導内容と学年ごとの内容を学ぶ

第 3 回　目標・内容と指導法の研究（1）
第１学年の指導計画と指導内容を協働して学び、模擬授業を創りあう

第 4 回　目標・内容と指導法の研究（2）
第２学年の指導計画と指導内容を協働して学び、模擬授業を協働して創りあう

第 5 回　目標・内容と指導法の研究（3）
第３学年の指導計画と指導内容を協働して学び、模擬授業を創りあう

第 6 回　目標・内容と指導法の研究（4）
第４学年の指導計画と指導内容を協働して学び、模擬授業を創りあう

第 7 回　目標・内容と指導法の研究（5）
第５学年の指導計画と指導内容を協働して学び、模擬授業を創りあう

第 8 回　目標・内容と指導法の研究（6）
第６学年の指導計画と指導内容を協働して学び、模擬授業を創りあう

第 9 回　「主体的・対話的で深い学び」の指導
「主体的・対話的で深い学び」の指導方法について考える

第 10 回　算数教育とプログラミング教育
算数科の教育内容とプログラミング教育について、実際に体験して学びとる

第 11 回　学習指導案の作成方法
指導案の作成についてペアやグループで具体的に考える

第 12 回　学習指導案の作成実習
算数科の学習指導案を具体例をもとに作成する

第 13 回　模擬授業（1）

作成した指導案を使って模擬授業を行い、方策の良さや改善方法について意見を出しあい、交流する。

第 14 回　模擬授業（２）
本時の指導案を作成し、模擬授業を行い、その方策の良さや改善策についての意見を出しあい、全体のまとめと評価を行う

第 15 回　まとめ
算数の授業のポイントとそのよさについて考えをまとめ、模擬授業を行う

〔成績評価〕
・筆記試験（70%）
・毎時間の演習参画度やレポート（30%）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説　算数編（平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
・わくわく算数（１～6年）　啓林館　・新しい算数　（１～6年）東京書籍
・毎回「授業用資料」「演習問題」を提供する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、算数、小一種、必修

【実務経験の活用】
小中学校の教育現場や教育研究所での経験より、今日的な教育課題、実践的指導力、学校で求められている授業づくりなどについて指導する。

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

教育課程論【初等】

1302
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　整七

〔到達目標〕
・学習指導(教育)要領に基づき学校園で編成される教育課程の役割・機能・意義を理解することができる。
・学校の教育目標や教育実践に即した教育課程編成の方法及び、教科・学年をまたいで学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントをすることの意義について研究協議し、理解を深めることができる。

〔授業の概要〕
教育関係法令をもとに幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領の性格・目的・意義を踏まえ、教育課程編成の原理のもとに編成の手順を理解したり、カリキュラムマネジメントの意義と進め方について理解したりする。教育課程に係る課題についてグループでKJ法などで話し合いをして意見をまとめ、発表する学び方を取り入れる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
(1) 指定する資料を読み、意見等を記入して授業時に発表する。(２時間)
(2) 授業後のふり返り文を書きまとめる。(２時間)

〔授業計画〕
第 1 回　法令と教育(指導)要領との関連
教育課程に関する法令と幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の関連について考えあう。

第 2 回　教育課程編成の目的
幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領の性格を知り、教育課程編成の目的、意義を考える。

第 3 回　教育(学習指導)要領の変遷
幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の変遷及び改訂の内容と当時の社会的背景について話し合う。

第 4 回　新教育(指導)要領の概要
新小学校学習指導要領の改訂内容の概要を研究し、今後の指導について考えあうことができる。

第 5 回　教育課程編成の社会的役割
幼稚園・学校における教育課程編成が果たしている社会的役割について考える。

第 6 回　教育課程編成の原則
幼稚園・学校において教育課程編成を編成する際の原則について話し合う。

第 7 回　特色ある教育課程との関連
学校の特色ある教育活動の展開と教育課程編成の在り方について理解し、話し合う。

第 8 回　カリキュラムマネジメント
学習指導要領規定のカリキュラムマネジメントの意義と手法等について研究し、グループ討議を行う。

第 9 回　幼児教育と小学校教育の接続
幼児期の教育と小学校低学年の教育との接続及び教育課程編成の在り方について話し合い、よりよい具体策を見つけ出す。

第 10 回　小学校教育と中学校教育の接続
小学校高学年の教育と中学校の教育との接続及び教育課程編成の在り方をついて話し合い、より

よい具体策を考え、見つけ出す。。

第 11 回　教育課程編成における授業改善
教育課程の実施の際の授業改善の充実に向けた取組みについて研究し、話し合う。
・「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」ICT教育

第 12 回　教育課程編成と授業改善
教育課程の実施の際の授業改善の充実に向けた取組みについて研究し、話し合う。
・「ICT教育」「タブレットPC等のICT機器の授業での活用」

第 13 回　学習評価の充実
教育課程の実施の際の学習評価の充実に向けた取組みについて研究し、その具体的な方策を見つける。

第 14 回　カリキュラムの評価
教育課程の改善に係るカリキュラムの評価の意義と手法について研究をまとめ、発表する。

第 15 回　教育課程編成のまとめ
教育課程の要点をまとめ、社会に果たす役割を向上させる教育課程の在り方について考察し、発表する。

〔成績評価〕
定期筆記試験（50%）
毎時間の小レポート（50%）

〔教科書〕
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）
幼稚園教育要領解説（平成30年2月告示、文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年10月内閣府 文部科学省 厚生労働省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年３月内閣府 文部科学省 厚生労働省)
小学校学習指要領、(平成29年3月告示、文部科学省)
小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月告示、文部科学省））

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育過程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、幼一種、必修
教育の基礎的理解に関する科目、教育過程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、小一種、必修

【実務経験の活用】
小中学校の教育現場や教育研究所での経験より、今日的な教育課題、実践的指導力、学校で求められている授業づくりなどについて指導する。

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

病弱児の教育Ⅰ

1609
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
佃　　直子

〔到達目標〕
○病弱児に関する公教育のバックグラウンドや現状について知る。
○病弱児の教育を担う教員として必要な知識と基本的姿勢を学ぶ。
○病弱児の心理面、行動面、生活面の特徴を理解し、教育的支援のあり方を考える。
○復学や社会適応の指導について、医療、福祉、地域の学校等関係機関等との連携を含めて検討する。

〔授業の概要〕
○病弱教育の意義、歴史、対象児などの基礎的な内容を学習する。
○病弱教育教育の対象となる主な病気について、基本的な知識と病弱教育の場における配慮の仕方を学ぶ。
○病弱教育を必要とした子どもたちの事例から、具体的な支援の方法を学ぶ。
○病弱教育の環境整備の実際や、他の関係機関との連携を学ぶ。
以上のことについて資料、パワーポイント、ビデオ、ディスカッション、ビデオ視聴、レポート作成等を活用しながら講義する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業後のまとめプリント（３０分）。題材によっては、授業前の調べ学習およびアンケート回答。

〔授業計画〕
第 1 回　病弱教育の各場面の紹介によるイメージ作り
病弱教育の各場面を切り取った「五七五」の作品（教員、および児童生徒作）をもとに、病弱教育の様々な場面を紹介し、病弱教育に対するイメージを持つ。

第 2 回　病弱教育の現状、歴史、制度など
明治から現在における病弱教育の歴史、対象児の変遷を知り、病弱教育の基本的理念は何か、現在の到達点と今後の方向性はどのようなものかを考える。

第 3 回　病弱教育の対象児と合理的配慮
病弱教育の現状での主な対象児と、それぞれの病状に対する基本的配慮事項を合理的配慮の具体例から学ぶ。

第 4 回　病弱教育における自立活動

病弱の特別支援学校における自立活動の授業の実際を紹介し、どのような目的と配慮のもとに実施するかを考える。

第 5 回　病弱教育の授業の実際①
病弱の困難な環境の中で、病状に配慮しながら意欲を引き出していける授業の進め方を、病弱支援学校の具体例から考えていく。

第 6 回　病弱教育の授業の実際②
重度重複児等、自立活動を中心とした教育課程を実施する病弱児の授業について、その意義と工夫の仕方を学び、実際の授業案を考える。

第 7 回　病気の状態による配慮事項①「血液疾患」
病弱教育の対象児である白血病などの血液疾患について、病気の概要と教育の場での配慮と支援方法を学ぶ。

第 8 回　病気の状態による配慮事項②「心身症」
病弱教育の対象児の多くの割合を占める「心身症」について、病気のとらえ方や基礎的な事項、教育の場での配慮と支援方法を学ぶ。

第 9 回　病気の状態による配慮事項③「慢性疾患」
病弱児の対象児である長期療養の必要な病気（喘息、腎疾患等）について、主な病気の概要を学び、教育の場での配慮と支援方法を学ぶ。

第 10 回　病弱特別支援学校における指導事例①
病弱教育を必要とした子どもとして血液疾患の事例をとりあげ、病気の症状に即した支援の実際を学ぶ。

第 11 回　病弱特別支援学校における指導事例②
病弱教育を必要とした子どもとして、心身症の事例を取り上げ、病状に即した支援の実際を学ぶ。

第 12 回　病弱特別支援学校における指導事例③
病弱教育を必要とした子どもとして、慢性疾患の事例を取り上げ、病状に即した支援の実際を学ぶ。

第 13 回　病弱特別支援学校における指導事例④
病弱教育を必要とした子どもとして、重度重複障害児の事例を取り上げ、病状に即した支援の実際を学ぶ。

第 14 回　病弱児を支援する他職種との連携
医師、看護師、心理士、CLS、福祉関係者など教員以外に病弱児を支援している職種について知り、それぞれの職種との連携の在り方を学ぶ。

第 15 回　事例に基づく具体的な支援方法
病弱支援学校に在籍する児童生徒の想定事例を使って、具体的な支援の方法を学習、生活、心理、地域校復帰等総合的に考える。

〔成績評価〕
授業での毎回の課題の点数の総計と、学期末のまとめレポートの割合を6対４で評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
○特別支援学校学習指導要領開設「総則編」（文部科学省）
○　　同　　「自立活動編」（文部科学省）
○チームで育む病気の子ども―新しい病弱教育の理論と実践（北樹出版）
○病気の子どもの教育支援ガイド（ジアーズ教育出版）
○標準「病弱児の教育」（ジアーズ教育出版）
○各病弱支援学校研究誌
※授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目、中心となる領域【病弱者】、含む領域【／】、特支一種、必修

〔オフィスアワー〕
①後期
②金曜日　１３：４０～１４：４０
③授業終了後　講義教室で対応します。
④メール　naoko_kotonisumire@yahoo.co.jp
⑤来室の際は事前にメールでアポイントメントを取ること。

保育内容Ⅳ（言葉）

4227
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
大谷　　彰子

〔到達目標〕
乳幼児の言語獲得の発達過程を説明することができる。
言語発達のための保育者の援助やその重要性について説明することができる。
素晴らしい児童文化財に触れて実践し、その効果や役割を説明することができる。
表現活動に関わる教材の作成、活用、具体的展開について、自ら考え実践する態度を持つ。
非言語メッセージを理解しようとする態度が身に付いている。

〔授業の概要〕
乳幼児の言語獲得について、非言語、言語メッセージの発達過程について説明できる。
言葉の育ちを支える保育者の役割について、グループワーク等を通して身に付ける。
児童文化財に触れ、良いものを選択する目を持ち、子どもに与える意味や重要性を説明することができる。
保育現場で活用できる手作り教材の作成、発表を行い、実践力を身に付けると共に、実践を省察する態度を身に付ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次回の授業資料を熟読し、自身の意見を持ち授業に参加すること。（30分）
授業で出された課題を行い、次回提出する。（60分）

手作り教材を作成し、発表できるよう十分な練習を行う。(30分)

〔授業計画〕

第 1 回　保育における領域「言葉」とは
保育における領域「言葉」についての授業内容、評価方法等を理解する。子どもに伝わる話し方を身に付け、自己紹介を実践する。

第 2 回　優れた絵本と子どもの理解力の発達
子どもの絵本理解力の発達と発達に合わせた絵本やテーマについて説明できる。

第 3 回　文化財としての絵本の魅力とその解釈
優れた文化財としての絵本について、その役割と解釈、読み聞かせをする際の保育者の援助について説明できる。

第 4 回　領域「言葉」のねらいと内容
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」の保育のねらい及び内容、内容の取り扱いについて説明できる。

第 5 回　乳幼児の言葉の獲得と保育者の援助
乳幼児の言葉の発達や学びの過程を理解し、言語発達を促すための保育者の援助の視点と配慮について説明できる。

第 6 回　手作り教材の教材研究
保育現場で使う手作り教材の見本(紙芝居、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアターなど）を見て、子どもが興味を持つ手作り教材を作成するための教材研究に取り組むことができる。

第 7 回　保育環境と言葉の発達
主体的な環境への関わりや体験を通して育つ言葉の発達について説明することができる。

第 8 回　子どもの言葉理解と記録
非言語コミュニケーション等を理解するための保育記録について実践から身に付ける。

第 9 回　「言葉」に関わる遊びの実際
ことば遊びや絵本から始まる設定保育について教材研究し、模擬保育をグループワークで立案できる。

第 10 回　「言葉」に関わる遊びの指導案作成
領域「言葉」に深く関わる遊びの具体的な指導場面を想定した指導案をグループワークで作成することができる。

第 11 回　「言葉」に関わる遊びの発表
模擬保育の発表を通して、自身の保育を振り返り、指導上の留意点や改善点について討議を通して理解する。

第 12 回　言葉が育つ土壌、遊びが育む言葉
言葉が育つための土壌、主体的な遊び体験、豊かな環境について説明できる。

第 13 回　言葉を育む保育活動の実践
言葉を使った遊びについて実践を通して身に付ける。

第 14 回　手作り教材の発表
製作した手作り教材を発表し、乳幼児が興味を持つ具体的展開について省察し、実践する力を身に付ける。

第 15 回　まとめ
子どもの言葉の発達過程と、そのための保育者の役割について説明することができる。

〔成績評価〕

定期試験（40%）
実技（30%）
ホームワーク提出物等（20%）
授業に臨む姿勢（10点）
※実技、提出物については、評価後個別コメントをつけて返却します。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領／幼稚園教育要領 平成３０年度改正施行・平成２９年３月３１日告示 /全国社会福祉協議会/全国保育士会

〔履修条件〕

資格取得希望者のみ

〔備考〕

【実務経験の活用】
保育現場における、子ども理解(発達や遊びの深化)、保育者理解（保育者の役割や保育における配慮)、保育理解(環境構成、教育課程）等について指導を行い、保育、教育実習で、言葉の文化財（絵本、紙芝居、ペープサート等）を演じる際の、子どもの発達や反応を考慮した選定方法、演じ方について指導する。

〔オフィスアワー〕

時間：前期　水曜日13：50～15：20
場所：研究室２（201教室の前）
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ること。

児童文化

1341
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
白江　　眞由美

〔到達目標〕

・児童文化の基本的な知識を習得し、子どもの遊びと育ちの関係性に着目した実践指導を目指す。
・児童文化財を使用した遊びの演習から児童文化の伝達者としての基本的な能力を習得する。
・自作の玩具等を制作し、実際にグループ等で活用発表することから実践指導に役立てる。

〔授業の概要〕

伝承遊びや年間行事、自然物を扱った遊び等を知り、児童文化財の絵本・紙芝居・人形劇等についての基本的な知識を学びながら制作と実演を行って、実践に役立つ基本的な技術を身に付る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・時間外に演習時の児童文化財の制作と発表に備えての練習時間を確保する必要がある。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション/児童文化を学ぶ意義
・授業の目標、予定、進め方、評価方法等について理解する。
・児童文化とは、何か。児童文化の変遷と学ぶ意義についてを考える。
第 2 回　子どもの生活と遊びの関係性について
子どもの生活における遊びの重要性と遊びから育まれるものについてを考える。
また、グループ討議を行って学びを深める。
第 3 回　子どもの育ちと児童文化（財）について
・子どもの成長発達にそった遊びと具体的な児童文化財について考える。
・学校教育とのつながりの観点から「遊び」から「学び」についてを考える。
(学習指導要領の改訂を踏まえる。特に幼稚園と小学校の学習指導要領の改訂について重点的に丁寧に説明をする)「育ち」から「学び」への接続＝幼小接続・幼小連携にも触れる。
第 4 回　言葉と表現力を育てる遊びⅠ
言葉と表現力を育てる遊びⅠとして、わらべ歌・あそびうた・童謡・ことば遊びに親しみ、役割や意義を知る。
第 5 回　言葉と表現力を育てる遊びⅡ
言葉と表現力を育てる遊びⅡとして、素話・絵本・紙芝居・童話を子どもの生活にどの様に取り入れるのか。実演学習を行う。
第 6 回　言葉と表現力を育てる遊びⅢ
言葉と表現力を育てる遊びⅢとして、シアタースタイルの児童文化財の人形劇・エプロンシアター・パネルシアター・ペープサート・視覚シアター等について学ぶ。
第 7 回　身体をつかって遊ぼうⅠ
身体をつかった個人遊びの紹介と具体的な遊びを考えて発表する。
素材は、紙・ボール・棒・石・縄・紐等を扱う。
第 8 回　身体をつかって遊ぼうⅡ
身体をつかった集団遊び。２人一組での遊びとグループでの集団遊びを考える。
第 9 回　遊具や用具をつかって遊ぼうⅠ
遊具や用具をつかった個人遊びを考え、実際にやってみる。
第 10 回　遊具や用具をつかって遊ぼうⅡ
遊具や用具をつかった集団遊びを考え、グループで遊びを展開する。
第 11 回　身近な素材をつかって遊ぼうⅠ
身近な素材で遊ぶ玩具を制作し、遊びを発展させる。
第 12 回　身近な素材をつかって遊ぼうⅡ
音の出る玩具・動く玩具をつくり、それらを使ったグループ発表やダンスの考案。
第 13 回　遊びの提案①　・　第８回の課題発表
考案した集団遊びと個人で制作した玩具を発表し、みんなで遊んでみる。
第 14 回　遊びの提案②　・　第６回の課題発表
日本の伝統的な遊びや玩具を知り、遊んでみる。
第６回課題のシアタースタイルの物を実演発表する。
第 15 回　まとめ（児童文化の現状と課題）・テスト
・社会の変遷と児童文化の関係性を考え、今後の課題と伝達者としての教師（大人）の役割について考える。
・課題発表後にテストを実施。
〔成績評価〕
積極的な受講姿勢、種々の演習課題提出と発表姿勢、及び試験で総合的に評価
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
[参考資料]
・文部科学省　新学習指導要領改訂スケジュール及び改訂のポイント参照
・幼稚園教育要領（平成２９年３月告示）
・小学校学習指導要領（平成２９年３月告示）
・中学校学習指導要領（平成２９年３月告示）
〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①後期　②土曜日：１０：００～１１：３０　③場所：授業終了後、講義教室で対応。④連絡先：Phollyのメッセージで質問・相談受付。⑤その他　次回の授業で回答。

肢体不自由者の心理･生理・病理

1605
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
槇場　　政晴

〔到達目標〕
・肢体不自由による姿勢・運動や認知について心理学的視点から説明することができる。
・肢体不自由による身体的・心理的影響とそれらに応じた支援の方法について説明できる。
・肢体不自由の主な疾患についての，病因・症状・予後・合併症について理解する。
・上述の知識を考慮したうえで、教育現場で実際に子どもと適切に関わる心構えを養う。

〔授業の概要〕
・肢体不自由の概念や障害としての特徴、発達や認知、社会性との関係について学ぶ。
・基本的な神経・脳の機能、骨格筋の働きを理解した上で、肢体不自由をおこす代表的な疾患の原因および合併症、生理・病理について学ぶ。
・定型発達の子どもの発達を理解した上で、肢体不自由児の発達上の課題ついて学ぶ。
・具体的な心理的支援・配慮のあり方について体験するとともに学習者同士の話し合いの活動を行い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間、授業のテーマに関する受講者の知識を確認した上で授業を行います。指定の予習範囲を一通り理解し、わからない用語や気になる内容についてチェックしてくるようにして下さい（30分）。また、15回の授業は、すべて関連した内容になっています。各授業の内容を復習し十分理解したうえで次の授業に臨んでください（９0分）。

〔授業計画〕
第 1 回　肢体不自由とはなにか
授業に目的・評価の方法及び、肢体不自由とはどのような障害であるのかについての概説する。
第 2 回　骨格及び骨格筋の働き
身体を支え形作る骨の構造と骨格の成り立ち、関節構造について知り、体の動きの基本について概説する。また、骨格筋の構造を学ぶとともに関節を動かす物理的な原理を概説する。
第 3 回　神経の成り立ちを働き
身体の動きをコントロールする神経の働きについて、大脳の構造及び、神経伝達の仕組みについて概説する。また、神経伝達が阻害された部位による症状の違いについて概説を行う。腱反射などの体験を通して神経伝達の実体験も行う。
第 4 回　肢体不自由の種類と症状
肢体不自由の原因疾患とその症状について、脳性麻痺とその他の肢体不自由の二つの観点で概説する。神経伝達仕組みを基に肢体不自由の症状の現れ方について話し合いを行い考察する。
第 5 回　原始反射
原始反射の種類やその特徴について概説する。原始反射のが現れなかった場合や、原始反射が残った場合の行動上の問題点について事例を基に話し合いを行い支援の方法についての理解を深める。
第 6 回　てんかん発作と支援
脳性麻痺のある人に多いてんかん発作について症例を基に症状と観察とポイントについて概説する。支援の方法について話し合いを行いてんかん発作時の対応について理解を深める。
第 7 回　重複障害と医療的ケア
重複障害の定義について概説し、医療的ケアの実際について、事例を通して機器の紹介やケアを行う時の配慮事項について概説する。
第 8 回　進行性の疾患と支援
進行性の疾患による肢体不自由について原因とその症状について概説する。進行性の疾患のある人の心理状態について事例を基に概説し、支援をするときに必要な配慮事項を話し合い、理解を深める。
第 9 回　アシスティブテクノロジー
肢体不自由のある人の生活を支援するアシスティブテクノロジーについて概説する。支援機器の使用事例と実物に触れることを通して支援技術について理解を深める。
第 10 回　子どもの発達とことば
子どもの発達とことばの発達について概説し、ヒトの発達の道筋を理解し重複障害のある人に対するの理解を深める。
第 11 回　選択行動とQOL
人が生活し、生きていくために最も大切であるとされる自己選択、自己決定あり方について概説する。肢体不自由のある人の自己選択、自己決定ができるようにするための方法及び、それを表出する方法を学習者とともに検討する。
第 12 回　要求行動の形成と表出の方法
肢体不自由のある人の望みをかなえるため、対象となる人に合わせた要求の方法について事例を基に概説し、よりよい表現方法を就学者と検討を行う。
第 13 回　コミュニケーション支援
AAC（補助代替えコミュニケーション）を用いたコミュニケーション手段について概説する。構音障害や言葉を利用することが難しい肢体不自由のある人のコミュニケーション手段について理解を深める。
第 14 回　実態把握の方法１
今までの学習内容を総合して、事例として取り上げた肢体不自由者の実態を小グループで話し合いながら、病理、生理の観点から分析する。
第 15 回　実態把握の方法２
実態把握の方法１で分析した結果を基に、心理的側面からの分析を行い、支援の方法を考え、個別の支援計画の作成の基礎資料を小グループで作成する。

〔成績評価〕
毎時間の講義の後に行う学習内容についてのレポート５０％
実態把握の方法１．２で作成する対象者の病理・生理・心理の観点からの分析結果５０％

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
特別支援学校高等部学習指導要領（平成２１年３月告示、文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（平成21年６月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
特別支援教育に関する科目、特別支援教育領域に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目、中心となる領域【肢体不自由者】、含む領域【知的障害者病弱者】、特支一種、必修

【実務経験の活用】
・教育現場の経験より、肢体不自由児、重複障害児の身体的な特徴、動作の特徴を踏まえ、安全に教育するために必要な介助の方法や学習のための支援の方法について、事例を基に具体的に指導する。
・コミュニケーション指導や姿勢保持のための支援が、対象者にどのような心理的変化をあたえるのか、指導事例を基に映像記録を交えて紹介し理解を深める。
・肢体不自由教育に携わり、実際に作ったり、活用したりした教材を持参し、直接触れ、体験できる機会を作る。
〔オフィスアワー〕
後期　土曜日　3限（予定：調整中）に授業を行う予定ですので質問などは、授業終了後、教室で対応します。
上記以外にmakiba@ashiya-u.ac.jpかPholiyのメッセージにて質問・相談をしていただいても結構です。

児童英語Ⅰ

5270
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
木曜 2限
多田　　玲子

〔到達目標〕
小学校外国語活動及び外国語科の授業実践に必要な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付ける
〔授業の概要〕
小学校の外国語活動・外国語科を担当するために必要な以下の背景的な知識を身につける。
(1) 英語に関する基本的な知識（音声・音韻など）
(2) 第二言語習得に関する基本的な知識
(3) 児童文学（絵本や子供向けの歌や詩など）
また、中学校英語への接続を円滑に図るために必要な4技能における実践的な運用能力を授業でのスモールトークの実践体験を通して身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前にスモールトークの英文原稿を作成（60 分）
授業後のスモールトーク原稿修正（30 分）
小テストのための準備学習（60分）
活動案作成準備や模擬授業準備（60分）
〔授業計画〕
第１回：　オリエンテーション　　日本の小学校外国語教育の動向について
第２回：　第二言語習得に関する基本的な事項について
第３回:　英語の音声の仕組み､マザーグースから学ぶ音韻①
第４回：　マザーグースから学ぶ音韻②　英語の音声と綴りの関係①
第５回：　英語の音声と綴りの関係②、英語の音声・音韻に関する小テスト
第６回：　スモールトーク ①、小学校英語教師に必要な４技能
第７回：　スモールトーク②、語彙，文構造，文法等に関する基本的事項
第８回：　スモールトーク③、異文化理解について①
第９回：　スモールトーク④、異文化理解について②
第１０回：絵本を教材とする指導①
第１１回：絵本を教材とする指導②、教室英語①
第２回：絵本を教材とする活動案の作成、教室英語②
第１３回：教室英語の小テスト、絵本を教材とする活動案の模擬授業準備
第１４回：模擬授業①
第１５回：模擬授業②　まとめ
〔成績評価〕
模擬授業および活動案（30%）、授業での参加態度およびスモールトーク英文原稿（30％）、授業中の小テスト2回(40%)
〔教科書〕
「Let’s Try! 1」（文科省）
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
新編小学校英語教育法入門（研究社）など
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目
〔オフィスアワー〕
①後期　②木曜　11:55-12:10 13:40-13:55 ③講義の教室　④事前にメールをしてアポイントを取ってください。rtada714@yahoo.co.jp

障害児保育

6005
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
脇田　　宣

〔到達目標〕
1.心身の障害の種類や医学的要因を知る。
2.児童の発達や障害特性に応じた個別保育計画を作成できる。
3.障害児保育における「インクルーシブ」を考える。
4.障害のある児童の就学支援に必要な知識を持つ。
5.家族支援の意義と内容を理解する。
〔授業の概要〕
保育者として持つべき発達や障害の基礎知識、発達の問題や障害のある幼児への発達支援及び家族支援についての講義、具体的支援を想定した演習等を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義は毎回レジュメを配布し進め、その内容をどれだけ理解できたか期末の筆記試験で判断することになるので、振り返り学習を各自実施しておくこと。また、演習に際して、事前に事例資料、着眼点や取組みのポイント等を提示するので確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　障害児保育の基本理解①
　　児童の発達保障
第 2 回　障害児保育の基本理解②
　　障害児保育におけるインクルーシブ
第 3 回　子どもの心身の障害①
　　感覚器官の障害（視覚障害と聴覚障害）
第 4 回　子どもの心身の障害②
　　運動機能の障害
第 5 回　子どもの心身の障害③
　　発達の遅れ（知的障害）
第 6 回　子どもの心身の障害④
　　自閉症とその辺縁障害
第 7 回　子どもの心身の障害⑤
　　ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害）
第 8 回　障害のある子どもの発達支援①
　　早期発見と早期対応
第 9 回　障害のある子どもの発達支援②
　　発達支援の実際
第 10 回　障害のある子どもの発達支援③
　　個別保育計画の作成
第 11 回　障害のある子どもの発達支援④
　　発達のストレングス理解
第 12 回　障害のある子どもの発達支援⑤
　　困難事例に学ぶ
第 13 回　障害のある子どもの発達支援⑥
　　就学へ向けた支援
第 14 回　家族支援の理解①
　　幼児期の家族支援に求められる基本的視点
第 15 回　家族支援の理解②
　　家庭との連携・協調
〔成績評価〕
筆記試験50％
平常点50％（演習等の課題提出＋授業や課題の取組み姿勢）
〔教科書〕
無
〔参考文献〕
大場幸夫・柴崎正行 編『新・保育講座⑮ 障害児保育』ミネルヴァ書房
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①後期
②木曜日
③場所：授業終了後の講義教室で対応します。

世界教育史Ⅰ

3205
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
津田　　徹

〔到達目標〕
特に西洋世界の社会背景や時代背景などを基本として、その中で展開される教育理念（子ども、教育者、教育機関、文化施設、教育手段など）の展開を学生自身が関心、意欲をもって、理解することに努め、最終的に教育史上の主要な展開について簡単に説明することができることを目指します。
〔授業の概要〕
世界教育の歴史のうち、西洋の教育理念（古代からバロックまで）を手がかりに、現代の教育現象や教育問題との関連や問題の原理を探ります。また視覚資料（映画、映像、絵画等）を用いたり、文字資料（文学作品等）を実際に読むこと、更にはグループ別の議論なども試みながら、教育理念の歴史的理解を深化させていきます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分）。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介
第 2 回　古代ギリシア１
　　ホメロス（英雄叙事詩）、ヘシオドス（農耕と神話）、ピュタゴラス（数学と音楽）
第 3 回　古代ギリシア２
　　ソクラテス（マイエウティケー）、プラトン（イデア論、対話法、想起説、アカデメイア）
第 4 回　古代ギリシア３
　　アリストテレス（演繹法、学問の体系化、倫理学、音楽、体育、性格形成）
第 5 回　古代ローマ１
　　キケロ（ローマ文学の模範）、セネカ（ネロの家庭教師、道徳理論）
第 6 回　古代ローマ２
　　クィンティリアヌス（ローマの代表的教育、弁論家教育）
第 7 回　西洋教育中世史１
　　キリスト教、アウグスティヌス、修道院制度、自由七科の成立
第 8 回　西洋教育中世史２

カロリング・ルネサンス（カール大帝、宮廷学校）、大学の公認
第 9 回　西洋教育中世史３
スコラ的教育、トマス・アクィナス、一斉授業
第 10 回　ルネサンスの教育
ヒューマニズムの教育、イタリア人文主義、西ヨーロッパ諸国への影響と教育
第 11 回　宗教改革の時代の教育
ルター、カルヴァンと新教徒の教育政策
第 12 回　反宗教改革の時代の教育
イエズス会の布教活動と教育、日本への影響
第 13 回　17世紀の西洋の教育の展開１
F・ベーコン、実学主義の教育、コメニウスの活躍
第 14 回　17世紀の西洋の教育の展開２
イギリス経験論（ロック）、大陸合理論（デカルト）の各思想と教育
第 15 回　まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕
定期試験（70%）、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）

〔教科書〕
広岡義之他著、『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』、ミネルヴァ書房、2019年。
教科書を毎回使用します。一回目から持参すること。

小学校学習指導要領（平成28年度3月告示、文部科学省）
中学校学校学習指導要領（平成28年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
パーマー編（広岡他訳）、『教育思想の50人』、青土社。
レーブレ（広岡他訳）、『教育学の歴史』、青土社。

その他、授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜2時間目前休み時間。

ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ心理学Ⅰ

3301
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
林　　知代

〔到達目標〕
カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の基礎的な内容について学びます。理論間の相違点および共通点を把握してもらいます。そのうえで人間の抱える心理的諸問題についての理解と、心理臨床家としてのアプローチを多面的にとらえ、目の前の悩める人にどのような支援助言を行えるか考えることができるようになることを目標とします。

〔授業の概要〕
心理学の基礎的知識を振り返りながら、カウンセリング場面においてどのように生かされているかを知ります。心理相談の流れ、アセスメントのための心理テスト、カウンセリングにおける心理療法を理解し、理解を深めるためにロールプレーイングなどを取り入れ、体験を通して学びます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日常の出来事にまつわる情緒変化の意識化を予習とし記述してもらいます。復習として授業についてのレポートを書いてもらいます。

〔授業計画〕
第 1 回　開講にあたって
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介する。
第 2 回　カウンセリングの定義と目的
なぜカウンセリング心理学が必要であるか、またカウンセリング心理学とは何かを学びます。
第 3 回　心理アセスメント　1
心理アセスメントとは何かと課題について知る
第 4 回　精神分析１
臨床心理の土台となるFreudの精神分析的理論を学びます。
第 5 回　精神分析2
精神分析理論を基底にしたカウンセリングとはどのようなものかを学びます。
第 6 回　人間性心理学的療法
Carl Ransom Rogersの来談者中心療法を中心に実存分析、現存在分析、マズローの自己実現理論など人間性心理学に属する理論・療法を学びます。
第 7 回　行動療法
行動療法の基本的な理論と考え方、および行動療法技法を学びます。
第 8 回　自己心理学から間主観性理論へ　1
Kohutに始まる自己心理学は、Freudの自我心理学とどう違うかを理解します。
第 9 回　自己心理学から間主観性理論へ　2

Kohut理論から発展してきた間主観性理論について学びます。乳幼児の精神分析的発達理論の変遷を取り上げながら説明します。

第 10 回　認知行動療法
Aaron Beckの認知療法を理解したうえで、認知行動療法の基礎的理論と技法について学びます。

第 11 回　交流分析
Eric Berneによって提唱された心理療法の理論を学びますびます。

第 12 回　精神医学との領域
精神について医学領域と心理領域の重複するところと相違について学びます。

第 13 回　カウンセリングにおける相談・事例1
実際のカウンセリングはどのように進んでいくか、勉強してきた理論を振り返りながら対応について学びます。

第 14 回　カウンセリングにおける相談・事例2
実際のカウンセリングはどのように進んでいくか、勉強してきた理論を振り返りながら対応について学びます

第 15 回　総括
まとめ
レポート提出

〔成績評価〕
授業態度(1割)
発表　および　毎授業のレポート(3割)
試験(6割)

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
臨床心理学　青木紀久代編　新星出版社
中学校学習指導要領解説　文部科学省
高等学校学習指導要領解説　文部科学省
國分康孝「カウンセリングの理論」
國分康孝「カウンセリングの技法」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
カウンセリング理論が机上のものでなく実践に即したものであることを伝えること、また、心理検査や観察などの手法が自身の理解を深めるよう教授する。

〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

教育学概論Ⅰ②【初等】

4209
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
小川　　雄

〔到達目標〕
人間を人間として成立させているものについて考察する場合、教育作用は非常に大きな位置を占めています。この講義では、教育とは何かについて、その理念と歴史を知ることができます。なぜ人間に教育が必要なのかという教育の理念の確認から開始して、教育という語の語源、教育のあり方、人間活動と教育、現代社会と教育、社会と教育の理念等について学ぶことができます。こうした内容について理解し、教育のあるべき姿をイメージしながら、その実現に向けて自分で考えることを目標とします。

〔授業の概要〕
この講義においては教育学の基礎について、その理念、歴史、内容、方法などを歴史的、場所的観点から説明して、教育学に対する認識を深化させることを目指す。
講義方法は、phollyを使ったオンデマンド形式で行います。詳細については第１回のガイダンスで説明しますが、基本的には、講義スライドを視聴して、それに関連する課題に取り組み、提出する、という流れです。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、ノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分)。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法

第 2 回　教育の場所
家庭、学校、地域社会とそれぞれの教育について

第 3 回　教育の目的（1）
何をめざして教育はなされるべきか、教育基本法など法令等による目的・目標

第 4 回　教育の目的（2）
人間観と教育観、現代社会と教育への要請

第 5 回　教育の必要性
自己実現の理念

第 6 回　教育観の対立（1）
系統主義と経験主義

第 7 回　教育観の対立（2）
学問中心主義と子ども中心主義

第 8 回　家庭教育
家庭教育の意義と役割

第 9 回　社会教育
社会教育の理念と役割

第 10 回　学校教育の歴史（1）
近代から第二次世界大戦までの日本の教育の歴史

第 11 回　学校教育の歴史（2）
第二次世界大戦から現代までの日本の教育の歴史

第 12 回　近代の教育思想
ルソーとペスタロッチの教育思想

第 13 回　現代の教育思想
デューイとノディングズの教育思想

第 14 回　学校教育の現代の課題
　　スクールカースト
第 15 回　まとめ
　　学びを通して得られた視点と教育的課題

〔成績評価〕
期末レポート（70%）、各授業に対応した課題の提出（30%）

〔教科書〕
広岡義之編、『新しい教育原理ー第2版ー』、ミネルヴァ書房、２０１５年

〔参考文献〕
内閣府・文部科学省・厚生労働省編、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年）
文部科学省編、『幼稚園教育要領』（平成29年）、東山書房
文部科学省編、『小学校　学習指導要領』（平成29年）、東洋館出版
文部科学省編、『中学校　学習指導要領』（平成29年）、東山書房
文部科学省編、『高等学校　学習指導要領』（平成30年）、東山書房
※他の文献については授業中に適宜紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育の理念及び教育に関する歴史及び思想、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
基本的に、Phollyでの対応になります。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡をとってください。

児童体育

4231
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
竹安　　知枝

〔到達目標〕
・小学校の体育科領域の目標や内容について説明できる。
・児童期の子どもに対する運動指導のスキルについて身に付ける。
・体育の教材（用具類も含む）の特性を把握し、運動指導の場面で適切に使用することができる。

〔授業の概要〕
　実技は、小学校体育科の領域の内容（体つくり、器械運動、走・跳の運動、ゲーム、ボール運動、リズム遊びなど）を主とする。実技を中心に行うが、グループごとに実技の練習方法や指導方法について、ディスカッションし、全体で発表を行う。
　講義の主な内容は「体育科の目標及び内容」「児童期の運動（遊び）の重要性」「保健」「コーディネーション能力を高めるための運動（遊び）」「安全対策」等とする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】準備運動をしっかりと行い、その日に実施予定の実技の練習も行うこと。また、その日に実施する運動の特徴や競技ルール等についても調べておくこと。（２時間）
【復習】授業内容について自分なりにまとめること。また、苦手な運動種目については、授業後に練習を行い、ストレッチ体操も十分に行うこと。（２時間）

〔授業計画〕
第 1 回　①授業の概要　②体育科の目標及び内容
　　従業の概要・評価について
　　体育科の目標と運動領域（内容）について
第 2 回　体つくり運動①
　　体ほぐしの運動・多様な動きをつくる運動遊び
第 3 回　体つくり運動②
　　体力を高める運動
第 4 回　器械・器具を使っての運動遊び
　　鉄棒・跳び箱などを使った運動の指導方法、補助の仕方
第 5 回　器械運動
　　マット運動・平均台運動の指導方法、補助の仕方
第 6 回　走・跳の運動（遊び）
　　ハードル走・リレーの指導方法
第 7 回　縄跳び（短縄・長縄）
　　短縄・・・前跳び・後ろ跳び・二重跳びなど
　　長縄・・・遊びの展開、指導方法
第 8 回　水遊び・水泳
　　水遊び・・・浮く・もぐる遊びなど
　　水泳・・・クロール・平泳ぎなど
第 9 回　ゲーム
　　鬼ごっこ・ボール遊びなど
第 10 回　ボール運動①
　　ドッジボール・ポートボールなど
第 11 回　ボール運動②
　　バレーボール・バスケットボールなど
第 12 回　リズム遊び・表現運動
　　簡単なフォークダンスや創作ダンスなど
第 13 回　サーキット運動（遊び）
　　多種多様な動きの組み合わせによる遊びの展開
第 14 回　保健・安全対策
　　保健の領域について
　　コーディネーション能力（調整力）を高める運動と遊びについて
　　安全対策（遊具の安全点検・応急処置等）について
第 15 回　振り返りとまとめ
　　様々な場面における運動指導に関して（ディスカッション）
　　全体の振り返りとまとめ（発表）

〔成績評価〕
実技テスト　50%
提出物（レポート）30%
学習意欲・授業態度　20%

〔教科書〕
【体育編】小学校学習指導要領（平成29年3月31日告示）文部科学省

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育、小一種、必修
〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

教育心理学研究法Ⅰ

4237
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
岡野　太郎

〔到達目標〕
1. 教育心理学における実証的研究方法についての知識並びに技能を獲得し,それを他者へ適切に説明することができる。
2. 現代における教育心理学の研究に関する深い認識を基に,自ら研究計画を立案し，適切に研究を実施する際における限界点並びに倫理的配慮について理解することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に心理学的な観点から，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。
〔授業の概要〕
本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び2，経営教育学部のディプロマ・ポリシーにおける2及び4の獲得を目指すものである。
心理学（psychology）とは，我々の「行動と心的過程についての科学的学問」（Edward E. Smith et al., 2015 内田訳 2015）である。本講義では，“心”を巡る様々な問題について触れながら，教育心理学における実証的な研究法について解説を実施する。それを通じて，“心”にまつわる様々な問題に対して科学的に解決する視点や研究倫理を身につけることを目的とする。
なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。
復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努める。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用して調査し，ノートに整理する。
〔授業計画〕
第 1 回　**教育心理学における研究法**
・授業の進め方や成績評価について
・「科学」と「心理学」; 心理学における「研究」
・心理学研究法の分類と特徴
・心理学研究法の歴史
・研究倫理
第 2 回　**観察法**
・心理学における観察法の意義
・自然的観察法，実験的観察法，参与的観察法
第 3 回　**実験法**
・心理学における実験法の意義，重要性
・実験法の特徴 ; 仮説演繹法
・実験計画
第 4 回　**質問紙法**
・質問紙法の実施方法
・心理尺度の構成 ; 質問項目作成の方法や回答方式
・信頼性と妥当性
第 5 回　**面接法**
・面接法の意義
・臨床的面接法の特徴，面接者の要件について
・調査的面接法の特徴
第 6 回　**検査法**
・検査法の特徴
・作業検査法，知能検査法（WISC並びにWAIS等），人格検査法，投影法
第 7 回　**事例研究法**
・心理臨床と事例研究 ; 教育場面における事例研究
・心理学研究法としての事例研究
・事例の取扱いと倫理的配慮
第 8 回　**実践的研究法**
・教育場面における実践的研究法 ; アクションリサーチ，フィールドワーク
・質的研究法との関連
第 9 回　**精神生理学的研究法**
・生理指標 ; 眼球運動，脳波（fMRIなど），事象関連電位，皮膚電気反応
・神経心理学的手法
第 10 回　**教育心理学分野の研究法①：発達**
・発達における研究法の特徴 ; 縦断的研究，横断的研究，コホート分析
・各発達段階における研究法の特徴
第 11 回　**教育心理学分野の研究法②：学習**
・学習心理学，認知心理学との関連
・学習に関連した研究の特徴 ; 教室場面における学習行動の分析，教授－学習過程分析，授業研究
第 12 回　**教育心理学分野の研究法③：臨床**
・学校臨床場面における研究手法 ; 事例研究法
・特別支援教育における研究法の特徴
第 13 回　**教育心理学分野の研究法④：測定**
・教育測定の手法，測定理論
・教育心理学における研究モデルの構成
・教育評価における研究法の特徴
第 14 回　**心理学論文の作成方法**

・心理学における論文，論文の執筆方法
・文献収集の方法；書籍，雑誌，電子媒体
・文献研究

第 15 回　**統括**
・「教育心理学研究法Ⅰ」のまとめ，振り返り

〔成績評価〕
授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%
期末試験：70%

〔教科書〕
村井 潤一郎 (編) (2019). Progress & Application 心理学研究法　サイエンス社
その他，適宜授業内において資料を配布する。

〔参考文献〕
南風原 朝和・市川 伸一・下山 晴彦 (編) (2004). 心理学研究法――調査・実験から実践まで――　東京大学出版会
Ann Searle (1999). *Introducing Research and Date in Psychology*. England: Routledge.
（アン・サール. 宮本 聡介・渡邊 真由美 (訳) (2017).　心理学研究法入門　新曜社）
その他，授業内においても適宜紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。
連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

教育社会学

5016
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.現在の教育現場で顕在化している諸課題の実態（事実・活動・現象・体系・制度、等）とそれを生み出している社会構造・社会関係・社会規範の一端を授業で紹介された事例を通じて理解する。
2.また、それらについて、さらに探求しようとする関心・意欲をもつ。
3.「私事化(privatization)」の概念を理解している。
4.我が国における「私事化」の進行と「いじめ・不登校」の問題をとらえる視点を確立できる。
5.教育問題（教育病理）に関して、解決の糸口を主体的に見出そうとする意欲をもつ。

〔授業の概要〕
現在の教育現場における諸課題を切り口にし、海外の状況や学生自身の実体験も織り交ぜながら、それらの背景にある社会構造・社会関係・社会規範について考察する。特に、「私事化(privatization)」の概念に着目し、現代社会における「私事化」の進行を背景とした「いじめ・不登校」の問題を理論化し、学生自身の生活経験・実体験との対照比較などの中で深めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
＊授業の際に次時のテーマを指定するので、次の授業までにテーマに関する予備知識を身に付けて授業に臨む
＊授業後の振り返りシートを提出する

〔授業計画〕
第 1 回　教育社会学の授業について　ガイダンス
（教育社会学の研究領域・アプローチについて、今後の授業で扱うテーマに関するワークショップグループを編成）
第 2 回　「新しい学力観」登場以後の「学力観」変遷
（「臨教審答申（S62.12）」を受けて策定された学習指導要領に謳われた「新しい学力観」から今に至る流れ）
第 3 回　「子どもたちの現実」①（学力格差）
（現代の教育の生み出す「選別・格差拡大機能」についての初歩的な理解）
第 4 回　「ICT教育」
（プラグマティズムに対する「或る種の危惧」とその克服の模索）
第 5 回　「職員室の課題」①
（平成27年教育委員会制度改変以降の学校現場）
第 6 回　「職員室の課題」②
（「指導力不足教員」「教員による不祥事」「OJT」）
第 7 回　「少年非行と学校の荒れ」
（青少年問題行動の時代的な特徴・「学校の荒れ」の諸様相とその背景）
第 8 回　「学級集団」
（QUテストとは/その結果などから読み取れる、崩壊しない学級経営のタイプ）
第 9 回　「職員室の課題」③
（「部活動指導」、「業務改善」）
第 10 回　「子どもたちの現実」②（環境）
（「子どもの貧困・虐待」に関する初歩的な理解）
第 11 回　「私事化(privatization)」の進行①
（「私事化」の概念についての初歩的な理解）
第 12 回　「私事化(privatization)」の進行②
（「私事化」の進行と「いじめ問題」）
第 13 回　「私事化(privatization)」の進行③
（「私事化」の進行と「不登校」「その他、青少年の社会問題」）
第 14 回　「学校・地域・家庭で子どもたちをはぐくむ」
（平成9年須磨事件、阪神淡路大震災等の教訓）
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
（社会の生み出してきた教育問題、教育の生み出してきた社会問題、まとめ）

〔成績評価〕
期末のレポート(60%)、振り返りシート(30%)、グループワークへの参加の状況 (10%)

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
幼稚園教育要領（平成29年改訂）解説
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編
特別支援学校学習指導要領等（平成29・30年改訂）
テキストは使用せず授業の中で随時紹介、または適宜プリントを配付
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、高一種（公民）、選択

【実務経験の活用】
教員、市教委事務局職員として感じてきた我が国の教育界の動向や課題について、先行研究の諸説を紹介しながら、指導していく。
〔オフィスアワー〕
水曜日：15:00から16:00
場　所：研究室
連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください
その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

初等教科教育法Ⅴ（生活）

5213
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
学習指導要領における生活科の目標・内容をとおして生活科の基本的な知識、考え方、授業の進め方について理解を深める。
〔授業の概要〕
講義を聞くだけでなく、活動や体験を取り入れた授業を行う。また、授業の最後に各自が授業の振り返りを行い、自分の考えをまとめる活動を行う。毎回の授業レポート（課題・質問・感想）を講義後に提出する。感想や質問を取りまとめ、次回の講義の冒頭で紹介、応答する。他の受講生の感想や考えにふれることで、より深い学びにつなげる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
生活科グッズ製作及び指導案の作成の連絡を行う。
〔授業計画〕
第 1 回　生活科の目標
生活科の目標から生活科はどのような教科なのかを理解する。
第 2 回　生活科の内容①
生活科の学習指導要領から生活科の内容「学校と生活」について理解する。
第 3 回　生活科の内容②
生活科の学習指導要領から「家庭と生活」について理解する。
第 4 回　生活科の内容③
生活科の学習指導要領から「地域と生活」について理解する。
第 5 回　生活科の内容④
生活科の学習指導要領から「季節の変化と生活」について理解する。
第 6 回　生活科における遊び
身近な材料をつかっておもちゃつくり体験
第 7 回　昔遊び、伝承遊び
昔遊び、伝承遊び体験
第 8 回　動植物の飼育栽培
動植物の飼育・栽培を通して子どもはどのような問題発見・解決を歩むのかを考える。
第 9 回　生活科の年間計画作成
教科書をもとに年間指導計画を立案する。
第 10 回　指導案作成
模擬授業にむけて指導案を作成する。
第 11 回　模擬授業
模擬授業と総合評価
第 12 回　生活と出来事の交流
自分の成長を振り返り交流する
第 13 回　環境づくり
生活科と環境づくりについて理解する。
第 14 回　生活科の評価
生活科の望ましい評価の在り方
第 15 回　生活科と他教科との関連
生活科と総合的な学習の時間や理科、社会との関連
〔成績評価〕
定期試験６０％、レポート、課題、指導案など総合的に評価４０％
〔教科書〕
小学校学習指導要　解説　生活科編（文科省編平成29年告示）
生活科教科書　（文科省検定教科書）
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
前期　後期
金曜日　２限

研究室１３（３階）
メールアドレス：Phollyメッセージ
前もってメールで連絡すること

児童心理学Ⅰ

5215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
林　　知代

〔到達目標〕
乳幼児期から青年期に至るまでの子どもの心身の発達に関する心理学的知見を学び、発達に即した教育・指導について考える。
〔授業の概要〕
発達理論および乳幼児期の発達を概観し、児童期の身体・運動・注意・記憶の発達や指導について学習する。対象は発達に問題や障がいを持つ子どもも含まれる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業終了時に次回の資料を配付するので、熟読しておくこと（90分）。
各授業時に出される課題についてまとめておくこと（90分）。
〔授業計画〕
１．児童心理学Ⅰとは
２．発達とは
３．発達検査（１）
４．乳幼児期の意義と特質
５．児童期の意義と特質
６．性格検査（１）
７．思考の発達
８．9歳の壁とは
９．環境の変化と人との関わり
１０．適応に苦悩する子どもたち
１１．悩みの根っこ
１２．発達障害とは
１３．発達障害児への対応
１４．発達障害児を持つ親への対応
１５．要点と質疑応答

〔成績評価〕
授業への取組（20%）、レポートなどの提出物（40%）およびチェックテストの結果（40%）などの総合評価
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配付
〔参考文献〕
授業中に適宜文献を紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

教育心理学研究法Ⅱ

4237
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
岡野　太郎

〔到達目標〕
1. 教育心理学における統計的手法についての知識並びに技能を獲得し，それを適切に用いることができる。
2. 現代における教育心理学の研究に関する深い認識を基に，自ら研究計画を立案し，適切に研究を実施する際における留意点や限界点について理解することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に心理学的な観点から，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。
〔授業の概要〕
本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び2の獲得を目指すものである。
心理学（psychology）とは，我々の「行動と心的過程についての科学的学問」（Edward E. Smith et al., 2015 内田訳 2015）である。本講義では，“心”を巡る様々な問題について触れながら，教育心理学における統計的解析手法についての解説を実施する。それを通じて，“心”にまつわす様々な問題に対して科学的に解決する視点を身につけることを目的とする。
なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。また，必要に応じてコンピュータを利用した演習も実施する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。
復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努める。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用して調査し，ノートに整理する。
〔授業計画〕
第 1 回　**心理統計学の基礎①**
・授業の進め方や成績評価について
・「統計」とは？；心理学における「統計」の意義
・統計学における用語；変数とデータ，分布
第 2 回　**心理統計学の基礎②**
・記述統計の基礎；データの数値要約
・変数の関係並びに変換について
第 3 回　**心理統計学の基礎③**
・信頼性，妥当性
・項目分析
第 4 回　**心理統計学の応用①**

・独立変数，従属変数
・統計的検定の基礎
第 5 回　**心理統計学の応用②**
・統計的検定の実際
第 6 回　**心理統計学の応用③**
・多変量解析①
第 7 回　**心理統計学の応用④**
・多変量解析②
第 8 回　**心理調査法の基礎①**
・質問紙を用いた調査法：質問紙作成の基礎，実施方法
第 9 回　**心理調査法の基礎②**
・質問紙を用いた調査法：心理尺度の作成①
第 10 回　**心理調査法の基礎③**
・質問紙を用いた調査法：心理尺度の作成②
第 11 回　**心理調査法の実際①**
・質問紙を用いた調査法：データの処理法①
第 12 回　**心理調査法の実際②**
・質問紙を用いた調査法：データの処理法②
第 13 回　**心理調査法の実際③**
・質問紙を用いた調査法：質問紙法の実際①
第 14 回　**心理調査法の実際④**
・質問紙を用いた調査法：質問紙法の実際②
第 15 回　**統括**
・「教育心理学研究法Ⅱ」のまとめ，振り返り

〔成績評価〕
授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%
期末試験：70%

〔教科書〕
山田 剛史・村井 潤一郎 (2004). よくわかる心理統計　ミネルヴァ書房
南風原 朝和 (2002). 心理統計学の基礎――統合的理解のために――　有斐閣
その他，適宜授業内において資料を配布する。

〔参考文献〕
吉田 寿夫 (1998). 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本　北大路書房
南風原 朝和・杉澤 武俊・平井 洋子 (2009). 心理統計学ワークブック――理解の確認と深化のために――　有斐閣
その他，授業内においても適宜紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。
連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

児童心理学Ⅱ

5215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
林　　知代

〔到達目標〕
乳幼児期から青年期に至るまでの子どもの心身の発達に関する心理学的知見を学び、発達に即した教育・指導について考える。

〔授業の概要〕
児童期の知覚・知能・思考・社会性・道徳性・自我・人格の発達と指導を学習し、青年期との関連を考える。発達障害として自閉症を取り上げ、その対応を事例を使って紹介する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業終了時に次回の資料を配付するので、熟読しておくこと（90分）。各授業時に出される課題についてまとめておくこと（90分）。

〔授業計画〕
１．児童心理学Ⅱとは
２．児童心理学研究法
３．発達検査（２）
４．小1プロブレム
５．小学2年生の心理
６．小学3年生の心理
７．小学4年生の心理
８．小学5年生の心理
９．小学6年生の心理
１０．性格検査（２）
１１．青年期の意義と特質
１２．保護者のタイプ
１３．保護者とかかわるソーシャルスキル
１４．自閉症児の事例研究
１５．要点と質疑応答

〔成績評価〕
授業への取組（20%）、レポートなどの提出物（40%）およびチェックテストの結果（40%）などの総合評価

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配付

〔参考文献〕
授業中に適宜文献を紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ心理学Ⅱ

3301
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
林　　知代

〔到達目標〕
前期の心理カウンセリング１で培った知識理解に基づき、実際のカウンセリング場面を想定して実践的に理解を深める。
心理アセスメントに役立てる心理テストや知能検査、心理療法を体験しカウンセリングへの関心意欲を高め、心理療法の技能を理解する
〔授業の概要〕
カウンセリングで活用される主な心理テストを理論だけはなく、実践を通して実際のカウンセリングの組み方について説明をしていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で行う心理テストや検査について調べておく。
授業で実施した心理テストや検査を再度やって自分で結果を精査する。
〔授業計画〕
第 1 回　開講にあたって
カウンセリング心理学1との関連、授業の目的、授業の予定、参考文献・資料の紹介をする。
第 2 回　心理テストのカウンセリングへの活用
カウンセリングの方針を決める時の心理テストのバッテリーを組む際の活用と注意点を知る。
第 3 回　心理テストの報告書の書き方
アセスメントの際の心理テスターの心得について説明する。
第 4 回　自律神経失調症
日常生活を送りながら不調を感じる不定愁訴をはじめとして、自律神経の状態を理解し調べる。
第 5 回　性格検査　1
性格を知るための代表的検査を体験する。クレッチマー気質検査、TEG検査の体験とそれぞれの違いと活用を学ぶ。
第 6 回　性格検査　2
性格検査YGを体験し、他の性格検査と比較結果を多重的に知る。
第 7 回　知能テスト1
知能テストから何を知るのかを学ぶ。世界的に使用されているWISC‐Ⅳ，　WAIS−Ⅳの下位項目を実際に体験する。
第 8 回　知能テスト２
田中ビネーと京大NXを評価の仕方をWISCと比較しつつ説明する。
どちらかを体験しその違いを体験する。
第 9 回　Ｐ－Ｆスタディ
P−Fスタディの体験から、人のフラストレーションの状況時の感情と表出のあり方を学ぶ。
第 10 回　文章完成テスト（SCT）
文章完成テストSCTを体験し、そこから捉えられるもののポイントを深く知る
第 11 回　夢
カウンセリングにおける夢の活用の仕方を学び、自分が見た夢を通してその時の心理状態を把握していく。
第 12 回　HTP描画療法１
ゴッホの絵画の変遷をたどり、HTPの読み解きを参考に彼の内的世界を探求する。
第 13 回　HTP描画療法２
HTPテストもしくはバウムテスト、を体験し、どのような人に実施し、効果的活用となるかを学ぶ。
第 14 回　箱庭療法
箱庭療法を実際体験する。人数が多いときは箱庭の説明をしたうえでコラージュ療法を実施する。自身の作品をもとにどのように読み解くかについて学ぶ。
第 15 回　講義のまとめ
授業を振り返り、改めて心理テストのバッテリーの組み方とアセスメントについて理解を深める。
〔成績評価〕
ポートフォリオ（30%）
授業態度　(10%)
期末試験　(60%)
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
松原 達哉「心理テスト法入門」(2002)
鑪 幹八郎「夢分析入門」(1976)「夢分析の実際」(1979)

中学校学習指導要領解説　文部科学省
高等学校学習指導要領解説　文部科学省
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
カウンセリング理論が机上のものでなく実践に即したものであることを伝えること、また、心理検査や観察などの手法が自身の理解を深めるよう教授する。
〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

障害者スポーツ概論

3022
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
北林　　直哉

〔到達目標〕
１．障害についての知識と理解　２．障害者のスポーツ事情への関心　３．指導者としての取組み　４．障害者差別解消法の理解　５．その他、障害者を含むスポーツ環境を

「人体のしくみの基礎」「障害に関する知識」「障害者差別解消法」の観点から学びます。

〔授業の概要〕

日本における障害者人口は１０００万人に到達しようとしている。これからの時代は、障害に関する知識・理解力・対応力を備えることが必要となります。授業では画像・映像を中心に見て学び、考える力を養います。授業中に課題を出題する（レポート作成）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学外課外ボランティア活動などの経験
ニュースやインターネットの情報など

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
本講義の目的・意義の説明、・授業計画の説明、・評価方法の説明、・参考文献等の紹介、・資料等の紹介、・レポート作成

第 2 回　スポーツ指導者に求められる資質
組織のリーダーには、誠実・真摯・高潔といったインテグリティ(integrity)が最も重要な資質・価値観として求められる。法令順守だけでなく、より幅広い社会的責任やインテグリティマネジメント、リスクマネジメントについて学ぶ。

第 3 回　スポーツの意義と理念
日本における障害者人口は１０００万人に到達しようとしている。スポーツには「する」以外に「見る」「支える」といった関わりも含まれる。障害のある人も同等の権利があること学ぶ。

第 4 回　コミュニケーションスキルの基礎
社会において人間関係は避けて通れない事象である。意思疎通や情報伝達において、人が人を理解する意味を学ぶ。

第 5 回　各種障害の概要
障害の分類と身体・知的・精神について基本的な概要を学ぶ。

第 6 回　障害各論Ⅰ
目の機能および視覚障害、耳の機能および聴覚障害について、機能と障害の関連性について学ぶ。

第 7 回　障害各論Ⅱ
神経系機能および脊髄・頚髄損傷、骨格筋および切断・機能障害について、機能と障害の関連性について学ぶ。

第 8 回　障害各論Ⅲ
各種臓器機能および内部障害、脳の機能および脳性麻痺について、機能と障害の関連性について学ぶ。

第 9 回　障害各論Ⅳ
脳の機能および知的障害について、その特性と理解について学ぶ。

第 10 回　障害各論Ⅵ
脳の機能および精神障害、脳の機能および発達障害について、その特性と理解について学ぶ。

第 11 回　障害者スポーツの推進および諸施策・法律
障害者スポーツに関係する施策や法律「障害者差別解消法と合理的配慮の理解」を学び、障害者を取り巻くスポーツ環境ならびに事業などの取組みを学ぶ。

第 12 回　障害に配慮したスポーツ指導の留意点
障害各論で学んだことを中心に、それぞれに配慮・工夫するポイントを学ぶ。

第 13 回　全国障害者スポーツ大会の概要
全国障害者スポーツ大会（個人種目・団体種目）の概要と各地域の取組みについて学ぶ。

第 14 回　創作スポーツと指導者の在り方
「ピープルファースト」（障がい者である以前にひとりの人間である）という考え方で、障害特性を理解・配慮した誰もが楽しめるスポーツ（レクリエーション・ゲームなど）を創作する。また、指導者の在り方を検証する。

第 15 回　理解度テスト
特に、人体のしくみの基礎と障害の原因について主題する。
＊日本パーソンスポーツ指導士認定試験問題を参考にする。

〔成績評価〕

１．レポート内容で評価する。（各回6点✕提出回数）＋α
２．レポート点が不足の場合は、理解度テストで評価する。
３．日本パーソンスポーツ指導士認定試験の成績で評価する。

〔教科書〕

「特になし」

〔参考文献〕

・新版　障がい者スポーツ指導教本ー初級・中級（Amazon書店）2640円(税込)＋配送料
・日本パーソンスポーツ指導士 認定試験対策（Amazon電子書籍）1000円(税込)

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

〔オフィスアワー〕

授業後30分（講師控室）

教育哲学Ⅰ

1030
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
廣岡　　義之

〔到達目標〕

子ども一人ひとりの成長や発達を促すという観点から、教師として彼らとどのように主体的な関係を構築していくかという理解を深める。そのために、様々な教育思想家の哲学的理念を自分の生き方やあり方と重ねつつ考察する把握力を身につける。

〔授業の概要〕
１． 教育の理念、意義や目的について理解する。
２． 教育の思想と歴史について学び、教育活動に関する基礎的な理論について理解する。
３． 様々な教育思想家の考え方について理解する。
４． 教育と実存的に関わるとはどういうことかについて理解する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストに沿って進むので、毎回予習・復習を行うこと。
毎回発表（プレゼンテーション）を課すので、内容を事前に調べておくこと。(90分)
特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。(90分)

〔授業計画〕
第 1 回　フランクルの生涯と思想①誕生から25歳まで
テキストのフランクル略年表前半を熟読すること。
第 2 回　フランクルの生涯と思想②26歳から40歳まで
テキストのフランクル略年表中半を熟読すること。
第 3 回　フランクルの生涯と思想③41歳から亡くなるまで
テキストのフランクル略年表後半を熟読すること。
第 4 回　フランクルの講演①実存的空虚、実存的療法等
テキスト第1部第1章前半を熟読すること。
第 5 回　フランクルの講演②逆説志向、価値、意味等
テキスト第1部第1章中半を熟読すること。
第 6 回　フランクルの講演③良心、苦悩、智慧等
テキスト第1部第1章後半を熟読すること。
第 7 回　フランクルを読み解く①幸福、タゴール、生きる意味等
テキスト第2部第1章前半を熟読すること。
第 8 回　フランクルを読み解く②ヘルダーリン、リルケ、自殺、死等
テキスト第2部第1章後半を熟読すること。
第 9 回　フランクルを読み解く③ロゴセラピー、自己超越
テキスト第2部第2章を熟読すること。
第 10 回　フランクルを読み解く④夜と霧、それでも人生にイエスという等
テキスト第2部第3章を熟読すること。
第 11 回　フランクルを読み解く⑤世界存在の意味、人生の問い等
テキスト第2部第4章を熟読すること。
第 12 回　フランクルを読み解く⑥からし種の寓話、意味への意志等
テキスト第2部第5章を熟読すること。
第 13 回　フランクルを読み解く⑦道徳とフランクル思想の関連性
テキスト第2部第6章前半を熟読すること。
第 14 回　フランクルを読み解く⑧山本有三の『路傍の石』とフランクル
テキスト第2部第6章後半を熟読すること。
第 15 回　フランクルを読み解く⑨現代社会に求められているもの
テキスト第2部第7章を熟読すること。
〔成績評価〕
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。
〔教科書〕
『フランクル哲学と出会って、ほんとうの自分と幸せを感じるための本---フランクル教育哲学入門---』広岡義之著　あいり出版

〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、選択
〔オフィスアワー〕
Phollyのメッセージで相談・質問をしてください。

情報機器の操作（上級）

1099
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる
〔授業の概要〕
　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題
〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%
〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作（初級）

1100
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。
〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。（180分程度）
〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1

条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報機器の操作【留学生対象】

1101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
林　　泰子

〔到達目標〕
・Gmail（大学の各学生のメール）を活用することができる。
・Wordを活用し、基礎的な文書を作成することができる。
・Excelを活用し、基礎的な計算とグラフを作成することができる。
・Power Pointを活用し、基礎的なプレゼンテーション用スライドを作成することができる。
・ネット社会での情報モラルの重要性を理解し、情報を適切に活用することができる。

〔授業の概要〕
レポート作成、課題・研究発表など、大学でのコンピュータ利用に対応できる基礎的な知識や技能を修得する。
Word、Excel、Power Pointを用いて課題を作成する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前にテキストに目を通して予習しておくこと。また、授業の復習をして分からなかったところなどを振り返り、次の授業での課題作成がスムーズにできるようにしておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の進め方、授業概要、成績評価
Gmailの基礎
第 2 回　Wordを活用した文書作成１
Wordの基本操作、入力チェック、文章の入力
第 3 回　Wordを活用した文書作成２
表と罫線、ビジネス文書
第 4 回　Wordを活用した文書作成３
図形の描画と編集
第 5 回　Wordを活用した文書作成４
表や図形を活用した文書作成
第 6 回　Wordの総復習
Wordのチェックテスト
第 7 回　Excelを活用したデータ処理１
Excelの特徴、データ入力と編集
第 8 回　Excelを活用したデータ処理２
いろいろな計算方法、相対参照、絶対参照
第 9 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化
第 10 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 11 回　Excelの総復習
Excelのチェックテスト
第 12 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成１
スライド作成の基礎

第 13 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成２
　　効果的で説得力のあるスライド編集
第 14 回　Power Pointを活用したプレゼンテーション
　　自作のプレゼンテーション用スライドによる発表
第 15 回　情報モラル
　　情報の適切な取り扱い、情報セキュリティ

〔成績評価〕
課題60%
チェックテスト　40%

〔教科書〕
『留学生のための日本語で学ぶパソコンリテラシー』橋本恵子・林泰子他、共立出版、2,200円＋税

〔参考文献〕
必要に応じて資料を配布します。

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

情報機器の操作（上級）

1104
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕
　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
　　情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
　　インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
　　コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
　　定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
　　表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
　　画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
　　インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　　効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　　プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
　　データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
　　関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
　　データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
　　身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
　　WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報科学

1307
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。情報リテラシーから継続して学び、この情報科学を受講してExcelの応用技術を身につける。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。
〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、より効果的にコンピュータを活用する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
　　セル操作(ワークシート操作と情報リテラシーの復習)
第 3 回　Excel基本操作(2)
　　関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索、情報リテラシーの復習)
第 4 回　Excel基本操作(3)
　　値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
　　SUM ／ AVERAGE ／ MAX ／ MIN ／ COUNT ／ COUNTA／RANK／絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
　　ROUND／ROUNDUP／ROUNDDOWN／INT
第 7 回　Excel関数(3)
　　SUMIF ／ COUNTIF ／ COUNTBLANK ／ AVERAGEIF
第 8 回　Excelデータベース機能
　　並べ替え／オートフィルタ
第 9 回　Excelグラフ機能
　　グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
　　基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
　　IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
　　IF(発展・実践と発展・多重判断文、AND、OR)
第 13 回　データ分析とデータベース関数
　　VLOOKUP
第 14 回　プレテスト
　　定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
　　定期試験
〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「教養情報科学概論」共立出版
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

英語Ⅰ②

1502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中田　　康行

〔到達目標〕
語を日本語に訳さないで理解できるような程度にまで英語に習熟できることを目標にする。
〔授業の概要〕
この授業では英語の文章を精読し、正確に意味解釈を行う訓練をする。イギリスに留学している学生が生活、文化、

旅行、観光などを通してイギリスを紹介する内容の教科書を読む。適宜、英文の構造、慣用法などに注意し英語表現に慣れる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

日頃から英語に接する機会（テレビやインターネットなど）を見つけて、英語に慣れるようにすること。

〔授業計画〕

第 1 回　前期授業の概要・説明
授業内容、姿勢)についての説明。成績・評価の方法の説明。

第 2 回　Wedding ceremonies in the world
世界の結婚式を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。

第 3 回　Wedding ceremonies in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題

第 4 回　Funerals in the world
世界の埋葬文化（葬式）を扱うエッセイを読む。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。

第 5 回　Funerals in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題

第 6 回　Coming of age(s day ceremonies in the world
成人式を祝われ方を扱うエッセイを読む。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。

第 7 回　Coming of age(s day ceremonies in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題

第 8 回　Toilets in the world
世界のトイレ事情を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。

第 9 回　Toilets in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題

第 10 回　Alcohlibeverages in the world
世界の酒に費えのエッセイを読む。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。

第 11 回　Alcohlibeverages in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題

第 12 回　Unusual foods in the world
世界の珍しい料理を扱うエッセイをよむ、を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。

第 13 回　Unusual foods in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題

第 14 回　Women’s status in the world
女性の地位y社会進出を扱い￥宇エッセイをよむ。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。

第 15 回　Women’s status in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題
前期授業の要点整理・確認。

〔成績評価〕

授業時の発表(20%)
小テスト(20%)
確認テスト2回(60%)

〔教科書〕

石田隆之監修　Cross-Cultural lAwarenesss
開文社
(教科書を各自購入し、授業に臨むこと。スマホによるコピー等はみとめません。)

〔参考文献〕

授業時に適宜指示。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅰ③

1503
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕

TOEIC新形式の初級レベルの問題に慣れる。
4技能のうち、特に、Reading ,Listeningの基礎を身につける。教科書にある英文を参考にし、身近な英語表現力を身につける。知識理解や思考判断、関心意欲、技能表現、その他などについて、わかりやすく行動目標の形式で箇条書きに書くのが望ましい

〔授業の概要〕

各UnitのPart 1~Part 4はListening とディクテーションを基本にしながら、受講生自身がペアやグループで英文を作成し、英語を発信する練習をする。Part 5～Part 7 は、文法理解と内容理解の練習を重ねていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎時間の復習をし、次時の確認テストの学習をしておくこと。(120分)
指示した内容についての十分な予習をしておくことが必要である。(120分)

〔授業計画〕

第 1 回　Unit 1 Activities
TOEICについての説明
人物の動作に関する英語の学習　　現在時制、過去時制の整理

第 2 回　Unit 2 Eating Out
料理、外食などに関する英語の学習
未来形、完了形の整理Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 3 回　Unit 2 Entertainment

娯楽、趣味に関する英語の学習
進行形、助動詞の整理。
第 4 回　Unit 4 Travel
旅行に関する英語の学習
受動態、使役動詞の整理
第 5 回　Unit 5 Housing
賃貸物件、リフォームなどに関する英語の学習
There 構文、付加疑問文の整理
第 6 回　Unit 6 School
教育、授業に関する英語の学習
可算名詞、不可算名詞の整理
第 7 回　Unit 7 Health
健康に関する英語の学習
冠詞、代名詞の整理
第 8 回　Unit 8 Shopping
Shoppingに関する英語の学習
形容詞、副詞の整理
第 9 回　Unit 9 Family
家族や家庭に関する英語の学習
比較級、最上級の整理
第 10 回　Unit10 News
ニュースに関する英語の学習
不定詞と動名詞の整理
第 11 回　Unit11 Job Hunting
就職活動に関する英語の学習
前置詞、接続詞の整理
第 12 回　Unit 12 Advertisement
広告に関する英語の学習
直接話法、間接話法の整理
第 13 回　Unit13 Office Work
仕事に関する英語の学習
命令文、感嘆文の整理
第 14 回　Unit 14 Office Messages
人物の動作に関する英語の学習
関係詞の整理
第 15 回　Unit 15 Meetings
会議に関する英語の学習
仮定法の整理

〔成績評価〕
授業での課題への取り組み　25%　　テスト　75%

〔教科書〕
RAISING YOUR LEVEL !
FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST　（南雲堂）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。

〔オフィスアワー〕
水曜日　14時～15時　研究室11
tange@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅰ④

1504
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
浜本　　幸子

〔到達目標〕
１．類義語、派生語などを学び、語彙力を高める
２．学んだ語彙を積極的にコミュニケーションで利用できるようになる
３．基本的な英語文の構造を理解・習得し、表現力を高める

〔授業の概要〕
基本語彙、類義語、反義語、派生語、文章やまとまりのある会話文などを授業毎に提示する。それらをノートに取り、各自でオリジナルノートを作成する。学んだ内容を使ってクラス内で英語でインタビューをし、その内容を英文書としてまとめ、かつ発表する。
補足として、各回の授業内容に関連する文法事項や練習問題を含んだプリントを配布する場合もある。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業内容（語彙や会話文）を復習し、定着させる。（90分）
副読本の指定された部分を読み、内容を理解して授業に臨む。（90分）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・英語力をつける学習方法
英語力を効果的に養う学習方法を複数紹介し、実践する。各自に合った学習方法を見つける。
第 2 回　語彙を増やす１
日常生活で使用する語彙を習得。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。
第 3 回　語彙を増やす２
類義語、反義語、派生語などを習得。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。
第 4 回　語彙を増やす３
ワードマッピングで関連語をまとめて覚え、語彙を増やす。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。
第 5 回　語彙を増やす４
コロケーション、語彙の選択について学ぶ。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。
第 6 回　語彙のまとめ、復習
ワークシートを利用し、ペアでお互いの語彙力を確認しあう。小テスト実施
第 7 回　単語と文１
単語を並べて文を作成。日本語との語順の違いに注目。また、文法的正しさ、内容の適切さなどを考える。

第 8 回　単語と文２
文の構造を考えながら英語で文を作成する。自作の文章をペア相手に読み聞かせ、自分の書いた内容が相手に伝わっているか確認。
第 9 回　学びの実践
今までに習得した内容に関連した文章（副読本など）を読み、各自学びの定着を図る。
第 10 回　発表１
与えられたテーマに沿って、学んだ内容を使って作文し、発表する。
第 11 回　複雑な文１
単分から重文、複文へ理解を深める。副読本等を使って練習。
第 12 回　複雑な文２
複雑な構造の文をわかりやすく分析する。そのうえで、複雑な構造の文を含んだ文章を作り、提出する。
第 13 回　二人の会話
ある特定の状況を設定する。そこで起こりうる会話を考えながら、二人の登場人物が話す内容を英語で考え、会話文を作る。
第 14 回　発表に向けての準備
前回作成した会話文を各ペアで覚え、身振りなども交えて練習する。
第 15 回　発表と評価
すべてのペアがそれぞれ発表し、聞く側としては評価基準に基づいて評価する。

〔成績評価〕
提出物（10%）
小テスト・発表（35%）
定期試験（55%）

〔教科書〕
担当者作成のパワーポイント資料で授業を進める。適宜、ワークシートや復習の資料などを配布する。副読本を指定。

〔参考文献〕
必要に応じて授業中に適宜紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日

英語Ⅰ⑤

1505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中田　　智也

〔到達目標〕
基本的な文法事項を理解する。
簡単な英語の文を、正確に日本語に訳せるようになる。
簡単な英作文ができるようになる。

〔授業の概要〕
この授業は、大きく分けて、①文法事項の確認、②英文和訳（英語から日本語）、③和文英訳（日本語から英語）、の３つの部分から成ります。①と②で文法事項を理解したうえで③に取り組みます。簡単な英作文を数多くこなすことにより、英語に慣れていきましょう。また、クラス全体で問題を共有しながら、難しく感じる部分も丁寧に学んでいきましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で学んだことの復習
難しく感じた英文和訳、和文英訳を重点的に復習

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の進め方・決まり事などについて
第 2 回　動詞（1）be動詞　英文和訳
be動詞の意味、使い方、語形変化（原形・現在形・過去形など）
否定文、疑問文の作り方
第 3 回　動詞（1）be動詞　和文英訳
be動詞の意味、使い方、語形変化（原形・現在形・過去形など）
否定文、疑問文の作り方
第 4 回　動詞（2）一般動詞　英文和訳
一般動詞とbe動詞の区別
「三・単・現」の ” s”、規則変化と不規則変化
否定文、疑問文の作り方
第 5 回　動詞（2）一般動詞　和文英訳
一般動詞とbe動詞の区別
「三・単・現」の ” s”、規則変化と不規則変化
否定文、疑問文の作り方
第 6 回　未来形　英文和訳
will と be going to
will と be going to の使い方（will + 動詞の原形、be going to + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方
第 7 回　未来形　和文英訳
will と be going to
will と be going to の使い方（will + 動詞の原形、be going to + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方
第 8 回　助動詞　英文和訳
さまざまな助動詞（will, can, may, must など）
助動詞の使い方（助動詞 + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方
第 9 回　助動詞　和文英訳
さまざまな助動詞（will, can, may, must など）
助動詞の使い方（助動詞 + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方
第 10 回　冠詞　英文和訳
a,an（不定冠詞）の基本的な使い方と意味
the（定冠詞）の基本的な使い方と意味
冠詞が不要な場合、その他
第 11 回　冠詞　和文英訳

a,an（不定冠詞）の基本的な使い方と意味
the（定冠詞）の基本的な使い方と意味
冠詞が不要な場合、その他
第 12 回　代名詞　英文和訳
代名詞の人称（1人称・2人称・3人称と単数・複数の区別）
代名詞の格変化（例：”I”, ”my”, ”me”, ”mine”）
指示代名詞、疑問代名詞、その他
第 13 回　代名詞　和文英訳
代名詞の人称（1人称・2人称・3人称と単数・複数の区別）
代名詞の格変化（例：”I”, ”my”, ”me”, ”mine”）
指示代名詞、疑問代名詞、その他
第 14 回　前期のまとめ
前期の要点のおさらい
第 15 回　前期のまとめ
前期の要点のおさらい

〔成績評価〕
毎回のレポート提出とその内容から総合的に評価します。
〔教科書〕
Simply Grammar 〈Revised Edition〉（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜資料を配布します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

英語Ⅰ⑥

1506
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
山片　崇嗣

〔到達目標〕
・英語文献等を読むための基本的な英語力を養う。
・基本的な文法や語法を再確認し、英文構造の理解を定着する。
・様々な場面に応じたコミュニケーション力を高める。
〔授業の概要〕
・各章ごとに文法・語法事項の解説と問題を通じて、理解、定着、発展を深める。

※感染症対策等の理由からLMS授業になる場合もあります。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
到達目標に達するために、各章の文法事項を事前に予習し、効果的な授業の理解を目指す。また、授業後の復習を通じて、定着、発展を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的・方針、評価方法などの紹介。
第 2 回　第１章　動詞と文型①
自動詞と他動詞
第 3 回　第１章　動詞と文型②
第１・第２・第３文型
第 4 回　第１章　動詞と文型③
第4・第5文型
第 5 回　第２章　時制①
現在時制
第 6 回　第２章　時制②
過去時制
第 7 回　第２章　時制③
完了時制
第 8 回　第３章　助動詞①
・基本用法
・助動詞の種類①
第 9 回　第３章　助動詞②
助動詞の種類②
第 10 回　第４章　受動態①
・能動態と受動態
・受動態の基本形
第 11 回　第４章　受動態②
・受動態の様々な形式
・受動態の否定文・疑問文
第 12 回　第５章　仮定法①
直接法と仮定法
第 13 回　第５章　仮定法②
・仮定法過去
・仮定法過去完了
第 14 回　前期授業のまとめ
第 15 回　定期考査

〔成績評価〕
１．授業参加度・課題
２．定期試験
〔教科書〕
「入門　英文法　問題精講　４訂版」（旺文社）
その他、必要に応じてプリント等を配布します。
〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領（最新版）
中学校　英語テキスト
〔履修条件〕

〔備考〕
〔オフィスアワー〕
時間：授業開始前の20分間
場所：教室または講師控室

英語Ⅰ⑦

1508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
野島　晃子

〔到達目標〕
・基礎英文法を再確認しながら単語や熟語の知識を増やすことができる。
・簡単な英文で自分の言いたいことを言えるようになる。
・日常会話レベルのリスニング力をつけることができる。
〔授業の概要〕
さまざまなアクティビティを通して、「英語」という言語がもつ特徴を体得する。そして、日常の簡単なことがらについて英語で話したり、相手に質問したりできるような基礎的なコミュニケーション力を身につけることをめざす。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・自分が興味をもつ分野において見聞きする英語表現を普段から気に留めること。
〔授業計画〕
第 1 回　Orientation, Unit 1: Welcome to L.A.
・授業方針、目標、内容、評価方法、履修にあたっての注意事項などについて説明する。
・教員およびクラスメイト同士での簡単な自己紹介をする。
・テキスト Unit 1: be動詞
第 2 回　Unit 2: I love fruit!
テキスト Unit 2: 可算名詞／不可算名詞
第 3 回　Unit 3: Campus Life
テキスト　Unit 3: 一般動詞（現在時制）
第 4 回　Unit 4: Lunchtime
テキスト　Unit 4: 代名詞
第 5 回　Unit 5: First Date
テキスト　Unit 5: 一般動詞（過去時制）
第 6 回　Unit 6: Where’s Linda?
テキスト　Unit 6: 進行形
第 7 回　Unit 7: Andy’s News
テキスト　Unit 7: will / be going to
第 8 回　Unit 8: Shopping in Santa Monica
テキスト　Unit 8: 助動詞
第 9 回　Unit 9: Moving Day
テキスト　Unit 9: 前置詞
第 10 回　Unit 10: A Beautiful View
テキスト　Unit 10: 現在完了
第 11 回　Unit 11: Sunday Fun
テキスト　Unit 11: 比較
第 12 回　Unit 12: Seeing Stars
テキスト　Unit 12: WH疑問文
第 13 回　Unit 13: Buying Food for a BBQ
テキスト　Unit 13: 動名詞／不定詞
第 14 回　Unit 14: Putting on a New Face, Unit 15: Nice Surprises
テキスト　Unit 14: 接続詞
テキスト　Unit 15: 受動態
第 15 回　End-of-term Exam
前期期末試験
〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／ミニテスト／課題　50%
・定期試験　50%
〔教科書〕
『We Love L.A.』Robert Hickling and Misato Usukura, 金星堂, ISBN 978-4-7647-4049-5
〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

英語Ⅰ⑧

1509
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
杉島　未来

〔到達目標〕
中学生レベルの基本的な英語の知識を再確認しながら、英語抜きでは成り立たない、私たちの身の回りで接する英語への興味を高め、自信をつける。
　英語の基礎的な問題を解くことで理解を深め、知識を蓄積することができ、なおかつその知識を運用して考える力、思考力や表現力をつけることもできる。最初から簡単にはできないであろうが、思考力・表現力を必要とする問題を自ら回答していくことにより、じっくり問題と向き合って、自分で考え、自分の力で解けたときの高揚感や達成感を経験することにより、各自英語への自信が持てるようになる。
〔授業の概要〕
日常よく使う英語表現を学び、タスクと呼ばれる指定された情報を集めるゲームまたはシミュレーション形式の方法で何度もそれらの表現を口から発し、脳に定着させることで、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。丸暗記ではなく、ある特定の状況を設定し、そのなかで必要な情報を得るために学んだ会話表現を使っていくことで、自然にそれらの表現が使えるようにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習・復習課題を出します

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（授業概要・単位取得・自己紹介)
第 2 回　自己紹介+T'sComment/ Your comments After reading
第 3 回　Nice to Meet You
第 4 回　This Is My Friend
第 5 回　Where Do People Hang Out?
第 6 回　I Went to That Place
第 7 回　I Have a Question
第 8 回　Would It Be Possible to Study This?
第 9 回　I Have to Miss Next Class
第 10 回　What Are You Doing on Sunday?
第 11 回　What Should We Get?
第 12 回　Yeah, I'll Give You That
第 13 回　Come On! I'll Help You
第 14 回　What Should We Do?
第 15 回　I Can Book the BBQ
〔成績評価〕
授業態度、提出物、小テスト　60%
期末テスト 40%
〔教科書〕
Encounters on Campus
〔参考文献〕
学研パーフェクトコース　中学英語
学習指導要領 他適宜紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

情報機器の操作（初級）

2192
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。
〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)
〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカ

ッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報機器の操作（初級）

2193
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)
〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

英語Ⅲ②

2502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中田　　康行

〔到達目標〕
平易な英文を早く読みこなし、理解できるようになることに加えて、様々な英語の慣用表現になれること。
〔授業の概要〕
日本人の学生がイギリスに旅行に出かける話を通して、多様な場面での英語表現に習熟することを心がける。そのような場面には、レストラン、ホテルの予約、買い物や鉄道の切符購入などが含まれる。多様な場面の英語に接することで英語力を高め、表現に習熟する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
普段から、英語の放送や、英字新聞などに取り組んでみること。
〔授業計画〕
第 1 回　授業概要の説明
授業内容、進度の説明。成績・評価方法の確認。
qwWelcome to England
第 2 回　he　Carter Family
ロンドンへの飛行、イギリスの家族との対面。

第 3 回　Fish and Chips for lunch
イギリスの庶民的な食べ物fish and chipsと一般の生活
第 4 回　Train Tickets
イギリスの鉄道について。いかに切符を買い求めるか。またどのような
割引があるのかなど。
第 5 回　AWeekend away
イギリスのホスト・ファミリーと週末の小旅行に出かける際の鉄道の予約予約・利用方法など。
第 6 回　Reserving away
帰りの列車の予約や、行った先の宿泊場所の予約などを確実にしておくこと。小旅行の楽しみ。
第 7 回　At a Restaurant
ストランでの注文の仕方や、そこでの典型的な会話のやり土りなど。チップの習慣など。
第 8 回　London suburba\s
大都市ロンドンの郊外を訪ねて、人々の生活や、街並みの景観などの美しさを読み取る。
第 9 回　Shopping
町での風景。(とりわけクリスマスの時期の町の景観）買い物客の表情など。
第 10 回　The Local Pub
パブは単にお酒を飲むだけの場所ではない。一種の社交の場であることを理解することでイギリス人の生活に根を下ろす文化の一面であることを知る。
第 11 回　At the Post Office
郵便局での言葉のやり取り、切手を買う時の表現や荷物の送り方など・
第 12 回　Shopping for Clothes
服のサイズの表現や、装身具の買い求め方など、何でもない簡単な表現に習熟する。
第 13 回　The Weather
イギリスは雨がよく降る。天候や気候の記述にどのような日常表現が多く使われるかを学ぶ。
第 14 回　Yrk Minster
イギリスを代表する古刹であるヨーク・ミンスターを訪ねることで、その大教会の威様さに感動するだけではなく、大聖堂建築の歴史にも関心を抱かせる。
第 15 回　Going to a Doctor
体調を崩した時に病院などで診察を受けるが、そのような場面での言葉そやり取りを学ぶ。
授業内容の総括と要点の整理。
〔成績評価〕
授％業時の発表(20％)）
確認テスト2回(80＆￥％）
〔教科書〕
TerryO‘Brien著　A Trip to Britain（南雲堂）
（スマホ等によるコピーは許可しません。）
〔参考文献〕
業中に指示。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅲ③

2503
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
TOEIC新形式の初級～中級レベルの問題に慣れる。
4技能のうち、特に、Reading ,Listeningの基礎を身につける。
教科書にある英文を参考にし、身近な英語表現力を身につける。
〔授業の概要〕
各UnitのPart 1~Part 4はListening とディクテーションを基本にしながら、受講生自身がペアやグループで英文を作成し、英語を発信する練習をする。
Part 5～Part 7は、文法理解と内容理解を目標に置く。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時の復習をし、次時の確認テストの学習をしておくこと。（120分）
指示した内容についての十分な予習をしておくことが必要である。（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　英語Ⅱの復習①
既習の語彙、構文の復習　　授業内で確認テストをする
第 2 回　Unit 9 Shopping
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 3 回　Unit 9 Shopping
Part 5～Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学修
第 4 回　Unit 10 Transportation
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 5 回　Unit 10 Transportation
Part 5～Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習
第 6 回　Unit 11　Computers
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 7 回　Unit 11 Computers
Part 5～Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 8 回　Unit 12 Offices
職場の場所や従業員などに関する主な語彙を整理する
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 9 回　Unit 12 Offices
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。副詞、接続詞に注目した英文の読み方を整理する
第 10 回　Unit 13 Jobs
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 11 回　Unit 13 Jobs
Part 5～Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 12 回　Unit 14 Business
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 13 回　Unit 14 Business
Part 5～Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 14 回　Unit 15 MINI TOEIC復習②
TOEICテストの模擬　　授業内で自己採点をし、課題を見つける。
第 15 回　総復習　まとめ
単語、重要語句を復習する。既習の内容から自己表現をする。
〔成績評価〕
授業での課題への取り組み　25%　　テスト　75%
〔教科書〕
RAISING YOUR LEVEL !
FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST　（南雲堂）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。
〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　　研究室11

英語Ⅲ④

2504
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
浜本　　幸子

〔到達目標〕
１．英語を聴き、読むことを通して必要な情報を的確に収集できるようになる。
２．さまざまな場面での特有の表現を習得し、状況に応じて対応できるようになる。
３．文構造の復習をし、自ら適切な文を考え表現できるようになる。
〔授業の概要〕
さまざまな場面設定毎に作成されたテキストを使用し、聴き取り、発話、作文などを行う。ペアワークやその他の言語活動を取り入れ、実践的なコミュニケーション力を養えるような授業構成にする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
復習中心。毎回の授業で学んだ内容をしっかり定着させるよう、各自の復習が重要。読むこと・　書くこと（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・復習
授業の目標、方針、評価方法等の説明。過去1年間の復習。
第 2 回　空港で
入国審査や空港で必要な語彙、表現を習得する。また、文法の復習として「接続詞」を扱い、表現の幅を広げる。
第 3 回　ホテル
インターネットでホテルの予約をする時やホテル滞在時に必要な語彙、表現を学ぶ。また、文法として「不定詞」を復習する。
第 4 回　レストランで
メニューの見方、注文の仕方など、レストランで必要な語彙、表現を習得する。
文法として「形容詞」を復習する。
第 5 回　前3回の復習と補足
前3回の語彙、文章、文法の復習と補足をし、学んだことを実際に自分の言葉として使用できるよう練習する。
第 6 回　ショッピング
買い物で使用する頻度の高い語彙、表現を習得する。また、「頻度を表す副詞」を復習する。
第 7 回　ベースボール
野球に関連する語彙、表現を習得する。文法として「比較級」を復習する。
第 8 回　ミュージカル鑑賞
ネット上でミュージカルに関する情報を読み、チケットを購入するのに必要な語彙、表現を習得する。また、「現在完了」を復習する。
第 9 回　前3回の復習と補足
前3回の語彙、文章、文法の復習と補足をし、学んだことを実際に自分の言葉として使用できるよう練習する。
第 10 回　旅行案内
ニューヨークへの旅行を想定して情報収集する中で必要な語彙、表現を習得する。
また、「受動態（1）」を復習する。
第 11 回　トラブルシューティング
忘れ物をしたなど、困ったことが起きたときに必要な語彙、表現を習得する。
また、「受動態（2）」を復習する。
第 12 回　体調不良
体調不良を訴えるときに必要な語彙、表現を習得する。また、「分詞」について復習する。
第 13 回　電話での申し込み
電話で予約をしたり、人を誘ったりするときに必要な語彙、表現を習得する。
また、「動名詞」について復習する。
第 14 回　さよなら、アメリカ
訪問していたアメリカを去るという想定で、必要な語彙、表現を習得する。
また、別れ際の挨拶、感謝の述べ方などを学ぶ。
第 15 回　前５回と全体の復習と補足
前5回の語彙、文章、文法の復習と補足をし、学んだことを実際に自分の言葉として使用できるよう練習する。
〔成績評価〕
提出物（１０％）
小テスト・発表（30%）
定期試験（60%）
〔教科書〕
英語Ⅱで使用したテキストを引き続き使用する。
(Forerunner to Power-Up English, JACET リスニング研究会
発行所：南雲堂)
〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日

英語Ⅲ⑤

2505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　前期
中田　　智也

〔到達目標〕
基本的な文法事項を理解する。
簡単な英語の文を、正確に日本語に訳せるようになる。
簡単な英作文ができるようになる。
英語と日本語の類似点と相違点について、自覚的になる。
〔授業の概要〕
前年度の英語Ⅰ・Ⅱの復習を交えて、学習を進めていきましょう。前年度同様に、英文和訳、和文英訳をこなすなかで文法事項を理解していきましょう。難しいと思うところは、おそらく他にもそう思っている人がいるはずです。遠慮なく質問をするようにしてください。丁寧に学んでいきましょう。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で学んだことの復習
難しく感じた英文和訳、和文英訳を重点的に復習
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の進め方・決まり事などについて
第 2 回　接続詞　英文和訳
接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 3 回　接続詞　和文英訳

接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 4 回　進行形　英文和訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 5 回　進行形　和文英訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 6 回　受動態（受け身形）　英文和訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 7 回　受動態（受け身形）　和文英訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 8 回　完了形（現在完了・過去完了）　英文和訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 9 回　完了形（現在完了・過去完了）　和文英訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 10 回　比較　英文和訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 11 回　比較　和文英訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 12 回　不定詞　英文和訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 13 回　不定詞　和文英訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 14 回　動名詞　英文和訳
動名詞の形
文の中で果たす役割（主語、補語、目的語、前置詞の目的語）
第 15 回　動名詞　和文英訳／まとめ
動名詞の形
文の中で果たす役割（主語、補語、目的語、前置詞の目的語）
要点のおさらい

〔成績評価〕
毎回のレポート提出とその内容から総合的に評価します。
〔教科書〕
Simply Grammar 〈Revised Edition〉（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜資料を配布します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

英語Ⅲ⑦

2507
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
野島　晃子

〔到達目標〕
・基礎英文法を再確認しながら語彙力の向上を図ることができる。
・簡単な英文で自分の言いたいことを言えるようになる。
・日常会話レベルのリスニング力をつけることができる。
〔授業の概要〕
さまざまなアクティビティを通して、「英語」という言語がもつ特徴を体得する。そして、日常の簡単なことがらについて英語で話したり、相手に質問したりできるような基礎的なコミュニケーション力を身につけることをめざす。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・自分が興味をもつ分野において見聞きする英語表現を普段から気に留めること。
〔授業計画〕
第 1 回　Course Orientation, Unit 1 and Unit 2
Unit 1: Hello, I'm Bill!
Unit 2: I Was Doing Research
第 2 回　Unit 3 and Unit 4
Unit 3: I'm Gong to Visit Chicago
Unit 4: I Have Been to Nara
第 3 回　Unit 5: I Had Never Seen Such a Cute Animal
第 4 回　Unit 6: We Should Study Very Hard
第 5 回　Unit 7: Tomatoes Are Loved by Many People
第 6 回　Mid Term Test (Unit 1 to Unit 7)
第 7 回　Unit 8: I Study to Be an Interpreter
第 8 回　Unit 9: I Enjoy Talking About "Blood Type"
第 9 回　Unit 10: The Sleeping Student Is Mai
第 10 回　Unit 11: I rRespect Him Because...
第 11 回　Unit 12: She Likes Letters More Than Email
第 12 回　Unit 13: Kyoto Is the Most Famous City in Japan
第 13 回　Unit 14: I Have a Frien Who Lives in Australia
第 14 回　Unit 15: Kota, Whose Dream Is to Be a Teacher
第 15 回　Final Term Test (Unit 8 to Unit 15)

〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／ミニテスト／課題　40%
・定期試験　中間テスト30% 期末テスト30%
〔教科書〕
『Let's Output in Basic English アウトプットのための基本英語』佐藤臨太郎, ISBN 978-4-7647-4108-9, 金星堂
〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

英語Ⅲ⑧

2508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
杉島　未来

〔到達目標〕
英語の生活語彙、表現を身につけ、さまざまな状況で適切な応答が英語でできる。異文化への理解を高め、異文化に積極的に接することができる。衣食住のさまざまな状況で適切な英会話ができるようになる。
〔授業の概要〕
日常よく使う英語表現を学び、タスクと呼ばれる指定された情報を集めるゲームまたはシミュレーション形式の方法で何度もそれらの表現を口から発し、脳に定着させることで、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。丸暗記ではなく、ある特定の状況を設定し、そのなかで必要な情報を得るために学んだ会話表現を使っていくことで、自然にそれらの表現が使えるようにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習・復習課題を出します
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（授業概要・単位認定について・春休みの出来事）
第 2 回　クラスメートの春休みの出来事
Warm Up for the Subject
第 3 回　Where Are You Heading?
教科書単語レベルチェック
Dictation Listening
第 4 回　Meeting people en route
Model Conversation
Language Focus
第 5 回　Where Are You Heading?
Communication Focus
Putting It All Together
Self-Assessment
第 6 回　May I See Your Passport?
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
第 7 回　May I See Your Passport?
Communication Focus
Putting It All Together
Self-Assessment
第 8 回　Where To?
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
第 9 回　Where To?
Communication Focus
Putting It All Together
Self-Assessment
第 10 回　I Asked for a Double
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
第 11 回　I Asked for a Double
Communication Focus
Putting It All Together
Self-Assessment
第 12 回　What Would You Suggest?
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
Communication Focus
Putting It All Together (Role Play)
第 13 回　Here Are Your Keys
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
Communication Focus
Putting It All Together (Role Play)
第 14 回　Turn Left at the Light
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
Communication Focus
Putting It All Together (Role Play)
第 15 回　How Much Is This?
Warm Up
Model Conversation
Language Focus
Communication Focus
Putting It All Together (Role Play)
〔成績評価〕
授業態度、提出物、小テスト　60%
期末テスト 40%
〔教科書〕
Encounters Abroad

〔参考文献〕
K. Scheibner & D. Martin, Just Talk, EFL Press
C. Granger, Play Games with English, Heinemann Education Books, TARGET! Elementary, 他適宜紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

日本語聴解・会話Ⅰ

2710
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
前田　真弥

〔到達目標〕
自然な速さの日本語を聞き取り、聞き取った内容を伝えることができる。
また日本語を使って積極的な、円滑なコミュニケーションができるようになる。
〔授業の概要〕
シャドーイングや音読により発音練習を行う。
またロールプレイを通して会話能力を、グループワークを通してコミュニケーション能力を高める。
グループで課題を設定し、それをまとめプレゼンテーションすることによって、調べる、整理する、議論する、発表するスキルの向上を目指す。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
第 2 回　会話練習①レストラン・カフェで
少し困った場面での会話を練習。
次週の紹介スピーチ①「私の好きなもの（こと）」の準備。
第 3 回　紹介スピーチ①
「私の好きなもの（こと）」をグループ内で発表する。意見交換。
第 4 回　会話練習②友だちを誘う
授業の後で/休みの日に/旅行に、友だちを誘う練習。
次週の紹介スピーチ②「私の故郷」の準備。
第 5 回　紹介スピーチ②
「私の故郷」をグループ内で発表する。意見交換。
第 6 回　会話練習③アパート、マンションで
あまり親しくない人と会話する練習。
次週の紹介スピーチ③「私のおすすめの本」の準備。
第 7 回　紹介スピーチ③
「私のおすすめの本」をグループ内で発表する。意見交換。
第 8 回　会話練習④ハプニング
ハプニングが起こったときの会話を練習する。
次週のディスカッション導入。
第 9 回　ディスカッション
賛成意見や反対意見を言う練習。
第 10 回　会話練習⑤文化
文化（ファッション、映画、音楽、スポーツなど）について話す。
第 11 回　発表準備①
グループでテーマを決め、アンケートを作成する。協働学習。
第 12 回　発表準備②
作成したアンケートをもとにインタビューする。結果をまとめる。
第 13 回　発表①
グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 14 回　発表②
グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 15 回　発表③
グループによる発表。発表に対する相互評価。
〔成績評価〕
授業への取り組み30%
授業内提出物30%
授業内発表 40%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
『中級から上級への日本語会話』（凡人社）
『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳』（国書刊行会）
『日本人がよく使う日本語会話オノマトペ基本表現180』（Jリサーチ出版）
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
オフィスアワー
①前期
②火曜日　17：00～17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

日本語文章表現Ⅰ

2711
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
前田　真弥

〔到達目標〕
学術的文章で使われる文型や表現、文章の展開の仕方を学び、日本語で論理的な文章を書く基本的な力をつける。日

本語の書き言葉のルールに従って自然な日本語で書くことができるようになることを目指す。

〔授業の概要〕

論理的で明晰な文章にするためにはどんな点に気をつければいいかを、練習問題を解きながら考える。また、テーマにそって実際に作文練習をすることで、日本語によるレポート、小論文作成の技術を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介

第 2 回　文体
文の種類によって文体が違うことを学習する。
作文①（テーマは授業内で伝える）

第 3 回　モードチェンジ
話し言葉から書き言葉への切り替えができる。
先週の作文フィードバック→書き直し。

第 4 回　正しい構造の文１
主語と述語の関係。修飾する言葉と修飾される言葉の関係を学ぶ。
作文②（テーマは授業内で伝える）

第 5 回　正しい構造の文２
文末の制限を学ぶ。簡潔な文を書く練習。
先週の作文フィードバック→書き直し。

第 6 回　「こと」と「の」
名詞節「こと」と「の」を適切に使い分ける。
作文③（テーマは授業内で伝える）

第 7 回　指示詞
指示詞「こ」と「そ」を使い分ける。
先週の作文フィードバック→書き直し。

第 8 回　文のつながり
接続表現を学ぶ。
作文④（テーマは授業内で伝える）

第 9 回　小論文の中でよく使われる表現１
説明や意見をはっきり述べるための表現を学ぶ。
先週の作文フィードバック→書き直し。

第 10 回　小論文の中でよく使われる表現２
形が似ている表現を使い分ける。
作文⑤（テーマは授業内で伝える）

第 11 回　過去と現在
ル形、タ形、テイル形の使い分けによって、取り上げる出来事の「時」を正しく表すことができる。
先週の作文フィードバック→書き直し。

第 12 回　説明文
具体的で分かりやすい文章を書く。自分の感想や主観を入れないで客観的に書く。
作文⑥（テーマは授業内で伝える）

第 13 回　意見文
意見を述べるときの文型を学習する。
先週の作文フィードバック→書き直し。

第 14 回　要約文
文章や話の要点をつかんで短くまとめることができる。
作文⑦（テーマは授業内で伝える）

第 15 回　復習
先週の作文フィードバック→書き直し。
これまでに学習したことを復習する。

〔成績評価〕

定期試験30%
授業への取組20%
授業内提出物50%

〔教科書〕

「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕

『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）
『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期
②火曜日　17：00～17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

日本語読解Ⅰ

2713
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
島津　浩美

〔到達目標〕

大学の授業で必要な、専門的な文章を読んで内容を正確に把握し、その上で自分の考えを表現するといったことができるようになることを目指す。

〔授業の概要〕

文章を文脈の中で正確に把握し､自分なりの意見を発表する。この授業では、あるテーマ関する文章を読み、その内容に関して、考えたり、話し合ったり、調べて書いたりする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

次の課の単語リストが配布されたら､意味を調べておく(30分)
あるテーマに関する文章を読んだ後、話し合ったり、それについての自分の意見を書いたりするため、授業中に考えがまとまらなかったり、調べられなかった場合は、準備してくる。(60分)

〔授業計画〕

第 1 回　あるプロジェクトについての文章を読む
第 2 回　コミュニケーションに関する文章を読む
第 3 回　科学に関する記事を読んで流れを理解する。
第 4 回　人生に関する文章を読んで、筆者の考え方を理解する
第 5 回　家庭科の授業実線に基づいた文章を読んで、筆者の考え方を理解する

第 6 回　環境に関する文章を読んで、その根拠を理解する
第 7 回　ソーシャルメディアに関する文章を読んで、筆者の考え方を理解する
第 8 回　科学的なデータを基にした文章を読んで、筆者の意見を理解する
第 9 回　データの読み取りに必要なグラフの説明の仕方を学ぶ
第 10 回　社会に関する文章を読んで、筆者の主張を読み取る
第 11 回　仕事に関する文章を読んで、働き方の変化を理解する
第 12 回　学習に関する文章を読んで、筆者の考えを理解する
第 13 回　公害に関する文章を読んで、筆者の考えを把握する
第 14 回　自分の国の公害病について調べて発表する
第 15 回　これまでのまとめと復習

〔成績評価〕
授業への参加度・態度　30%
課題・提出物　30%
定期試験　40%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
小野恵久子　遠藤千鶴　他(2016)
『話す・書くにつながる！日本語読解』 アルク

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

日本語漢字・語彙Ⅰ

4424
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
島津　　浩美

〔到達目標〕
中級レベルの漢字300字とそれに関連する語彙を習得する。
中級レベルの漢字300字の読み書きができるようになる。
また、合計650字程度の漢字と語彙を適切に使うことができるようになる。

〔授業の概要〕
テーマに沿って、日本語能力試験N2レベルに必要な漢字を毎回20字ずつ提示をし、その漢字を含んだ文を読んだり、書いたりして、定着を図る。特に中国語漢字との違いに留意する。
各課終了後にの漢字の小テストを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各回で習った漢字について練習し、正しく覚えておく。(40分)
次回に習う漢字の語彙を調べておく。(20分)

〔授業計画〕
第 1 回　授業概要説明　教室で使う漢字
第 2 回　テストで使われる漢字
第 3 回　形容詞の漢字
第 4 回　漢字の成り立ちと形
第 5 回　自己紹介で使うことば
第 6 回　部屋にあるもの
第 7 回　自動詞・他動詞の漢字
第 8 回　私の町
第 9 回　駅の表示
第 10 回　サイン・広告の表示
第 11 回　料理の作り方に使われることば
第 12 回　コンピューター関連で使われることば
第 13 回　日本での生活に関することば①
第 14 回　日本での生活に関することば②
第 15 回　これまでのまとめ

〔成績評価〕
授業への参加度・態度　20%
小テスト　30%
期末試験　50%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
佐藤尚子・佐々木仁子（2019）
『留学生のための漢字の教科書　中級700』［改訂版］ 国書刊行会
徳弘康代（2019）
『日本語学習のためのよく使う順漢字2200』

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

日本語文章表現Ⅲ

2716
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎レポート、卒業論文などの学術的な文章を作成するための基礎的な表現力をつけることを目的とし、そうした学術的文章でよく使われる文系・表現や展開パターンなどについて学ぶ。
◎「日本語文章表現Ⅰ」「日本語文章表現Ⅱ」で学んだことを活用しながら、学術的文章へのステップアップを図っていく。
〔授業の概要〕
◎学習項目について学習者に確認し意見も聞きながら、表現活動をさせる。
◎作成した文章表現について、教授者・学習者自身・学習者相互でチェックし、評価する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎履修する専門科目等のテキストの日本語の文章を音読できるように予習して、専門科目等の授業に出席する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
作文と学術的な文章との違いについて、学習方法について指示する。
ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　文章表現の基本
文字や記号の書き方、記号の働き、文体、表現形式について復習する。
第 3 回　課題の提示
論文の構成要素について
序論の構成要素（1）について：課題の提示、問題解決の必要条件の提示、研究行動の提示
第 4 回　目的の提示
序論の構成要素（2）：研究テーマの説明、先行研究の問題点の指摘、研究目的の提示
第 5 回　定義と分類
本論の構成要素（1）：定義、分類、選択
第 6 回　図表の提示
本論の構成要素（2）：図表の提示、数値の大きさの表示、数値の大きさの評価
第 7 回　変化の形容
本論の構成要素（3）：変化の形容、変化の進行の指摘、判明事項の指摘
第 8 回　対比と比較
本論の構成要素（4）：対比、比較
第 9 回　原因の考察
本論の構成要素（5）：原因の考察、予測
第 10 回　列挙
本論の構成要素（6）：存在の指摘、列挙
第 11 回　引用
本論の構成要素（7）：論点の提示、引用
第 12 回　同意と反論
本論の構成要素（8）：同意、反論、注/文献の記述
第 13 回　帰結
本論の構成要素（9）：帰結、換言、補足
第 14 回　結論の提示
結論の構成要素：研究行動の確認、結論の提示、研究の評価、今後の課題の指摘
第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。
また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。
〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、レポート提出（約70%）で総合的に評価する。
〔教科書〕
プリントを配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜提示し、資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。
〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

情報処理技法Ⅰ①（文書作成）

3501
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。
〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の

共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。

・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（文書作成）の概要

第 2 回　スキルチェック
Wordのスキルチェック

第 3 回　文書の作成と管理①
文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動

第 4 回　文書の作成と管理②
文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ

第 5 回　文書の作成と管理③
文書の印刷、文書の保存

第 6 回　文字、段落、セクションの書式設定①
文字列や段落の挿入

第 7 回　文字、段落、セクションの書式設定②
文字や段落の書式設定、文字列や段落の並び替え、グループ化

第 8 回　表の作成
表の作成と変更

第 9 回　リストの作成
リストの作成と変更

第 10 回　参考資料の作成と管理
参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理

第 11 回　オブジェクトの挿入と書式設定①
グラフィック要素の挿入と書式設定

第 12 回　オブジェクトの挿入と書式設定②
SmartArtの挿入と書式設定

第 13 回　文書表現の応用①
目的や状況に応じた文書の作成

第 14 回　文書表現の応用②
説得力のある文書の作成

第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕

・日常点（小課題）50%

・定期試験（実技）50%

〔教科書〕

＜テキスト購入必須＞

富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

・曜日と時間：金曜日 3限目

・場所：研究棟2階

・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ①（表計算）

3502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕

・Excelの基本的機能や操作方法を知る。

・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。

・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕

表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。

また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。

その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。

・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（表計算）の概要

第 2 回　スキルチェック
Excelのスキルチェック

第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理①
ワークシートやブックの作成と書式設定、移動

第 4 回　ワークシートやブックの作成と管理②
オプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定

第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理①
データの挿入と書式設定

第 6 回　セルやセル範囲のデータの管理②
データのまとめと整理

第 7 回　テーブルの作成①
テーブルの作成と管理

第 8 回　テーブルの作成②
テーブルのスタイルと設定オプションの管理、レコードの抽出と並び替え

第 9 回　数式や関数を用いた演算の実行①
関数を用いた計算

第 10 回　数式や関数を用いた演算の実行②
　　条件付き関数を用いた計算、関数を用いた書式設定と文字列の変更
第 11 回　グラフやオブジェクトの作成①
　　グラフの作成と書式設定
第 12 回　グラフやオブジェクトの作成②
　　オブジェクトの挿入と書式設定
第 13 回　表計算の応用①
　　目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算
第 14 回　表計算の応用②
　　表計算の応用②
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報表現技法①

3503
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・PowerPointの基本的機能や操作方法を知る。
・PowerPointを使用し、効率的にスライドの作成ができる。
・PowerPointを使用し、目的や状況に応じたスライドの作成ができる。

〔授業の概要〕
プレゼンテーションに欠かせないPowerPointを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist PowerPoint 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報表現技法の概要
第 2 回　スキルチェック
　　PowerPointのスキルチェック
第 3 回　プレゼンテーションの作成と管理①
　　スライドの作成
第 4 回　プレゼンテーションの作成と管理②
　　スライドの挿入と書式設定、スライドの並び替えとグループ化
第 5 回　プレゼンテーションの作成と管理③
　　プレゼンテーションのオプションや表示の変更、印刷設定
第 6 回　プレゼンテーションの作成と管理④
　　スライドショーの設定と実行、スライド、配布資料、ノートの変更
第 7 回　グラフィック要素の挿入と書式設定①
　　テキスト・図形等の挿入と書式設定、図形の並び替えとグループ化
第 8 回　グラフィック要素の挿入と書式設定②
　　表・グラフ・SmartArtの挿入と書式設定、メディアの挿入と管理
第 9 回　画面切り替えやアニメーションの適用
　　画面の切り替えの適用、アニメーション設定、タイミングの設定
第 10 回　プレゼンテーションの管理
　　複数のプレゼンテーションのコンテンツ結合、プレゼンテーションの仕上げ
第 11 回　ビジュアル表現
　　ビジュアル表現の概要、色と図形、図解表現
第 12 回　効果的なスライドの作成①
　　効率的で魅力的なスライドの作成
第 13 回　効果的なスライドの作成②
　　研究発表用スライドの作成
第 14 回　プレゼンテーションの技術
　　プレゼンテーションの基本と要点
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS PowerPoint 2016対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,200円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ①（表計算）

3505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。
〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
Excelのスキルチェック
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理①
ワークシートやブックの作成と書式設定、移動
第 4 回　ワークシートやブックの作成と管理②
オプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理①
データの挿入と書式設定
第 6 回　セルやセル範囲のデータの管理②
データのまとめと整理
第 7 回　テーブルの作成①
テーブルの作成と管理
第 8 回　テーブルの作成②
テーブルのスタイルと設定オプションの管理、レコードの抽出と並び替え
第 9 回　数式や関数を用いた演算の実行①
関数を用いた計算
第 10 回　数式や関数を用いた演算の実行②
条件付き関数を用いた計算、関数を用いた書式設定と文字列の変更
第 11 回　グラフやオブジェクトの作成①
グラフの作成と書式設定
第 12 回　グラフやオブジェクトの作成②
オブジェクトの挿入と書式設定
第 13 回　表計算の応用①
目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算
第 14 回　表計算の応用②
表計算の応用②
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ①（文書作成）

3506
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。
〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レ

ベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法 I（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
Wordのスキルチェック
第 3 回　文書の作成と管理①
文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 4 回　文書の作成と管理②
文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ
第 5 回　文書の作成と管理③
文書の印刷、文書の保存
第 6 回　文字、段落、セクションの書式設定①
文字列や段落の挿入
第 7 回　文字、段落、セクションの書式設定②
文字や段落の書式設定、文字列や段落の並び替え、グループ化
第 8 回　表の作成
表の作成と変更
第 9 回　リストの作成
リストの作成と変更
第 10 回　参考資料の作成と管理
参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 11 回　オブジェクトの挿入と書式設定①
グラフィック要素の挿入と書式設定
第 12 回　オブジェクトの挿入と書式設定②
SmartArtの挿入と書式設定
第 13 回　文書表現の応用①
目的や状況に応じた文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
説得力のある文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
・富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスターMOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報リテラシー

4103
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
森下　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。この情報リテラシーを受講してExcelの基礎操作能力の定着を目指す。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。
〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、基礎的なコンピュータを活用する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
セル操作、ワークシート操作
第 3 回　Excel基本操作(2)
関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索)
第 4 回　Excel基本操作(3)
値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
SUM／AVERAGE／相対参照と絶対参照

第 6 回　Excel関数(2)
　　MAX／MIN
第 7 回　Excel関数(3)
　　COUNT／COUNTA／RANK
第 8 回　Excelデータベース機能
　　データベースと並べ替え
第 9 回　Excelグラフ機能
　　グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
　　基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
　　IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
　　IF(発展・多重判断文)
第 13 回　データベース機能
　　データベース機能などの便利な機能の活用(データの分析と整理)
第 14 回　プレテスト
　　定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
　　定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「これだけは知っておきたい情報リテラシー大学や社会で活躍するために」オーム社
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

教育学概論Ⅰ①【初等】

4208
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
津田　　徹

〔到達目標〕
人間を人間として成立させているものについて考察する場合、教育作用は非常に大きな位置を占めています。この講義では、教育とは何かについて、その理念と歴史を簡単に知ることができます。なぜ人間に教育が必要なのかという教育の理念の確認から開始して、教育という語の語源、教育の本質、人間活動と教育、現代社会と教育、社会と教育理念等について学ぶことができます。こうした内容をについて理解し、現代社会の自分で考えることを目標とします。

〔授業の概要〕
この講義においては教育学の基礎について、その理念、歴史、内容、方法などについて歴史的、場所的観点から、講述して、教育学に対する認識を深化させることを目指す。
講義方法は、教科書に従って講述することを基本とするが、場合によっては、討論、発表、視聴覚資料や教材による検討、レポート課題の作成と発表を通して、教育学に対する認識を深化させてゆく予定である。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分）。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介
第 2 回　教育の場所
　　家庭、学校、地域社会とそれぞれの教育理念
第 3 回　教育の目的（1）
　　教育の本質、何をめざして教育はなされるべきか、教育基本法など法令等による
　　目的・目標
第 4 回　教育の目的（2）
　　人間観と教育観、現代社会と教育への要請
第 5 回　教育の必要性
　　ポルトマン、アヴェロンの野生児、自己実現の理念
第 6 回　教育観の対立
　　これまでの教育観の経緯と対立、伝達観と助成観
第 7 回　家庭教育
　　家庭教育と人間形成、問われる家庭教育、望ましい家庭教育
第 8 回　社会教育
　　社会教育の理念、生涯学習社会の提唱、社会教育の充実
第 9 回　学校教育
　　学校教育の理念、近代学校制度の誕生と教師、学校経営
第 10 回　日本の近代化と教育の役割
　　日本の近代化と教育理念、公教育の誕生
第 11 回　教育理念と教育思想（1）
　　学制、福沢諭吉、森有礼、教育令、教育勅語
第 12 回　教育理念と教育思想（2）

大正自由教育運動、国民学校令、教育基本法、改正教育基本法
第 13 回　教育理念と教育思想（３）
ソクラテス、コメニウス、ルソーの各生涯と各教育思想
第 14 回　教育理念と教育思想（４）
フレーベル、ペスタロッチ、デューイの各生涯と各教育思想
第 15 回　まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕
定期試験（70%）、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）

〔教科書〕
広岡義之編、『新しい教育原理ー第2版ー』、ミネルヴァ書房。この書は第1回目から使用します。
内閣府・文部科学省・厚生労働省編、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年）
文部科学省編、『幼稚園教育要領』（平成29年）、東山書房。
文部科学省編、『小学校　学習指導要領』（平成29年）、東洋館出版。
文部科学省編、『中学校　学習指導要領』（平成29年）、東山書房。
文部科学省編、『高等学校　学習指導要領』（平成30年）、東山書房。

〔参考文献〕
レーブレ（広岡他訳）、『教育学の歴史』、青土社、2015年。
パーマー（広岡他訳）、『教育思想の50人』、青土社、2012年。
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育の理念及び教育に関する歴史及び思想、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
木曜日3時間目前休み時間。

日本国憲法

4333
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
松本　　達也

〔到達目標〕
近代憲法の歴史的理解と日本国憲法の歴史とその体系の理解を目指す。状況に応じて社会的関心を集める問題をしの都度取り上げ、憲法的観点から考察する。政治が憲法に基づいて行われていることについて多面的多角的に考察し議論し小論文として表現する。

〔授業の概要〕
国法システムの中で憲法が最高の法規であることの意味を確認する。国家が存在する以上、その公権力の行使に正当性を与える法、すなわち憲法が必ず必要になる。従って、憲法は国の数だけ存在する。この最高法規を基本から学習することになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：一週間の憲法関連の新聞報道等の理解
復習：毎回の講義のテーマを２００字程度でまとめる

〔授業計画〕
第 1 回　国家
国家の概念と国家形態
第 2 回　憲法の意義と類型
憲法の意義と類型
第 3 回　近代憲法の成立と特色
英米仏独の憲法
現代憲法の登場
第 4 回　明治憲法の成立と特色
明治憲法の成立過程とその特色
第 5 回　日本国憲法の成立
ポツダム宣言の受諾
成立過程とその問題点
第 6 回　日本国憲法の基本原理
国民主権主義、平和主義、人権尊重主義
第 7 回　天皇制
天皇の地位、皇位の継承、天皇の権能、摂政、皇室の財産
第 8 回　戦争の放棄
永久平和主義、第９条の解釈論、戦力保持に関する判例
第 9 回　基本的人権の保障
基本的人権の性格、平等権、自由権、社会権、参政権
第 10 回　国会
二院制、議員の選挙、地位、組織、会期、国会権限
第 11 回　内閣
行政権、組織、職務、活動、内閣と国会の関係
第 12 回　裁判所
司法権の概念、構成、司法権の地位と裁判官、違憲審査権
第 13 回　財政
財政の基本原理、予算、団体自治、公金支出の制限
第 14 回　地方自治体
地方自治体の本旨、住民自治、団体自治、特別法
第 15 回　憲法改正
憲法典の変更、日本国憲法の改正、改正の限界

〔成績評価〕
定期試験：筆記試験５０％
授業内提出物：３０％
授業への取り組み姿勢：２０％

〔教科書〕
講義時間毎に教材・資料を配布

〔参考文献〕
文部科学省中・高等学校新学習指導要領
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
① 前期･後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

学習心理学Ⅰ

4409
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
学習の理論の理解。学習意欲、学習指導法、学習理論の応用についての理解。
〔授業の概要〕
一般的に学習とは、経験や勉強によって知識、理解、習熟を増すこと、記憶すること、経験を通して獲得すること、わかることをさす。一方、心理学では学習は経験による比較的永続的な行動の変容とされるが、この授業ではこのような「学習」に焦点をあてて講義する。
授業にあたっては、下記予習・復習を行い、主体的に学ぶこと。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業計画に沿って各回のテーマについてネットなどで調べておくこと。(90分)
授業後は各回のテーマの要点をまとめておくこと。ネットなどで関連項目についてより広く調べてみること。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　学習とは　学習心理学の内容
第 2 回　学習の理論（1）
　　連合説　　パブロフの古典的条件づけ　スキナーによるオペラント条件づけ
第 3 回　学習の理論（2）
　　認知説　　観察学習　　モデリング　　社会的学習　技能学習
第 4 回　学習意欲（1）
　　達成動機　マズローによる欲求階層説　内発的動機づけ　原因帰属理論
第 5 回　学習意欲（2）
　　自己決定理論　アンダーマイニング効果　達成目標理論
第 6 回　学習意欲（3）
　　学ぶ意欲のプロセスモデル　発達段階と動機づけ　人間関係と動機づけ
第 7 回　学習指導（1）
　　学習指導の要件　さまざまな学習指導法　　ATI
第 8 回　学習指導（2）
　　授業設計　インストラクショナルデザイン　学習意欲のデザイン
第 9 回　学習指導（3）
　　協同学習　アクティブラーニング　構成主義の学習理論
第 10 回　学習理論の臨床的応用（1）
　　認知行動療法
第 11 回　学習理論の臨床的応用（2）
　　応用行動分析
第 12 回　学習理論の臨床的応用（3）
　　特別支援教育への応用
第 13 回　学習と知能
　　知能とは　知能のモデル　学習と知能の関係
第 14 回　学力と学習
　　学力とは　学力のモデル　学力と学習の関係
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
期末試験　１００％
〔教科書〕
用いない。
〔参考文献〕
学習の理論　上・下
バウアー・ヒルガード（梅本堯夫監訳）　培風館
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

日本語Ⅰ①

4420
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
日本語の上級レベル（日本語能力試験N1レベル）の力をつけることを目
的とする
い
〔授業の概要〕
日本語能力試験N1~N2レベルの文章を読み、同時に文法・語彙の使い方を学び、漢字の読み書きも練習する。習った文法・語彙を使って、自分で文を作成する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
間違えた問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)
〔授業計画〕
第 1 回　読解①
　　自己紹介と本当の自分
第 2 回　文法・語彙①
　　自己紹介と本当の自分
第 3 回　読解②
　　若者の自己評価
第 4 回　文法・語彙②
　　若者の自己評価
第 5 回　読解③
　　ジェンダーを考える
第 6 回　文法・語彙③
　　ジェンダーを考える
第 7 回　読解④
　　ことばと文化
第 8 回　文法・語彙④
　　ことばと文化
第 9 回　読解⑤
　　心と体のバランス
第 10 回　文法・語彙⑤
　　心と体のバランス
第 11 回　読解⑥
　　働くということ
第 12 回　文法・語彙⑥
　　働くということ
第 13 回　読解⑦
　　日本の多様性
第 14 回　文法・語彙⑦
　　日本の多様性
第 15 回　まとめ
　　模擬試験　読解
〔成績評価〕
授業への参加度・態度：20%
宿題・提出物：20%
小テスト：30%
期末テスト：30%
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「新中級から上級への日本語』(Japan Times)
『日本語総まとめ問題集Ｎ１ 漢字』（アスク）
『新完全マスター文法日本語能力試験Ｎ１』（スリーエーネットワーク）
『日本語能力試験Ｎ１予想問題集改訂版』（国書日本語学校）他。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日２限（12：10～13：40）

日本語Ⅰ②

4421
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎大学での学習・研究活動に必要な日本語運用能力の基礎（日本語能力試験N1レベル）を習得することを目標とする。
◎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと他の日本語授業科目と共に履修し、目標の達成を目指す。
〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1レベルの文章（新聞レベルの文章）を読みこなすことを通じて、「読む」「書く」の技能を高めるために、表現に多用される語彙の習得を図る。
◎読解文章のトピックについて、アクティブラーニングを取り入れた学習者同士あるいは学習者と教授者との話し合い等の学習活動を展開する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎予習もさることながら、特に、学習した文章を音読する復習を最低でも30分以上は必ずすること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　本授業についての目標・進め方等について説明する。
　　日本語の学習方法についての指示等を与える。
　　ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　異文化との出会い
　　「留学することの意義」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、それぞれの経験も踏まえながらその内容に関して意見を出し合う。
第 3 回　人生とキャリア
　　「『就活』を考える」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、それぞれの将来の進路に関して意見を出し合う。
第 4 回　地域と共に生きる
　　「商店街でみんな元気に」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、日常生活に関して意見を出し合う。
第 5 回　自然との共生
　　「里山ー自然と人間が共生する場所ー」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、自然との共生に関して意見を出し合う。
第 6 回　食にみる世界

「１杯のコーヒーから世界を考える」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、食生活に関して意見を出し合う。

第 7 回　子どもと教育
「教室のお客様」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、教育に関して意見を出し合う。

第 8 回　新聞記事１
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 9 回　新聞記事２
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 10 回　新聞記事３
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 11 回　新聞記事４
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 12 回　新聞記事5
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 13 回　新聞記事６
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 14 回　新聞記事７
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
プリントを配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜提示したり、資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。

〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

日本語Ⅲ①

4422
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
N1レベルの文法力をブラッシュアップしつつ、読解力・語彙力をつけ 、Ｎ１に合格する力をつけていくことを目標とする。

〔授業の概要〕
日本語能力試験N1レベルの読解を中心に、文字・語彙・文法も併行して学び、日本語能力試験Ｎ１に確実に合格できる力を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
まちがった問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)

〔授業計画〕

第 1 回　Ｎ１レベル言語知識　模擬試験
Ｎ１レベル　読解・語彙・文法・文字の模擬試験

第 2 回　Ｎ１レベル〈語彙・文法〉
模擬試験のフィードバック
文法・語彙問題演習

第 3 回　読解①
パラサイト・シングルの社会的功罪

第 4 回　語彙・文法①
パラサイト・シングルの社会的功罪

第 5 回　読解②
情報化社会に必要な姿勢や能力とは

第 6 回　語彙・文法②
情報化社会に必要な姿勢や能力とは

第 7 回　読解③
日本の伝統文化”相撲”

第 8 回　語彙・文法③
日本の伝統文化”相撲”

第 9 回　読解④
医師不足の悩む日本の医療

第 10 回　語彙・文法④
医師不足の悩む日本の医療

第 11 回　読解⑤
　　犯罪　新しい詐欺の形
第 12 回　語彙・文法⑤
　　犯罪　新しい詐欺の形
第 13 回　読解⑥
　　科学技術　ロボットは科学技術の申し子
第 14 回　語彙・文法⑥
　　科学技術　ロボットは科学技術の申し子
第 15 回　Ｎ１レベル〈言語知識〉
　　Ｎ１レベル　模擬試験

〔成績評価〕
授業への参加度・態度：20%
宿題・提出物：20%
小テスト：30%
期末テスト：30%

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
『学ぼう！にほんご　上級』（専門教育出版）
『日本語総まとめ問題集Ｎ１ 漢字』（アスク）
『新完全マスター文法日本語能力試験Ｎ１』（スリーエーネットワーク）
『日本語能力試験Ｎ１予想問題集改訂版』（国書日本語学校）他。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日３限（13：50～15：20）

日本語Ⅲ②

4423
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎「日本語Ⅰ・Ⅱ」に続き、大学での学習・研究活動に必要な日本語運用能力の基礎（日本語能力試験N1レベル）を習得することを目標とする。
◎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと他の日本語授業科目と共に履修し、目標の達成を目指す

〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1レベルの文章（新聞レベルの文章）を読みこなすことを通じて、「読む」「書く」の技能を高めるために、表現に多用される語彙の習得を図る。
◎読解文章のトピックについて、アクティブラーニングを取り入れた学習者同士あるいは学習者と教授者との話し合い等の学習活動を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎予習もさることながら、特に、学習した文章を音読する復習を最低でも30分以上は必ずすること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　本授業についての目標・進め方等について説明する。 日本語の学習方法についての指示等を与える。 ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　統計と数字
　　『統計数字を疑う　なぜ実感とズレるのか？』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 3 回　背理法
　　『数学的思考法　説明力を鍛えるヒント』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 4 回　ぼくは勉強ができない１
　　『ぼくは勉強ができない』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 5 回　ぼくは勉強ができない２
　　『ぼくは勉強ができない』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 6 回　「待つ」こと
　　『態度がわるくてすみません　内なる「他者」との出会い』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 7 回　ついでに何をする？
　　『おまけより割引してほしい　値ごろ感の経済心理学』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 8 回　同性愛のHIV感染者
　　「同性愛のHIV感染者　性教育教師に」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 9 回　ウイルス発見！
　　『生物と無生物のあいだ』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 10 回　新聞記事１
　　直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 11 回　新聞記事２
　　直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解す

ると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 12 回　新聞記事3
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 13 回　新聞記事４
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 14 回　新聞記事５
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
プリントを配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜提示したり、資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。

〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

環境保全管理学

5312
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
池田　聡

〔到達目標〕
受講生の環境保全問題に関する各自の明確な見解と様々な対策を理解
分析能力および表現力の向上
上記の内容を目標にする。

〔授業の概要〕
地球環境の歴史と現状について学習し、環境保全のための対策（家庭や地域においての対策から温暖化等を含む地球規模での対策）について学ぶ。
ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（30分）
講義内で指定した課題の予習（30分）
毎回講義内で課題資料を配布。

〔授業計画〕
第 1 回　環境保全管理学で何を学ぶかについて
環境保全管理学で何を学ぶかについての導入
第 2 回　過去と現状の地球環境の比較
過去と現状の地球環境の比較について学習する
第 3 回　地球温暖化について学ぶ
地球温暖化について学習する
第 4 回　映像を用いて地球温暖化を考える
映像を用いて地球温暖化を学習する
第 5 回　各世代にあわせた環境教育について学ぶ
各世代にあわせた環境教育について学習する
第 6 回　種・生態系・遺伝子の多様性について学ぶ
種・生態系・遺伝子の多様性について学習する
第 7 回　「沈黙の春」を題材に環境保全を考える
「沈黙の春」を題材に環境保全を学習する
グループワーク
第 8 回　自然保護の概念と倫理を学ぶ
自然保護の概念と倫理について学習する
第 9 回　自然観察の視点から環境保全を学ぶ
自然観察の視点から環境保全を学習する
第 10 回　環境問題に関する実践的な取組みについて学ぶ
環境問題に関する実践的な取組みについて学習する
第 11 回　エコツーリズムとは何かについて学ぶ
エコツーリズムとは何かについて学習する
第 12 回　エコツーリズムの実践例について
エコツーリズムの実践例について学習する
ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング
第 13 回　地域の分析能力と表現力について
地域の分析能力と表現力について学習する
第 14 回　個人課題の報告
個人課題の全体報告
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめ及び定期試験の説明

〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

簿記入門

6101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
由里　悦子

〔到達目標〕
会計はビジネスの共通言語といわれており、今では「会計」や「簿記」の知識は働くすべての人たちにとって必要不可欠なものとなりました。
本授業では、ビジネスにおいて欠かせない「簿記」の初歩的な仕組みやルール、一連の手続きを習得し、社会人として必要となる簿記の基礎を身につけることを目標とします。
〔授業の概要〕
小規模な株式会社を前提とする商業簿記を学習の範囲とします。
テキストに即して、株式会社のお金や商品の出入りについて、一連の手続きや日常の取引記録のルールを学習します。年間を通して記録が正しく行われているかどうかを確かめるための試算表の作成や貸借対照表、損益計算書という報告書についても学習します。基礎的な簿記の知識（基本用語や仕組み等）と技術（記録、集計、報告）を習得するため、主にテキスト学習と演習の形式で進めます。
電卓（12桁が望ましい、関数電卓は不可）を持参してください。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
簿記の学習は積み重ねの学習であり、各回の内容を正しく理解することが大切です。特に復習に重点を置き、テキストの例題やトレーニングを活用し、電卓とペンを使用して解答欄に書き込む練習が最も効果的な学習方法です。ひとつひとつ確実に理解できるように心がけてください。
〔授業計画〕
第 1 回　簿記の基礎
簿記とは何か、目的や概要、簿記の５要素
第 2 回　日常の手続き
取引、仕訳、転記、記帳手続や帳簿の種類
第 3 回　商品売買Ⅰ
商品の購入と販売の取引、商品売買代金
第 4 回　商品売買Ⅱ
商品売買の返品、仕入・売上時の諸掛り
第 5 回　現金預金、クレジット売掛金
現金、当座預金、クレジットカードを利用した取引
第 6 回　手形取引、電子記録債権債務・帳簿
代金の受け払いに用いる手形や電子記録債権・債務、主要簿と補助簿の関係
第 7 回　その他の取引、訂正仕訳
貸付金・借入金、有形固定資産、仮払金・仮受金、仕訳の訂正
第 8 回　試算表
試算表の特徴、形式、作成
第 9 回　決算、決算整理Ⅰ
決算のあらましと手続き、決算整理（現金過不足、貯蔵品、当座借越、売上原価）
第 10 回　決算整理Ⅱ
決算整理（貸倒れ、減価償却）
第 11 回　決算整理Ⅲ
決算整理（経過勘定項目）
第 12 回　決算整理後残高試算表、精算表
決算整理の後の残高試算表と計算手続きの一覧表となる精算表
第 13 回　帳簿の締切
英米式決算法による帳簿の締め切り
第 14 回　株式の発行、剰余金の配当と処分、税金
資本の概要と株式発行の処理、利益の配当と処分、法人税等と消費税
第 15 回　証ひょうと伝票
証ひょうと伝票の仕組み、起票方法や転記の仕方
〔成績評価〕
小テスト　40%　（4回程度実施予定）
期末試験　60%
〔教科書〕
・『よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記３級（Ver.12.0)』
（TAC出版　2021年3月25日改訂　2,000円＋税）（バージョンにご注意ください）
・『よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記３級（Ver.12.0)』
（TAC出版　2021年3月25日改訂　1,500円＋税）（バージョンにご注意ください）
〔参考文献〕
特になし（必要になれば授業中に適宜紹介します）
〔履修条件〕
〔備考〕
授業計画は、要望や進捗度に応じて一部変更することがあります。
〔オフィスアワー〕
LMS科目になりますので、質問等はPhollyのメッセージかメールで受け付けます。

教職総合演習1−Ⅰ（面接）

7001
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
秋本　　隆夫

〔到達目標〕
「教育は人なり」といわれるように直接、児童生徒の指導にあたる教師は人間性、教育観、指導力などの資質能力が求めらる。また、教師は児童生徒の前に立ち、模範となったり、指導する立場になるので教師自身の人間性が児童生徒の人間形成に大きな影響を与えます。これに加え、教師に

は探究心を持ち、自律的に学び続ける姿勢も必要とされている。本授業では、教員採用試験対策として、主として、面接（個人面接、集団面接、集団討議、場面指導など）についての技法を繰り返し体験しながら、目標に向かって励む場として授業を展開したい。また。本授業を通して、学校現場における様々な課題解決への理解を深め、教師としての基本的な資質や実践的な能力の向上を高めていきたい。

〔授業の概要〕

教員として求められる以下の事項を集団面接、集団討議、場面指導及び個人面接などの
形式で演習をすすめる。

(1)使命感や責任感に関する事項
(2)社会性や対人関係能力に関する事項
(3)児童生徒理解や学級経営等に関する事項
(4)教科内容等の指導力に関する事項
(5)学校現場の諸課題の解決に関する事項

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

受講生が教職への志を強く持ち、中央教育議会答申や新学習指導要領など、最近の教育課題に関連する資料等への関心を持ち、理解を深めるために主体的に取り組むことを希望する。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
本授業の目的、内容、評価方法及び参考文献等の紹介。

第 2 回　教師に求められているもの
国、都道府県市が求めている教師像について紹介をするとともに、自己課題の発見の第一歩とする。また、面接技法の基本について理解する。

第 3 回　教師を目指す志望動機について
「教師を目指す動機、理由」などについて、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面において、口頭による回答練習を行う。

第 4 回　各都道府県市が求めている教師像
「なぜ、その自治体を受験するのか？」について、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面において、口頭による回答練習を行う。

第 5 回　各都道府県市が目指す教育計画
「受験志望の自治体の目指す教育計画」について、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面において、口頭による回答練習を行う。

第 6 回　志望理由②
「なぜ、小学校の先生を目指すのか？」「なぜ、中学校の○○科の先生を目指すのか？」について、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面で口頭による回答練習を行う。

第 7 回　教職を目指すための資質について①
「どのような先生になりたいか？」「先生になれば、どのようなことをしたいのか？」など、教職に対する自らの課題を把握し、口頭で回答できるよう、まとめる。

第 8 回　教職を目指すための資質について②
前回の課題に加え、「信頼される先生とは？」「教員として、大切な資質とは？」について、集団的な面接場面において、口頭での回答練習を行う。

第 9 回　学校課題（学習指導）について①
集団討議的な場面を設定し「分かる授業とは？」「楽しい授業とは？」「主体的な学びとは？」「対話的な学びとは？」「深い学びとは？」について、自由討議を行うとともに振り返りにより、理解を深める。

第 10 回　学校課題（学習指導）について②
前回に続き、集団討議的な場面を設定し「分かる授業とは？」「楽しい授業とは？」「主体的な学びとは？」「対話的な学びとは？」「深い学びとは？」について、自由討議を行うとともに振り返りにより、理解を深める。

第 11 回　学校課題（生徒指導）について①
集団討議的な場面を設定し「不登校についての対応」「いじめ問題への対応」
「体罰について」について、自由討議を行うとともに振り返りにより、理解を深める。

第 12 回　学校課題（生徒指導）について②
「不登校についての対応」「いじめ問題への対応」「体罰について」についての場面指導的な場面を設定し、各個人による、口頭による回答練習を行う。

第 13 回　教育時事（教育課題など）について
学校を取り巻く様々な教育課題について理解を深め、その対応について、口頭による回答練習を行う。

第 14 回　個人面接①
これまでの各項目について、個人面接形式で口頭による回答を行うとともに振り返りにより評価を行う。

第 15 回　個人面接及び授業のまとめ
これまでの各項目について、個人面接形式で口頭による回答を行うとともに教員採用試験に向けての具体的な対策を行う。

〔成績評価〕

・授業への取組、意見発表及び受講意欲・態度　３０％
・毎時間の課題レポート　４０％
・定期試験（課題レポート）３０％

〔教科書〕

小・中学校新学習指導要領（文部科学省）
生徒指導提要（文部科学省）
適時、資料を配付する。

〔参考文献〕

授業内で紹介する。適時、資料を配付する。

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

９：５０～１２：３０（火曜日：研究棟金属加工実習室準備室）

教職総合演習Ⅳ-1【保健体育】

7004
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
青木　　敦英

〔到達目標〕
本講義では、保健体育科の教員の資質向上を目指すことを目的として、体育分野と保健分野に関する専門的知識の習得を目指す。

〔授業の概要〕
体育分野では、各運動領域に関するキーワードを探りながら、指導の際のポイントならびに競技ルールや歴史などの基礎知識を習得する。保健分野では、アクティブラーニング形式を用いながら、知識の習得だけでなく、先生と生徒の相互理解を深める指導法を実践していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日頃から、教育に関する時事問題やニュースに目を向けておくとともに、中学校や高等学校の保健体育の教科書を熟読しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本講義の目的、評価、授業内容について
第 2 回　学習指導要領
中学校ならびに高等学校の学習指導要領の内容や目標について理解を深める
第 3 回　体育分野①：器械体操
中学校ならびに高等学校の器械体操におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 4 回　体育分野②：陸上競技
中学校ならびに高等学校の陸上競技におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 5 回　体育分野③：水泳
中学校ならびに高等学校の水泳におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 6 回　体育分野④：球技
中学校ならびに高等学校の球技におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 7 回　体育分野⑤：武道・ダンス
中学校ならびに高等学校の武道・ダンスにおけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 8 回　体育分野⑥：体育理論
中学校ならびに高等学校の体育理論におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 9 回　保健分野①：現代社会と健康
中学校ならびに高等学校の現代社会と健康におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 10 回　保健分野②：生涯を通じる健康
中学校ならびに高等学校の生涯を通じる健康におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 11 回　保健分野③：社会生活と健康
中学校ならびに高等学校の社会生活と健康におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 12 回　体育授業におけるアクティブラーニング
現在実践されている最新の体育授業形態を紹介
第 13 回　保健授業におけるアクティブラーニング
現在実践されている最新の保健授業形態を紹介
第 14 回　教師に求められる総合的人間力について
これからの保健体育教員に求められる資質などについて解説
第 15 回　まとめ
体育分野と保健分野の知識の総合理解確認

〔成績評価〕
受講態度（20%）、授業内テスト（50%）、レポート（30%）などから総合的に評価する

〔教科書〕
適宜プリントを配布します。

〔参考文献〕
中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省　東山書房（平成29年3月）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　文部科学省　東山書房（平成30年7月）

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

教育方法の文学

5299
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
白江　　恒夫

〔到達目標〕
東洋（古代中国）における教育方法の古典「学記」をテキストとして、
・「学記」の訓読（日本語読み）ができる。
・「学記」の読解ができる。
・「学記」の内容説明ができる。
・現代の教育方法との比較ができる。

〔授業の概要〕
・東洋（古代中国）の教育とその方法を記した『礼記＜ライキ＞』巻十八の「学記」を扱う。
・原典が漢文なので、これを訓読文（日本語による書き下

し文）に直す。
・訓読した文章を、小項目に分けて読解（内容理解）する。
・現代の教育方法と比較して、通用するものとしないものとを識別する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・原典の本文と訓読文を提供するので、訓読文をノートに自筆書写する。（予習１時間）
・授業中に行なった本文と古注の説明をノートに清書する。（復習1.5時間）
〔授業計画〕
第 1 回　四書五経について。
・奈良時代以来、日本の政治、文化、教育に大きな影響を与えた儒教の経典である四書五経について概説する。
第 2 回　『礼記』所収の「大学」と「学記」。
・『礼記』の各一編である「大学」と「学記」との関係について。
第 3 回　「大学」教育の綱領。
・学問教育の必要性と目的について。
第 4 回　古代中国の教育機関。
・家に塾あり。党にショウあり。術に序あり。国に学あり。
第 5 回　教えの大倫七ヶ条。
１、学問を敬するを示す。２、始めを官にする。３、学業に恭順ならしめる。
４、威儀を整える。５、余裕を与えてのびやかにする。６、時を得た教育をする。７、教えの程度を越えない。
第 6 回　正業と居学。
・大学教育の正課と自宅学習について。
・蔵修の学問と息遊の学問との関係。
第 7 回　今（当時）の教育の批判。
・教科書を読み上げて難問を多くし、言が多岐に渡る。
・学習範囲を広めて急ぎ、学生の習熟を顧みない。
・学生の個性・才能を尽くさない。etc。
第 8 回　四法ー教授法の四つの方法ー。
・予法、時法、孫法、摩法について。
・四法の教育効果。
第 9 回　四法の逆の方法。
・四法の逆の教授法と、その教育効果。
第 10 回　師のあるべき姿。
・教えの由りて興る所を知る。
・教えの由りて廃する所を知る。
第 11 回　師のとるべき方法。
・道〈みちひ〉きて牽〈ひ〉かず。
・強〈つと〉めしめて抑〈お〉さず。
・開きて達せず。
第 12 回　学生の四つの偏り。
・多きに失す。　・寡〈すくな〉きに失す。
・易きに失す。　・止るに失す。
第 13 回　学問教育と政治との関連。
・学に至るの難易を知り、その美悪を知る。
・よく博く喩してよく師となり、よく長となりよく君となる。
第 14 回　師の尊厳性。
・師を厳にして道尊し。道尊くして後に、民、学を敬するを知る。
・大学の礼は、天子は北面し、師は南面する。「天子に詔〈つ〉ぐと雖も北面すること無し。」。
第 15 回　実際教育上の技術。
・易しい所を先にし、難しい所を後にする。
・質問規模の大小に応じて答える。
・初めは問う所に応じて答え、やがては大切な問題に導く。
定期考査。
〔成績評価〕
・定期考査（筆記試験又はレポート提出）で評価する（100%）。
・再試験は行わない。
〔教科書〕
・授業中に適宜プリント資料を配付する。
〔参考文献〕
・漢文大系『礼記』（冨山房）。
・新版漢語林（大修館書店）。
・国語辞典。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・質問等は、各講義後に受け付ける。

環境と生物（1年児童のみ対象）

2109
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
渡　康彦

〔到達目標〕
生物の多様性と普遍性を解釈する。
生物の環境への適応を説明できる。
〔授業の概要〕
我々人間を含む生物の世界は多様である。様々な環境に対する生物の適応を生理的な面からみていくと普遍的な面もある。生物のいろんな環境、すなわち温度、水、酸素、光そして時間への適応様式を学んでいく。
オンデマンド授業と対面授業を行っていく。学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布プリントを見直す（120分）
プリントでわからないこと、興味のあることなどを調べる（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　はじめに

環境と生物でどのようなことを学んでいくかについて知る。
第 2 回　生物と温度（1）
変温動物と恒温動物は高温あるいは低温環境にたいしてどのように適応しているのかを考える。
第 3 回　生物と温度（2）
植物は高温あるいは低温環境にどのように適応しているのかを考える。
第 4 回　生物と水
生物の水の出入りを考える。
第 5 回　生物と乾燥
生物が乾燥にたいしてどのように適応しているのかを考える。
第 6 回　生物と酸素
生物の呼吸の仕組みと生物が低酸素状態へどのように適応しているのかを考える。
第 7 回　生物と光（1）
植物の光合成のしくみと光発芽種子、植物の光周性について考える。
第 8 回　生物と光（2）
動物の光周性について考える。
第 9 回　生物と光（3）
光周性のメカニズムについて考える。
第 10 回　地球の進化
地球誕生から地球環境の変化を考える。
第 11 回　生命の進化
生命誕生から生物の進化を考える。
第 12 回　オゾン層
生物への紫外線の影響とオゾン層破壊について考える。
第 13 回　地球温暖化
生物への地球温暖化の影響を考える。
第 14 回　生物と時間
体内時計の重要性を考える。
第 15 回　まとめ
環境と生物についての総括する。

〔成績評価〕
プリント提出（20%）と期末試験（80%）にて評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日2時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

英語Ⅱ④

1504
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
浜本　　幸子

〔到達目標〕
１．語彙を増やし、慣用表現を習得する
２．英語を的確に聞き取る力を養成する
３．機能別英語表現を学ぶ

〔授業の概要〕
会話文を中心に、文の仕組みや談話のまとまりや流れを学ぶ。また、様々な機能に沿った表現方法を学び、自分の言葉として使えるよう繰り返し練習を通して定着を図る。さらに、学んだ表現を使って学習者同士で自分の考え、希望などを伝えられるよう実践練習を繰り返し行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学んだ内容をより確実で実践的にするため、小テスト・発表を実施する。それらの学習、練習として、その都度60~90分程度の時間が必要。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、前期の復習
授業方針、目標、内容、評価の方法を説明。前期の復習。
第 2 回　Unit 1 -(1)
Pleased to meet you. 人を出迎えたり、紹介するときに必要な語彙・表現を習得する。文法として、be動詞を復習する。
第 3 回　Unit 1 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 4 回　Unit 2 -(1)
人を出迎えたり、紹介するときに必要な語彙・表現を習得する。文法として、be動詞を復習する。
第 5 回　Unit 2 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 6 回　Unit 3 -(1)
I spoke to Ms. Hayashi yesterday. 苦情の電話対応時に必要な語彙・表現を習得する。文法として、一般動詞の過去形を復習する。
第 7 回　Unit3 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 8 回　Unit 4 -(1)
When does the meeting start? 会議について、時間や場所など打合せ時に必要な語彙・表現を習得する。文法として、疑問詞を復習する。
第 9 回　Unit4 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。
第 10 回　Unit 5 -(1)

Can you meet me at the airport? 人に何かを依頼するときに必要な語彙・表現を習得する。

第 11 回　Unit 5 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。

第 12 回　Unit 6 -(1)
Feel free to ask me anytime. 職場で機械類の使い方など尋ねる場合に必要な語彙・表現を習得する。

第 13 回　Unit 6 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。

第 14 回　Unit 7 -(1)
I'm thinking about quitting my job. 職場で人に相談したり、励ましたりする場合に必要な語彙・表現を習得する。

第 15 回　Unit 7 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。全体の復習。

〔成績評価〕
提出物（10%）
小テスト・発表（30%）
定期試験（60%）

〔教科書〕
Let's Read Aloud & Learn English!　Teruhiko Kadoyama, Simon Capper（成美堂）

〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日

日本事情演習

4122
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
浜本　　幸子

〔到達目標〕
１．日本の文化、行事、社会情勢を学ぶことで日本についての理解を深める。
２．社会の一員として様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができるような豊かな表現力を養成する。

〔授業の概要〕
一年、12か月を月ごとの文化や行事などを取り上げて、その本来の意味について解説。そして、現代社会でそれらがどんな意味を持ち、どのように行われているかなどについて共に考えていく。また、留学生のそれぞれの出身国での文化や行事との相違点についても話し合う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
復習（90分）
発表内容作成・練習（90分）

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション、自己紹介
授業の目標、方針、評価方法などの説明。自己紹介。

第 2 回　日本の地理、自然環境
47都道府県名と特徴。自然環境、起こりうる災害、防災について。

第 3 回　日本の政治制度、天皇制と皇室
政治制度の概要。天皇制と皇室の概要。

第 4 回　10月の伝統的文化・行事・風習
季節の変わり目での自然の楽しみ方、行事、その意義などについて。

第 5 回　11月の伝統的文化・行事・風習
祝日の意義、現在での一般的な祝い方など。

第 6 回　12月・1月の伝統的文化・行事・風習
冬の行事、年末年始行事や一般的な過ごし方など。

第 7 回　2月・3月の伝統文化・行事・風習
季節の変わり目やそれにかかわる行事について。祝日の意義や現在の受け止め方。

第 8 回　4月・5月の伝統文化・行事・風習
花見など、季節の行事、楽しみ方、文化としての意義など。

第 9 回　6月・7月の伝統文化・行事・風習
自然の美しさ、自然がもたらすめぐみ、そして自然災害などの脅威について。

第 10 回　8月・9月の伝統文化・行事・風習
夏祭りなど、地域の文化や行事を調べる。それらを通して都会と地方の格差にも注目する。

第 11 回　中間試験
授業で配布されたワークシートを中心に、授業内容の理解度を図る。

第 12 回　試験のフィードバックとスピーチ作成
この授業で学んだことについてテーマを決め、スピーチ原稿を作成。

第 13 回　発表
作成したスピーチを発表し、他者のスピーチを鑑賞、評価する。

第 14 回　伝統的文化の実践
日本の伝統文化を一つ取り上げ、実践する。

第 15 回　まとめと補足、質問
全体をまとめながら補足。質疑応答。

〔成績評価〕
提出物（10%）
中間テスト（40%）
発表(30%)
原稿(20%)

〔教科書〕
担当者作成のパワーポイントを資料として授業を進めるため、テキストは特に指定しない。
毎回ワークシートを配布。

〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日

学習心理学Ⅱ

4409
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
知識、理解、記憶、思考、言語など認知心理学の理解。学習と記憶に関する神経心理学的理解。
〔授業の概要〕
一般的に学習とは、経験や勉強によって知識、理解、習熟を増すこと、記憶すること、経験を通して獲得すること、わかることをさす。このように、学習には認知、思考、言語などが関与し、また学習に関連した脳科学からの研究も多い。この授業では認知心理学と神経心理学の側面から学習について講義する。
授業にあたっては、下記予習・復習を行い、主体的に学ぶこと。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業計画に沿って各回のテーマについてネットなどで調べておくこと。(90分)
授業後は各回のテーマの要点をまとめておくこと。ネットなどで関連項目についてより広く調べてみること。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　認知心理学とは　学習・記憶の神経心理学とは　認知心理学の歴史
第 2 回　認知心理学（1）
　　認知とは　記憶の情報処理モデル　短期記憶　ワーキングメモリと学習
第 3 回　認知心理学（2）
　　長期記憶　エピソード記憶　意味記憶　知識・概念
第 4 回　認知心理学（3）
　　日常記憶　展望記憶　記憶の変容　記憶と臨床
第 5 回　認知心理学（4）
　　認知と教育　メタ認知　学習観　学習方略　「わかる」とは何か
第 6 回　認知心理学（5）
　　教科教育への応用　文章理解　問題解決　外国語学習
第 7 回　認知心理学（6）
　　認知の個人差　メンタルスピード　認知スタイル　認知の性差
第 8 回　神経心理学（1）
　　脳科学と学習・記憶　脳科学の基礎　神経心理学の歴史
第 9 回　神経心理学（2）
　　学習・記憶の神経心理学　シナプス可塑性　記憶障害　認知症
第 10 回　神経心理学（3）
　　脳と感情　感情の理論　感情の神経心理学　ダマシオ　扁桃体　感情と学習
第 11 回　神経心理学（4）
　　高次脳機能障害　失語症　言語野　ロゴジェンモデル　言語と学習
第 12 回　神経心理学（5）
　　脳の機能的非対称性　ラテラリティ　分割脳研究　右半球障害
第 13 回　神経心理学（6）
　　回復・リハビリテーション　　いくつかの回復ケース　　脳の可塑性と学習
第 14 回　認知、教育、学習、脳
　　それぞれの関係性について
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
期末試験　１００％
〔教科書〕
特に用いない。
〔参考文献〕
現代の認知心理学１～７
日本認知心理学会　北大路書房
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

情報機器の操作【初級】

1034
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)
〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ
〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある
〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)
〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報機器の操作【初等】

2193
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。
〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業

時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)

第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作

第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作

第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う

第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。

第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。

第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。

第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで

第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。

第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について

第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析

第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる

第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する

第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について

第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕

授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕

教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕

私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕

月曜日2限目

情報機器の操作【初級】

1100
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕

情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕

１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)

第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作

第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報機器の操作【初級】

2192
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成

視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報科学

1307
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。情報リテラシーから継続して学び、この情報科学を受講してExcelの応用技術を身につける。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、より効果的にコンピュータを活用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
セル操作(ワークシート操作と情報リテラシーの復習)
第 3 回　Excel基本操作(2)
関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索、情報リテラシーの復習)
第 4 回　Excel基本操作(3)
値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
SUM ／ AVERAGE ／ MAX ／ MIN ／ COUNT ／ COUNTA／RANK／絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
ROUND／ROUNDUP／ROUNDDOWN／INT
第 7 回　Excel関数(3)
SUMIF ／ COUNTIF ／ COUNTBLANK ／ AVERAGEIF
第 8 回　Excelデータベース機能

並べ替え／オートフィルタ
第 9 回　Excelグラフ機能
グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
IF(発展・実践と発展・多重判断文、AND、OR)
第 13 回　データ分析とデータベース関数
VLOOKUP
第 14 回　プレテスト
定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「教養情報科学概論」共立出版
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

情報リテラシーⅠ

4103
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
森下　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。この情報リテラシーを受講してExcelの基礎操作能力の定着を目指す。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、基礎的なコンピュータを活用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
セル操作、ワークシート操作
第 3 回　Excel基本操作(2)
関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索)
第 4 回　Excel基本操作(3)
値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
SUM／AVERAGE／相対参照と絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
MAX／MIN
第 7 回　Excel関数(3)
COUNT／COUNTA／RANK
第 8 回　Excelデータベース機能
データベースと並べ替え
第 9 回　Excelグラフ機能
グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
IF(発展・多重判断文)
第 13 回　データベース機能
データベース機能などの便利な機能の活用(データの分析と整理)
第 14 回　プレテスト
定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「これだけは知っておきたい情報リテラシー大学や社会で活躍するために」オーム社
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

情報リテラシーⅡ

4104
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。この情報リテラシーを受講してExcelの基礎操作能力の定着を目指す。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。
〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、基礎的なコンピュータを活用する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
　　セル操作、ワークシート操作
第 3 回　Excel基本操作(2)
　　関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索)
第 4 回　Excel基本操作(3)
　　値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
　　SUM／AVERAGE／相対参照と絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
　　MAX／MIN
第 7 回　Excel関数(3)
　　COUNT／COUNTA／RANK
第 8 回　Excelデータベース機能
　　データベースと並べ替え
第 9 回　Excelグラフ機能
　　グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
　　基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
　　IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
　　IF(発展・多重判断文)
第 13 回　データベース機能
　　データベース機能などの便利な機能の活用(データの分析と整理)
第 14 回　プレテスト
　　定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
　　定期試験
〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「これだけは知っておきたい情報リテラシー大学や社会で活躍するために」オーム社
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

世界教育史Ⅱ

3205
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
津田　　徹

〔到達目標〕
社会背景や時代背景などを基本として、その中で展開される教育理念（子ども、教育者、教育機関、文化施設、教育手段など）の展開を、学生自らが関心や興味をもって理解することに努め、最終的に教育史上の主要な展開について簡単に説明することができることを目標とします。

〔授業の概要〕
世界教育の歴史のうち、西洋の教育理念（近世から現代）を解説し、さらに現代の日本の教育現象や教育問題を、学生自身が原典資料や翻訳資料、二次資料などを読解したり調査すること更にはグループ別の議論も試みながら、教育理念の歴史的理解を深化させていきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分）。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介
第 2 回　18世紀の西洋教育１
ルソー（『エミール』、消極教育、自然主義教育、近代子ども観）
第 3 回　18世紀の西洋教育２
汎愛派（ザルツマン、汎愛学舎）
第 4 回　18世紀の西洋教育３
ドイツ観念論と教育（カント、フィヒテ、ヘーゲル、シュライエルマッハー）
第 5 回　19世紀の西洋教育１
ペスタロッチ（スイスの貧民教育の祖、基礎陶冶、教育実践活動
第 6 回　19世紀の西洋教育２
フレーベル（『人間の教育』の教育観、幼稚園の理念、恩物
第 7 回　19世紀の西洋教育３
ヘルバルト、段階教授法、教育目的と教育方法、ヘルバルト学派
第 8 回　20世紀の西洋教育１
アメリカ新教育、プラグマティズム、デューイの生涯
第 9 回　20世紀の西洋教育２
デューイの教育観（生活経験、問題解決学習、なすことにより学ぶ）
第 10 回　20世紀の西洋教育３
プログレッシヴィズムとエッセンシャリズム
第 11 回　20世紀の西洋教育４
シュタイナーの教育（ヴァルドルフシューレ）、エレン・ケイの教育活動
第 12 回　20世紀の西洋教育５
モンテッソリの教育（科学的教育、子どもの家、モンテッソリメソッド、感覚教具）
第 13 回　20世紀の西洋教育６
キルパトリックの教育、プロジェクト・メソッド、物作りと教育方法の登場
第 14 回　20世紀の西洋教育７
パーカーストの教育（ドルトン・プラン、アサイメント・ラボラトリー、日本へ）
第 15 回　現代の教育思想家の紹介、まとめ、
学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕
定期試験（70%）、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）

〔教科書〕
広岡義之他著、『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』、ミネルヴァ書房、2019年。
教科書を毎回使用します。世界教育史Ｉと同じテキストです。一回目から持参すること。

小学校学習指導要領（平成28年度3月告示、文部科学省）
中学校学校学習指導要領（平成28年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
パーマー編（広岡他訳）、『教育思想の50人』、青土社。
レーブレ（広岡他訳）、『教育学の歴史』、青土社。

その他、授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日2時間目前休み時間。

簿記論

6101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
加茂川　悠介

〔到達目標〕
簿記論では、帳簿への記帳の仕方、および１年間の利益を計算することを目的に決算整理仕訳と精算表を経て損益計

算書と貸借対照表が作られる迄の理解がテーマです。

ビジネスを語るうえで欠かせない１年間の利益の計算方法について、商業簿記３級の範囲内の知識の習得が到達目標となります。

〔授業の概要〕
商業簿記３級の範囲となる、商品売買取引から帳簿記帳等や決算整理仕訳までを学習し､本決算までを題材に講じます。

講義と演習を行うため、毎回下記持参のこと。
テキスト
電卓（１２桁電卓が望ましい)。
筆記用具
(鉛筆又はシャープペンシル・消しゴムなど)

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
予習は望ましいですが効率的ではないので、復習に重点を置いてください。問題を解くことが効果的な復習になるので、テキストに記載されている問題を解くこと。望ましくは参考文献に指定した問題集を解くこと。どのテーマにおいても、自分の力で「仕訳を切ることができるかどうか」意識しながら勉強してください。

〔授業計画〕
第 1 回　商品売買
　　商品売買における仕訳について学習します。
第 2 回　現金
　　現金に関する仕訳を学習します。
第 3 回　普通預金等
　　預金関係について、仕訳を学習します。
第 4 回　小口現金
　　小口現金に関する仕訳について学習します。
第 5 回　手形と電子記録債権（債務）
　　手形と電子記録債権（債務）について学習します。
第 6 回　貸付金・借入金
　　貸付金や借入金について学習します。
第 7 回　その他の債権債務
　　商品以外のものを後払いで買ったときの仕訳などを学習します。
第 8 回　その他の費用
　　消耗品などを買ったときの仕訳を学習します。
第 9 回　貸倒れと貸倒引当金
　　貸倒引当金について学習します。
第 10 回　有形固定資産と減価償却
　　有形固定資産と減価償却について学習します。
第 11 回　株式の発行、剰余金の配当と処分
　　株式の発行や剰余金の配当と処分について学習します。
第 12 回　法人税等と消費税
　　税金関係の仕訳について学習します。
第 13 回　費用・収益の前払い・前受けなど
　　費用や収益の見越・繰延を学習します。
第 14 回　財務諸表
　　財務諸表の作成について学習します。
第 15 回　総まとめ
　　商業簿記３級で学習した範囲の総まとめ。

〔成績評価〕
期末筆記試験（１００％）

〔教科書〕
スッキリわかる日商簿記３級　第１２版
（TAC出版　滝澤ななみ著　１，０００円＋税）

〔参考文献〕
授業では使いませんが復習用に指定します。
よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング
日商簿記３級　Ver.12.0
（TAC出版　簿記検定講座編著　１，６５０円）

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
講義の前後で質問等の対応を行います。

生活とスポーツ

5014
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
別當　和香

〔到達目標〕
1）講義を通じて、スポーツを「する」「見る」「支える」のそれぞれの視点で参加することができる。

2）現代社会におけるスポーツの役割を人文社会学的な視点から説明することができる。

３）スポーツを生涯の友とするライフスタイルについて、また、生涯スポーツ社会の実現に必要な客体的条件について考える力を身につけることができる。

〔授業の概要〕
スポーツの社会的役割とスポーツ文化の本質を理解することから、生涯スポーツ社会の主体形成と客体整備について学び考える。生涯にわたりスポーツ文化を享受するために、スポーツの本質を理解し、スポーツの果たす機能を理解することが必要である。本講義では、そのために必要な知見や考え方を、課題発見・解決型学習を取り入れて習得していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
予習：シラバスで授業内容の確認をおこなっておくこと。(2時間)

復習：講義で客体化された内容をまとめ、自身の生涯スポーツ確立の実現に必要なスポーツを「する」「見る」「支える」の視点から積極的におこなうこと。(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業目的や概要の説明・学習上の諸注意・評価について
第 2 回　現代生活とスポーツ
　　スポーツが担うべき社会的役割について

第 3 回　生活の質と自由時間
生活の質に果たす自由時間の機能や役割
第 4 回　自由時間の内容とスポーツ参加
自由時間におけるスポーツ参加と生活の質との関係性
第 5 回　スポーツの手段化とスポーツの文化
スポーツの意義や価値について
第 6 回　生涯スポーツにおけるスポーツ規範
スポーツ規範とスポーツ文化の関係について
第 7 回　生涯スポーツとスポーツ技術
生涯スポーツにおける技術や戦術とスポーツ文化の関係について
第 8 回　生涯スポーツとスポーツの物的事物
生涯スポーツにおける用品・用具や施設・設備とスポーツ文化の関係性
第 9 回　コミュニティ形成と生涯スポーツ
スポーツのコミュニティ形成機能について
第 10 回　スポーツ観戦と生涯スポーツ
スポーツの直接的観戦行動と生涯スポーツの関係性について
第 11 回　メディアスポーツと生涯スポーツ
スポーツの間接的観戦行動と生涯スポーツの関係性について
第 12 回　生涯スポーツの振興施策
我が国のスポーツ振興施策の変遷と諸外国におけるスポーツ振興施策の特徴
第 13 回　スポーツ組織による生涯スポーツ振興への取り組み
(1)日本体育協会や国内統括競技団体によるスポーツ振興への取り組み
(2)日本レクリエーション協会や各種レクリエーション団体
第 14 回　スポーツ産業による生涯スポーツ振興への取り組み
スイミング・フィットネス・テニス・スキーなど各種の民間企業による生涯スポーツ振興への取り組み
第 15 回　自身の生涯スポーツを作る
「みる・やる・ささえる」から生涯スポーツへ

〔成績評価〕
≪配点内訳≫
授業への取り組み・態度　40 点
課題発表　20 点
レポート　40 点

〔教科書〕
必要に応じて資料を配布する

〔参考文献〕
授業時に適宜紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

日本語Ⅱ①

4420
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
日本語の上級レベル（日本語能力試験N1レベル）に合格できる力をつけ
ることを目的とする

〔授業の概要〕
日本語能力試験N1レベルの文章を読み、文法・語彙の使い方を学び、学んだ文法・語彙を実際に使って、文・文章を作成し、Ｎ１レベルに対応する実践力を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
間違えた問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)

〔授業計画〕
第 1 回　模擬試験
言語知識（読解・文法・文字・語彙）
第 2 回　言語知識①
模擬試験のフィードバック
文法・語彙問題練習
第 3 回　読解①
日本語の多様性
第 4 回　文法・語彙①
日本語の多様性
第 5 回　総合①
復習　模擬試験　（読解）
第 6 回　文法・語彙②
環境のためにできること
第 7 回　読解②
環境のためにできること
第 8 回　総合②
復習　模擬試験
第 9 回　文法・語彙③
食の共同性
第 10 回　読解③
食の共同性
第 11 回　総合③
復習　模擬試験
第 12 回　文法・語彙④
笑いのちから
第 13 回　読解④
笑いのちから
第 14 回　総合④
復習　模擬試験
第 15 回　模擬試験

Ｎ１レベル模擬試験　言語知識

〔成績評価〕

授業への参加度・態度：20%

宿題・提出物：20%

小テスト：30%

期末テスト：30%

〔教科書〕

「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕

『中級から上級への日本語』（専門教育出版）

『改訂版どんなときどう使う日本語表現文型 500』（アルク）

『パターン学ぶＮ１文字語彙問題集』（Ｊリサーチ 出版）

『日本語能力予想試験問題集Ｎ１』（国書会日本 語学校）他

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日２限（12：10～13：40）

日本語特別演習Ⅰ

2714
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕

日本語能力試験Ｎ１レベルに高得点で合格することを目標とする

〔授業の概要〕

Ｎ１レベルの模擬試験を数多く解きながら、文法力、読解力・語彙力をつけ ていくことを目標とする

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

（予習・復習）及び時間等

間違えた問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)

漢字の練習（30 分）

新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)

〔授業計画〕

第 1 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

第 2 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題

第 3 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

第 4 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題

第 5 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

第 6 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題

第 7 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

第 8 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題

第 9 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

第 10 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題

第 11 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

第 12 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題

第 13 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

第 14 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題

第 15 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

〔成績評価〕

参加度　３０％

宿題　提出物　１０％

小テスト　３０％

期末テスト　３０％

〔教科書〕

「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕

「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日３限（13：50～15：20）

教職総合演習1-Ⅱ（面接）

7001
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
秋本　　隆夫

〔到達目標〕

本授業では、教員採用試験を受験することを前提とし、様々な面接技法を通して、学校現場における課題やあらゆる場面への対応について、理解を深めながら、教師としての基本的な資質や実践的な資質能力の向上を高めていく。

〔授業の概要〕

教員採用試験の面接において、教師として求められる以下の実践的事項について、集団面接、集団討議及び個人面接の基本的な技法についての演習を中心にすすめる。

(1)各都道府県が求める教師像に関する事項

(2)教師を目指す志望動機等に関する事項

(3)教職をめぐる様々な課題に関する事項

(4))教師としての自分の課題を発見し、その課題解決に関する事項

(5)「教師は教室で勝負する」に関する事項
(6)より高い専門性をもった教師に関する事

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

受講生が教職への志を強く持ち、学校現場での実践力の向上に向けて、平素から、教育課題についての情報を適切に収集し、選択し、活用する力を高めておくとともに熱意をもって、主体的に取り組むことを希望

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
本授業の目的、内容、方法及、評価及び参考文献について紹介する。

第 2 回　教員採用試験について
各都道府県の教員採用試験募集要項についての資料収集を行う。

第 3 回　教員に求められているもの
各都道府県が求めている教師像について、各関係資料から分析を行い、課題設定の第一歩とする。

第 4 回　教師を目指す志望動機について
「教師を目指す動機や理由」について、自由討議を行う。

第 5 回　各都道府県市が目指す教育計画について①
各教育委員会が目指している教育方針、目標及び内容について、理解を深め、教育現場での課題についての関心を高める。

第 6 回　各都道府県市が目指す教育計画について②
教育委員会が目指している教育方針、目標及び内容について、自由討議を行い、教育現場での課題についての関心を高める。

第 7 回　教員の資質について①
教育委員会、学校、児童生徒、保護者及び地域が求める「先生」について、自由討議を行う。

第 8 回　教員の資質について②
教育委員会、学校、児童生徒、保護者及び地域が求める「先生」について、自由討議を行う。

第 9 回　学校における課題①
教育委員会、学校、児童生徒、保護者及び地域が求める「先生」についての自分自身の課題を設定し、教職を目指すための資質向上のための方策を探る。

第 10 回　学校における課題②
学校での主たる活動である学習指導についての課題について、自由討議を行う。

第 11 回　学校における課題③
学校での児童生徒にかかわる諸課題（生徒指導・生活指導）について、自由討議を行う。

第 12 回　学校における課題④
学校組織の一員として、学校を取り巻く課題の解決について、最近の教育時事を踏まえ、自由討議を行う。

第 13 回　教員採用試験対策①
様々な面接技法について、理解を深め、口頭による回答練習を行う。

第 14 回　教員採用試験対策②
各都道府県市の教員採用試験における面接試験について、理解し、その対応ができるように個人的な面接練習を行い、今後の方策をまとめる。

第 15 回　教員採用試験③と授業のまとめ
個人面接の場面を設定し、これまでの項目について、口頭による回答練習を行うとともに今後の課題についての振り返りを行う。

〔成績評価〕

・授業への取組、意見発表及び受講態度　４０％
・毎時間の振り返り　３０％
・課題レポート　４０％

〔教科書〕

小・中学校新学習指導要領（文部科学省）、生徒指導提要（文部科学省）
適時、資料を配布する。

〔参考文献〕

授業にて、適時、紹介する。

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

１２：５０～１４：３０（火曜日　金属加工実習室準備室）

教職総合演習Ⅱ-2（面接・模擬授業）

7002
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
1単位　後期
中村　整七　毛利　康人

〔到達目標〕

・教採面接の出題傾向を研究し、質問ら答える内容をノートに書きまとめ、面接練習において自分の思いを誠実にしかも的確に受け答えができる。
・各教科等の「主体的・対話的で深い学び」を実現させる模擬授業をすることができる。

〔授業の概要〕

・教採面接の頻出問題について自分の回答を書き込むノートづくりを行い、その内容をもとにして面接練習に取り組む。
・小学校の各教科の指定された学習単元の内容について樹儀容の構想を練り、模擬授業を実践し、グループでアドバイスをしあう中でそのスキルアップを行っていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習 : 面接の受け答えの練習・模擬授業の構想、準備 (2時間)
復習 : 面接のノート作成・模擬授業の振り返り (2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　個人面接1
教採個人面接の「自分自身に関する１5の質問」の頻出問題に対する自分の考えをノートに書きまとめ、面接演習を行う。

第 2 回　模擬授業1

「主体的・対話的で深い学び」を実現させる中学年「国語科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を業い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 3 回　個人面接2
教採個人面接の「教職への意欲や資質に関する質問」の頻出問題に対する自分の考えをノートに書きまとめる。

第 4 回　模擬授業2
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる中学年「算数科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 5 回　個人面接3
教採個人面接の「学級経営、授業、生徒指導に関する質問」の頻出問題に対する自分の考えをノートに書きまとめる。

第 6 回　模擬授業3
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる中学年「社会科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 7 回　個人面接4
教育の今日的課題について研究し、作成した面接ノートをもとにして個人面接の実践演習をする。

第 8 回　模擬授業4
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる中学年「理科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 9 回　個人面接5
子どもたちへの対応の仕方について作成した面接ノートをもとにして個人面接の実践演習をする。

第 10 回　模擬授業5
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる低学年「国語」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 11 回　個人面接6
学習指導要領の改訂に基づく質問に対応する面接ノートをもとにして個人面接の実践演習をする。

第 12 回　模擬授業6
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる低学年「算数」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 13 回　個人面接7
作成した面接ノートをもとにして個人面接の実践演習をする。面接官の立場も経験する。

第 14 回　模擬授業7
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる低学年「道徳科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 15 回　模擬授業8
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる「特別活動」の指定された授業の構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

〔成績評価〕
個人面接で作成したノートと面接の応答内容を評価する。(40%)
模擬授業の実践内容と演習参画度を評価する。(60%)

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

英語Ⅱ③

1503
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
TOEIC新形式の初級レベルの問題に慣れる。
4技能のうち、特に、Reading ,Listeningの基礎を身につける。
教科書にある英文を参考にし、身近な英語表現力を身につける。

〔授業の概要〕
各UnitのPart 1~Part 4はListening とディクテーションを基本にしながら、受講生自身がペアやグループで英文を作成し、英語を発信する練習をする。
Part 5～Part 7は、文法理解と内容理解の練習を重ねていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間の復習をし、次時の確認テストの学習をすること。（120分）
指示した内容についての十分な予習をしておくことが必要である。（120分）

〔授業計画〕

第 1 回　復習
前期、英語Ⅰで学修した単語や語句を中心に復習する。
既習の内容の英文をディクテーションする。

第 2 回　Unit2 Travel
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 3 回　Unit 2 Travel
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。

第 4 回　Unit 3 Hotels
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 5 回　Unit 3 Hotels
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 6 回　Unit 4 Dining
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 7 回　Unit 4 Dining
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 8 回　Unit 5 Sports and Hobbies
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する

第 9 回　Unit 5 Sports and Hobbies
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 10 回　Unit 6 Phone Calls and Emails
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 11 回　Unit 6 Phone Calls and Emails
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 12 回　Unit 7 Health
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 13 回　Unit 7 Health
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 14 回　Unit 8 Ecology
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 15 回　Unit 8 Ecology
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。

〔成績評価〕
授業での課題への取り組み　25%　　テスト　75%

〔教科書〕
RAISING YOUR LEVEL !
FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST　（南雲堂）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。

〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　研究室11

心理学入門

3110
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
三島　利江子

〔到達目標〕
①大学基礎教養レベルの心理学の知識の習得
②習得した知識を日常生活で応用できること
これらを主な到達目標とする。
心理学の諸領域に、学生が興味を持てるように講義したい。心理学を学ぶことで、学生が、自己や他者といった「人間」に対する理解を深めることを期待する。

〔授業の概要〕
心理学全般について講義する。
授業で扱う内容は、学習心理学、発達心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の諸領域を網羅する。また学習者同士の話し合いの時間を設ける。講義はテキストに沿って進めるため、受講にあたってはテキストを毎回、必ず持参すること。
なお、授業内容は、学生のニーズや、必要に応じて、多少の変更も有り得る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習として、テキストを読み内容を把握する。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の目標，授業進行の予定，成績評価方法，参考文献と資料の紹介
第 2 回　心理学とは何か
心理学の目指すこと，心理学の歴史，心理学の研究領域，心理学の研究方法
第 3 回　知覚
知覚心理学とは，知覚の働きにおける「見る」しくみ
第 4 回　動機づけ
動機とは，動機の種類，欲求の階層，外発的動機付けと内発的動機付け，葛藤
第 5 回　発達の理論
発達心理学とは，遺伝と環境，成熟と学習，発達の捉え方
第 6 回　発達の過程
胎児期，新生児期，乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期
第 7 回　パーソナリティー
その人らしさとは，パーソナリティーの形成，パーソナリティーの諸理論
第 8 回　学習
学習心理学とは，人間行動の進化と特徴，条件付け，社会における学習
第 9 回　認知心理学
認知心理学とは，記憶の諸側面，考える仕組み，知能
第 10 回　社会的認知

社会心理学とは，他人を知る，態度，ステレオタイプ，対人魅力，自己を知る
第 11 回　集団
集団とは，集団凝集性，集団規範，リーダーシップ，人からの影響
第 12 回　適応と不適応
こころの健康，適応と不適応，ストレス，いじめ，非行，犯罪
第 13 回　こころの病とその癒し
こころの病とは，精神障害の種類，カウンセリングと心理療法
第 14 回　心理学を役立てる
日常生活と心理学，心理学を活かせる仕事，心理学に関わる資格
第 15 回　まとめ
授業全体のまとめ　試験について

〔成績評価〕
期末の試験による

〔教科書〕
中里・松井・中村（編著）『新・心理学の基礎を学ぶ』八千代出版

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
金曜　１限　授業終了後，同教室にて　11:30~11:50

英語Ⅱ②

1502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
中田　　康行

〔到達目標〕
英語を日本語に訳さないで理解できるような程度にまで英語に習熟できることを目標にする。

〔授業の概要〕
この授業では英語の文章を精読し、正確に意味解釈を行う訓練をする。世界文化の様々な側面を理解するうえで、英語の重要性を深く認識する。適宜、英文の構造、慣用法などに注意し英語表現に慣れる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日頃から英語に接する機会（テレビやインターネットなど）を見つけて、英語に慣れるようにすること

〔授業計画〕
第 1 回　後期授業概要の説明。
後期の授業内容、進度の説明、および成績・評価方法の確認。
第 2 回　Greek and Japanese mythologies
ギリシア神話と日本神話に関する共通点や相違点を扱うッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 3 回　Greek and Japanese mythologies
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 4 回　Children’s recreation in the world
子供の遊びを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 5 回　Childre n’s recreation in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 6 回　Sports of the world: the Olympics
オリンピックを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 7 回　Sports of the world: the Olympics
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 8 回　A strange custom: geophagy
世界の奇妙な風習や習慣を紹介するを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 9 回　A strange custom: geophagy
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 10 回　Religions vary in the world
世界の宗教、言語観、自然崇拝を扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 11 回　Religions vary in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 12 回　”Right” always right
「右側通行」や「左側乗船」などの右・左についてのテーマを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 13 回　Religions vary in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 14 回　The past versus the future
世界の国々の過去観・未来観をテーマとするエッセイを読む。観彙の確認、テクストの聞き取り。
第 15 回　The past versus the future
テクストの再聞き取り、および練習問題。後期授業の要点整理・確認。

〔成績評価〕
授業時の発表（２０％）
小テスト（２０％）
確認テスト２回(60％)

〔教科書〕
石井　隆之　監修　Cかいross-Cultural Awareness
開文社
(各自教科書を購入して授業に臨むこと。スマホ等によるコピーは認めません、)

〔参考文献〕
授業時に適宜指示。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

教職総合演習4-Ⅱ（数学）

7006
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2年
1単位　後期
笠原　　清次

〔到達目標〕
一般教養数学の知識及び理解を深め、指導力の向上に資することができる。
〔授業の概要〕
１．一般教養としての数学の内容理解を深める。
２．数学の問題の解き方を話し合い、解く技能を高める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１．基礎的な問題は毎回予習する。(60分)
２．授業終了後に毎回復習問題を課すので、翌週までに解く。(30分)
〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領理解
　　数学（算数）指導の要点を調べ整理する。
第 2 回　数学演習1
　　数学演習問題基礎（数と式）を解く。
第 3 回　数学演習2
　　数学演習問題応用（数と式）を解く。
第 4 回　数学演習3
　　数学演習問題基礎（方程式の利用）を解く。
第 5 回　数学演習4
　　数学演習問題応用（方程式の利用）を解く。
第 6 回　数学演習5
　　数学演習問題基礎（関数）を解く。
第 7 回　数学演習６
　　数学演習問題応用（関数）を解く。
第 8 回　数学演習７
　　数学演習問題基礎（平面図形）を解く。
第 9 回　数学演習８
　　数学演習問題応用（平面図形1）を解く。
第 10 回　数学演習９
　　数学演習問題応用（平面図形2）を解く。
第 11 回　数学演習１０
　　数学演習問題基礎（空間図形）を解く。
第 12 回　数学演習１１
　　数学演習問題応用（空間図形）を解く。
第 13 回　数学演習１２
　　数学演習問題基礎（確率）を解く。
第 14 回　数学演習１３
　　数学演習問題応用（確率）を解く。
第 15 回　学習のまとめ
　　自己の課題に挑戦する。
〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）
〔教科書〕
小学校学習指導要領解説算数編（平成29年7月　文部科学省）
中学総合的研究問題集　数学　三訂版（旺文社）
〔参考文献〕
授業ごとに補充問題プリントを配付する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
参考文献の問題集３冊は購入し，自学課題とする。
〔オフィスアワー〕
①前　期：水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

データサイエンス

3504
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
若杉　　祥太

〔到達目標〕
・Excelを使用した統計処理方法を身に付け、データ分析ができる。
・データを分析し、その数値から原因や今後の将来性を見据えた説得力のある説明ができる。
〔授業の概要〕
ビジネスの場に飛び交うさまざまなデータを有効活用できるように、必要な統計分析方法を身に付ける。
また、データ分析技能を証明する「ビジネス統計スペシャリスト　エクセル分析ベーシック」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：毎時指定した教科書範囲を熟読してくること。
復習：毎時指定した教科書の知識問題・実践問題を解いてくること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、データサイエンスの概要
第 2 回　基礎統計量①
　　平均値、中央値の求め方
第 3 回　基礎統計量②
　　最頻値、レンジの求め方
第 4 回　基礎統計量③
　　標準偏差の求め方
第 5 回　データの異常値
　　散布図や折れ線グラフを用いた外れ値の検出

第 6 回　度数分布
　　度数分布表を用いたデータ全体の分布の把握
第 7 回　単位の異なるデータの比較
　　標準偏差を用いた標準化
第 8 回　時系列データ①
　　移動平均を用いた時系列データの分析
第 9 回　時系列データ②
　　季節調整を用いた時系列データの分析
第 10 回　2変量間の関係性①
　　集計による比較　質的変数と量的変数の関係性
第 11 回　2変量間の関係性②
　　散布図を用いた量的変数と量的変数の関係性
第 12 回　2変量間の関係性③
　　相関係数を用いた量的変数と量的変数の関係性
第 13 回　2変量間の関係性④
　　回帰分析を用いた直線関係の具体化
第 14 回　2変量間の関係性⑤
　　ソルバーを用いた条件達成のための最適化
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
小テスト50%
定期試験50%（実技）
※小テストやレポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕
現場公規、湊宣明、豊田裕貴「Excelで学ぶ―ビジネスデータ分析の基礎」Odyssey、2016（1,500円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
授業日（オンライン方式）、相談時はPC操作画面を開いた上で行うこと。

英語Ⅱ⑧

1509
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
杉島　　未来

〔到達目標〕
中学生レベルの基本的な英語の知識を再確認しながら、英語抜きでは成り立たない、私たちの身の回りで接する英語への興味を高め、自信をつける。
英語の基礎的な問題を解くことで理解を深め、知識を蓄積することができ、なおかつその知識を運用して考える力、思考力や表現力をつけることもできる。最初から簡単にはできないであろうが、思考力・表現力を必要とする問題を自ら回答していくことにより、じっくり問題と向き合って、自分で考え、自分の力で解けたときの高揚感や達成感を経験することにより、各自英語への自信が持てるようになる。

〔授業の概要〕
授日常よく使う英語表現を学び、タスクと呼ばれる指定された情報を集めるゲームまたはシミュレーション形式の方法で何度もそれらの表現を口から発し、脳に定着させることで、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。丸暗記ではなく、ある特定の状況を設定し、そのなかで必要な情報を得るために学んだ会話表現を使っていくことで、自然にそれらの表現が使えるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習・復習課題を出します。

〔授業計画〕
第 1 回　After Summer Vacation & Quiz
第 2 回　Auxiliary Verbs
第 3 回　Phrasal Verbs
第 4 回　Conjunctions 1
第 5 回　Conjunctions 2
第 6 回　Comparisons
第 7 回　Paragraphs
第 8 回　Tenses 1
第 9 回　Present Perfect & Future
第 10 回　Self-Learning Tech & Quiz
第 11 回　Active Voice & Passive Voice
第 12 回　Tenses 2
第 13 回　Conditionals & Subjunctives
第 14 回　Pronunciation and Stress
第 15 回　Preparation for Term Exam

〔成績評価〕
小テスト、提出物、授業態度　　60%
期末テスト 40%

〔教科書〕
Basic College English Seminar

〔参考文献〕
配布資料
文部科学省　学習指導要領
学研パーフェクトコース　中学英語
学習指導要領 他適宜紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

英語コミュニケーション

2508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
杉島　　未来

〔到達目標〕
異文化への理解を高め、さまざまな文化的背景を持つ人たちと積極的に接することができるように、リスニングとスピーキングのスキルを向上させる。
英語をかたまりで覚えることにより、表現方法の幅を広

げる。動詞中心の日常動作にスポットライトを当てることで、かたまりで英語表現を習得できるようになる。

Reading through compact “culture studies” reference works, lessons focus on understanding a different country or region and the lives and customs of the people who live there.

〔授業の概要〕

英語でコミュニケーションができるようになるには、基本的な文章を暗記し、場面に応じて活用する練習が不可欠なので、日常よく使う英語表現を何度も繰り返し発音することで、英語で会話ができる練習をする。

The readings (China’s own exam hell, South Korea’s beauty obsessions, Africa’s surprisingly modern child-raising practices, New Zealand’s changing farming celebrations, the UAE’s updated sporting traditions, and many other fascinating global cultural phenomena) can be comprehensively overviewed by matching given word meanings and words in context, rewriting sentences by substituting phrases, and retrieving information and ideas from context by oneself.

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

適宜判断して行うものとする。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション（自己紹介・適性・アンケート）
第 2 回　Living Room & Bedroom
第 3 回　Kitchen
第 4 回　Bathroom
第 5 回　Housekeeping
第 6 回　Jobs
第 7 回　Public Transportation
第 8 回　Car
第 9 回　School
第 10 回　Hospital
第 11 回　Office
第 12 回　Sports
第 13 回　Leisure
第 14 回　Shopping
第 15 回　Rstaurant

〔成績評価〕

授業態度、提出物、小テスト　60%
期末テスト 40%

〔教科書〕

Expressions For Everyday Actions

〔参考文献〕

配布資料、文部科学省学習指導要領、
What in the World, Japan Goes Global!
World Heritage on DVD
Fifteen English Biographies of Famous Japanese

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、講義教室で対応します

情報機器の操作【上級】

1104
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕

1. インターネット
個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕

本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。

授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション

プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作【上級】

1099
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
黒川　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕
本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作（上級生対象）

2150
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕
　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
　情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
　インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
　コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
　定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
　表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
　画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
　インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
　データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
　関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
　データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
　身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
　WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作【上級】

2100
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕
　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する

上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。

授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備

第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー

第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護

第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理

第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本

第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集

第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画

第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用

第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成

第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価

第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算

第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能

第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化

第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析

第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕

毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作【上級】

2035
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
黒川　マキ

〔到達目標〕

1. インターネット
個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕

本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。

授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備

第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー

第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護

第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理

第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本

第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集

第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画

第 8 回　Wordによる文書処理

インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

生活の化学

3021
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
宮﨑　洋祐

〔到達目標〕
私達の周りにはさまざまな化学物質が溢れている。それらは私達の生活に大きく影響し、また、私達はそれらを利用して生活している。本授業では日常生活でのさまざまな現象を化学的に理解できるようになることを目標とする。

〔授業の概要〕
化学の基本原理から反応や物質の成り立ちをわかりやすく説明し、私達の周りにある物質や現象を通して具体的に化学を教える。得た知識を活用できるよう、学習者同士で話し合いをしたり、疑問に思ったところを述べたりする機会を設け、課題に取り組ませる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前のこれまでの復習（30 分）
授業外課題の取り組み（60 分）

〔授業計画〕
第 1 回　物質を構成する元素
化学とはどのような学問か、物質を構成する元素にはどのようなものがあるかを学ぶ。
第 2 回　物質の状態と成分
熱運動と物質の三態、純物質と混合物について学ぶ。
第 3 回　原子とその構造
原子とその構成について学ぶ。
第 4 回　電子配置と周期表
原子の電子配置、周期表と元素の分類の関係について学ぶ。
第 5 回　イオンと分子
イオンのでき方と分子のでき方について学ぶ。
第 6 回　化学結合（その１）
化学結合のうち、イオン結晶を形成するイオン結合について学ぶ。
第 7 回　化学結合（その２）
化学結合のうち、分子や共有結晶を形成する共有結合、分子結晶を形成する分子間力、金属結晶を形成する金属結合について学ぶ。
第 8 回　化学反応（その１）
化学反応および化学反応式のつくり方について学ぶ。
第 9 回　化学反応（その２）
化学反応式が表す量的関係を学ぶ。
第 10 回　酸と塩基
酸・塩基とpH、中和反応を学ぶ。
第 11 回　金属の化学
金属の種類とその性質を学ぶ。
第 12 回　酸化と還元
酸化・還元の定義、酸化数について学ぶ。
第 13 回　金属の酸化還元反応
金属のイオン化傾向、金属の製錬、電池について学ぶ。
第 14 回　プラスチックの化学とリサイクル
プラスチックの種類とその性質、さまざまな資源の再利用を学ぶ。
第 15 回　まとめ
これまでの講義のまとめを行い、項目どうしの関連について学ぶ。

〔成績評価〕
定期試験（６０％）
授業への取り組み・発表（１０％）
授業内提出物（２０％）
授業外課題（１０％）

〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕
特になし。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
後期
水曜日：１７：００～１８：００

場所：授業終了後、講義教室で対応します。
連絡先：ymiyazaki@ashiya-u.ac.jpにメールかPhollyのメッセージで質問・相談をしてください。
留意事項：メールやメッセージへの返信は遅れることがあります。

教職総合演習Ⅳ-2【小学校全科・国語】

7005
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
中村　整七

〔到達目標〕
教職に必要な学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と国語科の基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付けることができる。
〔授業の概要〕
小学校全科の学習指導要領や国語科の問題について、協同して課題解決を進めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「練習問題」の解決を授業前後の課題とする。(各２時間)
〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領
国語科の新学習指導要領の変更点を中心にした問題について、グループで話し合う中で解決を図り、学びを深める。
第 2 回　漢字
漢字の成り立ち、部首、熟語の構成などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 3 回　ことば
ことわざ、慣用句、故事成語などについてグループで話し合ったり、個々に問題を解いたりしてその認識を豊かにする。
第 4 回　品詞の種類
それぞれの品詞の特性や使い方についてのみんなで話し合うなどの問題解決を通して、理解を深める。
第 5 回　修飾語・接続後・独立語
修飾語や接続語・独立語などの特性に対する認識を深め、問題解決を通して、その正しい使い方についての知識・技能を身に付ける。
第 6 回　品詞の活用
動詞・形容詞・形容動詞の活用について認識を深め、グループで話し合うなどの
問題解決を通して、その正しい使い方についての知識・技能を身に付ける。
第 7 回　副詞・連体詞
副詞や連体詞の種類や用法についての認識を深め、問題解決を通して、その正しい使い方について技能を身に付ける。
第 8 回　助詞・助動詞
助詞・助動詞の種類や用法についての認識を深め、問題解決を通して、その正しい使い方について技能を身に付ける。
第 9 回　長文読解
長文読解の問題に取り組み、参考資料をもとにして、文脈をつかむ方法などの解決の手法を身に付けていく。
第 10 回　敬語
尊敬語、謙譲語、丁寧語など敬語の種類とその使い方の違いについて理解を深め、グループで話し合いながら問題を解決していく。
第 11 回　対義語・故事成語・四字熟語
対義語・二字熟語・四字熟語などの成り立ちや意味について練習問題に取り組むことで、その認識を豊かにする。
第 12 回　和歌・俳句
和歌や近代短歌・俳句の形式と表現技法についての理解を深め、代表的な作品と作者についての認識を豊かにする。
第 13 回　文学史
日本文学の著名な作品名や作者名などについての練習問題を取り組み、知識を豊かにしていく。
第 14 回　総合問題
国語科や学習指導要領の問題に取り組み、協同的に学びを深める。
第 15 回　総合問題2
国語科や学習指導要領の問題に取り組み、協同的に学びを深める。
〔成績評価〕
授業におけるの問題解決度と学修に取り組む態度を評価する。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
資格取得希望者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00 研究室1

日本語聴解・会話Ⅱ

2710
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
前田　真弥

〔到達目標〕
この授業は、日本語聴解・会話１で培った能力を引き継ぎ、より高度なスタディスキルの展開を目指すことを目的とする。
自然な速さの日本語を聞き取り、聞き取った内容を伝える

ことができる。また日本語を使って積極的な、円滑なコミュニケーションができるようになる。

〔授業の概要〕

音読やシャドーイングにより発音練習を行う。
グループでのタスクワークを通して、会話能力やコミュニケーション能力を高める。
グループで課題を設定し、それをまとめプレゼンテーションすることによって、調べる、整理する、議論する、発表するスキルの向上を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介

第 2 回　ブレインマップ「私の好きな○○」
自分に関する多様な話題について日本語で話すことに慣れる。協働学習。

第 3 回　個性的な自己紹介①
少ない語彙でも自分のことを説明できるようになる。協働学習。

第 4 回　個性的な自己紹介②
少ない語彙でも自分のことを説明できるようになる。協働学習。

第 5 回　雑談力を磨く
雑談の場で、自分から会話を始め、会話をリードする。協働学習。

第 6 回　ジグソー・リーディング
自己の役割を明確に持って、議論の場に参加する。協働学習。

第 7 回　説明のコツ
ストーリーや図表をわかりやすく説明できるようになる。協働学習。

第 8 回　偶然について話す
複雑に絡み合う情報を、取捨選択して伝えられるようになる。協働学習。

第 9 回　ピアレスポンス
作文の表現や内容の改善を目指し。コメントのやりとりを行う。協働学習。

第 10 回　ディベート
バランスの取れた効果的な引用の方法を習得する。協働学習。

第 11 回　発表準備①
グループでテーマを決め、アンケートを作成する。協働学習。

第 12 回　発表準備②
作成したアンケートをもとに日本人にインタビューする。結果をまとめる。

第 13 回　発表①
グループによる発表。発表に対する相互評価。

第 14 回　発表②
グループによる発表。発表に対する相互評価。

第 15 回　発表③
グループによる発表。発表に対する相互評価。

〔成績評価〕

授業への取組・発表30%
授業内提出物30%
授業内発表40%

〔教科書〕

「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕

『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』(スリーエーネットワーク)
『シャドーイングで日本語発音レッスン』(スリーエーネットワーク)

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①後期
②火曜日　17：00～17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

日本語文章表現Ⅱ

2711
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
前田　真弥

〔到達目標〕

この授業は、日本語文章表現１で培ったスタディスキルを引き継ぎ、学術的文章で使われる文型や表現、文章の展開の仕方を学び、日本語で論文を書く基本的な力をつける。また、レポートや論文など複雑な内容や専門的なテーマの文章も書くことができるようになる。さらに、自分の文章を、読む人の立場に立って直せるようになる。

〔授業の概要〕

論文らしい表現とはどういうものか、論理的で明晰な文章にするためにはどんな点に気をつければいいかを、練習問題を解きながら考える。序論、本論、結論の基本的な書き方を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介。

第 2 回　助詞の使い方
主に格助詞の使い方について理解する。
作文①（テーマは授業内で伝える）

第 3 回　言葉の形の使い分け
言葉の形の使い分けについて理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。

第 4 回　自動詞・他動詞・受身

自動詞・他動詞・受身について理解する。
作文②（テーマは授業内で伝える）
第 5 回　呼応
呼応について理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 6 回　文末表現の調整
文末表現の調整について理解し、うまく記述できるようになる。
作文③（テーマは授業内で伝える）
第 7 回　ひらがなと漢字のバランス
ひらがなと漢字のバランスについて理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 8 回　漢字の選択と誤変換
漢字の選択と誤変換について理解する。
作文④（テーマは授業内で伝える）
第 9 回　カタカナ
カタカナの使い方について理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 10 回　読点の打ち方
読点の打ち方について理解する。
作文⑤（テーマは授業内で伝える）
第 11 回　書き言葉らしさ
書き言葉らしさについて理解し、うまく記述できるようになる。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 12 回　辞書の危険性
辞書の危険性について理解する。
作文⑥（テーマは授業内で伝える）
第 13 回　専門用語の選び方
専門用語の選び方について理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 14 回　接続詞と文章の構成
接続詞と文章の構成について理解し、うまく記述できるようになる。
作文⑦（テーマは授業内で伝える）
第 15 回　復習
先週の作文フィードバック→書き直し。
これまでに学習したことを復習する。

〔成績評価〕
定期試験30%
授業への取組20%
授業内提出物50%

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(スリーエーネットワーク)

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①後期
②火曜日　17：00～17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

英語Ⅱ⑦

1508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
野島　晃子

〔到達目標〕
・基礎英文法を再確認しながら単語や熟語の知識を増やすことができる。
・簡単な英文で自分の言いたいことを言えるようになる。
・日常会話レベルのリスニング力をつけることができる。

〔授業の概要〕
さまざまなアクティビティを通して、「英語」という言語がもつ特徴を体得する。そして、日常の簡単なことがらについて英語で話したり、相手に質問したりできるような基礎的なコミュニケーション力を身につけることをめざす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・自分が興味をもつ分野において見聞きする英語表現を普段から気に留めること。

〔授業計画〕
第 1 回　Orientation, Chapter 1, Chapter 2
後期授業オリエンテーション
Chapter 1: Preparing for the Trip
第 2 回　Chapter 2, 3
Chapter 2: On the Airplane
Chapter 3: Arrival and Passport Control
第 3 回　Chapter 4, 5
Chapter 4: Banking and Leaving the Airport
Chapter 5: Checking Into the Hotel
第 4 回　Chapter 6
Chapter 6: Hotel Facilities
第 5 回　Chapter 7
Chapter 7: Let’s Eat!
第 6 回　Chapter 8
Chapter 8: Sightseeing
第 7 回　Chapter 9
Chapter 9: Making Small Talk
第 8 回　Chapter 10
Chapter 10: Shopping
第 9 回　Chapter 11
Chapter 11: Feeling Sick
第 10 回　Chapter 12
Chapter 12: Getting Around
第 11 回　Chapter 13
Chapter 13: Checking Out of the Hotel
第 12 回　Chapter 14
Chapter 14: Heading Home

第 13 回　Chapter 15
　　Chapter 15: Talking About Your Trip
第 14 回　総復習
第 15 回　前期期末試験

〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／ミニテスト／課題　50%
・定期試験　50%

〔教科書〕
『Simply Traveling: Communication Anytime, Anywhere!』Diane H. Nagamoto and Fumiko Murase, 金星堂, ISBN 978-4-7647-4020-4

〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

特別講義　企画力基礎講座

4009
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
野島　晃子

〔到達目標〕
・自分のアイデアを形にすることができる。
・効果的なプレゼンテーションとは何かを体得することができる。
・論理的な表現力を身につけることができる。
・他人の話を聴く姿勢を養うことができる。

〔授業の概要〕
現代社会では、どのような分野においても自らの主張などを明確に伝える能力が求められる。この授業では、自分の企画をクラスの前で発表することを最終課題とする。企画といっても、新しい商品の開発など「無から生み出す」ことだけを指すのではない。既存のものから着想を得るための情報収集方法など基礎的な手法を学び、自分のアイデアを形にする練習を積む。また、企画をあたためて終わるのではなく、いかに効果的に伝えるかも重要な要素となる。そのために、プレゼンテーションの方法を基礎から応用まで実践を通して学びスキルを獲得することをめざす。この場合のスキルとは単なる「話し方」ではなく、論の展開や適切な表現方法など多様な側面を指す。そして、発表においては教員のみならず学生相互の評価も取り入れることで、批判的に物事を捉える（「相手を批判する」ことではない）姿勢を養い、自分自身の発表に磨きをかけられるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・与えられた課題の研究および発表に向けての準備時間を確保すること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　・授業方針、目標、内容、評価方法、履修にあたっての注意事項などについて説明する。
　　・教員およびクラスメイト同士でのかんたんな自己紹介をする。
第 2 回　情報収集の方法、読む力の養い方、ブレインストーミングの方法と活用
第 3 回　プレゼンテーションとは何か①
第 4 回　プレゼンテーションとは何か②
第 5 回　３分スピーチの実施に向けて
　　構想の練り方、発表準備のしかた、聴く側の姿勢について
第 6 回　第１回　３分スピーチ実践①
第 7 回　第１回　３分スピーチ実践②
第 8 回　第１回　３分スピーチの総括と講評、第２回３分スピーチに向けて
第 9 回　第２回　３分スピーチ実践①
第 10 回　第２回　３分スピーチ実践②
第 11 回　第２回　３分スピーチの総括と講評、最終課題「企画発表」に向けての準備について
第 12 回　企画を練る①
第 13 回　企画を練る②
第 14 回　各自の企画発表および講評①
第 15 回　各自の企画発表および講評②

〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／授業課題／プレゼンテーション　70%
・最終課題レポート　30%

〔教科書〕
適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

情報機器の操作【留学生】

1101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
林　泰子

〔到達目標〕
・Gmail（大学の各学生のメール）を活用することができる。
・Wordを活用し、基礎的な文書を作成することができる。

・Excelを活用し、基礎的な計算とグラフを作成することができる。
・Power Pointを活用し、基礎的なプレゼンテーション用スライドを作成することができる。
・ネット社会での情報モラルの重要性を理解し、情報を適切に活用することができる。

〔授業の概要〕
レポート作成、課題・研究発表など、大学でのコンピュータ利用に対応できる基礎的な知識や技能を修得する。
Word、Excel、Power Pointを用いて課題を作成する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前にテキストに目を通して予習しておくこと。また、授業の復習をして分からなかったところなどを振り返り、次の授業での課題作成がスムーズにできるようにしておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の進め方、授業概要、成績評価
Gmailの基礎
第 2 回　Wordを活用した文書作成１
Wordの基本操作、入力チェック、文章の入力
第 3 回　Wordを活用した文書作成２
表と罫線、ビジネス文書
第 4 回　Wordを活用した文書作成３
図形の描画と編集
第 5 回　Wordを活用した文書作成４
表や図形を活用した文書作成

第 6 回　Wordの総復習
Wordのチェックテスト
第 7 回　Excelを活用したデータ処理１
Excelの特徴、データ入力と編集
第 8 回　Excelを活用したデータ処理２
いろいろな計算方法、相対参照、絶対参照

第 9 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化
第 10 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 11 回　Excelの総復習
Excelのチェックテスト
第 12 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成１
スライド作成の基礎
第 13 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成２
効果的で説得力のあるスライド編集
第 14 回　Power Pointを活用したプレゼンテーション
自作のプレゼンテーション用スライドによる発表
第 15 回　情報モラル
情報の適切な取り扱い、情報セキュリティ

〔成績評価〕
課題60%
チェックテスト　40%
〔教科書〕
『留学生のための日本語で学ぶパソコンリテラシー』橋本恵子・林泰子他、共立出版、2,200円＋税

〔参考文献〕
必要に応じて資料を配布します。
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00〜12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

社会と倫理

2108
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
小川　　雄

〔到達目標〕
現代の教育課題の一つは、子どもたちがよりよい社会を築けるように子どもたちを導くことである。そのためには、解決しなければならない二つの問題がある。一つは、よりよい社会とはいったいどのような社会であるのかという問題であり、もう一つは、そのような社会を実現するためになにをすべきかという問題である。本講義では、こうした問題を考える手引きとして著名な思想家の思索を紹介しながら、社会と倫理について考えていく。

到達目標
（1）よりよい社会のあり方について多角的に考えられるようになる。
（2）よりよい社会を形作るためにはどうすればよいかを知る。
〔授業の概要〕
テーマや到達目標に基づいて、本科目では、古代から現代までの代表的な政治哲学や倫理思想について学ぶ。これと併せて、新聞記事等の資料をとおして現代の社会問題について考える機会を設ける。

Phollyによるオンデマンド形式で授業を進める。詳細は、第1回のガイダンスで説明するが、基本的に、講義スライドを視聴して、それに関連する課題に取り組み、課題を提出する、という流れになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各授業後、その授業で学んだことを要約すること（９０分）と、提示された予習課題に取り組むこと（９０分）。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
成績評価や授業形式、講義内容に関する説明

第 2 回　第１章：古代における理想の社会の探究①
古代ギリシアの民主制

第 3 回　第１章：古代における理想の社会の探究②
民主制の失敗

第 4 回　第１章：古代における理想の社会の探究③
プラトンの思想

第 5 回　第１章：古代における理想の社会の探究④
アリストテレスの思想

第 6 回　第２章：帝国の時代～中世①
ヘレニズム・古代ローマ帝国期の社会のありようと倫理的な生活

第 7 回　第２章：帝国の時代～中世②
中世のキリスト教的な世界観と倫理的な生活

第 8 回　中間レポート
レポートの書き方と課題の公示

第 9 回　第３章：近代における理想の社会の探究①
ホッブスの思想

第 10 回　第３章：近代における理想の社会の探究②
ルソーの思想

第 11 回　第４章：現代における理想の社会の探究①
アメリカの共和制

第 12 回　第４章：現代における理想の社会の探究②
デューイの思想

第 13 回　第４章：現代における理想の社会の探究③
コールバーグの「道徳性発達段階説」：概説

第 14 回　第３章：現代における理想の社会の探究④
コールバーグの「道徳性発達段階説」:「役割取得能力」の拡張

第 15 回　まとめ
全体の振り返り

〔成績評価〕

平常点４０％
:それぞれの授業ごとに課題を用意している。それに取り組む

中間レポート３０％
：第8回に課題を公開する。

期末レポート３０％
：試験期間内に課題を公開する。

〔教科書〕

特になし。適宜紹介し、配布する。

〔参考文献〕

講義の中で紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

基本的に、Phollyで対応する。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡を取ること。

英語Ⅱ⑤

1505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
中田　智也

〔到達目標〕

基本的な文法事項を理解する。
簡単な英語の文を、正確に日本語に訳せるようになる。
簡単な英作文ができるようになる。

〔授業の概要〕

この授業は、大きく分けて、①文法事項の確認、②英文和訳（英語から日本語）、③和文英訳（日本語から英語）、の３つの部分から成ります。①と②で文法事項を理解したうえで③に取り組みます。簡単な英作文を数多くこなすことにより、英語に慣れていきましょう。また、クラス全体で問題を共有しながら、難しく感じる部分も丁寧に学んでいきましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業で学んだことの復習
難しく感じた英文和訳、和文英訳を重点的に復習

〔授業計画〕

第 1 回　前置詞　英文和訳
前置詞の種類・意味・使い方
「時」を表す前置詞、「場所」や「方向」を表す前置詞、その他の前置詞

第 2 回　前置詞　和文英訳
前置詞の種類・意味・使い方
「時」を表す前置詞、「場所」や「方向」を表す前置詞、その他の前置詞

第 3 回　接続詞　英文和訳
接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞

第 4 回　接続詞　和文英訳
接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞

第 5 回　進行形　英文和訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方

第 6 回　進行形　和文英訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進

行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 7 回　受動態（受け身形）　英文和訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 8 回　受動態（受け身形）　和文英訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 9 回　完了形（現在完了・過去完了）　英文和訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 10 回　完了形（現在完了・過去完了）　和文英訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 11 回　比較　英文和訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 12 回　比較　和文英訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 13 回　不定詞　英文和訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 14 回　不定詞　和文英訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 15 回　後期のまとめ
後期の要点のおさらい

〔成績評価〕
毎回のレポート提出とその内容から総合的に評価します。

〔教科書〕
Simply Grammar 〈Revised Edition〉（南雲堂）

〔参考文献〕
適宜資料を配布します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

日本語特別演習Ⅱ

2712
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎日本語能力試験N１に合格するための日本語能力の習得を目標とする。
◎「日本語特別演習Ⅰ」に続き、文字・語彙、文法、読解、聴解のレベルアップを図る。

〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1の予想問題や過去問題を解きながら、学習者に既習の学習項目を確認させる。
◎問題を解くことによって、新たな学習項目を学び、日本語能力を増強する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎日常生活において日本語を見聞きすることに努めること。
◎授業後は必ず音読しながら復習を十分にすること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
日本語能力試験N1のレベルについて説明するとともに、学習方法について指示する。
ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　問題解答練習１
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 3 回　問題解答練習２
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 4 回　問題解答練習３
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 5 回　問題解答練習４
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 6 回　問題解答練習５
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 7 回　問題解答練習６
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 8 回　問題解答練習７

類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 9 回　問題解答練習８
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 10 回　問題解答練習９
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 11 回　問題解答練習10
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 12 回　問題解答練習11
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 13 回　問題解答練習12
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 14 回　問題解答練習13
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。

第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。
また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
プリントを配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜提示し、資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。

〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

日本語Ⅱ②

4421
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎「日本語Ⅰ」に続き、大学での学習・研究活動に必要な日本語運用能力の基礎（日本語能力試験N1レベル）を習得することを目標とする。
◎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと他の日本語授業科目と共に履修し、目標の達成を目指す。

〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1レベルの文章（新聞レベルの文章）を読みこなすことを通じて、「読む」「書く」の技能を高めるために、表現に多用される語彙の習得を図る。
◎読解文章のトピックについて、アクティブラーニングを取り入れた学習者同士あるいは学習者と教授者との話し合い等の学習活動を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎予習もさることながら、特に、学習した文章を音読する復習を最低でも30分以上は必ずすること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
日本語の学習方法についての指示等を与える。ポートフォリオを書かせる。

第 2 回　「科学」の定義
『99.9%は仮説』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 3 回　現代の若者のマナー
『若者の法則』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 4 回　親孝行な男の子
『日本のむかし話16』からの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 5 回　ゲーム依存症
「ゲームと子ども　依存の陰に空虚感」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 6 回　金融教育
「子供への金融教育」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 7 回　言語と文化

『ケジメのない日本語』からの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 8 回　ローソクの進化
「ローソクだって進化する」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 9 回　「割り勘」は当然？
「大学生コンパ　男３＋女３＝￥12,000　支払いは・・・」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。

第 10 回　新聞記事１
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 11 回　新聞記事２
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 12 回　新聞記事３
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 13 回　新聞記事４
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 14 回　新聞記事５
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。

第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
プリントを配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜提示したり、資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。

〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

日本語漢字・語彙Ⅱ

4424
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
島津　浩美

〔到達目標〕
中上級レベルの漢字300字とそれに関連する語彙を習得する。中上級レベルの漢字300字の読み書きができるようになる。また、合計950字程度の漢字と語彙を適切に使うことができるようになる。

〔授業の概要〕
テーマに沿って、日本語能力試験N2レベルに必要な漢字を毎回24字ずつ提示をし、その漢字を含んだ文を読んだり、書いたりして、定着を図る。特に中国語漢字との違いに留意する。
各課終了後に漢字の小テストを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各回で習った漢字について練習し、正しく覚えておく。(40分)
次回に習う漢字の語彙を調べておく。(20分)

〔授業計画〕
第 1 回　日記で使う漢字
第 2 回　手紙・はがきで使う漢字
第 3 回　買い物で使われることば
第 4 回　空港の表示
第 5 回　テレビの番組表や映画の広告の表示
第 6 回　注意書きの表示
第 7 回　ガイダンスで使われることば
第 8 回　ポスターやお知らせの表示
第 9 回　発表やレポートで使うことば
第 10 回　論文で使われることば
第 11 回　体に関することば
第 12 回　日本の地理で使われることば
第 13 回　植物に関することば
第 14 回　地球に関することば
第 15 回　これまでのまとめ

〔成績評価〕
授業への参加度・態度　20%
小テスト　30%
期末試験　50%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
佐藤尚子・佐々木仁子（2019）
『留学生のための漢字の教科書　中級700』［改訂版］ 国書

刊行会
徳弘康代（2019）
『日本語学習のためのよく使う順漢字2200』
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

日本語読解Ⅱ

2713
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
島津　　浩美

〔到達目標〕
大学の授業で必要な、専門的な文章を読んで内容を正確に把握し、その上で自分の考えを表現するといったことができるようになることを目指す。
〔授業の概要〕
テーマに関する2種類の文章を読んで、テーマについて考えたり、クラスメートとディスカッションをしたりして、テーマについて主体的に考える力を養う。具体的には「文章を読む」「自分の考えをまとめ、話す」「他者の考えを聞く」ということを行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次の課の単語リストが配布されたら､意味を調べておく(30分)
授業で読んだテーマに関して、話し合ったり書いたりするため、授業中に考えがまとめられなかった場合は、まとめておく。(60分)
〔授業計画〕
第 1 回　テーマ１ 働かない働きアリ？①アリとキリギリス
第 2 回　テーマ１　働かない働きアリ？②働かないアリにも働き
第 3 回　テーマ2　血液型①　血液型占いは当たる？
第 4 回　テーマ2　血液型②　血液型で判断してもよいのか
第 5 回　テーマ3　ＩＴ社会①　両親との約束
第 6 回　テーマ3　ＩＴ社会②　ＩＴ断食
第 7 回　テーマ4　喫煙①　祖父とキセルの記憶
第 8 回　テーマ4　喫煙②　喫煙 VS 禁煙　解決は？
第 9 回　テーマ5　Kawaii①　世界共通語となった「カワイイ」
第 10 回　テーマ5　Kawaii②　ミッキーマウス VS キティ
第 11 回　テーマ6　子どもの名前①　個性はルールを守ってこそ
第 12 回　テーマ6　子どもの名前②　名前に込められた親の願い
第 13 回　テーマ7　高齢化の中で①　80歳で3度目のエベレストへ
第 14 回　テーマ7　高齢化の中で②　老人力
第 15 回　これまでのまとめ
〔成績評価〕
授業への参加度・態度　30%
課題・提出物　30%
定期試験　40%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
清水正幸　奥山貴之　(2018)
『日本語学習者のための読解厳選テーマ10　中上級』 凡人社
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

英語Ⅱ⑥

1506
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
山片　崇嗣

〔到達目標〕
・英語文献等を読むための基本的な英語力を養う。
・基本的な文法や語法を再確認し、英文構造の理解を定着する。
・様々な場面に応じたコミュニケーション力を高める。
〔授業の概要〕
・各章ごとに文法・語法事項の解説と問題を通じて、理解、定着、発展を深める。

※感染症対策等の理由からLMS授業になる場合もあります。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
到達目標に達するために、各章の文法事項を事前に予習し、効果的な授業の理解を目指す。また、授業後の復習を通じて、定着、発展を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション

授業の目的・方針、評価方法などの紹介。

第 2 回　第６章　不定詞①
to不定詞の基本３用法

第 3 回　第６章　不定詞②
・不定詞の否定
・不定詞のさまざまな形

第 4 回　第７章　動名詞①
動名詞の働き

第 5 回　第７章　動名詞②
・動名詞のさまざまな形
・動名詞の意味上の主語

第 6 回　第８章　分詞①
・分詞の意味
・分詞の形容詞的用法

第 7 回　第８章　分詞②
・分詞形容詞
・分詞構文

第 8 回　第11章　形容詞
・限定用法
・叙述用法

第 9 回　第12章　副詞
・副詞の用法
・副詞があらわす意味と文中での位置

第 10 回　第13章　比較
・比較級と最上級の強調
・さまざまな比較表現

第 11 回　第14章　疑問詞・疑問文
・間接疑問
・付加疑問

第 12 回　第15章　前置詞①
時間と空間を表す前置詞

第 13 回　第15章　前置詞②
前置詞と接続詞の区別

第 14 回　前期授業のまとめ

第 15 回　定期考査

〔成績評価〕
１．授業参加度・課題
２．定期試験

〔教科書〕
「入門　英文法　問題精講　４訂版」（旺文社）
その他、必要に応じてプリント等を配布します。
〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領（最新版）
中学校　英語テキスト
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
時間：授業開始前の20分間
場所：教室または講師控室

発達心理学Ⅰ

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
岡野　太郎

〔到達目標〕
1. 胎生期から児童期までの人間の発達過程における心理・行動的特徴を理解し，他者へ適切に説明することができる。
2. 人間の発達過程において生じる様々な問題に対して，得た知識をどのように活かすのか，自ら探求することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に自己・他者を観察することを通じて，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。
〔授業の概要〕
本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び3，経営教育学部のディプロマ・ポリシーにおける2及び4の獲得を目指すものである。
「少子高齢化」が進行している現代において，乳児期・児童期に限らず，高齢期までの発達に着目した「生涯発達」という視点の重要性が高まっている。本講義では，主に胎生期から児童期までの各時期において，人間の心身，認知機能，社会性，感情，対人関係における発達についての基礎的な知識や捉え方について，発達心理学の観点から理解を深めることを目的とする。
なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。
復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努める。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用し調査し，ノートに整理する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション

・授業の進め方や成績評価について
・発達の定義，発達段階と発達課題
・発達をもたらす要因；遺伝と環境
・発達の研究方法

第 2 回　**受胎から誕生まで①**
・胎生期での感覚・運動の発達
・胎内における脳の発達

第 3 回　**受胎から誕生まで②**
・胎内環境による胎児への影響
・胎児期の子育て

第 4 回　**乳児期の発達①**
・乳児期における感覚・知覚・脳の発達
・認知機能の発達

第 5 回　**乳児期の発達②**
・乳児期における身体・運動・言語の発達

第 6 回　**乳児期の発達③**
・乳児期における子育て

第 7 回　**幼児期の発達①**
・幼児期における身体・運動の発達
・認知機能の発達

第 8 回　**幼児期の発達②**
・幼児期における言語の発達
・対人関係の発達

第 9 回　**幼児期の発達③**
・幼児期における子育て

第 10 回　**児童期の発達①**
・児童期における身体・運動の発達
・認知機能の発達

第 11 回　**児童期の発達②**
・児童期における対人関係の発達
・動機・意欲の発達

第 12 回　**児童期の発達③**
・児童期における子育て

第 13 回　**発達障害と臨床①**
・発達障害について；定型発達と非定型発達
・発達障害の分類

第 14 回　**発達障害と臨床②**
・発達障害の支援・治療
・発達障害の子育て

第 15 回　**統括**
・「発達心理学Ⅰ」のまとめ，振り返り

〔成績評価〕
授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%
期末試験：70%

〔教科書〕
松田 信樹 (2018). 育ちと学びの心理学――こどもの成長に寄り添うために――　あいり出版
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領解説 公民編
その他，適宜授業内において資料を配布する。

〔参考文献〕
三浦 正樹 (編) (2016). 発達と教育の心理学　八千代出版
林 創 (編) 下山 晴彦・佐藤 隆夫・本郷 一夫 (監修) (2019). 公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑫ 発達心理学　ミネルヴァ書房
その他，授業内においても適宜紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、必修

〔オフィスアワー〕
各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。
連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

発達心理学Ⅱ

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
岡野　太郎

〔到達目標〕
1. 思春期・青年期から老年期までの人間の発達過程における心理・行動的特徴を理解し，他者へ適切に説明することができる。
2. 人間の発達過程において生じる様々な問題に対して，得た知識をどのように活かすのか, 自ら探求することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に自己・他者を観察することを通じて，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。

〔授業の概要〕
本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び3，経営教育学部のディプロマ・ポリシーにおける2及び4の獲得を目指すものである。
「少子高齢化」が進行している現代において，乳児期・児童期に限らず，高齢期までの発達に着目した「生涯発達」という視点の重要性が高まっている。本講義では，発達心理学における歴史や様々な理論に触れながら，思春期・青年期から老年期までの各時期において，人間の心身，認知機能，社会性，感情，対人関係における発達についての基礎的な知識や捉え方について，発達心理学の観点から理解を深めることを目的とする。
なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。
復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努め

る。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用して調査し，ノートに整理する。

〔授業計画〕

第 1 回　**発達心理学とその関連領域**
・授業の進め方や成績評価について
・発達心理学とその関連領域

第 2 回　**発達心理学の歴史**
・発達心理学の歴史

第 3 回　**発達心理学の理論**
・発達心理学における諸理論

第 4 回　**思春期・青年期の発達①**
・思春期・青年期における身体，認知機能，対人関係の発達

第 5 回　**思春期・青年期の発達②**
・性的成熟について
・アイデンティティの確立とそれにまつわる諸問題
・学びへの動機づけ

第 6 回　**思春期・青年期の発達③**
・思春期・青年期特有のライフイベント；仕事，就職活動
・思春期・青年期における不適応の問題について

第 7 回　**成人期の発達①**
・青年期からの自立
・知能・パーソナリティの発達

第 8 回　**成人期の発達②**
・成人期特有のライフイベント；仕事，結婚

第 9 回　**中年期の発達①**
・中年期特有のライフイベント；子育て
・身体・パーソナリティの変化
・家族関係の変化

第 10 回　**中年期の発達②**
・中年期に生じる諸問題について
・中年期から老年期への移行

第 11 回　**老年期の発達①**
・身体・パーソナリティの変化
・認知症とそれにまつわる諸問題について

第 12 回　**老年期の発達②**
・老年期の介護とそれにまつわる諸問題について
・死の受容

第 13 回　**発達障害と臨床①**
・自閉スペクトラム症（ASD：Autism Spectrum Disorder）
・ASDに対する支援

第 14 回　**発達障害と臨床②**
・注意欠如多動症（ADHD：Attention Deficit Hyperactivity Disorder）
・限局性学習症（SLD : Specific Learning Disorder）
・ADHD，SLDに対する支援

第 15 回　**統括**
・「発達心理学Ⅱ」のまとめ，振り返り

〔成績評価〕

授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%
期末試験：70%

〔教科書〕

松田信樹 (2018). 育ちと学びの心理学――こどもの成長に寄り添うために―― あいり出版
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領解説 公民編
その他，適宜授業内において資料を配布する。

〔参考文献〕

三浦正樹 (編) (2016). 発達と教育の心理学 八千代出版
林創 (編) 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 (監修) (2019). 公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑫ 発達心理学 ミネルヴァ書房
その他，授業内においても適宜紹介する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕

各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。
連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅰ【再履修】

1507
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
野島　晃子

〔到達目標〕

１．基本的な単語、熟語を身につける。
２．基礎的な英文の構造を理解し、応用できるようにする。
３．日常会話程度のリスニング力を身につける。

〔授業の概要〕

英語の基本文型などを授業毎に提示する。解説を理解したうえで問題を解き基礎固めをする。
各回の授業内容に関連する文法事項や練習問題を含んだプリントを配布して進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎回の授業内容（語彙や会話文）を復習し、定着させる。(90分)

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション・英語の基礎
授業の進め方についての説明をおこない、英語の基礎の「基礎」の復習を兼ねて問題を解く。

第 2 回　be動詞
be動詞の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題

第 3 回　一般動詞

一般動詞の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 4 回　現在形
現在形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 5 回　過去形
過去形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 6 回　未来表現
未来表現の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
小テストの実施
第 7 回　助動詞①
助動詞canの習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 8 回　助動詞②
助動詞mustの習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 9 回　助動詞③
助動詞shouldの習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 10 回　現在進行形
現在進行形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 11 回　現在完了形
現在完了形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 12 回　疑問文①
Yes/Noで答えられる疑問文の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
小テスト実施
第 13 回　疑問文②
疑問詞を使った疑問文の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 14 回　これまでの振り返り①
第1回から第15回までに習得した内容の総復習
第 15 回　最終試験
期末試験に相当する試験を実施する

〔成績評価〕
毎回の課題の提出（30%）
小テスト（20%）
定期試験（50%）

〔教科書〕
配布する資料や問題は教員から提示するため教科書は指定しない。

〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日

英語Ⅰ⑨

1510
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
成田　沙央子

〔到達目標〕
基礎的な英文法を復習し、英語学習の基盤となる部分をしっかりと作りあげる。語彙を増やし、話法・口語表現を理解し身につける。問題演習や、実際に英語でコミュニケーションをとることを通じて、英語に対する自信を持てるようになる。

〔授業の概要〕
問題演習を通して基本的な英文法を学ぶ。また、視聴覚教材を用い、実際の生きた英語に触れ、リスニング・スピーキングにも取り組み、日常会話やコミュニケーションの基本的な技能を身に着ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題を提出する。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（１）
第 2 回　Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（２）
第 3 回　Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（３）
第 4 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（１）
第 5 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（２）
第 6 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（３）
第 7 回　Unit3
疑問文（１）
第 8 回　Unit3
疑問文（２）
第 9 回　Unit3
疑問文（３）
第 10 回　Unit4
否定文（１）
第 11 回　Unit4
否定文（２）
第 12 回　Unit４
否定文（３）
第 13 回　Unit１・２
復習・問題演習
第 14 回　Unit３・４
復習・問題演習
第 15 回　復習テスト

〔成績評価〕
授業内評価 60%
学期末テスト40%

〔教科書〕
Laugh and Learn: Back to the Basics （南雲堂）
〔参考文献〕
適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜12:10~15:30

英語Ⅰ⑩

1511
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
様々な英語表現に触れることによって大学生にふさわしい知識と教養を身につけ、英語の持つ特徴を知り英語を母国語とする人々の文化や考え方を理解できるようになる。
〔授業の概要〕
多様な視点から英語にアプローチし、言葉を通して英語圏の文化を知る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習内容を復習し、毎回課題を提出する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方や評価の方法について説明する。
第 2 回　辞書に親しむ
辞書の引き方や読み方を知る。また、内容と関連した文法を学習する。
第 3 回　"Look Out!" ①
イディオムについて学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 4 回　"Look Out!" ②
イディオムについて学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 5 回　You Are My Sunshine ①
アメリカのカントリー・ウェスタン "You Are My Sunshine"を素材とした文法学習を行う。
第 6 回　You Are My Sunshine ②
アメリカのカントリー・ウェスタン "You Are My Sunshine"を素材とした文法学習を行う。
第 7 回　You Are My Sunshine ③
アメリカのカントリー・ウェスタン "You Are My Sunshine"を素材とした文法学習を行う。
第 8 回　Riddles
英語のなぞなぞを考えることにより、英語という言語の持つ特徴を知る。また、内容と関連した文法を学習する。
第 9 回　コンテクスト
文脈に合わせて柔軟に単語の意味を解釈できる力を養う。また、内容と関連した文法を学習する。
第 10 回　翻訳への第一歩
英文解釈について考え、実践する。また、内容と関連した文法を学習する。
第 11 回　英作文への第一歩
和文英訳について考え、実践する。また、内容と関連した文法を学習する。
第 12 回　同一語の反復を避ける
英文中の言い換えについて学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 13 回　Charmingの本来の意味
自動詞と他動詞の区別について学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 14 回　まとめ①
これまでの学習事項を振り返る。
第 15 回　まとめ②
これまでの学習事項を振り返る。
〔成績評価〕
毎回の提出物　100%
〔教科書〕
行方昭夫『ユニーク英語講座―英語の根幹―』音羽書房鶴見書店
〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。
〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyのメッセージ機能で受け付ける。

国際交流論

2231
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
安藤　由香里

〔到達目標〕
本授業の目的は、身近な話題から国際文化や社会について考え、グローバル化社会での様々な現代的問題をさらに理解することである。
本授業を通して、学生は現代の様々な文化や社会の枠組みの中で起こっている問題について自らの意見を述べることができようになる。
〔授業の概要〕
本授業では、国際交流の意義の理解と国際交流の実践を考える。グローバル化が進展し、人・物・金・情報が地球上を自由に駆け回っている。その中で、国際交流が人間同士の相互理解を促進し、争いを避ける可能性があるため、国際交流の意義、現況、問題点等などを学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業と関連する新聞記事を授業の最初に話し合うために毎回持参すること。
〔授業計画〕
1. クラスオリエンテーション・アイスブレイク・国際交流とは何か
2. 現代社会（歴史的・地理的・民族的背景）季節と宗教：祭り、宗教、食べ物
3. 生活習慣：大浴場、ウォシュレット、箸、布団
4. 教育制度：就学前、小学校、中学校、高校、大学
5. 法制度：憲法、司法制度、陪審員制度
6. 社会構造：先輩後輩：年功序列と集団意識
7. 日本の心①：忖度、曖昧、沈黙
8. 日本の心②：建前と本音：根回し
9. 家系と男女関係：日本の家族制度と男女関係
10. 死亡率の低下：日本における育児
11. 少子高齢化社会：高齢化人口の増加
12. 外国人①：移民、難民
13. 外国人②：技能実習、特定技能
14. 少数民族に対する差別：LGBTIQ、部落、先住民族（アイヌ、沖縄）
15. 学生発表、期末レポート提出

〔成績評価〕
1. 期末レポート 3,000語　50%　(最終日提出厳守)
2. クラスでの発表 30%
3. 毎回、新聞記事を持参し、討議に積極的に参加し、コメント用紙に積極的に記入し提出する　　20%
〔教科書〕
適宜
〔参考文献〕

〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業の前後

フードビジネス経営論

2448
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
永井　　正信

〔到達目標〕
外食産業、いわゆるフードビジネス業界への就職を目指す学生やこの業界での起業を目指す学生が、業界の概要や動向、ビジネスの基本的な理論や手法を学ぶことを目標とする。また、業界での就職や起業を目指さない学生であっても受講できる。
その場合は、フードサービスの仕組みや楽しさを学ぶことにより、豊かな人生を送る糧と出来るよう指導する。
〔授業の概要〕
フードサービス業界について、その市場規模や歴史、各種業態、チェーンレストランのシステムなど、産業としての業界の現状や今後について解説する。
店舗運営の実際を学ぶと共に上場会社外食トップの特別講義(予定))を取り入れるなど、実学としてのフードビジネス論を理解する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
普段身近にあるフードサービスの世界を、学問として、資料を基に理論的体系的に学べるよう授業を行う予定。
資料の復習や推奨レストランチェーンの授業外での視察（本年度は実施しない予定）などを積極的に行うことで更に理解が深まると考える。
〔授業計画〕
第 1 回　フードサービスの歴史
世界や我が国における食文化の発展や歴史を解説
第 2 回　外食産業の概要
講義の進め方,産業としてのフードサービスを学ぶことの意義を理解
第 3 回　産業としてのフードサービス
業界の市場規模や雇用の役割、産業としての位置づけを解説
第 4 回　フードサービスの業種業態
業種・業態の違いを客単価、客層などの分析により解説
第 5 回　レストラン経営の実際（1）
フードサービスビジネスの収益構造などについて解説
第 6 回　レストラン経営の実際（2）
「商圏」の考え方、より良い「出店立地」の考え方などについて解説
第 7 回　外食経営者による特別講義
実際の経営者によって、最新の業界動向や企業の経営戦略などを講義
第 8 回　チェーンレストランのシステム（1）
チェーンレストランの特徴及び組織運営やフランチャイズチェーン（FC）の概要とその仕組みについて解説（1/2）
第 9 回　チェーンレストランのシステム（2）
チェーンレストランの特徴及び組織運営やフランチャイズチェーン（FC）の概要とその仕組みについて解説（2/2）
第 10 回　フードサービスと人材育成（1）
教育産業と言われるフードサービス業界における教育・評価の仕組みを解説
（1/2）
第 11 回　フードサービスと人材育成（2）
教育産業と言われるフードサービス業界における教育・評価の仕組みを解説
（2/2）
第 12 回　フードサービスの社会的責任

安全・安心を基本とし、環境問題やCSR活動などフードサービス業界の果たすべき役割と現状について解説
第 13 回　フードサービスの課題
フードサービス業界に内在する課題や業界を取り巻く課題について解説
第 14 回　フードサービスの今後の展望
フードサービスのこれからのあり方や取組について解説
第 15 回　まとめ
上記の講義で学んだことを総括する。

〔成績評価〕
毎回の講義の課題レポート及び経営者による特別講義の課題レポートをもとに総合的に評価する。特別講義が実施できない場合は、毎回提出の講義レポートの評価をもとに総合的に評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
フードサービス業界について、その市場規模や歴史、各種業態、出店戦略、コスト管理、人材育成のあり方など、産業としての外食業界の現状や今後について自らの経営者としての経験と共にチェーンシステム理論をベースに体系的に解説
教室での講義と共に、実際の店舗視察を通じて店舗運営の実際を実地で学ぶ（本年度は実施しない予定）など、実学としてのフードビジネス論を指導

〔オフィスアワー〕
①前期
②水曜日：15：30〜17：00
③連絡先：m-nagai@ashiya-u.ac.jp にメールかPhollyのメッセージで質問・相談をしてください。

英語Ⅲ①

2501
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
ﾏｼｭｰ ｾﾊﾞｽﾁｬﾝ　ｸｰﾊﾟｰ

〔到達目標〕
基本的な英文法を再確認しながら、ペアワークやグループワークを取り入れて、単に知識だけではなく、日常で使える英語力を養う。

〔授業の概要〕
前期に引き続き、英文法を学びながら、さまざまな文に応用できるよう、練習問題を通して理解を深める。また、視聴覚教材を用いて、生きた英語に触れ、リスニングやスピーキングの力を伸ばす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎週、講義を復習する。
推奨すること：音段から、英語の歌を聴いたり、映画を見たり、英語に触れるようにする。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　Possessive nouns
第 3 回　Count and non-count nouns
第 4 回　Can and can’t
第 5 回　Simple past regular verbs
第 6 回　Simple past irregular verbs
第 7 回　Subject and object pronouns
第 8 回　How much and how many
第 9 回　There is and there are
第 10 回　Noun and adjective modifiers
第 11 回　Comparative adjectives
第 12 回　Prepositions of time
第 13 回　Future with Be Going To
第 14 回　本試験の準備
第 15 回　まとめ

〔成績評価〕
出席, 参加50%、
小テスト10%
期末テスト40%

〔教科書〕
不要；講師より教材の配布あり）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
授業後

英語Ⅲ⑨

2509
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
成田　沙央子

〔到達目標〕
基礎的な英文法を復習し、英語学習の基盤となる部分を完成する。語彙を増やし、話法・口語表現を理解し身につける。問題演習や、実際に英語でコミュニケーションをとることを通じて、英語に対する自信を持てるようになる。

〔授業の概要〕
問題演習を通して基本的な英文法を学ぶ。また、視聴覚教材を用い、実際の生きた英語に触れ、リスニング・スピーキングにも取り組み、日常会話やコミュニケーションの基本的な技能を身に着ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題を提出する。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（１）
第 2 回　Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（２）
第 3 回　Unit1
一般動詞とbe動詞（現在形）（３）
第 4 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（１）
第 5 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（２）
第 6 回　Unit2
一般動詞とbe動詞（過去形）（３）
第 7 回　Unit3
疑問文（１）
第 8 回　Unit3
疑問文（２）
第 9 回　Unit3
疑問文（３）
第 10 回　Unit4
否定文（１）
第 11 回　Unit4
否定文（２）
第 12 回　Unit４
否定文（３）
第 13 回　Unit１・２
復習・問題演習
第 14 回　Unit３・４
復習・問題演習
第 15 回　復習テスト
〔成績評価〕
授業内評価 60%
学期末テスト40%
〔教科書〕
Laugh and Learn: Back to the Basics（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜12:10~15:30

英語Ⅲ⑩

2510
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
様々な英文を読んで理解できる力を身につけ、英語圏の文化や歴史、国民性についての知識と教養を身につける。

〔授業の概要〕
英語や英語圏の人々を理解するために必要な文化的、歴史的事柄について学習し、内容と関連した英文を読んで理解する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習事項を復習し、毎回課題を提出。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方と評価方法について説明する。
第 2 回　聖書と英語①
聖書が英語や英語圏の文化に与えている影響について学習し、抜粋を読んで理解する。
第 3 回　聖書と英語②
聖書が英語や英語圏の文化に与えている影響について学習し、抜粋を読んで理解する。
第 4 回　マザー・グースと英語①
英国伝承童謡マザー・グースと英米文化の関係性や、それぞれの唄が持つ特徴的なリズムとイントネーションについて学習する。
第 5 回　マザー・グースと英語②
英国伝承童謡マザー・グースと英米文化の関係性や、それぞれの唄が持つ特徴的なリズムとイントネーションについて学習する。
第 6 回　シェイクスピアの名言①
英語圏を代表する作家シェイクスピアについて学び、作品からの抜粋を読んで内容を理解する。
第 7 回　シェイクスピアの名言②
英語圏を代表する作家シェイクスピアについて学び、作品からの抜粋を読んで内容を理解する。
第 8 回　英語のジョーク
英語のジョークを読んで、日本との文化背景の違いについて理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 9 回　キング牧師の演説①
キング牧師について学習し、スピーチ "I Have a Dream"からの抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 10 回　キング牧師の演説②
キング牧師について学習し、スピーチ "I Have a Dream"からの抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 11 回　アメリカ大統領の英語①
アメリカ歴代大統領について学習し、スピーチから抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 12 回　アメリカ大統領の英語②
アメリカ歴代大統領について学習し、スピーチから抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 13 回　多読のすすめ
英語学習に効果的な多読について知る。
第 14 回　まとめ①
これまでの学習内容の復習とまとめを行う。
第 15 回　まとめ②

これまでの学習内容の復習とまとめを行う。

〔成績評価〕

毎回の提出物　100%

〔教科書〕

授業中に提示する資料

〔参考文献〕

必要に応じてプリントを配布

〔履修条件〕

〔備考〕

授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕

質問等はPhollyのメッセージ機能で随時受け付ける。

社会学入門

3101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　前期
濱田　武士

〔到達目標〕

（1）社会学のテーマに関わるトピックについて理解し社会現象を説明することができる

（2）社会学のテーマとトピックについて体系的に説明することができる。

〔授業の概要〕

現代社会は情報通信技術や移動・交通の進展により様々なものが変化する「加速する社会」といえます。この中にあって、参加する集団や組織、人間関係、それに体験はどのように生まれ、どのように変容し、今度どのような方向に進んでいくのでしょうか。本講義では、主に講義形式の形で日常生活におけるみなさん自身の体験やみなさんがインターネットやテレビなどを通じて取得する情報などの身近な事柄に着目して「いま何が起きているのか」をあらためて理解し、それにより先入観や思い込みを問い直し、「社会とは何か」という問題に対しての興味関心を広げていきたいと思います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

〈予習〉

毎回の授業テーマのキーワードについて新聞、ニュース、インターネットの記事などから情報収集し、自分なりのイメージをもっておいてください。

情報の調べ方は授業の最後に指示をします。

〈復習〉

毎回の授業の最後に提示するお題に対して、授業の内容を踏まえて回答する授業課題（300字程度でまとめる）に取り組んでください。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション（授業の概要）および社会学のはじまりについて
社会学の起源やその後の展開が現代社会と関連していることを説明できる。

第 2 回　社会学とは何か
社会と社会学の違いについて説明できる。

第 3 回　「私」をめぐる社会学―自己について
心理学や文学との違いを踏まえて社会学的に自己を説明できる。

第 4 回　ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学①―「女らしさ」「男らしさ」について
「女らしさ」「男らしさ」が作られたものであることを説明できる。

第 5 回　ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学②―ジェンダーの社会化
ジェンダーがその時々の社会状況によって個人に要請されるものであることを説明できる。

第 6 回　若者と子どもをめぐる社会学①―若者たちの「やさしい関係」
人間関係について若者に着目してそのあり方の変容を説明できる。

第 7 回　若者と子どもをめぐる社会学②―子どもの貧困
「子どもの貧困」を社会の変容という点から説明できる。

第 8 回　家族をめぐる社会学①―家族の絆とは何か
近代家族の成立を踏まえて家族の結びつきについて説明できる。

第 9 回　家族をめぐる社会学②―結婚の個人化
社会変動という観点から結婚のありようについて説明できる。

第 10 回　労働・職場をめぐる社会学―感情労働
産業構造の変容を踏まえて労働の場面で「心」や感情がやり取りされていることをについて説明できる。

第 11 回　グローバル社会とエスニシティをめぐる社会学①―「エスニシティ」とは何か
近代社会の成立と進展に伴い「エスニシティ」に着目する必要性がでてきたことを説明できる。

第 12 回　グローバル社会とエスニシティをめぐる社会学②―難民・移民をめぐる諸問題
グローバリゼーションの進展との関連で難民・移民をめぐる諸問題を説明できる。

第 13 回　社会運動をめぐる社会学①―デモと民主主義
近代社会の成立や発展を社会運動の観点から説明できる。

第 14 回　社会運動をめぐる社会学②―社会運動
現代における様々な権利が社会運動によって獲得されてきたことを説明できる。

第 15 回　授業のふりかえり
全体的な学習内容についての体系的な整理ができる。

〔成績評価〕

以下の基準で評価を行います。

（1）社会学のトピックの理解について

・可：それぞれの社会学のトピックと関連する事例を紹介しおおまかに説明できる

・秀：それぞれの社会学のトピックと関連する事例を紹介し分析的に説明できる
（2）テーマとトピックの体系的な理解について。
・可:テーマとトピックの関連についておおまかに記述できる
・秀：テーマとトピックの関連について要点をおさえて説明できる
〔教科書〕
教科書は指定しません。
授業ごとに資料を配布します。
〔参考文献〕
各回のテーマに合わせて、新書、解説記事、論文等を紹介します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
なし

情報処理技法Ⅰ（文書作成）

3501
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。
〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
Wordのスキルチェック
第 3 回　文書の作成と管理①
文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 4 回　文書の作成と管理②
文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ
第 5 回　文書の作成と管理③
文書の印刷、文書の保存
第 6 回　文字、段落、セクションの書式設定①
文字列や段落の挿入
第 7 回　文字、段落、セクションの書式設定②
文字や段落の書式設定、文字列や段落の並び替え、グループ化
第 8 回　表の作成
表の作成と変更
第 9 回　リストの作成
リストの作成と変更
第 10 回　参考資料の作成と管理
参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 11 回　オブジェクトの挿入と書式設定①
グラフィック要素の挿入と書式設定
第 12 回　オブジェクトの挿入と書式設定②
SmartArtの挿入と書式設定
第 13 回　文書表現の応用①
目的や状況に応じた文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
説得力のある文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ（表計算）

3502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
Excelのスキルチェック
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理①
ワークシートやブックの作成と書式設定、移動
第 4 回　ワークシートやブックの作成と管理②
オプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理①
データの挿入と書式設定
第 6 回　セルやセル範囲のデータの管理②
データのまとめと整理
第 7 回　テーブルの作成①
テーブルの作成と管理
第 8 回　テーブルの作成②
テーブルのスタイルと設定オプションの管理、レコードの抽出と並び替え
第 9 回　数式や関数を用いた演算の実行①
関数を用いた計算
第 10 回　数式や関数を用いた演算の実行②
条件付き関数を用いた計算、関数を用いた書式設定と文字列の変更
第 11 回　グラフやオブジェクトの作成①
グラフの作成と書式設定
第 12 回　グラフやオブジェクトの作成②
オブジェクトの挿入と書式設定
第 13 回　表計算の応用①
目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算
第 14 回　表計算の応用②
表計算の応用②
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

デザイン論

5105
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
1.デザインの意味や役割を理解し自らの言葉で説明できる。
2.日常生活の中のデザインを発見し役割を知る。
〔授業の概要〕
・私たちの生活を豊かにしてくれるデザインは社会のあらゆる分野に存在しています。
講義では、デザインのジャンルや歴史、最新動向（IT,IoT社会のデザイン）を学び、
デザインの広がりをビジュアル資料を用い講義を行います。
日常にあるデザインを発見し、あたらな可能性や広がりを考えます。
その上で、具体的に、自らの生活でどの様なデザインがあれば、より良い生活が築けるかを議論します。

・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：まわりにあるデザインに目を向ける。（120分程度）
復習：講義内容の整理/講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。（120分程度）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・授業内容、授業の進め方について説明
・デザインとは何か？を学ぶ
第 2 回　デザイン体系
・デザインのジャンルについて学ぶ
・デザインジャンルのアンケート実施
第 3 回　2Dデザイン
・ビジュアルデザイン（ポスター・広告・雑誌）について学ぶ

第 4 回　3Dデザイン
・プロダクトデザイン（家電・自動車・車両）について学ぶ
第 5 回　建築・インテリアデザイン
・3次元空間（インテリア・建築・都市）について学ぶ
第 6 回　情報デザイン
・コミュニケーション・インターフェイスデザイン等について学ぶ
第 7 回　中間テスト
7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート
第 8 回　デザイン史1
・欧米デザイン史（アーツアンドクラフツ～デ・スティル）について学ぶ
第 9 回　デザイン史2
・欧米デザイン史（モダニズム）について学ぶ
第 10 回　デザイン教育（バウハウスデザイン）
・バウハウスデザインとデザイン教育について学ぶ
第 11 回　日本デザイン史
日本のデザイン（江戸・明治・大正・昭和・平成）の変化と背景ついて学ぶ
第 12 回　近代デザイン
・モダニズム以降のデザインについて学ぶ
第 13 回　色彩総論
・色彩基礎理論について学ぶ
第 14 回　色彩心理学
・色彩心理学
第 15 回　デザインの未来
・デザインは今後どのような変化・進展するか

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
授業内レポート・アンケート回答・発表：30%

〔教科書〕
特になし。

〔参考文献〕
阿部公正監修「世界デザイン史」美術出版社
トーマス・ハウフェ／藪亨「デザイン史入門」晃洋書房
D.A.ノーマン 「誰のためのデザイン」新曜社
その他、参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
デザイン現場の経験より、デザインの役割を初学者にも分かりやすく講義する。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後又は水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

教職総合演習Ⅲ-1（論作文）

7003
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
4年
1単位　前期
笠原　清次

〔到達目標〕
○教職者として必要な様々な学校教育にかかる知識・情報を見直し、理解する。
○教育原理の知見を広げ深めるとともに、教職者としてあるべき姿について考察を深めることができる。

〔授業の概要〕
○各種の教育課題を調べまとめるとともに、それぞれの果たしている役割を理解する。
○教員の在るべき姿や学校教育の在り方について、話し合い活動を通して理解を広げ考えを深めるとともに、重要な教育課題について、自分の考えを論理的文章に表し発表することができる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
(１) 毎回、授業で取り上げる資料を繰り返し読んでおく。(３０分)
(２) 論作文は、時間外となっても仕上げ、翌日までに提出する。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス１
授業の目標，予定，進め方，評価方法等について理解する。
論作文(小論文)記述の要点を知る。
第 2 回　ガイダンス２
構想メモを使って論作文(小論文)を書くことを理解する。

第 3 回　児童生徒の指導に関わること１
生徒指導上の問題について，考えを論作文に表す。
第 4 回　児童生徒の指導に関わること２

授業づくりの課題について，考えを論作文に表す。
第 5 回　児童生徒の指導に関わること３
人権教育の課題について，考えを論作文に表す。
第 6 回　児童生徒の指導に関わること４
特別支援教育の課題について，考えを論作文に表す。
第 7 回　学校や教師に関わること１
学校が果たす役割について，考えを論作文に表す。
第 8 回　学校や教師に関わること２
教育課題１（防災教育、学校安全、キャリア教育等）について，考えを論作文に表す。
第 9 回　学校や教師に関わること３
学力、豊かな心)について知識を整理し，考えを論作文に表す。
第 10 回　学校や教師に関わること４
「主体的・対話的で深い学び」について，考えを論作文に表す。
第 11 回　学校や教師に関わること５
教員の資質向上について，考えを論作文に表す。
第 12 回　学校や教師に関わること６
教員の協働性、地域との連携・協働について，考えを論作文に表す。
第 13 回　論作文(小論文)の書き方のまとめ１
過去問の中から一つ選び，考えを論作文に表す。
第 14 回　論作文(小論文)の書き方のまとめ２
自ら問題設定し，考えを論作文に表す。
第 15 回　論作文(小論文)の書き方のまとめ３
これまでの学習を振り返り，論作文の記述の仕方を整理する。

〔成績評価〕
論作文（60％）
学習姿勢・態度(４０％)

〔教科書〕
自作テキスト「論作文(小論文)の手引き」

〔参考文献〕
随時提供する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教職総合演習Ⅲ－Ⅰ（教職教養）

7007
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
3年
1単位　前期
笠原　　清次

〔到達目標〕
○教職者として必要な学校教育に係る様々な知識・情報を整理し、まとめる。
○教職教養の知見を広げ深めるとともに、教職者としてあるべき姿について考察を深めることができる。

〔授業の概要〕
○教育法規、教育史、教育原理、教育時事等関係資料を調べ、教職教養の理解を確かなものにする。
○教員の在るべき姿や学校教育の在り方について、話し合い活動を通して理解を広げ、教育課題について自分の考えをまとめる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回、授業で取り上げる資料を繰り返し読んでおく。(３０分)
授業時に学修した内容を中心に，練習問題を解き理解を定着させる。(６０分)

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の到達目標及び概要，進め方，予習・復習の仕方，授業計画及び評価について理解する。
第 2 回　教育法規１
学校教育に関する法規を調べ，まとめる。
第 3 回　教育法規２
教職員に関する法規を調べ，まとめる。
第 4 回　教育法規３
教育法規についてまとめる。
第 5 回　教育原理１
人権教育関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 6 回　教育原理２
特別支援関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 7 回　教育原理３
学校安全・防災教育等関係資料を調べ，まとめる。
第 8 回　教育時事１
中教審関係資料等を調べ，まとめる。
第 9 回　教育時事２
文部科学省通知・通達を調べ，まとめる。
第 10 回　教育時事３
その他各種関係資料，手引き等を調べ，まとめる。

第 11 回　教育史1
西洋教育史を調べ、まとめる。
第 12 回　教育史２
日本教育史を調べ、まとめる。
第 13 回　教育心理１
発達・学習理論を調べ、まとめる。

第 14 回　教育心理２
　　教育評価・人格心理検査等を調べ、まとめる。
第 15 回　教職教養のまとめ
　　教職教養に関する要点を整理し，理解を深める。

〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度(４０％)

〔教科書〕
自作テキスト「教職教養資料①教育法規編」「　〃　②人権教育・特別支援教育編」「　〃　③教育時事編」「　〃　教育史・教育心理編」

問題プリントは毎回配付する。

〔参考文献〕
「教職教養ランナー 2022年度版」(一ツ橋書店)

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
参考文献を予習・復習時に活用し，理解を深める。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

英語Ⅲ【再履修】

7050
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
野島　晃子

〔到達目標〕
１．さまざまな英語の文型について基礎から応用まで身につける。
２．基本的な会話のリスニング力をつける。

〔授業の概要〕
英文の仕組みや談話のまとまり・流れを学ぶ。語彙・や表現方法を学び、自分の言葉として使えるよう繰り返し練習を通して定着を図る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業内容（語彙や文型）を復習し、定着させる。(90分)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・実力テスト
　　授業方針、目標、内容、評価の方法の説明。
　　基本的な内容の実力テストを実施。
第 2 回　文型
　　基本的な５文型について復習する。
第 3 回　時制
　　現在形から未来完了形まで習得する。
第 4 回　助動詞
　　助動詞を習得する。
第 5 回　不定詞・動名詞
　　不定詞と動名詞を習得する。
第 6 回　小テスト①
　　第2回から第5回までの内容の復習テストを実施する。
第 7 回　受動態・分詞
　　受動態と分詞の習得。
第 8 回　関係詞
　　関係詞の習得。
第 9 回　比較
　　比較の習得。
第 10 回　小テスト②
　　第7回から第9回までの内容の復習テストを実施する。
第 11 回　仮定法
　　仮定法の習得。
第 12 回　さまざまな構文や表現
　　間接疑問や強調構文などを習得する。
第 13 回　接続詞・前置詞
　　接続詞と前置詞の習得。
第 14 回　小テスト③
　　第11回から第13回までの内容の復習テストを実施する。
第 15 回　全体の振り返りと最終試験
　　これまでに学習した内容の振り返りと期末試験に相当する試験を実施する。

〔成績評価〕
毎回の課題（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）

〔教科書〕
配布する資料や問題は教員から提示するため教科書は指定しない。

〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日

社会学入門

3101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
堂本　直貴

〔到達目標〕
①社会学におけるものの見方を学ぶ
②社会学が関心の対象とする現代社会の課題について学ぶ
受講生には、この二点を通じて、現代社会の問題を自分自身に引きつけて考え、より良い答えを求め続ける姿勢を期待します。
〔授業の概要〕
社会学がカバーする対象は多岐にわたり、そのすべてを扱うことは難しいです。
この授業では、指定した教科書を基礎とします。その教科書を用いて、社会学特有のものの見方や概念、用語を学びつつ、受講生が関心をもてる具体的な事例を説明します。
また、受講生には、教科書に記載されたデータやグラフの読み取り、文章の朗読などをしてもらうため、必ず教科書を持参してください。
各回の授業終了時にコメントペーパーを提出してください。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習として、教科書の指定箇所を読んでください。
復習としては、配布レジュメの参考文献などを、関心に合わせて読んでください。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の目標／授業進行予定／成績評価方法／参考文献の紹介／社会学とは何か
第 2 回　社会学の歴史①
ヴェーバー／デュルケム／ジンメル
第 3 回　社会学の歴史②
シカゴ学派と社会調査
第 4 回　社会学の歴史③
パーソンズ／マートン／シンボリック相互行為論／エスノメソドロジー
第 5 回　社会学の歴史④
フーコー／ルーマン／ギデンズ／ブルデュー
第 6 回　コミュニケーション
外的コミュニケーションと内的コミュニケーション／印象操作と儀礼的無関心／感情
第 7 回　ジェンダー・セクシュアリティ
ジェンダー、セクシュアリティという概念／性役割の社会化／性別と職業
第 8 回　家族
家族の「定義」／結婚の個人化／夫婦・親子の関係／家族という形の変容
第 9 回　教育
趣味と階層／教育と不平等／子どもの貧困
第 10 回　労働
日本的雇用の再編成／就業形態の多様化と問題点／フォーディズム
第 11 回　都市と地域
コミュニティの現状と意義／再開発の問題／農山村の過疎化と可能性
第 12 回　伝統と宗教
宗教の社会的機能／集合的沸騰／創られた伝統
第 13 回　環境
環境とは／環境問題の歴史／ゴミ（廃棄物）の問題／環境社会学と生活環境主義
第 14 回　メディア
メディアということば／活字からインターネットへ／情報化社会の公共性
第 15 回　まとめ
授業全体のまとめ／試験について
〔成績評価〕
試験（70%）と出席およびコメントペーパー（30%）
〔教科書〕
宇都宮京子, 西澤晃彦, 2020『よくわかる社会学（第3版）』ミネルヴァ書房.
（かならず「第3版」を用意してください。）
＊さらに授業時に、レジュメ等を配布します。
〔参考文献〕
各回の配布資料（レジュメ）に記載します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業終了後に対応します。

健康スポーツ科学概論（1年教育・児童）

2339
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
別當　和香　伊藤　武徳　武田　光平

〔到達目標〕
1）健康を疎外する要因・運動生理学の基礎を理解し、自己の健康感の確立を図ることができる。

2）トレーニングの基礎的知識・応急処置の基本的原理・原則、スポーツ障害についての知識を習得し、自身のコンディショニングを評価することができる。

3）健康とスポーツ科学に関するグループワークを通じて、生活に運動を取り入れ、自身のスポーツライフを豊かにすることができる。
〔授業の概要〕
現代の健康に関する諸問題を取り上げるとともに、自らの健康・体力の維持増進を図る生涯スポーツと自らの能力と技術の限界に挑む競技スポーツを中心に紹介し、健康スポーツ科学への理解を深めていく。また、協同学習を通して生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理方法の実践を促す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：授業計画に記載されているキーワードについて事前に調べておくこと。(2時間)

復習：講義内容を復習し、ノートなどにまとめておくこと。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
講義の進め方、受講の共通理解、評価の内容伝達(伊藤・武田・別當)
第 2 回　健康について①
現代の生活と健康（別當）
第 3 回　健康について②
心の健康（別當）
第 4 回　健康について③
現代の社会と健康（別當）
第 5 回　健康について④
健康と食事、肥満と生活習慣（別當）
第 6 回　大学生活と健康・スポーツ
減量問題、食事バランスガイド、エルゴジェニックエイド（別當）
第 7 回　運動について①
身体を知る、発育・発達とスポーツ（武田）
第 8 回　運動について②
体力づくりと体力の構成要素・新体力テストの測定方法と効果について（武田）
第 9 回　運動について③
トレーニングの原理原則、トレーニングの種類、運動の効果と分類（武田）
第 10 回　スポーツについて
スポーツの意味、「する」「みる」「ささえる」スポーツ（武田）
第 11 回　生涯スポーツについて
生涯スポーツの必要性、年齢別にみるスポーツの関わり方（伊藤）
第 12 回　スポーツにおけるリスクマネジメント
運動プログラム、ジョギング、ストレッチング、ウォーミングアップ、 クールダウン（伊藤）
第 13 回　スポーツ活動中に多い怪我と病気
スポーツ障害の予防と応急処置、熱中症、貧血、突然死（伊藤）
第 14 回　運動・スポーツ活動と安全
応急処置の基本原則、テーピングの基本と注意点（伊藤）
第 15 回　まとめ
まとめテスト(伊藤・武田・別當)
〔成績評価〕
≪配点内訳≫
毎回の授業で各先生の講義における小レポート＋授業態度＋意欲を含んだ得点が各15点
15点×4人＝60点に最終テストの40点を加えて
総合的に評価する。
〔教科書〕
適宜資料配布する
各担当の先生に確認する
〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領・解説(最新版)
適宜紹介する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
保健授業の経験を活かし、体つくり運動や健康の維持・増進やスポーツ現場における課題や問題の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40〜15：20　水曜日10：00〜11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

英語Ⅱ⑩

1511
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
様々な英語表現に触れることによって大学生にふさわしい知識と教養を身につけ、英語の持つ特徴を知り英語を母国語とする人々の文化や考え方を理解できるようになる。
〔授業の概要〕
多様な視点から英語にアプローチし、言葉を通して英語圏の文化を知る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習内容を復習し、毎回課題を提出。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方や評価方法について説明する。
第 2 回　Proverbs
英語のことわざを学習し、英語圏の人々の国民性を知る。また、内容に関連した文法を学習する。
第 3 回　シェイクスピアの名言①
シェイクスピアの名言を読んで理解できるようになる。また、内容に関連した文法を学習する。
第 4 回　シェイクスピアの名言②
シェイクスピアの名言を読んで理解できるようになる。また、内容に関連した文法を学習する。
第 5 回　キング牧師の演説①
キング牧師について知り、スピーチから英文法を学習する。
第 6 回　キング牧師の演説②

キング牧師について知り、スピーチから英文法を学習する。
第 7 回　洋楽で学ぶ英文法①
英語の歌の歌詞から文法を学習する。
第 8 回　洋楽で学ぶ英文法②
英語の歌の歌詞から文法を学習する。
第 9 回　Jokes
英語のジョークを読んで理解する。ジョークから英語の特徴を理解し、関連した文法を学習する。
第 10 回　多読のすすめ①
小説やコミックなどの抜粋を読んで理解する。また、関連した文法を学習する。
第 11 回　多読のすすめ②
小説やコミックなどの抜粋を読んで理解する。また、関連した文法を学習する。
第 12 回　多読のすすめ③
小説やコミックなどの抜粋を読んで理解する。また、関連した文法を学習する。
第 13 回　英語圏の行事と英語表現
英語圏で一般的に行われる行事と、その際に用いられる英語表現について知る。また、関連した文法を学習する。
第 14 回　まとめ①
これまでの学習の振り返りとまとめを行う。
第 15 回　まとめ②
これまでの学習の振り返りとまとめを行う。

〔成績評価〕
毎回の提出物　100%

〔教科書〕
行方昭夫『ユニーク英語講座―英語の根幹―』南雲堂

〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕
質問等はPhollyのメッセージ機能で随時受け付ける。

英語Ⅱ⑨

1510
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
成田　沙央子

〔到達目標〕
基礎的な英文法を復習し、英語学習の基盤となる部分をしっかりと作りあげる。語彙を増やし、話法・口語表現を理解し身につける。問題演習や、実際に英語でコミュニケーションをとることを通じて、英語に対する自信を持てるようになる。

〔授業の概要〕
問題演習を通して基本的な英文法を学ぶ。また、視聴覚教材を用い、実際の生きた英語に触れ、リスニング・スピーキングにも取り組み、日常会話やコミュニケーションの基本的な技能を身に着ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題を提出する。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・Unit5
文型と文の要素（1）
第 2 回　Unit5
文型と文の要素（2）
第 3 回　Unit5
文型と文の要素（3）
第 4 回　Unit6
進行形（1）
第 5 回　Unit6
進行形（2）
第 6 回　Unit6
進行形（3）
第 7 回　Unit7
受動態（1）
第 8 回　Unit7
受動態（2）
第 9 回　Unit7
受動態（3）
第 10 回　Unit8
助動詞（1）
第 11 回　Unit8
助動詞（2）
第 12 回　Unit8
助動詞（3）
第 13 回　Unit5・6
復習・問題演習
第 14 回　Unit7・8
復習・問題演習
第 15 回　復習テスト

〔成績評価〕
授業内評価 60%
学期末テスト40%

〔教科書〕
Laugh and Learn: Back to the Basics（南雲堂）

〔参考文献〕
適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
木曜12:10~15:30

初等教科教育法Ｘ（英語）

5217
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
3年
2単位　前期
木曜 2限
児童_選択
多田　　玲子

〔到達目標〕
１．小学校外国語・外国語活動の理念の理解（智識・技能）
２．言語習得の基礎的理論の理解）（智識・技能）
３．小学生に適した指導法の理解と実践（智識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう力）
４．教室英語の習得と指導案の作成（智識・技能、思考・判断・表現）
５．模擬授業の実践（思考・判断・表現、学びに向かう力・人間性）
〔授業の概要〕
小学生に外国語を指導するための基礎的知識や指導法を理論と実践の両面から具体的にアプローチする。実践面の活動の理解は、参加型のワークショップスタイルで行い、参加者が小学校で実際に体験した英語活動と現在の外国語活動や指導者については、学習者同士の話し合いを行う。模擬授業では、学習者が指導者になり、他の学習者が児童役になってマイクロティーチングを行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業後のレポート作成（90 分）
教室英語の練習、復習（30分）
教材研究の活動発表準備（60分）
模擬授業の準備（90分）
〔授業計画〕
第1回　オリエンテーション、小学校外国語・外国語活動の目的と目標

第２回　母語習得と第二言語習得

第３回　小学生に適した指導法

第４回　指導者の役割、教材、テキストの役割

第５回　教材研究①（歌、チャンツ）、教室英語

第６回　教材研究②（クイズ、ゲーム）、教室英語

第７回　教材研究③（絵本）、教室英語

第８回　教材研究①～③の実践発表

第９回　授業課程と学習指導案の作り方

第11回　模擬授業準備

第12回　模擬授業発表　①

第13回　模擬授業発表　②

第14回　模擬授業発表　③

第15回 模擬授業の振り返り、まとめ
〔成績評価〕
模擬授業（30%）、課題レポート（30%）
教室英語の小テスト（30%）、教材研究発表（10%）
〔教科書〕
Let’s Try　１、２（文部科学省）
〔参考文献〕
新編小学校英語教育法入門
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期　②木曜　11:55-12:10 13:40-13:55 ③授業前後、講義の教室　④事前にメールをしてアポイントを取ってください。rtada714@yahoo.co.jp

社会的養護Ⅱ

6008
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2年
2単位　後期
木曜 3限
児童_選択
脇田　　宣

〔到達目標〕
１．児童福祉法が規定する児童福祉施設について、それぞれの目的と機能を知る。
２．社会的養護の立場から入所型施設（障害児入所施設や児童養護施設等）の現状や課題を認識すると共に、職員に求められる専門性を理解する。
３．家庭との連携・協調の重要性を学び、家族への個別的支援の在り方を考える。
４．児童虐待問題に関する基礎知識を養う。
〔授業の概要〕
社会的養護の理念を具体化する施設養護の在り方や実践方法及び、施設養護を必要とする児童らが抱えるさまざまな問題や課題について講義や演習課題等を通して理解を深めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義は毎回レジュメを配布し進め、期末には理解の習熟度を、筆記試験で判断することになるので、振り返り学習は各自実施しておくこと。
演習課題に際しては、事前に事例資料や着眼点、取組み方のポイント等を提示するので確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　社会的養護の基本理解①

児童養護の意義と目的
第 2 回　社会的養護の基本理解②
家庭的養護と施設養護
第 3 回　社会的養護の基本理解③
児童福祉施設の分類
第 4 回　施設養護の実際①
施設養護の基本原理
第 5 回　施設養護の実際②
障害児入所施設の現状と課題
第 6 回　施設養護の実際③
知的障害福祉の歴史
第 7 回　施設養護の実際④
情緒・行動面に困難性を示す児童の理解
第 8 回　施設養護の実際⑤
情緒・行動面に困難性を示す児童の理解［演習］
第 9 回　施設養護の実際⑥
家族支援
第 10 回　施設養護の実際⑦
家族支援［演習］
第 11 回　施設養護の実際⑧
施設運営とリスクマネジメント
第 12 回　児童虐待問題の基本理解①
歴史的経過と関連法令
第 13 回　児童虐待問題の基本理解②
児童虐待の定義
第 14 回　児童虐待問題の基本理解③
児童相談所の機能と役割
第 15 回　児童虐待問題の基本理解④
通告事例を考える［演習］

〔成績評価〕
筆記試験50%
平常点50%（演習課題提出や課題の取組み姿勢など）

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①後期
②木曜日
③授業終了後、講義教室で対応します。

子どもの理解と援助

6006
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2年
2単位　後期
月曜 4限
児童_選択
木下　　隆志

〔到達目標〕
保育者として子どもの内面を理解できる。
自分の特性を知り、意図的なかかわりができるようになる。
発達に必要な経験を子ども自ら獲得していけるような援助ができる。

〔授業の概要〕
保育者の専門性として、一人ひとりの子どもの内面を理解し、信頼関係を築き、発達に必要な経験を子ども自ら獲得していけるような援助ができる。その基盤である「子ども理解」について、豊富な事例から学びを深める授業である。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「授業前のテキスト予習（90 分）」「授業後の課題のノートまとめ（90 分）」

〔授業計画〕
第 1 回　子ども理解の意義と原理
保育のはじまりとしての子どもの理解を学ぶ
第 2 回　保育における「子ども理解」とは
子どもを見る「まなざし」、子どもの行為の「意味」を探る
第 3 回　子どもを取り巻く環境の理解 1
さまざまな環境を発達と学習の視点から捉えるために①――エリクソンの理論を学ぶ
第 4 回　子どもを取り巻く環境の理解 2
さまざまな環境を発達と学習の視点から捉えるために②――エンゲストロームの理論を学ぶ
第 5 回　子ども理解における発達的観点 1
大人が変わると子どもが変わるという発見、「まなざし」の背後にある私たちの発達観、発達心理学者ピアジェの発達理論の教育への影響を学ぶ
第 6 回　子ども理解における発達的観点 2
「個人能力還元説」を超えた「関係論的発達観」での捉え直しについて考える
第 7 回　子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド
子ども理解における保育者の姿勢、子ども理解における保育者の姿勢の実際を学ぶ
第 8 回　子ども理解と援助の方法
保育における観察について学ぶ
第 9 回　保育における観察と記録の実際
保育の場で子どもを「見る」とは、保育における記録について学ぶ
第 10 回　相談援助の過程 1（インテークとアセスメント）
初回相談であるインテークからニーズ把握を行うアセスメントの重要性を学ぶ

第 11 回　記録にもとづく保育カンファレンス
「保育カンファレンス」とは、保育カンファレンスを行うための素材について学ぶ
第 12 回　保育における個と集団の関係の理解と援助
個と集団の育ちの過程、個と集団の育ちを支える保育者の葛藤、個と集団の育ちを保障する保育デザインを考える
第 13 回　一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助
特別なニーズのある子どもとの出会い、子どものニーズの理解と支援について考える
第 14 回　保護者理解と援助の基本
保育における「保護者理解」とは、保育の専門性を活かした子育て支援について理解する。
第 15 回　「子ども理解」を深めるための保育共同体
子どもを協働的に見ることの意義、子どものことを「語り合う」関係の構造を探る

〔成績評価〕
最終試験50%　発表　20%　課題30%

〔教科書〕
子ども理解と援助 (新しい保育講座 3)　高嶋景子 (編集), 砂上史子 (編集)
ISBN-10 : 4623085317
ISBN-13 : 978-4623085316
出版社 : ミネルヴァ書房

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
講義終了後教室にて行う

子どもの食と栄養

6007
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2年
2単位　後期
児童_選択
坂元　　美子

〔到達目標〕
子どもの発育・発達に栄養は不可欠であり、必要な栄養素について理解し、その摂取方法について考察ができるようになる。

〔授業の概要〕
五大栄養素の基礎知識、健康と栄養の関係、子どもの発育発達と食事の関係について学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業内容を次の授業までにテキスト・ノートで90分程度復習しておく。
授業内容で理解しきれなかったことや疑問に思ったことは90分程度調べておく

〔授業計画〕
１、栄養の定義
２、たんぱく質の種類
３、たんぱく質の代謝
４、炭水化物の種類
５、炭水化物の代謝
６、脂質の種類
７、脂質の代謝
８、ビタミン
９、ミネラル
１０、健康と栄養
１１、疾病と栄養
１３、こどもの発育・発達と栄養
１４、食育
１５、まとめ

〔成績評価〕
授業終了後に毎回出すミニ課題100%

〔教科書〕
スポーツ・健康栄養学　化学同人　坂元美子編著

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
授業の内容について質問がある場合は、芦屋大学Phollyにコメントを送ってください。

子どもの保健

6100
臨床教育学部 > 児童教育学科
1年
2単位　前期
実務経験有
野﨑　恵子

〔到達目標〕
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病・虐待の予防及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

〔授業の概要〕
本講義では、子どもの成長・発達の正常と異常、並びに子どもを取り巻く家族・環境についての基礎を学習する。また、国の政策や子どもの権利・倫理など幅広い視点で子どもの保健を学習する。保育者養成にあたり、子どもの正常発達や疾患・異常を見極める基礎的知識であり、実践的知識へとつながるよう、グループワークを交えながら講義を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自分の受けた予防接種や乳幼児期からの成長・発達の状況について、自分の母子手帳や親から情報を集めておく（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　子どもの健康と保健の意義
健康とは何かと子どもの特徴、保健統計からみた子どもについて学ぶ
第 2 回　子どもの発育・発達と保健　運動機能の発達と保健
・各期における子どもの一般的な成長発達段階について学ぶ
・各期における子どもの運動機能（粗大運動、微細運動）の発達について学ぶ
第 3 回　生理機能の発達と保健①
第4回・第5回に分けて、各期における子どもの生理機能と発育評価について学ぶ
第 4 回　生理機能の発達と保健②
各期における子どもの生理機能と発育評価について学ぶ
第 5 回　精神機能の発達と保健
各期における子どもの精神機能（認知、情緒、社会性）の発達について学ぶ
第 6 回　子どもの食事
各期における子どもの食事と、食事の意義について学ぶ
第 7 回　地域における保健活動と児童虐待防止
現代社会における家庭の多様性への制度や虐待及びその防止策について学ぶ
第 8 回　感染症
子どもの代表的な感染症について学ぶ
第 9 回　予防接種
子どもに関する予防接種や予防接種に関する法律を学ぶ
第 10 回　子どもの貧困と子どもに関する法律について学ぶ
子どもの取り巻く環境についてや健やか親子21、母子保健法、児童福祉法について学ぶ
第 11 回　子どもの発達と事故
発達の特性上起こりやすい事故について学ぶ
第 12 回　子どもの事故と予防
子どもの事故について知り、予防について学ぶ
第 13 回　子どもの保健に関する課題
事前課題(講義内で説明を行います)についてグループワーク又はレポート提出
第 14 回　子どもの保健に関する課題
事前課題(講義内で説明を行います)についてグループワーク又はレポート提出
第 15 回　期末試験
今まで学んだことのまとめを行う
〔成績評価〕
1. A4用紙1/4程度のリアクションペーパー(毎回)…40%
2. 第13・14回　課題…30%
4. 定期試験…30%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
子どもの保健Ⅰ　佐藤益子　編著　　ななみ書房
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
病棟看護師・保育園看護師として実務経験のある教員が、保健的観点を踏まえた支援が実践できるように、教育・指導する。
〔オフィスアワー〕
メールで随時対応を行います。

子どもの健康と安全

6102

臨床教育学部 > 児童教育学科
2年
2単位　後期
実務経験有
野﨑　恵子

〔到達目標〕
1.子どもの疾病や異常症状を理解できる
2.子どもの平常状態の確認や疾病や事故、異常症状への対処法について理解できる
3.
〔授業の概要〕
本講義では、子どもを預かる保育者に必要な子どもの成長・発達に伴う、子どもに多い傷病やその対応・予防策、障がいや疾病に関する基礎知識及び対応方法を学習する。また、子どもの養護行動や事故の応急処置等を学び、保育者に必要な技術を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
適宜授業で伝える
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本講義の概要(受講上の諸注意含む)と目的・子どもの病気と異常の概論
第 2 回　子どもの健康状態を把握するフィジカルアセスメント方法
乳幼児の健康診断と健康管理について実際の測定の注意点を解説し、脈拍測定の実技実習をする
第 3 回　子どもの代表的な症状への対処方法①
発熱・熱中症について学ぶ
第 4 回　子どもの代表的な症状への対処方法②
下痢・便秘・嘔吐について学ぶ
第 5 回　子どもの代表的な症状への対処方法③
咳嗽・けいれんの対処方法について学ぶ
第 6 回　子どもに多い感染症と予防対策
感染予防策について学ぶ
第 7 回　免疫疾患と対処法
アレルギー・アナフィラキシーショック（エピペンの使い方）について学ぶ
第 8 回　子どもの精神状態・心の問題

子どもの精神状況や疾患(ADHD・うつ・チック症)について学ぶ
第 9 回　子どもの歯の健康
乳歯について、齲歯について学び、正しい歯磨きについて理解する
第 10 回　子どもの代表的なケガと急性期疾患と対処
心配蘇生法・気道内異物除去の機序と方法小児の心肺停止時のCPR法について学ぶ
第 11 回　障がいを持つ子どもと家族への関わり
障がいの概念と個別性に応じた家族への関わりについて学ぶ
第 12 回　日常に必要な養護
沐浴・入浴方法について学ぶ
第 13 回　保育における健康安全管理
保育における衛生管理・服薬管理について学ぶ
第 14 回　子どもに関する「保健知識」演習
子どもに関する「保健知識」を子ども・養育者に伝える必要性を学ぶ
グループで実際にほけんだよりを作成する。
ほけんだよりのテーマを決め、レイアウト、カットなどを考えておく
第 15 回　子どもに関する「保健知識」演習
子どもに関する「保健知識」を養育者に伝える必要性を学ぶ
グループワーク発表

〔成績評価〕
1.リアクションペーパー(毎回)...30%
2.演習/アクティブラーニングへの積極的な参加...30%
3.定期試験...40%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
子どもの保健Ⅱ　佐藤益子　編著　　ななみ書房

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
病棟看護師・保育園看護師として実務経験のある教員が、保健的観点を踏まえた支援が実践できるように、教育・指導する。

〔オフィスアワー〕
メールで随時質疑対応を行います。

多文化社会概論

2232

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
北原　速男

〔到達目標〕
日本における在留外国人数は増加しています。政府は新たに在留資格を創設し、外国人拡大施策を決定しました。
それに伴い留学生についても、大学卒業後引続き就職活動を行う「特定活動」と2019年4月入管法改正に伴い就職内定し就労開始時に申請する特定活動４６号も告示され、制度が運用されている。新たな外国人材の受入れや共生社会実現に向けた取り組みが進められています。
出入国管理政策の変遷と現状を理解し、将来国内外における日本企業、日系企業等で働く際に活躍できる人材になることを目指します。

〔授業の概要〕
国際化・グローバル化が進展するなかで、日本における外国人の出入国数も増加し、中長期にわたり在留する外国人も増加しています。外国人についての在留管理やその変遷や実際の事例に基づき日本の在留管理の特徴や諸課題について学びます。
また国・都道府県・市町村が取り組んでいる外国人受入れ政策について、各自治体により取り組みの状況は異なっている原因や課題について学びます。
さらに日本に暮らすために必要最低限の法的知識を学習することにより、危機管理的な場面での対応を解説します。
本講義は、講義とワークショップから構成しますが、コロナ渦のためオンライン講義及び月1回ＺＯＯＭを併用し講義を行うことも検討しています。
本講義は、講義受講後の課題提出により出席とみなします。講義内容により講義の順序変更もあるので理解しておいてください。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
シラバスを参考に、準備学習については毎時間告知いたします。
授業時間外にも質問等は受け付けます。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス・イントロダクション
授業の概要・目的・今後のスケジュール・評価方法・「入管白書」等のデーター分析資料などについても紹介します。
入管取次申請行政書士の資格説明・実務概要・在留資格変更申請・更新申請などについても解説します。
第 2 回　多文化社会とはなにか
日本におけるの変遷を多文化共生について（同化政策について考えます）
日本におけるアイヌ民族・琉球民族など（戸籍・言語・居住地・文化などを学習し、先住民族の権利に関する国際連合宣言との関係性についても学習します）
第 3 回　日本における出入国管理政策の変遷　その１
日本から渡航した移民の変遷を概観します。特にブラジルをはじめとする南米には多くの日本人が移民として渡航しました。特にブラジルには多数の日本人が移民として渡航しました。ブラジルをはじめとする移民の変遷を理解し、特に日系人と在留資格「定住者」との関係性、概要、多様化する諸課題について概観します。
第 4 回　日本における出入国管理政策の変遷　その２
時代の潮流に対応するように在留資格を創設してきた日本の入管政策の変遷を引き続き概観します。「永住者」「特別永住者」などの在留資格が創

設された経緯・概要などを日本の入管政策の変遷について理解を深めていきます。また帰化・二重国籍等についても概観します。

第 5 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その１
現在在留資格は29種類に分けられますが、個別の活動に基づき在留資格を付与していることから実際にはさらに細分化しています。
例えば高度専門職では同1号（イ・ロ・ハ）・同2号の4種類、特定技能では1号・2号の2種類、介護に至ってはＥＰＦによる介護の「特定活動」「技能実習」の介護従事者など多様です。
活動に基づく在留資格（就労することが出来る在留資格・就労することが出来ない在留資格）・身分又は地位に基づく在留資格に大別されていますが、在留資格や種類について理解を深め概観します。

第 6 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その２
留学生にとって卒後の進路は、極めて重要と考えます。日本での就職、日本以外の国で活動するのか、あるいはさらに進学するなど、卒業後の進路は多様です。
そこで日本社会が求めている人材について「技術・人文・国際業務」「高度専門職」「特定活動46号」等について解説します。在留資格「留学」について、在留資格変更申請を行う際の留意点、特に引き続き就職活動を行う「特定活動」などを中心に解説し飛躍するための理解を深めます。

第 7 回　出入国管理政策におかる在留資格の現状　その３
留学生の進路が決定し内定後には、「留学」から他の在留資格変更申請を行いますが、大多数が「技術・人文・国際業務」に変更になっています。しかし在留資格「技術・人文・国際業務」は、「技術」「人文知識」「国際業務」に分けられます。その延長上にある高度人材を受け入れる「高度専門職」など関連する在留資格についても学習し事例に基づき概観します。

第 8 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その４
2017年「技能実習法」が施行されました。日本は技能実習生を抜きにしては農業・水産業・製造業などの産業が成立しない状況下にあります。労働力として日本に来日している技能実習生を受け入れている法律「技能実習法」及び「技能実習制度」の法的理解や変遷について解説します。さらに諸外国の同様の制度についても概観し、送出し機関・監理団体・法的根拠・課題などについて検討していきます

第 9 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その５
特定技能1号・2号が創設され制度が動き始めました。留学生も今後何らかの形で関連する仕事に就く可能性もあると思料することから制度の概要を理解し概観します。特定技能制度は、深刻化する人手不足に対応するため、生産性向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野（14業種）で一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れていくというものです。どんな業種が14業種なのか、なぜ人材不足なのか「特定技能」を概観します。

第 10 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その６
これまで学習してきた在留資格以外の「日本人配偶者等」「短期滞在」「経営・管理」などの一般的な在留資格について、事例に基づきながらを検討し理解を深めます。また、在留資格は時代の変化や国の在り方によって統合・創設など行われてきています。安全安定を確保しつつ健全な発展を図るためにはどのようなことが必要か考察します。

第 11 回　日本における出入国管理政策の現状
国際間の人の移動が活発化に伴い在留形態が多様化するなかで、不法滞在、不法就労、偽装滞在の防止など適正な在留の確保などが求められます。また難民・避難民の庇護も在留管理行政として求められることから、難民・避難民の庇護についても法的な枠組みを理解し、仕組みについて理解を深めます。

第 12 回　日本における多文化共生への取り組み
居住している外国人と身近に接するのは基礎自治体（市区町村）です。基礎自治体（市区町村）は人口規模・財政規模も多様ですが、外国人を多く受け入れている基礎自治体（市区町村）は差し迫った課題に直ちに取り組んできています。
そうした基礎自治体（市区町村）における多文化共生への取り組みについて事例を紹介し、今後の多文化共生についての取り組みや課題を検討します。

第 13 回　日本で暮らす法的理解
外国人の受入れに伴い、言語・慣習・文化などの違いにより軋轢が生じることがあります。そうした日常生活において刑事・民事を問わず事件に巻き込まれた際の対応について解説します。
警察・検察庁・弁護士制度（国選弁護士）など国の刑事手続きについてや民事事件についても、結婚・離婚など「日本人配偶者等」の在留資格との関係を事例を交えて解説し、さらに弁護士を活用する際の法テラスについても解説する。
また今後キャリアアップのためには何をすべきか、また必要なことは何かなど議論を深めます。

第 14 回　日本で暮らすこと（体験から）
日本在住の外国人の体験や経験を視聴します。体験者の都合により本講義は講義日程が変更されることもあるので承知しておいてください。
聴取後、テーマに即して課題について掘り下げ、ディスカッションを通じて自分の考えを論述し、問題の把握力・分析力及び表現力を身に付けます。

第 15 回　まとめ
全講義をまとめてレポートを作成します。

〔成績評価〕
授業に対する関心、意欲、態度、質問、課題提出などを総合的に判定して評価します。
〔教科書〕
特になし
授業中に適宜資料を配布します。
〔参考文献〕
「入管白書」出入国管理庁
「入管法の実務」山脇泰嗣著　新日本法規
その他、資料は講義中に伝えます。
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
講義の中でメールアドレスを記載し、質問には適宜答えます。また身近な自身を問わず質問したいことがあれば遠慮なく連絡可能です。

英語Ⅲ⑥

2506

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位
山片　崇嗣

〔到達目標〕
・英語文献等を読むための基本的な英語力を養う。
・基本的な文法や語法を再確認し、英文構造の理解を定着する。
・様々な場面に応じたコミュニケーション力を高める。
〔授業の概要〕
・各章ごとに文法・語法事項の解説と問題を通じて、理解、定着、発展を深める。

※感染症対策等の理由からLMS授業になる場合もあります。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
到達目標に達するために、各章の文法事項を事前に予習し、効果的に授業の理解を目指す。また、授業後の復習を通じて、定着、発展を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の目的・方針、評価方法などの紹介。

第 2 回　第16章　接続詞①
　　・等位接続詞
　　・従位接続詞

第 3 回　第16章　接続詞②
　　接続詞のさまざまな表現

第 4 回　第17章　関係詞①-1
　　・関係代名詞の限定用法
　　・関係代名詞の継続用法

第 5 回　第17章　関係詞①-2
　　・前置詞+関係代名詞
　　・関係代名詞+S+V

第 6 回　第18章　関係詞②-1
　　・関係副詞
　　・関係形容詞

第 7 回　第18章　関係詞②-2
　　・複合関係詞
　　・疑似関係代名詞

第 8 回　第９章　名詞・冠詞①
　　・名詞の種類
　　・可算名詞と不可算名詞

第 9 回　第９章　名詞・冠詞②
　　・定冠詞と不定冠詞
　　・冠詞の位置とさまざまな表現

第 10 回　第19章　さまざまな構文①
　　・強調構文
　　・否定表現

第 11 回　第19章　さまざまな構文②
　　・倒置表現
　　・さまざまな構文例

第 12 回　第20章　動詞の語法
　　・パターン別用法

第 13 回　第21章　名詞・形容詞の語法
　　・パターン別用法

第 14 回　前期授業のまとめ
第 15 回　定期考査
〔成績評価〕
１．授業参加度・課題
２．定期試験
〔教科書〕
「入門　英文法　問題精講　４訂版」（旺文社）
その他、必要に応じてプリント等を配布します。
〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領（最新版）
中学校　英語テキスト
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
時間：授業開始前の10分間
場所：教室または講師控室

保育実習事前事後指導Ⅰ-2

6005

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
木下　　隆志　武並　朋美

〔到達目標〕
・保育実習の意義・目的を説明することができる。
・施設の子どもたちを想定し、問題を解決するための方法を身につけることができる。
・コミュニケーションスキルを身につけ、意欲的に子どもたちと関わることができる。
・実習の計画・実践に積極的に取り組み、自ら考える態度を身につける。
・「実習日誌」や「保育指導案」の書き方を身につける
〔授業の概要〕
施設保育の目的・内容・方法が施設の現場でどのように実践されているかを学ぶため事前指導を行う。保育現場で対応できる実践力、実習日誌や実習指導案の書き方、手遊び、製作、読み聞かせの方法、子どもの年齢別発達の特徴、実習に対する心構えなどを身に付ける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
実習記録の書き方、模擬保育内容は事前の作成が必要となります。
課題は実習記録（前半5回90分～120分）と模擬保育の素案作成（後半90分～120分）です。
〔授業計画〕
第 1 回　施設実習の意義・目的と内容
施設実習の意義や目的・内容を理解し自己課題を明らかにする。
第 2 回　実習施設の概要について
実習を行う施設の概要、社会的役割、機能等を学ぶ
第 3 回　実習記録の書き方①
実習記録の基本的な書き方を理解する
第 4 回　実習記録の書き方②
保育のDVDを通し、実習記録を作成する
第 5 回　学内オリエンテーション
学内オリエンテーションに参加し、実習までの流れを理解し諸手続きを行う
第 6 回　保育指導案の書き方①
保育指導案の基本的な書き方を理解する
第 7 回　保育指導案の書き方②
教材研究し、乳幼児の発達に合わせた実習指導案を作成する
第 8 回　模擬保育の発表①
模擬保育を行い、他者の保育の見学や討論を通して省察し、改善点を検討する

第９回 模擬保育の発表②
模擬保育を行い、他者の保育の見学や討論を通して省察し、改善点を検討する

第10回 実習の心がまえと諸注意
実習前に実習の心構えと諸注意を確認し、実習に向かう意欲を高める
〔成績評価〕
筆記試験　　３０％
提出物　　３０％
模擬保育　　３０％
授業への取り組み姿勢　　１０％
実習事前事後指導を欠席すると実習への意欲が一気に低下します。
実習先は子どもが生活する場所で行われます。職員は子どもを守ること、向き合うことで懸命です。その厳しい中にやさしさと楽しさを見つけられる専門職としての資質を磨くことが求められます。よって模擬保育への熱意、授業態度を重視します。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
適宜資料を配布する

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
時間：後期　水曜日13:50～15:20
場所：教員の研究室
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ってください

演習Ⅰ【保育・幼児教育学】

8341

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
大江　　まゆ子

〔到達目標〕
・保育への諸問題に関する問題意識と知識を持つ。
・多面的な視点から、思考、判断する態度を身につける。
・他者の意見に耳を傾け、生産的に意見交換することができる。
・自らの関心を積極的に探究し、考えをまとめ、わかり易く伝えることに面白さを感じ、効果的に伝える力を身につける。
〔授業の概要〕
保育者を志す者として、子ども、保育にかかわる諸問題に問題意識を持ち、自らの研究テーマを設定する。研究テーマ設定までには、あるテーマを定めて意見交換を行う等、学び合う雰囲気を大事に進めていく。テーマ設定の後、研究計画を立て、論文作成を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
子ども、保育に関する諸問題に関心を持ち、自分が卒業研究として取り上げたいテーマについて、考えておく。
共通テーマに関する文献を読み込み、理解を深め、問題意識を持つ。
個人発表に向け、レジュメ作成を行う。
研究テーマ設定後は、先行研究、文献等を集め、読み込む。
〔授業計画〕
第 1 回　論文作成の基礎とゼミの進め方について
自分が卒業研究として取り上げたいテーマとその理由について述べ、意見交換を行う。
第 2 回　共通研究テーマの設定
みんなで考えたいテーマについて意見交換し、読みたい文献について話し合う。
第 3 回　共通研究テーマに関する発表
共通テーマに関する文献を読み込み、担当者はレジメを作成し発表を行う。その後、意見交換しながら理解を深める。
第 4 回　共通研究テーマに関する発表
共通テーマに関する文献を読み込み、担当者はレジメを作成し発表を行う。その後、意見交換しながら理解を深める。
第 5 回　共通研究テーマに関する発表
共通テーマに関する文献を読み込み、担当者はレジメを作成し発表を行う。その後、意見交換しながら理解を深める。
第 6 回　共通研究テーマに関する発表
共通テーマに関する文献を読み込み、担当者はレジメを作成し発表を行う。その後、意見交換しながら理解を深める。
第 7 回　共通研究テーマに関する発表
共通テーマに関する文献を読み込み、担当者はレジメを作成し発表を行う。その後、意見交換しながら理解を深める。
第 8 回　共通研究テーマに関する発表
共通テーマに関する文献を読み込み、担当者はレジメを作成し発表を行う。その後、意見交換しながら理解を深める。
第 9 回　研究テーマの設定と先行文献の探し方
研究テーマを設定し、先行研究の探し方とまとめ方について学ぶ。
第 10 回　研究テーマに基づく研究計画について
子ども、保育に関する諸問題に関心を持ち、研究テーマを設定し、何についてどのように調べるのかを考え、研究計画を立てる。
第 11 回　研究テーマに基づく研究計画について
子ども、保育に関する諸問題に関心を持ち、研究テーマを設定し、何についてどのように調べるのかを考え、研究計画を立てる。
第 12 回　研究テーマに基づく研究計画について
子ども、保育に関する諸問題に関心を持ち、研究テーマを設定し、何についてどのように調べるのかを考え、研究計画を立てる。
第 13 回　先行文献調査
設定した研究テーマに関する先行文献を調査し、まとめる。
第 14 回　先行文献調査
設定した研究テーマに関する先行文献を調査し、まとめる。
第 15 回　進捗状況の報告、個人発表
各自、研究の進捗状況の報告を行う。資料を作成し、個人発表をする。様々な視点から意見交換を行い、各自の論文作成に反映させる。
〔成績評価〕
ゼミへの取り組み姿勢（60%）、発表時の取り組み姿勢・提出資料等（40%）
〔教科書〕
特に指定しないが、ゼミ内で読み進める文献を共通の関心テーマに応じて、話し合いのうえ、決定する。
〔参考文献〕
適宜、紹介する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
関心に応じ、保育現場での体験的な学びを得る機会を設ける。
〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、各教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で担当教員に必ずアポイントメントを取ること。

演習Ⅰ【保育・幼児教育学】

8341

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
大江　　まゆ子

〔到達目標〕
・保育への諸問題に関する問題意識と知識を持つ。
・多面的な視点から思考、判断する態度を身につける。
・他者の意見に耳を傾け、生産的に意見交換することができる。
・自らの関心を積極的に探究し、考えをまとめ、わかり易く伝えることに面白さを感じ、効果的に伝える力を身につける。
〔授業の概要〕
保育者を志す者として、子ども、保育にかかわる諸問題に問題意識を持ち、自らの研究テーマを設定する。研究テーマ設定までには、あるテーマを定めて意見交換を行う等、学び合う雰囲気を大事に進めていく。テーマ設定の後、研究計画を立て、論文作成を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
子ども、保育に関する諸問題に関心を持ち、自分が卒業研究として取り上げたいテーマについて、考えておく。
共通テーマに関する文献を読み込み、理解を深め、問題意識を持つ。

個人発表に向け、レジュメ作成を行う。
研究テーマ設定後は、先行研究、文献等を集めて読み込むことを通して、研究課題を明確化させていく。

〔授業計画〕

第 1 回　後期ゼミの進め方について
後期ゼミの進め方について確認し、休み中の研究の進捗状況を報告する。

第 2 回　興味深い先行研究の発表
各自が調べている先行研究の中から、最も興味深かった研究および文献について、発表を行い、意見交換をする。

第 3 回　興味深い先行研究の発表
各自が調べている先行研究の中から、最も興味深かった研究および文献について、発表を行い、意見交換をする。

第 4 回　興味深い先行研究の発表
各自が調べている先行研究の中から、最も興味深かった研究および文献について、発表を行い、意見交換をする。

第 5 回　研究課題の明確化と研究計画の見直し
ゼミ内での議論やこれまでの調査に基づき、研究の目的を明確化させ、それに伴い研究計画を練り直す。順調に進んでいる者は、そのまま進めていく。

第 6 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。

第 7 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。

第 8 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。

第 9 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。

第 10 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。

第 11 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。

第 12 回　中間発表の準備
中間発表に向けて資料作成等、準備を行う。

第 13 回　中間発表の準備
中間発表に向けて資料作成等、準備を行う。

第 14 回　中間発表の準備
中間発表に向けて資料作成等、準備を行う。

第 15 回　中間発表
各自がこれまでに調べてきた内容について、資料とパワーポイントを作成し、中間発表を行う。互いの発表について感じたことを伝え合い、学び合う。

〔成績評価〕
ゼミへの取り組み姿勢（60%）、発表時の取り組み姿勢・提出資料等（40%）

〔教科書〕
特に指定しない

〔参考文献〕
適宜、紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
関心に応じ、保育現場での体験的な学びを得る機会を設ける。

〔オフィスアワー〕
後期、水曜日　12：10〜13：40、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で担当教員に必ずアポイントメントを取ること。

演習Ⅰ【乳幼児体験教育】

8342

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
大谷　　彰子

〔到達目標〕
子どもの環境や保育の現状について知識を身につける。
自らの研究テーマについて説明し意見を述べることができる。
保育に関する自己課題をあげ積極的に探究することができる。
研究テーマに関して、自ら調査し考える姿勢を身に付ける。
興味あるテーマから体験、見学したい保育施設等を調べ、保育者の視点で連絡、企画、準備を行って体験し、学びを振り返り省察をすることで、保育観と保育実践力を身に付ける。

〔授業の概要〕
保育や乳幼児に関する興味や疑問を基に、行いたい体験学習をグループで企画、準備、実践、省察し、よりよい保育を追求しようとする姿勢と保育実践力を身に付ける。また、保育を通して社会貢献できる活動を企画工夫し、社会の一員として地域と繋がる経験から学びを深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
研究テーマに関する資料等を読み、まとめ、次週発表するための資料を作成する。
体験学習のための保育施設等を調べ、施設と連絡、企画、準備を行い、体験後には、学びを振り返り省察をまとめる。

〔授業計画〕

第 1 回　ゼミのオリエンテーション
ゼミの進め方、論文を作成するまでの流れについて把握する。

第 2 回　幼児教育、保育に関する興味、課題について

保育や子どもに関する興味関心について、発表、共有を行う。
第 3 回　幼児教育、保育に関する興味、課題について
保育や子どもに関する興味関心について、発表、共有を行う。
第 4 回　体験学習の企画
研究したいテーマに沿った保育現場などへの見学を企画、準備、施設への連絡調整し、ゼミ生全員に説明、共有する。
第 5 回　体験学習の企画
研究したいテーマに沿った保育現場などへの見学を企画、準備、施設への連絡調整し、ゼミ生全員に説明、共有する。
第 6 回　体験学習の企画
研究したいテーマに沿った保育現場などへの見学を企画、準備、施設への連絡調整し、ゼミ生全員に説明、共有する。
第 7 回　体験学習の企画
研究したいテーマに沿った保育現場などへの見学を企画、準備、施設への連絡調整し、ゼミ生全員に説明、共有する。
第 8 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。
第 9 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。
第 10 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。
第 11 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。
第 12 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。
第 13 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。
第 14 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。
第 15 回　中間発表
これまでの研究や体験からの学びを発表し、今後の研究テーマの方向性について検討を行う。

〔成績評価〕
ホームワーク提出物　30%
授業内提出物　　20%
授業への取り組み姿勢　50%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
時間：前期　水曜日13：50～15：20
場所：研究室２（201教室の前）
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ること。

演習Ⅰ【乳幼児体験教育】

8342

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
大谷　　彰子

〔到達目標〕
子どもの環境や保育の現状について知識を身につける。
自らの研究テーマについて説明し意見を述べることができる。
保育に関する自己課題をあげ積極的に探究することができる。
研究テーマに関して、自ら調査し考える姿勢を身に付ける。
興味あるテーマから体験、見学したい保育施設等を調べ、保育者の視点で連絡、企画、準備を行って体験し、学びを振り返り省察をすることで、保育観と保育実践力を身に付ける。
保育現場での学びから、保育を通して社会貢献しようとする意識を身に付ける。
〔授業の概要〕
保育や乳幼児に関する興味や疑問を基に、行いたい体験学習をグループで企画、準備、実践、省察し、よりよい保育を追求しようとする姿勢と保育実践力を身に付ける。また、保育を通して社会貢献できる活動を企画工夫し、社会の一員として地域と繋がる経験から学びを深める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
研究テーマに関する資料等を読み、まとめ、次週発表するための資料を作成する。
体験学習のための保育施設等を調べ、施設と連絡、企画、準備を行い、体験後には、学びを振り返り省察をまとめる。
〔授業計画〕
第 1 回　夏期休暇中の研究発表
これまでの研究や体験からの学びを発表し、今後の研究について具体的に検討を行う。
第 2 回　後期の研究計画作成

興味を持った研究テーマを深めるための体験学習や、調査、研究方法について、文献、先行研究から学び、研究計画を作成する。

第 3 回　後期の研究計画作成
興味を持った研究テーマを深めるための体験学習や、調査、研究方法について、文献、先行研究から学び、研究計画を作成する。

第 4 回　体験学習の企画
研究したいテーマに沿った保育現場などへの見学を企画し、準備、施設への連絡調整を行い、ゼミ生全員に説明し共有する。

第 5 回　体験学習の企画
研究したいテーマに沿った保育現場などへの見学を企画し、準備、施設への連絡調整を行い、ゼミ生全員に説明し共有する。

第 6 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。

第 7 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。

第 8 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。

第 9 回　体験学習と振り返り
保育者の視点で、保育現場を見学、参加実習することで経験知とし、保育に関する視野を広げ、子ども観、保育観を醸成していく。

第 10 回　研究テーマの絞り込み
これまでの体験学習や文献などから探求したい研究テーマを挙げ、議論をしながら内容を絞り込んでいく。

第 11 回　研究テーマの絞り込み
これまでの体験学習や文献などから探求したい研究テーマを挙げ、議論をしながら内容を絞り込んでいく。

第 12 回　研究テーマの発表
探求したいテーマについて、具体的内容を含め発表を行う。

第 13 回　次年度の研究計画作成
テーマに即した先行研究を読み、論文作成に向けての研究計画を作成する。

第 14 回　次年度の研究計画作成
テーマに即した先行研究を読み、論文作成に向けての研究計画を作成する。

第 15 回　次年度の研究計画発表
論文作成に向け作成した研究計画を発表し、議論を通して見直しと次年度開始までに行う内容をまとめる。

〔成績評価〕
ホームワーク提出物　30%
授業内提出物　　20%
授業への取り組み姿勢　50%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
時間：前期　水曜日13：50～15：20
場所：研究室２（201教室の前）
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ること。

教室英語

3248

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
小学校の英語活動や授業で教師が使う教室英語の練習をしながら、教師に必要な英語力の基礎を培い、自発的な英語学習につなげていくものとする。

〔授業の概要〕
教科書にある英語を学習しながら、実際に具体的なゲームや授業の場面を想定しながら、英語を使う練習を個人、ペア、グループで行っていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業後の復習（90分）と次時の授業の予習（90分）を継続して取り組むものとする。

〔授業計画〕

第 1 回　ALT’s First Visit to Elementary School
ALTと初めて出会った時の基本となる英語を学修する。
自己紹介をしたり、小学校の紹介などに必要な英語を練習する。

第 2 回　Getting to Know Each Other
ALTの出身国や文化背景に関する英語に触れながら、教師自身の出身地や日本についての簡単な説明ができるように練習する。

第 3 回　School Lunch
学校給食に関する英語を整理し、献立や給食の取り方などを英語で説明するための基本練習をする。

第 4 回　Play Time
ALTと休憩時間を過ごすという設定で、ペアやグループで会話練習をする。

児童がするであろう遊びに関する英語表現を考える。

第 5 回　The First English Class
6年生の授業にALTが初めて参加したという設定を軸に、ほめ言葉を整理し、会話実践をする。

第 6 回　Teaching Numbers
数を使ったゲームや英語を具体的な授業場面を想定し、英語の実践練習をする。

第 7 回　Teaching Numbers 2
前時の続きで、英語表現に慣れ親しみながら、数字に関するゲームのバリエーションを考え、グループ交流を行う。

第 8 回　Reflection
授業の振り返りに焦点をあて、その意味やReflection Cardの例をもとに授業の評価に必要な英語の基本を整理する。

第 9 回　Activity at a Kindergarten
幼稚園での英語活動を想定し、TPRの具体例などの実践練習をする。

第 10 回　Growing Plans
CLIL(内容言語統合型学習）の具体例として、理科の授業を英語で進めていくために必要な英語を整理する。

第 11 回　Making Onigiri and Curry
家庭科の授業を想定し、簡単な料理の手順などを英語で説明したり、動作表現に必要な英語を整理する。

第 12 回　Making a Town Map
社会科の授業と統合した授業を想定し、地図や道順に関する英語の実践練習をする。

第 13 回　Introducing Japanese Culture
日本の文化や習慣を簡単な英語で紹介する練習を通して、日本の特色を考察し、相互交流を行う。

第 14 回　Evacuation Drills
避難訓練を想定し、必要な動作や必要な英語表現を整理し、練習する。

第 15 回　Graduation
卒業式の場面を想定し、最後の授業や小学校での思い出を簡単に表現する練習を行う。

〔成績評価〕
授業への意欲・態度　20％　　授業内の確認テスト　20％　　定期試験　60％

〔教科書〕
Hello,English (English for Teachers of Children) SEIBIDO
小学校学習指導要領解説　外国語編（平成29年３月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜紹介する

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　　研究室11

家庭支援論

1020

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
大江　　まゆ子

〔到達目標〕
・家庭は子どもの発達にとって最も基礎的な集団であると同時に、子どもは家族以外の多様な社会化作用を受けて発達することを説明することができる。
・子育て家庭に対する支援体制と保育の専門性を活かした家庭支援の意義を社会全体のあり方と関連付けて考察する視点を獲得する。
・現代の子育て困難家庭に対する有効なアプローチを文献やインターネットによって調べ、意見交流することにより考えを広げ、多様な子育て家庭の問題に関心を示す。

〔授業の概要〕
少子化・高齢化・核家族化・共働きの増加など社会の変化に伴い、家族・家庭のあり方が大きく変化している。本講義では、子どもの人間形成の視点から、子どもの成長に重要な環境となる家庭をめぐる諸問題をテーマとし、保育士に求められる子育て家庭支援のあり方について考える。
子どもの育ちの場として重要な役割を果たす家庭をめぐる現代的な課題とその課題の解決方法を学習者同士が話し合い、意見をまとめて発表することを求める。その過程で各自が保育士に求められる家庭支援についての考察を深め、多面的な視点から子どもの育ちを保障する社会と社会を構成する自らのあり方について考えを深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】120分
家庭支援に関する今日的課題とそれに対する取り組みついて授業内発表を求める。そのため、資料を収集してレポート作成を行い、事前に提出すること。
また、授業内でグループワークを行うため、日頃から新聞、テレビなどで報道される家族や子どもに関する今日的課題、および書籍等で取り上げられる家族像といった多様な家族、子どもについての記事に関心を持ち、保育の専門性を活かした家庭支援に対する考えを深めておくこと。
【復習】120分
授業内の内容を整理し、関心を抱いた点について情報を収集し、保育士に求められる家庭支援に対する発展的学習を行うこと。

〔授業計画〕
第 1 回　子どもの発達と家庭教育
家庭の機能と子どもの発達の関係について理解を深める。

第 2 回　家庭の定義・意義・機能
子どもの社会化の場と家庭の意義について学習する。

第 3 回　家庭における子どもの発達
家庭支援ニーズの高まりと背景にあるものへの理解を深め、現代の家庭における子育ての課題を考える。
第 4 回　男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス
日本が目指す男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランスについて学習する。
第 5 回　多様な家族形態と家庭の役割を考える
子どもを取りまく現代社会の課題である少子化、児童虐待の問題を取り上げ、里親制度や特別養子縁組など多様な家族形態についての理解を深める。
第 6 回　現代の子育て困難家庭へのアプローチを考える(1)
児童虐待に至るプロセスに対する理解を深める。その上で児童虐待へのエスカレーションサイクルを断ち切る有効な取り組みについて、各自、考察する。
第 7 回　現代の子育て困難家庭へのアプローチを考える(2)
児童虐待へのエスカレーションサイクルを断ち切る有効な取り組みに対する各自の考えを持ち寄り、課題解決に向けての具体的取り組みを話し合い、プレゼンテーションを行う。
第 8 回　親子関係と子どもの自我形成
子どもの自我形成のプロセスに対する理解を深め、子どもの育ちと親子関係について考える。
第 9 回　子育て家庭の福祉を図るための社会資源
子育て家庭の福祉を図る様々な社会資源についての理解を深める。
第 10 回　ひとり親家庭と子どもの生活
ひとり親家庭の子育て・生活支援についての理解を深め、子どもの育ちを守る社会資源と様々な取り組みについて考える。
第 11 回　児童虐待のメカニズム
児童虐待を引き起こす様々な要因を知り、支援の方法について考える。
第 12 回　社会の変化と家庭支援
子どもの育ちを社会環境から捉える視点をもち、家庭の機能について考える。
第 13 回　育児環境の変化と育児支援（1）　都市環境おける子育て
都市における育児環境の変化への理解に基づき、育児支援を行う者に求められる姿勢について学習する。
第 14 回　育児環境の変化と育児支援（2）子育ての現代的課題と地域の子育て支援環境を考える
子育てをめぐる現代的課題について各自が考えたことをもとに話し合い、地域に求められる子育て支援環境を考える。
第 15 回　「子育て困難」時代と家庭支援の問題
これまで学習してきたことを踏まえ、多様な家庭のあり方と子どもの最善の利益の保障の関連について考察する。

〔成績評価〕
レポート作成（60%）、提出物（10%）、授業内発表（10%）、授業への取組姿勢（20%）
〔教科書〕
伊藤嘉余子、野口啓示編著『家庭支援論』ミネルヴァ書房
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
資格取得希望者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
後期、水曜日　12：10～13：40、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

演習Ⅱ【保育・幼児教育学】

8474

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
大江　　まゆ子

〔到達目標〕
・保育への諸問題に関する問題意識と知識を持つ。
・多面的な視点から思考、判断する態度を身につける。
・他者の意見に耳を傾け、生産的に意見交換することができる。
・自らの関心を積極的に探究し、調べたことに基づいて考えをまとめ、論理的に伝える力を身につける。
〔授業の概要〕
保育者を志す者として、子ども、保育にかかわる諸問題に問題意識を持ち、自らの研究テーマを設定する。設定した研究テーマと研究計画に基づき、論文作成を行う。通常のゼミや中間発表での意見交換により、学び合う雰囲気を大事に進めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
設定した研究テーマ、研究計画に基づき、先行文献の調査や論文作成に必要な調査の実施に向けた準備を行う。調査結果に基づき、論文の完成に向けて執筆を行う。
研究発表のための配布資料、原稿作成を行う。
〔授業計画〕
第 1 回　4年次のゼミの進め方について
ゼミの進め方について確認し、休み中の研究の進捗状況を報告する。
第 2 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 3 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 4 回　論文作成

研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 5 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 6 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 7 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 8 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 9 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 10 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 11 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 12 回　中間発表の準備
中間発表に向けて資料作成等、準備を行う。
第 13 回　中間発表の準備
中間発表に向けて資料作成等、準備を行う。
第 14 回　中間発表の準備
中間発表に向けて資料作成等、準備を行う。
第 15 回　中間発表
各自がこれまでに調べてきた内容について、資料とパワーポイントを作成し、中間発表を行う。互いの発表について感じたことを伝え合い、学び合う。

〔成績評価〕
ゼミへの取り組み姿勢（60%）、発表時の取り組み姿勢・提出資料等（40%）

〔教科書〕
特に指定しない。

〔参考文献〕
適宜、紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
前期、水曜日　12：10～13：40、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で担当教員に必ずアポイントメントを取ること。

演習Ⅱ【保育・幼児教育学】

8474

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
大江　　まゆ子

〔到達目標〕
・保育への諸問題に関する問題意識と知識を持つ。
・多面的な視点から思考、判断する態度を身につける。
・他者の意見に耳を傾け、生産的に意見交換することができる。
・自らの関心を積極的に探究し、調べたことに基づいて考えをまとめ、論理的に伝える力を身につける。

〔授業の概要〕
保育者を志す者として、子ども、保育にかかわる諸問題に問題意識を持ち、自らの研究テーマを設定する。設定した研究テーマと研究計画に基づき、論文作成を行う。通常のゼミや研究発表での意見交換により、学び合う雰囲気を大事に進めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
設定した研究テーマ、研究計画に基づき、先行文献の調査や論文作成に必要な調査の実施に向けた準備を行う。調査結果に基づき、論文の完成に向けて執筆を行う。研究発表のための配布資料、原稿作成を行う。

〔授業計画〕
第 1 回　後期ゼミの進め方について
後期ゼミの進め方について確認し、休み中の研究の進捗状況を報告する。
第 2 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 3 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 4 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 5 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 6 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 7 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 8 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 9 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 10 回　論文作成

研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 11 回　論文作成
研究計画に基づき、各自、主体的に論文作成を進める。
第 12 回　研究発表の準備
研究発表に向けて資料作成等、準備を行う。
第 13 回　研究発表の準備
研究発表に向けて資料作成等、準備を行う。
第 14 回　研究発表
各自がこれまでに調べてきた内容について、資料とパワーポイントを作成し、研究発表を行う。互いの発表について感じたことを伝え合い、学び合う。
第 15 回　研究発表
前回の発表を踏まえて、各自が資料およびパワーポイントを修正し、再度、研究発表を行う。互いの発表について感じたことを伝え合い、学び合う。

〔成績評価〕
卒業論文（80%）、ゼミおよび発表時の取り組み姿勢・提出資料等（20%）

〔教科書〕
特に指定しない。

〔参考文献〕
適宜、紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
後期、水曜日　12：10〜13：40、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

演習Ⅱ【乳幼児体験保育】

8475

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
大谷　彰子

〔到達目標〕
個々の研究について、その研究方法・内容を共有・討議しながら研究を進め、卒業論文を完成させる。
論文作成を通じて、問題意識を深め、知識を広げ、論理的思考力を向上させる。
仲間との協力・討議を通じて共同で課題を追求する楽しさを経験する。
自分の研究を客観視し、他者の研究を評価する力を育てる。

〔授業の概要〕
随時先行研究や文献研究の分析をレポートにまとめ、発表し、討論する。
月に１回は研究発表し、他者からの意見も踏まえ自分の研究を捉え直し、他者の研究を評価する力を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
研究テーマに関する資料等を読み、まとめ、発表するための資料を作成する。（60分）
フィールドワークのデータを検証し、文章化し成果を蓄積していく。（60分）

〔授業計画〕
第 1 回　研究計画の見直し
春季休業中の研究成果を発表し、研究計画書を作成する。
第 2 回　論文の章立てを作成（1）
研究テーマに沿って、論文の章立てを作成する。
第 3 回　論文の章立てを作成（2）
研究テーマに沿って、論文の章立てを作成する。
第 4 回　先行研究の収集・分析とまとめ（1）
先行研究を収集・分析、まとめることで課題を明らかにしていく。
第 5 回　先行研究の収集・分析とまとめ（2）
先行研究を収集・分析、まとめることで課題を明らかにしていく。
第 6 回　先行研究の収集・分析とまとめ（3）
先行研究を収集・分析、まとめることで課題を明らかにしていく。
第 7 回　第1回研究発表
これまでの研究成果をもとに資料を作成、発表し、討論することで、自己の研究課題を深めていく。
第 8 回　データ分析指導（1）
フィールドワークのデータを検証し、資料を作成、文章化し成果を蓄積していく。
第 9 回　データ分析指導（2）
フィールドワークのデータを検証し、資料を作成、文章化し成果を蓄積していく。
第 10 回　データ分析指導（3）
フィールドワークのデータを検証し、資料を作成、文章化し成果を蓄積していく。
第 11 回　第2回研究発表
これまでの研究成果をもとに資料を作成、発表し、討論することで、自己の研究課題を深めていく。
第 12 回　論文作成（個人指導）
各自の研究計画に沿って個別指導を行う。
第 13 回　論文作成（個人指導）
各自の研究計画に沿って個別指導を行う。
第 14 回　論文作成（個人指導）
各自の研究計画に沿って個別指導を行う。
第 15 回　第3回研究発表・夏季休暇中の課題

これまでの研究成果をもとに資料を作成、発表し、討論することで、自己の研究課題を深めていく。夏季休暇中の課題を決定する。

〔成績評価〕
ゼミ活動への参加姿勢　50点
研究成果の資料・論文　50点

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
時間：前期　水曜日13：50～15：20
場所：研究室２（201教室の前）
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ること。

演習Ⅱ【乳幼児体験保育】

8475

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
大谷　　彰子

〔到達目標〕
個々の研究について、その研究方法・内容を共有・討議しながら研究を進め、卒業論文を完成させる。
論文作成を通じて、問題意識を深め、知識を広げ、論理的思考力を向上させる。
仲間との協力・討議を通じて共同で課題を追求する楽しさを経験する。
自分の研究を客観視し、他者の研究を評価する力を育てる。

〔授業の概要〕
主体的計画的に研究を進め、自分の研究・学びの過程と成果を論文という形でまとめる。
基本的には個人作業になるが、月に１回はゼミの中で発表、共有し、討論しながら自分の研究を捉え直していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
研究テーマに関する資料等を読み、まとめ、発表するための資料を作成する。(90分)
フィールドワークのデータを検証し、文章化し成果を蓄積していく。(90分)

〔授業計画〕
第 1 回　夏季休暇中成果の発表
夏季休暇中の研究成果を発表、討論し、今後の研究計画を見直す。
第 2 回　論文作成（個人指導）
各自の研究計画に沿って個別指導を行う。
第 3 回　論文作成（個人指導）
各自の研究計画に沿って個別指導を行う。
第 4 回　第1回研究発表
これまでの研究成果をもとに発表・討論を行い、自己の研究課題を深めていく。
第 5 回　論文作成（個別指導）
各自の研究計画に沿って個別指導を行う。
第 6 回　論文作成（個人指導）
各自の研究計画に沿って個別指導を行う。
第 7 回　論文作成（個人指導）
各自の研究計画に沿って個別指導を行う。
第 8 回　第2回研究発表
これまでの研究成果をもとに発表・討論を行い、自己の研究課題を深めていく。
第 9 回　論文作成（個人指導）
各自の研究計画に沿って個別指導を行う。
第 10 回　論文完成①個別指導（ゼミ内提出と修正）
論文を完成させ、内容を検討し修正し仕上げる。
第 11 回　論文完成②個別指導（ゼミ内提出と修正）
論文を完成させ、内容を検討し修正し仕上げる。
第 12 回　ゼミ内論文発表
完成論文について、ゼミ内にて発表を行う。
第 13 回　論文発表準備①
論文発表のための論文要旨を作成し、レジュメ作成を行う。
第 14 回　論文発表準備②
論文発表のための論文要旨を作成し、レジュメ作成を行う。
第 15 回　論文発表準備③・ゼミの総括
論文発表のための論文要旨とレジュメ作成を行い、ゼミの総括をする。

〔成績評価〕
ゼミ活動への参加姿勢　50点
研究成果の資料・論文　50点

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
時間：後期　水曜日13：50～15：20
場所：研究室２（201教室の前）
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ること。

保育実習事前事後指導Ⅰ-1

6010

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
大谷　　彰子　武並　朋美

〔到達目標〕
【事前指導】
①保育実習の意義・目的・内容について理解する。
②実習の中で意欲的に学ぶ姿勢と実習記録の書き方を身につける。
【事後指導】
①実習先での学習を客観的に振り返る。
②「保育所実習Ⅱ」へと繋がる成果と課題を明らかにする。

〔授業の概要〕
事前指導においては、保育所の社会的役割・機能、保育の目的・内容・方法を理解し、自らの課題を明確にする。
保育現場で対応できる実践力、実習日誌の書き方、手遊び、製作、読み聞かせの方法、子どもの年齢別発達の特徴、実習に対する心構えなどを身に付ける。
事後指導においては、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
実習記録の書き方を、施設実習の記録を振り返り押さえておく。(60分)
保育所保育指針等から子どもの発達、興味関心を理解し、保育指導案を作成する。(60分)
実習対象クラスに合わせた教材研究を行う。(60分)

〔授業計画〕
第 1 回　保育実習の意義・目的と内容
保育所実習の意義や目的、内容を理解し、施設実習での経験を振り返り、自己課題を明らかにする。
第 2 回　学内オリエンテーション
学内オリエンテーションに参加し、実習までの流れを理解し、諸手続きを行う。
第 3 回　保育指導案の書き方①
実習指導案の基本的な書き方を理解する。
第 4 回　保育指導案の書き方②
教材研究をし、乳幼児の発達に合わせた実習指導案を作成する。
第 5 回　模擬保育の発表①
模擬保育を行い、他者の保育の見学や討論を通して省察し、改善点を検討する。
第 6 回　模擬保育の発表②
模擬保育を行い、他者の保育への参加や討論を通して省察し、改善点を検討する。
第 7 回　保育所実習に向けて自己課題の明確化
保育所実習に向けて、実習記録、エピソード記録の書き方を再押さえし、自己課題を明らかにする。
第 8 回　実習の心構えと諸注意
実習前に実習の心構えと諸注意を確認し、実習に向かう意欲を高める。
第 9 回　保育実習の自己評価と振り返り
実習先での学びを振り返り、共有し、保育実習Ⅱに向けての自己課題を明らかにする。
第 10 回　「評価表」・実習記録による個別面接指導
実習先からの評価表や実習記録を見ての個別面接を受け、実習を客観的に振り返る。

〔成績評価〕
筆記試験　30%
提出物等　30%
模擬保育　30%
授業への取り組み姿勢　10%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本　チャイルド社

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
時間：前期　水曜日13：50～15：20
場所：各担当教員の研究室
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ること。

保育実習Ⅰ-1（保育所）

6011

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
大谷　　彰子　武並　朋美

〔到達目標〕
保育所の役割や機能を具体的に理解する。
観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
保育士の業務内容や職業倫理に着いて具体的に理解する。

〔授業の概要〕
保育所の社会的役割・機能等を学び、現場での実習を通して子どもの理解を深める。
習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、乳幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
実習までに実習先施設の保育方針、ねらいなどについて調べ、オリエンテーションに臨む。
保育所保育指針などを読み、保育のねらい、幼児の年齢ごとの発達などについて把握する。

資料、本などで教材研究を行い、指導案や手作り教材を準備しておく。
実習中は、毎日実習日誌を作成し、日々の自身の保育を省察し、翌日の課題を設定する。
〔授業計画〕
〈保育所における実習〉実習時間：おおむね10日間

【保育所実習】
　保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。

１．保育所の役割と機能
　・保育所の生活と1日の流れを知る。
　　・保育所保育指針の理解と保育の展開
２．子ども理解
　　・子どもの観察とその記録による理解
　　・子どもの発達過程の理解
　　・子どもへの援助やかかわり
３．保育内容・保育環境
　　・保育の計画に基づく保育内容
　　・子どもの発達過程に応じた保育内容
　　・子どもの生活や遊びと保育環境
　　・子どもの健康と安全
４．保育の計画、観察、記録
　　・保育課程と指導計画の理解と活用
　　・記録に基づく省察・自己評価
５．専門職としての保育士の役割と職業倫理
　　・保育士の業務内容
　　・職員間の役割分担や連携
　　・保育士の役割と職業倫理

〔成績評価〕
実習施設による評価　40%、実習日誌　20%、実習自己課題　10%、
実習状況　10%、実習報告　10%、中間振り返り　10%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
資格取得希望者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
時間：前期　水曜日13：50～15：20
場所：各担当教員の研究室
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ること。

保育実習事前事後指導Ⅱ

6012

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
大谷　彰子　武並　朋美

〔到達目標〕
【事前指導】
　①実習の中で意欲的に学ぶ姿勢を身につける。
　②保育の計画、実践、記録、省察などに取り組み理解を深める。
　③自らの課題を明確にし、専門職を志す者として向上心を持つ。

【事後指導】
　①実習先での学習を客観的に振り返り、保育者としての課題を明らかにする。
〔授業の概要〕
保育実習Ⅰを振り返り自己課題を明確にする。
部分・全日実習に向け、指導計画の理解、作成、模擬保育を通し、保育実践力を身に付ける。実習の総括、省察と課題を考察し、実習での学びを共通理解するとともに、保育士としての資質と意識を高め専門性を培う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
実習記録の書き方を、保育実習Ⅰの記録を振り返り押さえておく。（60分）
保育所保育指針等から子どもの発達、興味関心を理解し、保育指導案を作成する。（60分）
実習対象クラスに合わせた教材研究を行う。（60分）
〔授業計画〕
第 1 回　保育実習Ⅱの意義と目的
　　保育所実習Ⅱの意義と目的を理解する。
　　保育所が求められている子育て支援などの役割、多様な保育所の機能について理解する。
第 2 回　学内オリエンテーション
　　学内オリエンテーションに参加し、実習までの流れを理解し、諸手続きを行う。
第 3 回　保育指導案の書き方
　　保育実習Ⅰの記録を振り返り、実習指導案の書き方を再押さえする。
第 4 回　保育指導案の作成①
　　教材研究をし、乳幼児の発達に合わせた実習指導案を作成する。
第 5 回　保育指導案の作成②
　　半日、全日実習の指導案を作成する。教材研究をし、乳幼児の発達に合わせた実習指導案を作成する。
第 6 回　模擬保育の発表①
　　模擬保育を行い、他者の保育への参加や討論を通して省察し、改善点を検討する。
第 7 回　模擬保育の発表②
　　模擬保育を行い、他者の保育への参加や討論を通して省察し、改善点を検討する。

第 8 回　保育所実習に向けて自己課題の明確化
保育所実習に向けて、実習記録、エピソード記録の書き方を再押さえし、自己課題を明らかにする。
第 9 回　実習の心構えと諸注意
実習前に実習の心構えと諸注意を確認し、実習に向かう意欲を高める。
第 10 回　「評価表」・実習記録による個別面接指導
実習先からの評価表や実習記録を見ての個別面接を受け、実習を客観的に振り返り、保育士としての自己課題を明らかにする。

〔成績評価〕
提出物等　50%
模擬保育　40%
授業への取り組み姿勢　10%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本　チャイルド社

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
時間：後期　水曜日13：50～15：20
場所：各担当教員の研究室
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ること。

保育実習Ⅱ

6013

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
大谷　彰子　武並　朋美

〔到達目標〕
保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
保育士としての自己の課題を明確化する。

〔授業の概要〕
保育所保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。
家庭と地域の実態に触れて、家庭福祉のニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
指導計画を立案、実践、省察し、自己課題を明らかにする。
子どもやその家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
実習までに実習先でのオリエンテーションに参加する。
保育所保育指針などを読み、保育のねらいなどを把握する。
幼児の年齢ごとの発達を理解しておく。
資料、本などで教材研究を行い、指導案を準備しておく。
保育現場で使える手作り教材を準備しておく。

〔授業計画〕
〈保育所における実習〉実習時間：おおむね10日

１．保育所の役割や機能の具体的展開
　・養護と教育が一体となって行われる保育
　・保育所の社会的役割と責任
２．観察に基づく保育理解
　・子どもの心身の状態や活動の観察
　・保育士等の動きや実践の観察
　・保育所の生活や流れや展開の把握
３．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携
　・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解
　・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援
　・地域社会との連携
４．指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
　・保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
　・作成した指導計画に基づく保育実践と評価
５．保育士の業務と職業倫理
　・多様な保育の展開と保育士の業務
　・多様な保育の展開と保育士の職業倫理
６．自己の課題の明確化

〔成績評価〕
実習施設による評価　40%、実習日誌　20%、実習自己課題　10%、
実習状況　10%、実習報告　10%、中間振り返り　10%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
時間：前期　水曜日13：50～15：20
場所：各担当教員の研究室
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ること。

保育実習Ⅰ-2（施設）

6008

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
木下　　隆志　武並　朋美

〔到達目標〕
子どもや障がい児者が生活する背景や利用の経緯について考察できる。
子どもや障がい児者の日常生活を理解することができる。
子どもや障がい児者の生活を支える施設の役割を理解する。
各施設で働く専門職として、生活を支えることの意味を考察することができる。
〔授業の概要〕
児童福祉施設の内容・機能等を学び、現場での実習を通して子どもの理解を深める。また、実習を通してそれぞれの専門職の役割、協働のあり方について理解する。これまで習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、総合的に実践する応用力を養うため、要保護の乳幼児および、障がい特性等に対する理解を通じて施設保育、障がい児者施設の理論と実践の関係について習熟する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
児童福祉法や障害者基本法等について学び、施設保育のねらい、障がい児者保育の役割などを把握する。要保護の理由や、障がい児者の支援利用のきっかけについて理解し、また、生活の場としての保育者の役割を学ぶ。
資料、本などで教材研究を行い、指導案を準備しておく。
〔授業計画〕
児童福祉施設における実習　おおむね１０日間

【施設実習】
１．施設の役割と機能
児童福祉施設の機能を学ぶ。施設の1日の流れを知る。
２．子どもの理解
　生活に参加し、子どもの特徴を知り、子どもへの理解を深めるとともに、その子に合った
　関わりを学ぶ
３．施設のおける子どもの生活と環境
　施設の環境を把握し環境構成、教材、教具の整備や準備を行う
４．計画と記録
　実習記録を書き、それに基づく省察・自己評価を行う
５．専門職としての保育士の役割・理論
　職員間の役割分担や連携を理解する
　保育士の役割と職業倫理を理解する

※実習先は乳児院、児童養護施設、母子家庭支援施設、児童発達支援センター、就労継続支援B型、生活介護である。子どもだけでなく、就労継続支援B型や生活介護施設は成人の方が利用する事業所のため、障がい特性、ソーシャルワーク機能、就労や生活介護といった知識が求められる。

〔成績評価〕

施設実習による評価	４０％
実習日誌	２０％
実習自己課題	１０％
実習状況	１０％
実習報告	１０％
中間振り返り	１０％

〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
適宜資料を配布する
〔履修条件〕
資格取得希望者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
時間：後期　水曜日13:50～15:20
場所：教員の研究室
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ってください

幼稚園参加実習

1315

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2年
2単位　後期
大江　　まゆ子　大谷　　彰子

〔到達目標〕
・附属幼稚園で行われている保育を通して、保育の実際を理解し、将来、保育者を目指す者としての自覚と責任感、使命感等を持つようになる。
・実習記録およびエピソード記録を書く力を獲得する。
・実際の保育をよく観察し、記録することを通して、子ども理解や保育者の援助の意図を理解する力を身に付ける。
〔授業の概要〕
附属幼稚園での実際の保育に参加することで、保育方針や保育方法、子どもの生活環境など、保育の基本を理解する。また、子ども及び保育者の姿や保育環境をよく観察し、保育の実際について実習体験を通して理解し、保育者としての態度や技術を学ぶ。実習後には体験の共有を行い、学習者同士の話し合いを行い、意見をまとめて発表する。
※参加実習の欠席は、原則として認められない。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
※保育現場に実習生として入らせていただくことの自覚を持ち、また新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される状況下であることを踏まえて、日常的に健康管理と感染回避の行動の徹底を行うこと。
また実習記録は保育者としての視点を養うために必要であるため、必ずその日中に書き終え、翌日に提出を行うこと。
「保育実習・幼稚園教育実習ハンドブック」を熟読し、実習のイメージを形成し、実習生に求められる姿勢について理解しておくこと。

【予習】授業前のハンドブックの該当箇所の熟読（90 分）
【復習】授業後の学びレポートや実習後の実習記録、エピソード記録の作成（90 分）

〔授業計画〕

第 1 回　授業オリエンテーション、記録の書き方
授業オリエンテーションを通して附属幼稚園での実習に向けて意識を高め、実習に必要な事項を確認する。記録の書き方について学ぶ。

第 2 回　附属幼稚園実習、実習記録の作成・提出
附属幼稚園実習を行う。その後、実習記録を作成し、翌日、分級担当教員の研究室に提出する。

第 3 回　実習記録の振り返り、書き方の再確認
実習後に作成した実習記録を振り返り、書き方について学びを深める。

第 4 回　エピソード記録の書き方
エピソード記録の書き方について学ぶ

第 5 回　附属幼稚園実習、エピソード記録の作成・提出
附属幼稚園実習を行う。その後、エピソード記録を作成し、翌日、分級担当教員の研究室に提出する。

第 6 回　エピソード記録の振り返り、書き方の再確認
実習後に作成したエピソード記録を振り返り、書き方について学びを深める。

第 7 回　附属幼稚園実習での学びの共有
子どもの姿や保育者の姿、環境構成など附属幼稚園での保育の実際を通して、各自が得た学びを共有する。

第 8 回　実習体験の振り返りと自己課題の明確化
実習生として保育現場に身を置く実習体験を終え、最も感動したこととその理由を考察するとともに、保育者を目指すものとしての自己課題を明確化する。

第 9 回　手遊びと絵本の読み聞かせの実践に向けて
手遊びと絵本の読み聞かせの実践を行う際の留意点、配慮について学ぶ。

第 10 回　教材研究（1）
季節や年齢を考え、教材研究を行う。

第 11 回　教材研究（2）
季節や年齢を考え、教材研究を行う。

第 12 回　教材研究（3）
季節や年齢を考え、教材研究を行う。

第 13 回　保育実践の演習（1）
保育者役と子ども役になって模擬保育の演習を行い、演習を通した気づきを共有する。

第 14 回　保育実践の演習（2）
保育者役と子ども役になって模擬保育の演習を行い、演習を通した気づきを共有する。

第 15 回　模擬保育実践の振り返りと自己課題の明確化
模擬保育実践からの学びを自分の言葉で整理する。また、保育者を目指すものとして実習の事前準備に必要なものを考え、自己課題を明確化する。

〔成績評価〕

参加実習時の取り組み姿勢（50%）、実習記録（10%）、エピソード記録（10%）、模擬保育取り組み姿勢（15%）、授業内提出物（15%）

〔教科書〕

「保育実習・幼稚園教育実習のハンドブック」（大学から配布された冊子）

〔参考文献〕

幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）、その他、必要に応じて授業内で適宜配布する

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

後期、水曜日　13：50〜15：20、各教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で担当教員に必ずアポイントメントを取ること。

保育相談支援

6010

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
武並　朋美

〔到達目標〕

子育て支援の意義を理解し、保育士の専門性を活かした、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援などについて、事例を通し、その内容や方法を具体的に理解する。
さまざまな場面において、保育士として「子どもの最善の利益」を念頭においた保護者への支援を考え、展開できるよう、子育て支援の方法を習得することを目指す。

〔授業の概要〕

事例を基にしたワークを通し、さまざまな場面において、保育士として保護者の気持ちを受容しながら、「子どもの最善の利益」を尊重した保護者への支援を考える。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内で出された課題に取り組む

〔授業計画〕

第 1 回　子育て支援とは
保育と子育て支援のつながり、保育士が行う子育て支援の内容について理解する。子供の最善の利益を理解した子育て支援を考える。

第 2 回　保護者との相互理解と信頼関係の形成
日常的・継続的なかかわりを通した支援、保護者との信頼関係に向けた姿勢について理解する。

第 3 回　子育て支援の意義

子どもや保護者を取り巻く社会の状況を把握する。その社会的背景の中で、保護者やその家庭が抱える支援ニーズや保護者の声に出せない思いに気づき理解する。

第 4 回　子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
子どもや保護者が多様な他者と関わる機会や場について具体的に理解する。家庭や地域の社会資源との連携を考える。
保育士として子どもや保護者が多様な他者と関わる機会や場を提供する際に意識すべきことを理解する。

第 5 回　子育て支援を行うために①
自分自身を知る必要性、他者を知ることの必要性を理解する。

第 6 回　子育て支援を行うために②
自分と他者の価値観の違いを理解する。自分とは違う他者を理解するということはどういうことか、その方法を学ぶ。

第 7 回　子育て支援のプロセス
子育て支援のプロセスを理解する。
職員間の連携や協働を理解する。社会資源の活用や他機関との連携や協働の必要性を理解する。

第 8 回　子育て支援のプロセスを事例から学ぶ
事例を基に実際の子育て支援のプロセスを理解し、その支援方法を学ぶ。

第 9 回　保育所等における支援
場面の違いに応じた保護者とのコミニュケーションの基本について理解する。

第 10 回　地域の子育て支援に対する支援
地域の子育て家庭の現状を知る。保育所等の地域子育て支援拠点における支援について学ぶ。
利用している保護者の気持ちを考える。

第 11 回　障がいのある子どもおよびその家庭に対する支援
子育ての悩みや不安を抱えながら、保護者が子どもの障害を受容する過程を理解する。

第 12 回　特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援
特別な配慮を要する「気になる子ども」の家庭の生活状況を理解する。また、その家庭への対応を考える。

第 13 回　子どもの虐待の予防と対応
児童虐待の定義や発生要因を理解する。事例を通して、児童虐待の予防と対応について考える。

第 14 回　要保護児童等の家庭に対する支援
児童養護施設で生活する子どもに対する支援、その保護者に対する支援を考える。

第 15 回　まとめ
まとめと今後の課題

〔成績評価〕

定期試験（レポート）	30%
課題レポート	20%
振り返りレポート	30%
ミニテスト	20%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
適宜資料を配布する

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
学期：前期
時間：水曜日　13:50〜15：20
場所：研究室
来室の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ってください。

保育課程論

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
猪田　裕子

〔到達目標〕
1. 保育課程の役割やはたらき、意義等について理解する。
2. 乳幼児期の発達にふさわしい保育課程編成の方法について理解する。
3. 保育運営全体としてのカリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
4. 保育の全体的な計画に基づいた具体的な指導計画の作成の方法を理解する。

〔授業の概要〕
保育所、認定こども園等における保育課程の意義や役割を学ぶことを中心として、保育の計画を立てることの大切さ、保育内容の配列の仕方、具体的な指導計画の立て方、カリキュラムの評価などについて学ぶ。また、グループワークを通して協同的学びへの姿勢を培う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の学習すべき内容の予習（60分）
毎回の学習した内容の復習（60分）
課題等の作成（様々な指導計画）（120分）

〔授業計画〕

第 1 回　授業オリエンテーション
授業科目の一般理解及び保育課程について考える

第 2 回　カリキュラムの基礎
保育における「全体的な計画」について考える

第 3 回　カリキュラムと保育の計画Ⅰ
「保育を計画する」ことについて考える

第 4 回　カリキュラムと保育の計画Ⅱ
カリキュラム・マネジメントについて考える

第 5 回　保育内容の歴史的変遷Ⅰ
明治・大正時代の保育内容について学ぶ

第 6 回　保育内容の歴史的変遷Ⅱ
昭和・平成時代の保育内容について学ぶ
第 7 回　カリキュラムの編成Ⅰ
３歳未満児の保育カリキュラムと保育の計画について調べる
第 8 回　カリキュラムの編成Ⅱ
３歳以上児の保育カリキュラムと保育の計画について調べる
第 9 回　カリキュラムの編成Ⅲ
カリキュラム・マネジメント、小学校へつながるカリキュラム、異年齢保育のカリキュラム、認定こども園のカリキュラム等について調べる
第 10 回　指導計画の実際と作成Ⅰ
ねらいと内容の設定について考察する
第 11 回　指導計画の実際と作成Ⅱ
環境構成と援助の設定について考察する
第 12 回　指導計画の実際と作成Ⅲ
グループワークを通して月の指導計画を作成する
第 13 回　指導計画の実際と作成Ⅳ
グループワークを通して週の指導計画を作成する
第 14 回　指導計画の実際と作成Ⅴ
グループワークを通して日の指導計画を作成する
第 15 回　カリキュラムの評価
様々な評価の方法を探究し考察する

〔成績評価〕
授業への取り組み（30%）
定期試験（50%）
課題等作成及び提出（20%）

〔教科書〕
戸江茂博編著『保育カリキュラムの基礎理論』（あいり出版、平成30年）
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （平成29年告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
1.学期　後期
2.曜日・時間：月曜日　11：30～12：30
3.場所：講義教室
4.連絡先（メールアドレス）kyoumu@ashiya-u.ac.jp

演習Ⅰ（令和時代の教育）

8360

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
毛利　　康人

〔到達目標〕
令和の時代の教育について考え、自分自身で研究テーマを決め、それについて探究、論述する。

〔授業の概要〕
今日的な教育課題と令和時代の教育について考える。
ゼミでは、主体的な探究活動（調査・分析・考察・発表）の演習を行う。
演習経験を踏まえ、卒業論文のテーマを設定する。
研究は、主に授業時間外に行い、進捗状況をゼミで発表、質疑応答を重ね、研究の深化を図る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各自の探究活動（経過報告）

〔授業計画〕
第 1 回　今日的な教育課題①
教育課題についての討議
第 2 回　今日的な教育課題②
教育課題についての討議②
第 3 回　今日的な教育課題③
教育課題について討議
第 4 回　今日的な教育課題④
教育課題について討議
第 5 回　今日的な教育課題⑤
教育課題について討議
第 6 回　令和時代の教育①
令和時代の教育について討議
第 7 回　令和時代の教育②
令和時代の教育について討議
第 8 回　令和時代の教育③
令和時代の教育について討議
第 9 回　令和時代の教育④
令和時代の教育について討議
第 10 回　令和時代の教育⑤
令和時代の教育について討議
第 11 回　探究活動について
探究学習の手法について
第 12 回　探究活動①
探究活動演習と発表と協議
第 13 回　探究活動②
探究活動演習と発表と協議
第 14 回　探究活動③
探究活動演習と発表と協議
第 15 回　探究活動④
探究活動演習と発表と協議

〔成績評価〕
討議や探究活動演習における発表

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1.学期　前期・後期
2.曜日・時間：金曜日　１２：１０〜１３：４０
3.場所：教員研究室
4.連絡先（メールアドレス）mouri@ashiya-u.ac.jp
5.その他　※来室前にメールでアポイントメントをとること。

演習Ⅰ（令和時代の教育）

8360

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　後期
毛利　　康人

〔到達目標〕
令和の時代の教育について考え、自分自身で研究テーマを決め、それについて探究、論述する。
〔授業の概要〕
今日的な教育課題と令和の時代の教育について考える。
ゼミでは、主体的な探究活動（調査・分析・考察・発表）の演習を行う。
演習経験を踏まえ、卒業論文のテーマを設定する。
研究は、主に授業時間外に行い、進捗状況をゼミで発表、質疑応答を重ね、研究の深化を図る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各自の探究活動
〔授業計画〕
第 1 回　探究活動⑤
　　探究活動の発表と協議
第 2 回　探究活動⑥
　　探究活動の発表と協議
第 3 回　探究活動⑦
　　探究活動の発表と協議
第 4 回　探究活動⑧
　　探究活動の発表と協議
第 5 回　探究活動⑨
　　探究活動の発表と協議
第 6 回　探究活動⑩
　　探究活動の発表と協議
第 7 回　探究活動⑪
　　探究活動の発表と協議
第 8 回　探究活動⑫
　　探究活動の発表と協議
第 9 回　探究活動⑬
　　探究活動の発表と協議
第 10 回　探究活動⑭
　　探究活動の発表と協議
第 11 回　各自の研究テーマと研究計画
　　研究方法検討
第 12 回　各自の研究テーマと研究計画
　　研究方法検討
第 13 回　各自の研究テーマと研究計画
　　研究方法検討
第 14 回　各自の研究テーマと研究計画
　　研究方法検討
第 15 回　各自の研究テーマと研究計画
　　研究方法検討
〔成績評価〕
探究活動と発表内容
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
前期・後期
金曜日　２限
研究室１３（３階）
メールアドレス：mouri@ashiya-u.ac.jp
事前にメールで連絡ください。

演習Ⅰ（子どもの権利擁護）

8362

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4単位　前期
武並　朋美

〔到達目標〕
子どもの虐待、貧困、障がい、DV、ひとり親家庭など、現代社会における子どもや家族をめぐる諸問題、またそれらを取り巻く地域社会の問題にも意識や関心を持ち、理解を深める。
「子どもの権利を守る」という視点から、子どもと家族、地域への関わりについて考え、自分の意見を述べることができる。
事例検討や見学や体験学習を通し、興味のあるテーマについて、自ら調べ考える姿勢を身に付ける。
〔授業の概要〕
事例、ニュース、DVD、映画、絵本などの題材を用いたり、施設見学や支援者の話を聞くなどの体験をもとに、ディスカッションを重ねながら、子どもやその家族を取り巻く問題や課題について、理解を深める。
興味関心のあることを深めるための見学、体験、鑑賞などを企画し実施する。その活動についての報告書を作成し提出、発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
子どもや保育、障害児に関わること、地域とのつながりなどについて、日ごろから関心を持ち、日常の生活の中での出来事や、ニュース等から心に残ったことや気になったことなどについて、調べ、まとめる。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
ゼミの進め方を説明する。
第 2 回　興味のあるテーマや課題を考える
「子どもの権利」についてなど、興味のあることや気になることなどについて、意見交換をする。
第 3 回　興味のあるテーマや課題を考える
「子どもの権利」についてなど、興味のあることや気になることなどについて、調べたことを発表する。
第 4 回　見学・体験・鑑賞などの活動計画の作成
興味関心のあることを深めるため、見学や体験学習などを企画し、実施するための方法や手順を考える。
第 5 回　見学・体験・鑑賞などの活動計画の作成
興味関心のあることを深めるため、見学や体験学習などを企画し、実施するための方法や手順を考える。
第 6 回　活動計画に基づいた取り組みと振り返り
活動計画に基づき、準備、連絡調整などを行い、実施する。
実施した後は振り返りを行う。
第 7 回　活動計画に基づいた取り組みと振り返り
活動計画に基づき、準備、連絡調整などを行い、実施する。
実施した後は振り返りを行う。
第 8 回　活動計画に基づいた取り組みと振り返り
活動計画に基づき、準備、連絡調整などを行い、実施する。
実施した後は振り返りを行う。
第 9 回　活動計画に基づいた取り組みと振り返り
活動計画に基づき、準備、連絡調整などを行い、実施する。
実施した後は振り返りを行う。
第 10 回　活動計画に基づいた取り組みと振り返り
活動計画に基づき、準備、連絡調整などを行い、実施する。
実施した後は振り返りを行う。
第 11 回　活動計画に基づいた取り組みと振り返り
活動計画に基づき、準備、連絡調整などを行い、実施する。
実施した後は振り返りを行う。
第 12 回　活動計画に基づいた取り組みと振り返り
活動計画に基づき、準備、連絡調整などを行い、実施する。
実施した後は振り返りを行う。
第 13 回　中間発表に向けた準備
これまでの体験学習や研究を通し、学んだことやさらに興味関心を持ったことをまとめる。
第 14 回　中間発表に向けた準備
これまでの体験学習や研究を通し、学んだことやさらに興味関心を持ったことをまとめる。
第 15 回　中間発表
これまでの体験学習や研究を通し、学んだことやさらに興味関心を持ったことをまとめ、発表する。今後の研究テーマの方向性ににについて検討する。

〔成績評価〕
授業への取り組み姿勢　40%
課題の取り組みと提出物　60%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
学期：前期
時間：水曜日13:50～15:20
場所：研究室
来所の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ってください

演習Ⅰ（子どもの権利擁護）

8362

臨床教育学部 > 児童教育学科
4単位　後期
武並　朋美

〔到達目標〕
子どもの虐待、貧困、障がい、DV、ひとり親家庭など、現代社会における子どもや家族をめぐる諸問題、またそれらを取り巻く地域社会の問題にも意識や関心を持ち、理解を深める。
見学や鑑賞、体験学習などを通し、興味のあるテーマについて、自ら調べ考える姿勢を身に付ける。
「子どもの権利を守る」という視点から、子どもと家族、地域への関わりについて考え、研究し、自分の意見をまとめ、述べることができる。

〔授業の概要〕
研究テーマに沿った取り組みを企画し実施する。その取り組みについて報告書にまとめ発表し、議論を重ねながら次年度に向けた準備を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
課題の取り組みの結果について、報告書を作成する。
研究テーマにそった資料や参考文献等を読みまとめ、発表のための資料を作成する。

〔授業計画〕
第 1 回　中間レビュー
中間発表を受けて、その後さらに体験したことや研究を深めたことについて、発表し、今後の研究テーマの方向性ににについて検討する。

第 2 回　研究計画書の作成
研究テーマを深めるための体験学習、研究方法や調査方法などについて検討し、研究計画書を作成する。
第 3 回　研究計画書の作成
研究テーマを深めるための体験学習、研究方法や調査方法などについて検討し、研究計画書を作成する。
第 4 回　本課題への取り組みの企画
研究したいテーマに沿った、体験学習、研究方法や調査方法について、具体的な計画を立て、準備する。
第 5 回　本課題への取り組み
研究したいテーマに沿った、体験学習、研究や調査を行う。
第 6 回　本課題への取り組み
研究したいテーマに沿った、体験学習、研究や調査を行う。
第 7 回　本課題への取り組み
研究したいテーマに沿った、体験学習、研究や調査を行う。
第 8 回　本課題への取り組み
研究したいテーマに沿った、体験学習、研究や調査を行う。
第 9 回　本課題への取り組み
研究したいテーマに沿った、体験学習、研究や調査を行う。
第 10 回　取り組みの振り返り
研究したいテーマに沿った、体験学習、研究や調査の結果を報告書にまとめ発表し、意見交換を行う。
第 11 回　研究テーマの検討
これまでの取り組みや参考文献などから、研究したいテーマを挙げ、議論をしながら内容を検討する。
第 12 回　研究テーマの検討
これまでの取り組みや参考文献などから、研究したいテーマを挙げ、議論をしながら内容を検討する。
第 13 回　次年度の研究計画の作成
研究テーマについての論文作成に向けて、研究計画を作成する。
第 14 回　次年度の研究計画の作成
研究テーマについての論文作成に向けて、研究計画を作成する。
第 15 回　研究計画の発表
作成した研究計画書について、研究への思いや具体的な方法などを発表する。議論を通して、研究計画書の見直しを行い、次年度に向けて行うことを整理する。

〔成績評価〕
授業への取り組み姿勢　40%
課題の取り組みと提出物　60%

〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
学期：後期
時間：水曜日13:50～15:20
場所：研究室
来所の際は、事前にphollyのメッセージ等でアポイントメントを取ってください

保育者論

臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　後期
猪田　裕子

〔到達目標〕
1. 幼児期における教育（遊びの中から捉える学びに向かう力）の基本及び発達や学びの連続性を踏まえた円滑な接続の在り方について理解する。
2. 幼児理解に基づいた指導計画の作成と展開及びその評価の考え方を理解する。
3. 幼児の興味や関心、心身の発達等に応じた具体的な指導の在り方を理解する。
〔授業の概要〕
保育ビデオや教材等の視聴覚教材を活用し、実際の幼児の姿をイメージしながら幼児教育における総合的な指導の在り方及び保育アプローチについて学ぶ。また、具体的な保育場面を想定した課題を設け、演習や発表、ロールプレイやグループ討論、ディベート等を組み合わせた授業を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の学習すべき内容の予習（60分）
毎回の学習した内容の復習（60分）
課題等の作成（様々な指導計画）（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
これまでの学びの振り返りと授業科目内容の理解を深める
第 2 回　幼児教育の本質と子どもの姿
幼児教育の本質を再考する
第 3 回　子どもの遊び
保育内容から具体的な子どもの遊びを考察する
第 4 回　子どもの遊びと学びに向かう力
具体的な子どもの遊びから学びに向かう力を考察する
第 5 回　幼児教育思想の歴史と教育の変遷
教育の歴史を踏まえ現代幼児教育を概観する

第 6 回　幼児教育の方法と指導案の作成Ⅰ
設定保育の中での学びを考察する
第 7 回　幼児教育の方法と指導案の作成Ⅱ
遊びの選択が自由な中での学びを考察する
第 8 回　分析と考察Ⅰ
教材の工夫 : 保育映像を通して保育方法と内容を考察する（情報機器の活用）
第 9 回　分析と考察Ⅱ
保育における自然環境 : 保育映像を通して保育方法と内容を考察する（情報機器の活用）
第 10 回　分析と考察Ⅲ
室内での遊び : 保育映像を通して保育方法と内容を考察する（情報機器の活用）
第 11 回　分析と考察Ⅳ
園行事の意味と在り方 : 模擬保育を通して保育方法と内容を考察する（ロールプレイング）
第 12 回　世界の幼児教育の実際
世界の幼児教育におけるカリキュラムを概観する
第 13 回　様々な保育方法及び内容の探究
様々な保育方法及び内容を考察し、ディスカッションを通して学びを深める
第 14 回　教材研究
具体的な教材を通し、子どもの姿と保育の在り方を考える（情報機器の活用）
第 15 回　まとめと確認
遊びの中の学びの視点とその指導方法の理解、今後の課題と展望について考察する

〔成績評価〕
授業への取り組み（20%）
定期試験（50%）
課題提出（30%）

〔教科書〕
広岡義之編著『新しい保育・幼児教育方法』ミネルヴァ書房、2021
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （平成29年告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
1.学期　後期
2.曜日・時間：月曜日　11：30～12：30
3.場所：講義教室
4.連絡先（メールアドレス）kyoumu@ashiya-u.ac.jp

教職総合演習Ⅱ-1（模擬授業）

7010
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
中村　整七

〔到達目標〕
・各教科等の「主体的・対話的で深い学び」を実現させる模擬授業をすることができる。
・教採の各自治体の「模擬授業テスト」に対応した演習を繰り返し行い、言葉かけ・板書・発問・評価等の力量を高めることができる。

〔授業の概要〕
学校の各教科の指定された学習単元の内容について授業構想を練り、模擬授業を実践し、グループでアドバイスをしあう中でそのスキルアップを行っていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「模擬授業の構想・準備（90 分）」
「模擬授業後のふり返り（90 分）」

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
各自治体の「模擬授業テスト」の実施方法や内容について理解する。
模擬授業のポイントについて学修する。
第 2 回　低中学年の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる2年生「算数科」・３年生「理科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合
う演習をする。
第 3 回　高学年の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる5年生「国語科」・6年生「理科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合
う演習をする。
第 4 回　高学年の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる5年生「国語科」・6年生「社会科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合
う演習をする。
第 5 回　算数科の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる「算数科」2年生・5年生の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。
第 6 回　理科・社会科模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる6年生「理科」・3年生「社会科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。
第 7 回　国語の模擬授業

「主体的・対話的で深い学び」を実現させる「国語科」3年生・6年生の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、記録ビデオを見ながら相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 8 回　3年生の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる3年生「国語科」・「社会科」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 9 回　社会・算数・特別支援の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる5年生「社会科」・3年生「算数科」・「特別支援」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、記録ビデオを見ながら相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 10 回　4年生・特別支援の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる4年生「算数科」・「理科」・「特別支援」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、観点別評価表に書き込み、授業者に渡す演習をする。

第 11 回　社会・算数・特別支援の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる3年生「算数科」・5年生「社会科」・「特別支援」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 12 回　国語・理科・特別支援の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる3年生「国語科」・4年生「理科」・「特別支援」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、観点別評価表に書き込み、授業者に渡す演習をする。

第 13 回　1年生・特別支援の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる1年生「国語科」・「算数科」・「特別支援」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。

第 14 回　高学年の模擬授業
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる5年生「理科」・6年生「算数科」・「特別支援」の指定された単元の授業構想を練り、模擬授業を行い、観点別評価表に書き込み、授業者に渡す演習をする。

第 15 回　模擬授業とまとめ
「主体的・対話的で深い学び」を実現させる単元の授業構想を練り、自分で選んだところの模擬修行授業を行い、相互にアドバイスを出し合う演習をする。
模擬授業振り返りとまとめを行う。

〔成績評価〕
模擬授業の実践内容を評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
小学校学習指導要領解説　各教科編（平成29年7月告示、文部科学省）

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

経営学入門

1105
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
井上　徹

〔到達目標〕
「なぜ人は働くのか？」「企業は何の為に存在するのか？」などを解き明かす為に経営学を様々な視点より学び、疑問に思う事や考える力を身につける事を目標とする。

1.社会と企業活動を経営学を通して関係づける。
2.なぜ経営学を学ぶのかを知る。
3.学習・勤労の意義を知る。

〔授業の概要〕
経営学を経営・会計・商学の3つのフィールドにわけて経営学の基本原理をわかりやすく講義します。
その上で、社会の中で、経営学はどのような役割を持ち役に立つかを考えます。

・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業の予習・復習。
予習：テレビ・新聞・WEBなどを通して興味のある企業･ビジネスに関連する情報に注目する。（120分程度）
復習：講義内容の整理/講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。（120分程度）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・授業内容と授業の進め方。

第 2 回　経営学の領域
・「経営学とは何か？」について学ぶ

第 3 回　経営学のはじまり
・「会社とは何か？」について学ぶ

第 4 回　企業・組織の登場
・「企業・組織とは何か？」について学ぶ

第 5 回　経営管理の発展

・「経営管理とは何か？」について学ぶ
第 6 回　会計学の領域
・「会計学とは何か？」について学ぶ
第 7 回　財務諸表・監査
・「財務諸表とは何か？」について学ぶ
第 8 回　中間試験
・「7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート」
第 9 回　商学の領域
・「商学とは何か？」について学ぶ
第 10 回　マーケティング
・「マーケティングとは何か」について学ぶ
第 11 回　生産・流通管理
・「生産・流通とは何か？」について学ぶ
第 12 回　モチベーション
・「なぜ人は働くのか？・モチベーションとは何か？」について学ぶ
第 13 回　リーダーシップ
・「リーダーの資質とは何か？」について学ぶ
第 14 回　コア・コンピタン
・「コア・コンピタンスとは何か？」を学ぶ
第 15 回　定期試験
・定期試験

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
授業内レポート・発表：30%
※中間試験も評価に含みます。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
「1からの経営学」「経営学入門」「やさしい経営学」「会計学入門」など

その他、参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

環境と生物（1年教育・経営・上級生全学科対象）

2109
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　前期
渡　康彦

〔到達目標〕
生物の多様性と普遍性を解釈する。
生物の環境への適応を説明できる。

〔授業の概要〕
我々人間を含む生物の世界は多様である。様々な環境に対する生物の適応を生理的な面からみていくと普遍的な面もある。生物のいろんな環境、すなわち温度、水、酸素、光そして時間への適応様式を学んでいく。
当面の間オンデマンド授業が中心となるが、対面授業が可能な場合は学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布プリントを見直す（120分）
プリントでわからないこと、興味のあることなどを調べる（120分）

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
環境と生物でどのようなことを学んでいくかについて知る。
第 2 回　生物と温度（1）
変温動物と恒温動物は高温あるいは低温環境にたいしてどのように適応しているのかを考える。
第 3 回　生物と温度（2）
植物は高温あるいは低温環境にどのように適応しているのかを考える。
第 4 回　生物と水
生物の水の出入りを考える。
第 5 回　生物と乾燥
生物が乾燥にたいしてどのように適応しているのかを考える。
第 6 回　生物と酸素
生物の呼吸の仕組みと生物が低酸素状態へどのように適応しているのかを考える。
第 7 回　生物と光（1）
植物の光合成のしくみと光発芽種子、植物の光周性について考える。
第 8 回　生物と光（2）
動物の光周性について考える。
第 9 回　生物と光（3）
光周性のメカニズムについて考える。
第 10 回　地球の進化

地球誕生から地球環境の変化を考える。
第 11 回　生命の進化
生命誕生から生物の進化を考える。
第 12 回　オゾン層
生物への紫外線の影響とオゾン層破壊について考える。
第 13 回　地球温暖化
生物への地球温暖化の影響を考える。
第 14 回　生物と時間
体内時計の重要性を考える。
第 15 回　まとめ
環境と生物についての総括する。

〔成績評価〕
確認問題、レポート提出（60%）と期末試験（40%）にて評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

English Conversation I

3424
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
正しい発音と日常でよく使われる表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができる力を養う。

〔授業の概要〕
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習事項の復習し、毎回課題を提出

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、英語のリズムとイントネーションについて
第 2 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 3 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 4 回　Unit2 How do you spell that? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 5 回　Unit2 How do you spell that? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 6 回　Unit3 What's the time? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 7 回　Unit3 What's the time? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 8 回　Unit4 Where are you from? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 9 回　Unit4 Where are you from? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 10 回　Unit5 What's your favorite food? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 11 回　Unit5 What's your favorite food? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 12 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 13 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 14 回　Unit7 What kind of music do you like? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 15 回　Unit7 What kind of music do you like? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。

〔成績評価〕
毎回の提出物　100%

〔教科書〕
New Getting Into English　南雲堂

〔参考文献〕
適宜プリントを配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため必ずしも確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyで受け付ける。

教職総合演習Ⅱ-1（面接）

7002
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
笠原　清次　中村　整七

〔到達目標〕
・教採面接を繰り返し体験する中で、自分の良さや学ぶ姿勢が強いことを言葉や態度で表現することができる。
・集団面接、集団活動を実体験することを通して、教育課題に対しての自分の考えをつくり、他者の考えを受け止め、話し合いを広げたり、深めたりすることができる。
〔授業の概要〕
教育施策や教育現場の実態から取り組むべき課題等について研究をする。
個人面接・集団面接(討議)・集団活動・場面指導などの演習を各自治体の出題傾向に合わせて行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の個人面接ノートづくり（2時間）
授業後の個人練習（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
個人面接、集団面接について各自治体の傾向を知り、演習を行う。
第 2 回　個人面接・集団面接
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬集団面接の演習を行う。
第 3 回　個人面接・集団活動
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と集団活動の演習を行う。
第 4 回　個人面接・グループ討議
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬グループ討議の演習を行う。
第 5 回　個人面接・集団面接
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬集団面接の演習を行う。
第 6 回　個人面接・集団活動
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬集団活動の演習を行う。
第 7 回　個人面接・グループ討議
各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬グルー討議の演習を行う。
第 8 回　場面指導・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた場面指導のロールプレイを行う。
ペアで相互個人面接の練習を行う。
第 9 回　集団面接・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた課題研究と模擬集団面接と個人面接の演習を行う。
第 10 回　集団活動・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた模擬集団活動と個人面接の演習を行う。
第 11 回　集団討議・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた課題研究と模擬集団討議と個人面接を行う。
第 12 回　場面指導・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた場面指導のロールプレイと個人面接を行う。
第 13 回　場面指導・個人面接
自治体の出題傾向に合わせた場面指導のロールプレイと個人面接を行う。
第 14 回　個人面接
自治体の出題傾向に合わせた個人面接の演習を相互に行う。
第 15 回　個人面接
〔成績評価〕
演習参画意識と学修に取り組む態度を評価する。
面接、討議の中での発言内容を評価をする。
〔教科書〕
授業中に適宜教材資料を配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

教職総合演習Ⅳ-Ⅰ【数学】

7005
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4年
1単位　前期
笠原　清次

〔到達目標〕
小学校学習指導要領解説算数編の要点を理解するとともに、学習指導の要となる数学の専門的な知識と教養を深めて、教科学習の指導力を向上することができる。
〔授業の概要〕
１．学習指導要領算数科の目標、内容及び指導上の留意事項の理解を深める。
２．数学の問題の解き方を話し合い、解く技能を高める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１．基礎的な問題は，その都度問題集を用いて予習する。(30分)
２．授業終了後に毎回復習問題を課すので、翌週までに解く。(60分)
〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領
小学校学習指導要領解説算数編を読み，要点を調べる。
第 2 回　数学演習1
数学演習問題基礎（数と式）を解く。
第 3 回　数学演習2

数学演習問題応用（数と式）を解く。
第 4 回　数学演習3
数学演習問題基礎（方程式の利用）を解く。
第 5 回　数学演習4
数学演習問題応用（方程式の利用）を解く。
第 6 回　数学演習5
数学演習問題基礎（関数）を解く。
第 7 回　数学演習６
数学演習問題応用（関数）を解く。
第 8 回　数学演習７
数学演習問題基礎（平面図形）を解く。
第 9 回　数学演習８
数学演習問題応用（平面図形1）を解く。
第 10 回　数学演習９
数学演習問題応用（平面図形2）を解く。
第 11 回　数学演習１０
数学演習問題基礎（空間図形）を解く。
第 12 回　数学演習１１
数学演習問題応用（空間図形）を解く。
第 13 回　数学演習１２
数学演習問題基礎（確率）を解く。
第 14 回　数学演習１３
数学演習問題応用（確率）を解く。
第 15 回　学習のまとめ
自己の課題に挑戦する。

〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説算数編（平成29年7月　文部科学省）
中学総合的研究問題集　数学　三訂版（旺文社）

〔参考文献〕
授業ごとに問題プリントを配付する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
参考文献の問題集３冊は購入し，自学課題とする。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

英語Ⅱ【再履修】

1507
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
野島　晃子

〔到達目標〕
1. 基本的な単語、熟語を身につけ、日常会話で使うことができるようにする。
2. 基礎的な英文の構造を理解し、応用できるようにする。
3. 日常会話程度のリスニング力を身につける。

〔授業の概要〕
英語の基本文型やイディオムなどを授業ごとに提示し、解説を理解したうえで問題を解くことでいっそうの基礎固めを図る。
授業内で扱った文型や語彙を復習し定着させ、日常会話へと応用できるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学んだ内容をより確実で実践的にするため、毎回60分程度の復習を推奨する。また、知識の定着を確認するためのテストを３回実施するので、試験対策のための学習を各回60分程度行うことを推奨する。

〔授業計画〕
第 1 回　be動詞、一般動詞の現在形
be動詞、一般動詞の現在形を使った英文に慣れる。
聴き取り：空港での会話、ホテルでの会話。
第 2 回　代名詞
代名詞を使った英文に慣れる。
聴き取り：お礼を言う。
第 3 回　進行形
進行形を使った英文に慣れる。
聴き取り：探しているものを伝える。
第 4 回　時と場所を表す前置詞
時と場所を表す前置詞の使い方に慣れる。
聴き取り：相手にお願いしてみる。
第 5 回　テスト①
第１回から第４回までの内容の復習テストを実施する。
第 6 回　可算名詞・不加算名詞
可算名詞・不可算名詞の使い方に慣れる。
聴き取り：単位の違いを理解する。
第 7 回　一般動詞の過去形
一般動詞の過去形を使った英文に慣れる。
聴き取り：感想を述べる。
第 8 回　疑問形
疑問詞の使い方に慣れる。
聴き取り：会話を続ける。
第 9 回　接続詞、動名詞、不定詞
接続詞、動名詞、不定詞を使った英文に慣れる。
聴き取り：食べ物を注文する、自分のやりたいことを伝える。

第 10 回　テスト②
第６回から第９回までの内容の復習テストを実施する。
第 11 回　未来形、現在完了形
未来形、現在完了形を使った英文に慣れる。
聴き取り：滞在日数を伝える、期間を尋ねる。
第 12 回　比較級・最上級
比較級・最上級を使った英文に慣れる。
聴き取り：おすすめについて話す。
第 13 回　助動詞
助動詞を使った英文に慣れる。
聴き取り：相手を褒める。
第 14 回　受動態
受動態を使った英文に慣れる。
聴き取り：思い出を話す。
第 15 回　テスト③
第１０回から第１４回までの内容の復習テストを実施する。

〔成績評価〕
各回の課題の提出と得点（55%）
テスト①・②・③（各15%合計45%）

〔教科書〕
配布する資料や問題は教員から提示するため教科書は指定しない。

〔参考文献〕
必要に応じて授業内で紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
集中講義期間中（課題最終締め切り日まで）にメール、Phollyで随時受け付けます。
メールアドレス　nojima@ashiya-u.ac.jp

経営学基礎論

1105
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
木元　清明

〔到達目標〕
経営学は「組織（特に企業や団体）」を対象とする学問です。多くの社会人が関わるビジネスの世界において、「企業と社会の関り」「企業の形態」「働く人のモチベーション」「経営者の役割」「競争に打ち勝つための戦略」などについて、実際の企業活動の実例を通して学びを深め、その事業活動の「基本的な仕組み」を理解できるようにしましょう。

〔授業の概要〕
ただ単に「経営学の知識」を得るのではなく、なぜ社会の中で「企業」が生まれ、その「企業」がどのような歴史的過程を経ながら現在に至るのかについて、数々の企業現場における実例を紹介しながら系統的に学びます。企業とは「人の集団」であり、経営とは「人が実践する」ものです。企業を通した経営活動を「人という視座」を通して考えてみましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：テレビ・新聞・WEBなどを通して興味のある企業･ビジネスに関連する情報に注目する。
特に自分の身の回りで起きている企業活動や社会現象に興味を持ち「なぜそうなるのか？」という思考を深めて下さい。
また、シラバスに明記した毎回の授業における教科書範囲を熟読して講義に出席するようにして下さい。
復習：講義内容の整理：講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。（120分程度）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・教員の自己紹介
・授業の進め方と学び方
・教科書紹介と参考書籍の紹介
教科書20ページまでを熟読して講義に臨んで下さい。
第 2 回　経営学はなぜ必要か？
経営学は「これを学べば儲かる経営ができる」というハウツー的な学問ではありません。究極的には「経営する人」「働く人」「周囲の関わる人」などがすべてWin-Winの関係になるにはどうすればよいかを考えてみる学問です。
教科書32ページから68ページまでを熟読して講義に臨んで下さい。
第 3 回　企業とは何か？①
そもそも「なぜ企業という組織が、いつ頃、なぜ生まれたのか？」という原点を考えてみましょう。
教科書70ページから91ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 4 回　企業とは何か？②
日本における株式会社は、どのような歴史的背景でいつ頃に誕生して現在に至るのかについて考え、著名経営学者による「企業の定義」に触れてみましょう。
教科書91ページから108ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 5 回　職場にやる気を起こすモチベーション理論①
企業とは「人の集団」です。モチベーションを持たない人の集団は「烏合の衆」に過ぎず成果を上げることはできません。働く人は、どのようにすればモチベーションをアップすることができるのかを学びましょう。
教科書110ページから131ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 6 回　職場にやる気を起こすモチベーション理論②
近年の日本企業において導入が進む「成果主義」と「目標管理制度」について学ぶとともに、従業員自らがモチベーションを高める「内発的動機付

け」について学びましょう。
教科書131ページから150ページを熟読して講義に臨んで下さい。

第 7 回　優れたリーダーの条件①
人が属するあらゆる集団においては、必ずリーダーが存在します。多くの人が所属する集団においては、優れたリーダーの存在の有無がその集団の運命を左右することになります。優れたリーダーとは何を指すのか考えてみましょう。
教科書152ページから168ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 8 回　優れたリーダーの条件②
あらゆる組織にリーダーは存在しますが、企業のリーダーは「競合企業との競争」の中で生き残りを図るために経営のかじ取りを行う必要があります。つまり、企業のリーダーには「失敗すれば倒産」という破局的運命が待っているのです。
教科書169ページから189ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 9 回　１＋１を２以上にする組織とは①
算数の世界では「１＋１＝２」と決まっています。しかし、経営の世界では「１＋１＝10」や「１＋１＝０」もあり得ます。逆に言えば、「１＋１＝２以上」にしないと経営は成り立たないということを考えてみましょう。
教科書192ページから214ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 10 回　１＋１を２以上にする組織とは②
何かの目的をもって集まった人の集団においては、集団のリーダーが生まれると同時に、それぞれの役割分担を明示した「組織」が生まれます。特に、企業における組織とはどのように編成されるかを考えてみましょう。
教科書215ページから237ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 11 回　良い戦略的経営を実現するには①
目的を持って集まった人の集団である組織の中でも、特に企業は競争に打ち勝ちながら永続的な事業活動を続けることを目標としています。そこで「戦略」という未来への生き残り方策が必要になることを考えてみましょう。
教科書240ページから275ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 12 回　良い戦略的経営を実現するには②
「戦略」という用語は二千年以上も前から使われており、古代中国や欧州における戦争用語として定着しています。企業の将来性を決定的に形作る「経営戦略」とは何かについて、古代国家戦略の実例を通して考えてみましょう。
教科書276ページから300ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 13 回　これからの経営学①
日本企業は「IT革命などの情報化社会」などの様々なトレンドに取り囲まれています。特に、インターネットとスマホの急速な普及は、新しい巨大ビジネスを生み出しながら急速に発展を遂げています。そのような状況下に、日本企業はどのように対応していけばよいのかを考えてみましょう。
教科書302ページから322ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 14 回　これからの経営学②
日本企業の経営は、単一民族の企業という特殊性もあり、世界的に見れば「日本人という一つの民族で構成される珍しい存在」とされてきました。グローバル化の時代となり、この独特の日本企業の在り方がどのようになっていくのかを考えてみましょう。
教科書322ページから最後まで熟読して講義に臨んで下さい。

第 15 回　まとめ／総括
・期末試験についてのまとめを行います
・最後に「グローバル視点からみた日本企業の課題」と「少子高齢化社会が企業経営に与える影響」などに関して、皆さんで考えてみましょう。

〔成績評価〕
定期試験：70%
課題レポート：30%

〔教科書〕
「みんなの経営学」佐々木圭吾　日経ビジネス人文庫（日本経済新聞出版社）
※講義で使用する教科書なので予習・復習に必要です。

〔参考文献〕
参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
質問や相談がある場合には、毎回の講義終了直後の教室にて口頭で受け付けます。希望学生は授業終了後ただちに担当教員に申し出て下さい。

健康スポーツ科学概論（再履修対象）

2340
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
西光　哲治

〔到達目標〕
現代社会における我々の日常生活では身体活動が著しく低下する傾向にあり、様々な生活習慣病を引き起こしている。学生の青年期において身体的・精神的特性を理解し、そして健康で活力に満ちた生活を自ら実践する生涯スポーツ・体育への態度の育成が必要である。そこで本講義を通じて生涯にわたって体育やスポーツにかかわった生活が健康の

保持・増進にとっていかに大切であるかを理解し、積極的な運動・スポーツ実践につながることを目標とする。

〔授業の概要〕

パワーポイントを活用

現代社会の健康に関する諸問題や健康を疎外するもの、或いは健康観について過去の健康に関する文献や運動生理学的視点からの基礎的知識を紹介する。また、スポーツが健康の保持・増進に関与していることからトレーニング科学や栄養についての基礎的知識も紹介し、健康スポーツ科学への理解を深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：授業計画に記載されているキーワードについて事前に調べておくこと。(1時間)

復習：講義内容を復習し、ノートなどにまとめておくこと。(1時間)

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　講義の進め方、受講の共通理解、評価の内容伝達

第 2 回　生体リズム
　　運動能力と精神機能、スキャモンの発達曲線、神経系、リンパ系

第 3 回　健康の指標
　　健康の三原則、睡眠のメカニズム、体内時計

第 4 回　現代の健康問題(1)
　　食生活(三大栄養素・五大栄養素)

第 5 回　現代の健康問題(2)
　　運動の起源、運動と筋肉

第 6 回　体力とトレーニング
　　体力つくりとトレーニングの原理・原則

第 7 回　健康の指針
　　WHOの健康観

第 8 回　健康を疎外するもの(1)
　　生活習慣病の現状と改善策

第 9 回　健康を疎外するもの(2)
　　食中毒の原因・分類・予防

第 10 回　健康を疎外するもの(3)
　　飲酒と喫煙の行動

第 11 回　健康を疎外するもの(4)
　　感染症(病原体・感染経路・予防)

第 12 回　健康を疎外するもの(5)のⅰ
　　性感染症　　性病の歴史、原因と現状

第 13 回　健康を疎外するもの(5)のⅱ
　　性感染症　　特徴と種類と予防

第 14 回　健康を疎外するもの(6)
　　摂食障害　　過食症と拒食症の危険

第 15 回　まとめ
　　まとめテスト

〔成績評価〕

毎回の授業への取組＋レポート提出＋定期試験

総合的に評価する。

〔教科書〕

適宜資料配布する。

〔参考文献〕

文部科学省　学習指導要領・解説(最新版)

適宜紹介する。

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①後期

②木曜日　10:00～11:30

③場所：西光研究室(福山記念館１階)

④連絡先：メール(tetsuji@ashiya-u.ac.jp)にて対応

⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

English ConversationⅡ

3424
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕

正しい発音と日常でよく使われる表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができる力を養う。

〔授業の概要〕

英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学習内容を復習し、毎回課題を提出

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方について

第 2 回　Unit8 Who's older, you or your sister? ①
　　英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 3 回　Unit8 Who's older, you or your sister? ②
　　英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 4 回　Unit9 How was your weekend? ①
　　英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 5 回　Unit9 How was your weekend? ②
　　英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 6 回　Unit10 Have you ever been abroad? ①
　　英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 7 回　Unit10 Have you ever been abroad? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 8 回　Unit11 What kind of movies do you like? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 9 回　Unit11 What kind of movies do you like? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 10 回　Unit12 What's the weather going to be like? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 11 回　Unit12 What's the weather going to be like? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 12 回　Unit13 What's your favorite coffee shop? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 13 回　Unit13 What's your favorite coffee shop? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 14 回　Unit14 Do you have a part time job? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 15 回　Unit14 Do you have a part time job? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

〔成績評価〕
毎回の提出物　100%
〔教科書〕
New Getting Into English　南雲堂
〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため必ずしも確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。
〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyで受け付ける。

現代国際事情

2231
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
3年
2単位　後期
火曜 1限
教育_選択
安藤　由香里

〔到達目標〕
本授業の目的は、現在、国際社会で起こっている事象についてニュースから考えることである。本授業を通して、学生は国際情勢に関する基礎知識を習得し、現代国際情勢について自らの意見を述べることができようになる。
〔授業の概要〕
ニュースを通して、国境を越えて広がる問題に国際社会はどう機能するか、国家間の利害衝突を暴力によらず平和的に処理するための制度および手法はどのようなものがあるか等を学ぶ。
国際法は難しいと思うかもしれないが、ちょっとした知識があるだけで、現代の国際問題が面白いほど理解できる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 毎回、予習・復習として授業と関連するニュースを新聞で確認し提出すること。
〔授業計画〕
1. クラスオリエンテーション、現代国際事情とニュースの読み方
2. イスラーム国は国か？ (23-31頁)
3. 沖縄が日本から独立するかもしれない？ (32-40頁)
4. 実効支配とはなにか？　(69-80頁)
5. 靖国神社参拝批判は内政干渉？ (81-90頁)
6. 日本の裁判所で外国国家を訴える？ (91-99頁)
7. 在日米軍には日本の法律は及ばない？ (100-107頁)
8. 大使館は「治外法権」か？ (108-115頁)
9. 犯罪者は逃げ得？　(126-136頁)
10. 日本は難民鎖国？　(137-145頁)
11. ヘイトスピーチも自由な表現のうち？ (146-154頁)
12. 中国による南沙諸島の埋め立ては違法？ (155-167頁)
13. 日本の捕鯨活動のなにが問題だったのか？ (225-236頁)
14. 竹島紛争は国際司法裁判所に持ち込めない？ (245-253頁)
15. テスト

〔成績評価〕
1. テスト 50%
2. 毎回、新聞記事を持参し、討議に積極的に参加する。 30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する　20%
〔教科書〕
森川幸一ほか編『国際法で世界がわかる－ニュースを読み解く32講』 岩波書店(2016)

〔参考文献〕
加藤信行 ほか『ビジュアルテキスト国際法 第2版』有斐閣(2020)
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業の前後

日本の歴史

1106
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
1年
2単位　前期
火曜 2限
池田　聡

〔到達目標〕
日本の歴史の基礎知識
歴史を時系列的に理解する
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
日本史の基礎知識を学習する。
報告形式のアクティブラーニングを導入。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　日本の歴史で何を学ぶのか
日本の歴史で何を学ぶのか導入
第 2 回　古代・国家の形成Ⅰ
旧石器時代について学習する
第 3 回　古代・国家の形成Ⅱ
縄文時代・弥生時代について学習する
第 4 回　古代・国家の形成Ⅲ
邪馬台国、ヤマト政権と古墳文化について学習する
第 5 回　律令国家の成立
蘇我氏の国政改革、律令体制の成立過程と律令国家の発足、天平文化について
第 6 回　古代国家の成熟Ⅰ
律令の再編成、文化、政治について学習する
第 7 回　古代国家の成熟Ⅱ
受領と荘園、源氏と東国武士団について学習する
第 8 回　武家政権の誕生Ⅰ
院政と荘園公領制と文化、平氏政権について学習する
第 9 回　武家政権の誕生Ⅱ
鎌倉幕府の成立と文化、承久の乱と執権政治について学習する
第 10 回　武家政権の成長Ⅰ
室町幕府の成立と室町文化について学習する
第 11 回　武家政権の成長Ⅱ
戦国大名、織豊政権について学習する
第 12 回　幕藩体制の成立
幕藩体制の構造、寛永期の文化、文治政治、元禄文化、幕政改革について学習する
第 13 回　近代国家の形成Ⅰ
幕藩体制の変質、開国、について学習する
第 14 回　近代国家の形成Ⅱ
幕末の政局、明治維新について学習する
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめ及び定期試験の説明
〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

世界の歴史

1106
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
1年
2単位　後期
火曜 2限
池田　聡

〔到達目標〕
世界の歴史の基礎知識
歴史を時系列的に理解する
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
世界史の基礎知識を学習する。
報告形式のアクティブラーニングを導入。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　世界の歴史で何を学ぶのか
世界の歴史で何を学ぶのか導入
第 2 回　イスラームの成立Ⅰ
イスラーム教の誕生、発展、文明
第 3 回　イスラームの成立Ⅱ
帝国の成立と分裂
第 4 回　ヨーロッパ世界の形成Ⅰ
ゲルマン人の大移動、フランク王国の発展とローマ＝カトリック教会
第 5 回　ヨーロッパ世界の形成Ⅱ
封建社会の成立と社会の変容
第 6 回　ヨーロッパ世界の形成Ⅲ

中世ヨーロッパ文化と諸国の動向
第 7 回　内陸アジアの発展とモンゴル帝国
モンゴル帝国の成立と分裂、元の成立
第 8 回　アジア諸地域の発展Ⅰ
明の衰退と清の成立と発展
第 9 回　アジア諸地域の発展Ⅱ
東アジア・東南アジア・西アジア・南アジアの動向
第 10 回　ヨーロッパの拡大と大西洋世界Ⅰ
大航海時代、ルネサンス、宗教改革
第 11 回　ヨーロッパの拡大と大西洋世界Ⅱ
主権国家の成立と覇権争い、ヨーロッパ諸国の世界進出と文化
第 12 回　アメリカの変革と国民国家の形成
産業革命とアアメリカ独立戦争、アメリカの発展ン
第 13 回　ヨーロッパの変革と国民国家の形成
産業革命、フランス革命とナポレオン、ヨーロッパの再編成
第 14 回　世界市場の形成とアジア・ヨーロッパ
近世との関連性
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめと定期試験の説明

〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

子どもの文学Ⅱ

1222

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2年
2単位　前期
高橋　一夫

〔到達目標〕
1. 子どもの育ちに必要不可欠であり、ぜひとも経験させたい「保育課題」の視点から絵本を考える。
2. 将来の保育者として、また、子ども達の成長を支える大人として、子ども達と絵本を「読み合う」楽しさをイメージする。
3. 授業を通して国内外の様々な絵本を知る。

〔授業の概要〕
保育・幼児教育の現場において「絵本がどのように活用されているのか」について考える。世界と日本における著名な絵本をもとに、乳幼児にとって絵本がどのような意味を持つのかについて検討する。また、実際に絵本を読み合うことを通して、最適な読み聞かせ方の技法を習得する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業計画に従って教科書や配布した資料について予習・復習をする。また、授業内で知り得た絵本や参考文献を読む（90分）。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション／絵本とは何か／「はじめて出会った絵本」
授業の内容などについてのオリエンテーション、および、絵本とは何か（総論）についての説明と考察。
第 2 回　保育現場で活用される絵本
保育現場で活用される絵本について、事例を交えて考察する。
第 3 回　絵本の読み聞かせについて（総論）
絵本の読み聞かせについて、保育・幼児教育の視点から考察する。
第 4 回　絵本の読み聞かせ方について（技術論）
絵本の読み聞かせ方について、技術論的な視点から考察する。
第 5 回　保育課題絵本①　乳児の絵本
本時から保育課題ごとに絵本について具体的に考察する。第１回目は、はじめて出会う絵本と乳児の絵本について考察する。
第 6 回　保育課題絵本②　いのち・からだ・びょうき
第２回目は、「命・身体・病気」をテーマに持つ絵本について考察する。
第 7 回　保育課題絵本③　おかあさん・おとうさん
第３回目は、「母親・父親」をテーマに持つ絵本について考察する。
第 8 回　保育課題絵本④　きょうだい・ともだち
第４回目は、「兄弟姉妹・友達」をテーマに持つ絵本について考察する。
第 9 回　保育課題絵本⑤　おじいさん・おばあさん
第５回目は、「祖父母・高齢者」をテーマに持つ絵本について考察する。
第 10 回　保育課題絵本⑥　障がいのある人
第６回目は、「障碍者」をテーマに持つ絵本について考察する。
第 11 回　保育課題絵本⑦　世界の人々
第７回目は、「世界の人々・事物」をテーマに持つ絵本について考察する。
第 12 回　保育課題絵本⑧　ことば・もじ・かず
第８回目は、「言葉・文字・数的概念」をテーマに持つ絵本について考察する。
第 13 回　保育課題絵本⑨　しぜん・かがく
第９回目は、「自然・科学」をテーマに持つ絵本について考察する。
第 14 回　保育課題絵本⑩　園行事
第10回目は、「園行事」をテーマに持つ絵本について考察する。

第 15 回　保育の中の絵本について
保育活動で使用される絵本について、これまで学習した内容から総括する。

〔成績評価〕
レポート（50%）、授業への参加態度（50%）を総合的に評価する。

〔教科書〕
福岡貞子・礒沢淳子編著『保育者と学生・親のための乳児の絵本・保育課題絵本ガイド』ミネルヴァ書房、2009

〔参考文献〕
1. 生田美秋・石井光恵・藤本朝巳編著『ベーシック絵本入門』ミネルヴァ書房、2013
2. 松岡享子『えほんのせかい　こどものせかい』文春文庫、2017

〔履修条件〕

〔備考〕
・絵本を知るために大学図書館や公共図書館を積極的に利用しましょう。
・５回目の授業から教科書のテーマに沿った絵本を持参する必要があります。授業での指示をしっかりと聴いてください。
・授業内で絵本の読み聞かせをしますので、練習をしておきましょう。

〔オフィスアワー〕
5/11（火）授業後、および7/6（火）授業後を予定しています。

教養の数理

1117

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
齋藤　　治

〔到達目標〕
日常生活や社会生活の場面で数学がどのように使われ、応用されていくプロセスについて、原理的な観点から理解ができるようになる。加えて科学技術の知識を深めることができる。

〔授業の概要〕
数字が持つ意味をより理解することで、応用的な活用により実用製品の改良や工夫の原点となる論理思考を深めることができるスキルアップを目指す。アクティブラーニング、学習者同士の意見交換を取り入れ、理解度をより深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テーマに沿った小課題を都度出題予定なので、事後30分程度の検証復習ワークが望ましい。また、次回のテーマに沿った内容での事前リサーチ（20分程度）を希望します。

〔授業計画〕
第 1 回　グラフと表の表現
数字を並べた表、それを用いたグラフによる描画により、数字がもつ値の表現力向上となる概念を理解できるようになる。
第 2 回　データの把握
異なった数字同士を関連付けて並べることにより、何等かの法則や傾向の特徴について理解ができるようになる。
第 3 回　集合の概念
同じ、あるいは異なった属性に分類、区分けすることにより、データ識別という効率的な処理方法についての理解ができるようになる。
第 4 回　データの計算処理
統計を処理する際の基本となる合計、平均、偏差、分布といった指数の概念が理解できるようになる。
第 5 回　金利、為替、商取引での計算
商取引、財務などで用いる貨幣計算を使った実例場面で用いる、独特な用語の背景を理解することができるようになる。
第 6 回　数値比較による選択
複数ある工業製品などが示す性能を表示する数字から、品質や性能の程度を理解することができるようになる。
第 7 回　スコアシートによる選択
メリット、デメリットをスコア化したマトリックスを用い、特徴に応じてセレクトができるようなスキルを磨くことができるようになる。
第 8 回　確立、期待値による選択
例えば、天気や気温の変動によって服装や持ち物を変化させる判断基準などを論理的に理解をすることが出来るようになる。
第 9 回　平均値を用いた予測
平均、という数値が持つ標準的、という概念から得られる、予想の範囲や評価についての理解することができるようになる。
第 10 回　加重平均を用いた予測
単なる平均だけでは表現が困難な加重平均を用いた予測によって得られる範囲や特徴について理解ができるようになる。
第 11 回　関数を用いた予測
複雑な動作を関数により、単純化する思考について、理解ができるようになる。
第 12 回　データの適切なグラフ表現について
限られたデータから得られた相関関係を適切に表現することの重要性について、理解が深まることが出来るようになる。
第 13 回　有効数字や計算精度の意味について
数字が持つ価値や、範囲についての正しい理解ができるようになる。
第 14 回　複雑系を数値で示すための表現技法
どの実務分野において、解（こたえ）が簡単には求まらない事例があることについて、数値的な感性をもって真相の理解ができるようになる。
第 15 回　各テーマでの関心度合いを集計
受講者が各テーマにおいて一番関心が高い内容、低い内容の数値的評価が理解できるようになる。

〔成績評価〕
毎回、都度小レポートを課した内容の提出をもって評価（80%）
最終の定期試験前でのまとめレポート（20%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1.学期：前期
2.曜日・時間：水曜日　10：00～11：30
3.場所：研究棟2F電気研究室
4.連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.その他　LMS 科目です。可能な限り、フォリーのメールで、送ってください。

生活の物理

1117

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
齋藤　　治

〔到達目標〕
日常生活場面、ビジネスシーンで活用されている様々な道具（ツール）の動作原理や基本的な特徴について、科学（サイエンス）的な思考や判別ができるようになる。
〔授業の概要〕
物理的な原理そのものを探求するのではなく、身近なアイテムを引用したテーマを積極的に用いて理解を深めていく。アクティブラーニング形式にて応用事例について考察を深め、学習者間同士での意見交換も行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テーマに沿った小課題を都度出題予定なので、事後30分程度の検証復習ワーク、また次回テーマに関する事前リサーチ（約20分）を希望します。
〔授業計画〕
第 1 回　運動力学の３法則
ニュートン力学（相対速度、質量、慣性、加速度、力、作用、反作用）の概念について理解することができるようになる。
第 2 回　物体の運動方程式
古典のニュートン力学の他、解析力学、流体力学、量子力学、といった分野での簡単な考え方についての理解ができるようになる。
第 3 回　円運動、向心力、遠心力
特に工学分野で理解が必要となるこれら回転系運動での諸計算準備のための基礎的な理解ができるようになる。
第 4 回　摩擦、空気抵抗、浮力
空気や水によって生じる抵抗成分、浮力、摩擦といった概念についての理解が深まることができるようになる。
第 5 回　仕事とエネルギー
仕事量、仕事率、重力の位置エネルギー、弾性力、力学的エネルギー保存の法則などについての理解を深めることができるようになる。
第 6 回　熱とエネルギー
熱と温度、熱の移動、熱運動、内部エネルギーについての概念についての理解を深めることができるようになる。
第 7 回　波動とエネルギー
波動の周期、振動数、伝達速度、波動の反射と重ね合わせ、定常波、縦波、横波についての理解を深めることができるようになる。
第 8 回　音波
音についての具体的な理解を深めることができるようになる。
第 9 回　電気とエネルギー
電荷、電気力、クーロン力、についての概念について、理解を深めることができるようになる。
第 10 回　電気と磁気、磁界、電磁誘導、電磁波
電磁気学の分野についての理解を深めることができる。
第 11 回　人類とエネルギーの利用
化石燃料、原子力エネルギー、太陽光発電、潮力風力発電、のそれぞれの特徴について、理解を深めることができる。
第 12 回　再生可能エネルギー
再生可能なエネルギーの種類や方法についての理解を深めることができる。
第 13 回　電気の種類、単位、計算
直流、交流、抵抗、電力、ジュール熱、電力量といった電気に関わる諸単位の計算などについての理解を深めることができる。
第 14 回　弦楽器、管楽器、音波
楽器の種類によって音色が異なる仕組みについての理解を深めることができる。
第 15 回　物理で使用する単位
物理量の単位、数値、計算方法などについて、基本的な理解を習得できるようになる。
〔成績評価〕
毎回、都度小レポートを課した内容の提出をもって評価（80%）
最後の定期試験前でのまとめレポート（20%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1.学期：後期
2.曜日・時間：水曜日　10：00～11：30

3.場所：研究棟2F、電気研究室
4.連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.その他　※LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

教職総合演習Ⅲ-1（教職教養）

7008

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
4年
1単位　前期
笠原　清次

〔到達目標〕
○教職者として必要な学校教育に係る様々な知識・情報を整理し、まとめる。
○教職教養の知見を広げ深めるとともに、教職者としてあるべき姿について考察を深めることができる。
〔授業の概要〕
○教育法規、教育史、教育原理、教育時事等関係資料を調べ、教職教養の理解を確かなものにする。
○教員の在るべき姿や学校教育の在り方について、話し合い活動を通して理解を広げ、教育課題について自分の考えをまとめる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回､授業で取り上げる資料を繰り返し読んでおく。(３０分)
授業時に学修した内容を中心に，練習問題を解き理解を定着させる。(６０分)

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の到達目標及び概要，進め方，予習・復習の仕方，授業計画及び評価について理解する。
第 2 回　教育法規１
学校教育に関する法規を調べ，まとめる。
第 3 回　教育法規２
教職員に関する法規を調べ，まとめる。
第 4 回　教育法規３
教育法規についてまとめる。
第 5 回　教育原理１
人権教育関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 6 回　教育原理２
特別支援関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 7 回　教育原理３
学校安全・防災教育等関係資料を調べ，まとめる。
第 8 回　教育時事１
中教審関係資料等を調べ，まとめる。
第 9 回　教育時事２
文部科学省通知・通達を調べ，まとめる。
第 10 回　教育時事３
その他各種関係資料，手引き等を調べ，まとめる。
第 11 回　教育史1
西洋教育史を調べ、まとめる。
第 12 回　教育史２
日本教育史を調べ、まとめる。
第 13 回　教育心理１
発達・学習理論を調べ、まとめる。
第 14 回　教育心理２
教育評価・人格心理検査等を調べ、まとめる。
第 15 回　教職教養のまとめ
教職教養に関する要点を整理し，理解を深める。
〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度(４０％)
〔教科書〕
自作テキスト「教職教養資料①教育法規編」「　〃　②人権教育・特別支援教育編」「　〃　③教育時事編」「　〃　教育史・教育心理編」

問題プリントは毎回配付する。

〔参考文献〕
「教職教養ランナー 2022年度版」(一ツ橋書店)
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
参考文献を予習・復習時に活用し，理解を深める。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教職総合演習Ⅳ-2（数学）

7009

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
3年
15単位　後期
笠原　清次

〔到達目標〕
学習指導の要となる数学（算数）の専門的な知識と教養を深めて、教科学習の指導力を向上することができる。
〔授業の概要〕
１．数学科（算数科）の指導内容及び指導上の留意事項の理解を深める。
２．数学の問題の解き方を話し合い、解く技能を高める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１．基礎的な問題は毎回予習する。(60分)
２．授業終了後に毎回復習問題を課すので、翌週までに解く。(30分)
〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領理解
　　算数(数学)指導の要点を調べ整理する。
第 2 回　数学演習1
　　数学演習問題基礎（数と式）を解く。
第 3 回　数学演習2
　　数学演習問題応用（数と式）を解く。
第 4 回　数学演習3
　　数学演習問題基礎（方程式の利用）を解く。
第 5 回　数学演習4
　　数学演習問題応用（方程式の利用）を解く。
第 6 回　数学演習5
　　数学演習問題基礎（関数）を解く。
第 7 回　数学演習６
　　数学演習問題応用（関数）を解く。
第 8 回　数学演習７
　　数学演習問題基礎（平面図形）を解く。
第 9 回　数学演習８
　　数学演習問題応用（平面図形1）を解く。
第 10 回　数学演習９
　　数学演習問題応用（平面図形2）を解く。
第 11 回　数学演習１０
　　数学演習問題基礎（空間図形）を解く。
第 12 回　数学演習１１
　　数学演習問題応用（空間図形）を解く。
第 13 回　数学演習１２
　　数学演習問題基礎（確率）を解く。
第 14 回　数学演習１３
　　数学演習問題応用（確率）を解く。
第 15 回　学習のまとめ
　　自己の課題に挑戦する。
〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）
〔教科書〕
小学校学習指導要領解説算数編（平成29年7月　文部科学省）
中学総合的研究問題集　数学　三訂版（旺文社）
〔参考文献〕
授業ごとに補充問題プリントを配付する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前　期：.水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教職総合演習Ⅳ-1（理科）

7008

臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2年
1単位　前期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
小学校教師として必要な理科に関する基礎知識を幅広く学ぶ。
〔授業の概要〕
過去に出題された教員採用試験の問題を中心に学習する。事前に課題を出し、取組んだ課題を授業で発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備物が必要であれば事前に連絡します。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の意義、目的、授業の進め方についての講義。
第 2 回　生命①
　　生物の構造と機能
第 3 回　生命②
　　生命の連続性
第 4 回　生命③
　　生物と環境の関わり
第 5 回　地球①
　　地球の内部と地表面の変動
第 6 回　地球②
　　地球の大気と水の循環
第 7 回　地球③
　　地球と天体の運動
第 8 回　物質①
　　粒子の存在
第 9 回　物質②
　　粒子の結合
第 10 回　物質③
　　粒子の保存性
第 11 回　物質④
　　粒子の持つエネルギー
第 12 回　エネルギー①
　　エネルギーのとらえ方
第 13 回　エネルギー②
　　エネルギーの変換と保存
第 14 回　環境
　　生物と環境
第 15 回　学習指導要領
　　小学校学習指導要領理科
〔成績評価〕
テスト（８０％）
学習姿勢・態度（２０％）
〔教科書〕
小学校教員採用試験　理科問題集　改訂２版

〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
1.学期　前期・後期
2.曜日・時間：月曜日　11：30～12：30
3.場所：1号館３階、教員研究室　１３
4.　Phollyメッセージ
５、前もってメッセージで連絡すること

教職総合演習Ⅳ-2（理科）

7009
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
小学校教師として必要な理科に関する基礎知識を幅広く学ぶ。
〔授業の概要〕
過去に出題された教員採用試験の問題を中心に学習する。事前に課題を出し、取組んだ課題を授業で発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備物が必要であれば事前に連絡します。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の意義、目的、授業の進め方についての講義。
第 2 回　生命①
生物の構造と機能
第 3 回　生命②
生命の連続性
第 4 回　生命③
生物と環境の関わり
第 5 回　地球①
地球の内部と地表面の変動
第 6 回　地球②
地球の大気と水の循環
第 7 回　地球③
地球と天体の運動
第 8 回　物質①
粒子の存在
第 9 回　物質②
粒子の結合
第 10 回　物質③
粒子の保存性
第 11 回　物質④
粒子の持つエネルギー
第 12 回　エネルギー①
エネルギーのとらえ方
第 13 回　エネルギー②
エネルギーの変換と保存
第 14 回　環境
生物と環境
第 15 回　学習指導要領
小学校学習指導要領理科
〔成績評価〕
テスト（８０％）
学習姿勢・態度（２０％）
〔教科書〕
小学校教員採用試験　理科問題集　改訂２版
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
1.学期　前期・後期
2.曜日・時間：水曜日　11：30～12：30
3.場所：1号館３階、教員研究室　１３
4.　Phollyメッセージ
５、前もってメッセージで連絡すること

器楽Ⅰ①（再履修）

2241
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
火曜 2限
石田　　愛子

〔到達目標〕
保育士、幼稚園・小学校教員に必要なピアノ演奏力の習得（基礎～初級）
＜最低限クリアすべき目標＞
① 大譜表の楽譜が読める
② ハ長調の主要三和音（Ⅰ、Ⅳ、ⅤまたはⅤ7）（C、F、GまたはG7）を伴奏とする曲が弾ける
③ バイエル58番程度の曲が弾ける
〔授業の概要〕
対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である。３段階のレベル（ビギナー、ベーシック、ベーシックプラス）のコースを設定し、毎回課題曲を提示するので、各自のレベルに合ったコースを選択して練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術向上に努めること。 なお、シラバスに記載の授業計画は標

準的なベーシックコースの内容であり、初心者や中・上級者についてはこの限りでない。学期末に発表会形式の試験を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション／個別面談
受講の目的と方法、注意事項等について説明する。ピアノの経験やレベルに応じたコースを指定するので、各自、入学前教育で提示された課題を一曲以上演奏すること。

第 2 回　ハ長調と ト長調のⅠ・Ⅴによる伴奏
8分音符のレガート奏、アルベルティバス、ト長調の伴奏づけ

第 3 回　付点のリズム
付点4分音符と8分音符、3/4拍子、ハ長調の伴奏づけ

第 4 回　ハ長調と ト長調、移調奏
ハ長調と ト長調のⅠとⅤの和音、調号、♯

第 5 回　ハ長調と へ長調、移調奏
ハ長調と へ長調のⅠとⅤの和音、調号、♭、へ長調の伴奏づけ

第 6 回　ハ長調の主要三和音
ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の和音、いろいろな伴奏型

第 7 回　ハ長調と ト長調の主要三和音
ト長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音、ハ長調の伴奏づけと弾き歌い

第 8 回　ハ長調と へ長調の主要三和音
へ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音、ハ長調の伴奏づけ

第 9 回　いろいろな指使い
アルベルティバスによる伴奏づけ

第 10 回　いろいろな指使い、移調奏
ハ長調と へ長調、アルベルティバスによる伴奏づけと弾き歌い

第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、リズム、指使い、音符と休符

第 12 回　単位認定課題曲の練習②
形式とフレーズ感、強弱記号

第 13 回　単位認定課題曲の練習③
レガート奏、両手のバランス

第 14 回　単位認定課題曲の練習④
速度・発想用語、曲にふさわしいテンポと表情

第 15 回　実技試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕

対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（15%）
実技試験（35%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕

・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編
、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕

質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

器楽Ⅰ②（再履修）

4428
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
火曜 3限
石田　　愛子

〔到達目標〕

保育士、幼稚園・小学校教員に必要なピアノ演奏力の習得（基礎～初級）
＜最低限クリアすべき目標＞
① 大譜表の楽譜が読める
② ハ長調の主要三和音（Ⅰ、Ⅳ、ⅤまたはⅤ7）（C、F、GまたはG7）を伴奏とする曲が弾ける
③ バイエル58番程度の曲が弾ける

〔授業の概要〕

対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である。３段階のレベル（ビギナー、ベーシック、ベーシックプラス）のコースを設定し、毎回課題曲を提示するので、各自のレベルに合ったコースを選択して練習すること。対面レッスンの際は互いに演奏を聴き合い、技術

向上に努めること。 なお、シラバスに記載の授業計画は標準的なベーシックコースの内容であり、初心者や中・上級者についてはこの限りでない。学期末に発表会形式の試験を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション／個別面談
受講の目的と方法、注意事項等について説明する。ピアノの経験やレベルに応じたコースを指定するので、各自、入学前教育で提示された課題を一曲以上演奏すること。

第 2 回　ハ長調と ト長調のⅠ・Ⅴによる伴奏
8分音符のレガート奏、アルベルティバス、ト長調の伴奏づけ

第 3 回　付点のリズム
付点4分音符と8分音符、3/4拍子、ハ長調の伴奏づけ

第 4 回　ハ長調と ト長調、移調奏
ハ長調と ト長調のⅠとⅤの和音、調号、♯

第 5 回　ハ長調と へ長調、移調奏
ハ長調と へ長調のⅠとⅤの和音、調号、♭、へ長調の伴奏づけ

第 6 回　ハ長調の主要三和音
ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の和音、いろいろな伴奏型

第 7 回　ハ長調と ト長調の主要三和音
ト長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音、ハ長調の伴奏づけと弾き歌い

第 8 回　ハ長調と へ長調の主要三和音
へ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音、ハ長調の伴奏づけ

第 9 回　いろいろな指使い
アルベルティバスによる伴奏づけ

第 10 回　いろいろな指使い、移調奏
ハ長調と へ長調、アルベルティバスによる伴奏づけと弾き歌い

第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、リズム、指使い、音符と休符

第 12 回　単位認定課題曲の練習②
形式とフレーズ感、強弱記号

第 13 回　単位認定課題曲の練習③
レガート奏、両手のバランス

第 14 回　単位認定課題曲の練習④
速度・発想用語、曲にふさわしいテンポと表情

第 15 回　実技試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕

対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（15%）
実技試験（35%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕

・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編
、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、必修

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕

質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

器楽Ⅲ（再履修）

4434
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
火曜 4限
石田　　愛子

〔到達目標〕

保育士、幼稚園教員に求められるピアノ演奏力の習得（初級～中級）
今期の目標は次のとおりである。
①バイエル終了程度の曲が弾ける
②保育実習・教育実習を想定した童謡・歌唱教材の弾き歌いができる

〔授業の概要〕

対面レッスンとオンデマンドを併用した、ピアノ実技の個別指導である（器楽Ⅰ・Ⅱの単位修得者、保育士資格・幼稚園教諭免許状取得希望者対象。人数制限あり）。保育活動に必須のスキル「ピアノ弾き歌い」を中心にレッスンを進める。 毎回、必修と選択、２曲の弾き歌い課題を提示するので、各自のレベルに応じて練習すること。対面レッスン

の際は互いに演奏を聴き合い、技術向上に努めること。学期末に発表会形式の試験 を行う。
（レッスン担当教員：石田愛子・稲葉修子・岩崎智早・柿本久美子・野尻智子・三宅澄子）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・楽器の習得には日々の練習が不可欠である。週4日90分以上はピアノの練習時間を確保すること。
・毎回の課題曲について、対面レッスンの週は直接、オンデマンドの週は演奏動画を提出し、アドバイスを受けること。
・長い爪やネイルは禁止。指示に従わない場合は減点、試験においては失格となるので注意すること。

〔授業計画〕

第 1 回　器楽Ⅱの復習
ハ長調の音階と主要三和音の復習、和音記号とコードネーム、弾き歌い練習の手順の確認
第 2 回　ヘ長調と ト長調
ヘ長調と ト長調の音階と主要三和音の復習、和音記号とコードネーム
第 3 回　いろいろな伴奏型
ハ長調の主要三和音（C、F、G）のいろいろな伴奏型による弾き歌い
第 4 回　生活の歌
登園時や昼食前の歌、保育の場面を想定した弾き歌い
第 5 回　一日の歌
降園時の歌、保育の場面を想定した弾き歌い
第 6 回　マーチ
歩くテンポ、子どもたちの動きを想定したピアノ演奏
第 7 回　夏の歌
季節の歌、保育の場面を想定した弾き歌い
第 8 回　日本の音階
わらべうた、日本古謡の弾き歌い
第 9 回　ニ長調の曲
ニ長調の音階と主要三和音、和音記号とコードネーム
第 10 回　アーティキュレーション、曲想
アーティキュレーション、強弱記号、発想用語、曲にふさわしい表現の工夫
第 11 回　単位認定課題曲の練習①
調性と拍子、リズム、指使い、音符と休符
第 12 回　単位認定課題曲の練習②
音程、発音、ブレス、歌とピアノのバランス
第 13 回　単位認定課題曲の練習③
前奏の役割、曲にふさわしいテンポと表情
第 14 回　単位認定課題曲の練習④
保育の場面を想定した言葉かけと表現の工夫
第 15 回　実技試験に向けて
演奏発表、実技試験のマナーとルール、リハーサル

〔成績評価〕

対面レッスンおよび提出動画・レポート等による評価（50%）
到達レベル（5%）
実技試験（45%）
※提出動画やレポートについては、担当教員から個別にコメント（アドバイス）があります。

〔教科書〕

・改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育（教育芸術社）
・2訂版　歌唱教材伴奏法　バイエルとツェルニーによる（教育芸術社）

〔参考文献〕

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説音楽編 、保育所保育指針、保育所保育指針解説（各最新版）

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕

領域に関する専門的事項、音楽、幼一種、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、音楽、小一種、選択

【実務経験の活用】
初歩から上級者まで幅広いレベルに対応したピアノ実技指導を行っている。
幼児（3才～）を対象としたピアノ指導の経験を踏まえ、幼児期の音楽表現活動の援助のしかたを指導している。

〔オフィスアワー〕

質問や相談があれば、Phollyのレポートやメッセージを活用してください。メッセージまたは対面レッスンで回答します。

乳児保育Ⅱ

6001
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
安藝　雅美

〔到達目標〕

① 保育所における乳児の遊びの意義を理解し、援助内容や環境構成にを具体的に述べることができる。
② 家庭と保育所の二つの生活の場をつなぐ各種の便り・連絡帳の意義を述べることができる。
③ 保育の計画の重要性を理解し、3歳未満児の指導計画を立案することができる。
④ 保育所保育の特性を踏まえて、子どもとの関わりや職員の連携について説明することができるようになる。

〔授業の概要〕

乳児が保育所・認定子ども園等で生活することの意味や発達特性を理解し一人ひとりへ生活や遊びの援助の在り方を具体的に学ぶ。
乳児保育における保育の計画の意義を理解し、指導計画と実践の関連や記録のとり方を学ぶ。
乳児には家庭と保育所等の二つの生活の場があることの意味を理解し２４時間を視野に入れた生活援助について学ぶ。
保護者との連携の意義と方法を理解し具体的に述べること

ができる。授業担当者として、保育士としての実務経験を活かし、学生同士が意見を出し合いながら授業を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

３歳未満児の発達過程及び保育士の配慮について保育所保育指針をもとに復習しておくこと。（３時間）

シラバスに記載のテキスト範囲及び資料を事前に読んでおくこと。（各回１時間）

学習した内容を振り返りノートにまとめ、次回の授業に臨むこと。（各回１時間）

〔授業計画〕

第 1 回　乳児保育Ｉで学んだことの復習
乳児保育とは？
授業の流れの説明

第 2 回　乳児保育の一日
子どもの生活保障は、子どもとの受容的応答的なかかわり、保護者との連携が基本であることを学ぶ。

第 3 回　乳児の発達と保育内容①
0歳児クラスの発達と保育の内容を知る。

第 4 回　乳児の発達と保育内容②
1歳児クラスの発達と保育の内容を知る。

第 5 回　乳児の発達と保育内容③
2歳児クラスの発達と保育の内容を知る。

第 6 回　身体機能の発達と保育①
運動機能の発達と保育者の役割

第 7 回　身体機能の発達と保育②
手の機能の発達と保育者の役割

第 8 回　基本的生活習慣獲得と保育
食べる・排泄する・眠る

第 9 回　対人関係の発達と保育
言葉と人のつながり、人とのかかわりの大切さ

第 10 回　現場の保育者から実践を伺う
乳児の遊びの意義と発達過程に応じた遊びの環境を学び、乳児の遊びを捉える視点を学ぶ。
ゲストスピーカーから保育実践を聞く。

第 11 回　乳児の養育環境と乳児保育の課題
少子化と子育て支援

第 12 回　生活リズムと保育園の日課
保育園の日課と健康管理

第 13 回　記録・保育日誌・家庭との連絡
保育中の記録、日誌、家庭との連絡

第 14 回　全体的な計画と指導計画の作成①
乳児期からの見通しを持った全体的な計画の作成

第 15 回　全体的な計画と指導計画の作成②
計画の評価と反省

〔成績評価〕

定期筆記試験（70%）、授業内提出物（15%）、授業への取組姿勢（15%）

〔教科書〕

『保育所保育指針解説書』平成29年3月告示　厚生労働省　フレーベル館

『乳児の生活と保育《改訂版》』松本園子編著　ななみ書房

〔参考文献〕

「授業中に適宜資料を配布する」

「乳児保育Ｉ」の教科書

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

1.学期　後期

2.曜日・時間：月曜日　11：30～12：30

3.場所：1号館３階、教員研究室　8号室

4.連絡先（メールアドレス）aki@ashiya-u.ac.jp

5.その他　※来室前にメールでアポイントメントをとること。
※LMSになった場合、メールで質問等を送ってください。次回の授業までに
回答します。

教職総合演習Ⅳ-1（全科・国語）

7006
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 児童教育学科
1単位　前期
中村　整七

〔到達目標〕

教職に必要な学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と国語科の基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付けることができる。

〔授業の概要〕

小学校全科の学習指導要領や国語科の問題について、協同して課題解決を進めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

「練習問題」の解決を授業前後の課題とする。(各２時間)

〔授業計画〕

第 1 回　学習指導要領
国語科の新学習指導要領の変更点を中心にした問題について、グループで話し合う中で解決を図り、学びを深める。

第 2 回　漢字
漢字の成り立ち、部首、熟語の構成などについて演習問題を解き、理解を深める。

第 3 回　ことば
ことわざ、慣用句、故事成語などについてグループで話し合ったり、個々に問題を解いたりしてその認識を豊かにする。

第 4 回　品詞の種類

それぞれの品詞の特性や使い方についてのみんなで話し合うなどの問題解決を通して、理解を深める。

第 5 回　修飾語・接続後・独立語
修飾語や接続語・独立語などの特性に対する認識を深め、問題解決を通して、その正しい使い方についての知識・技能を身に付ける。

第 6 回　品詞の活用
動詞・形容詞・形容動詞の活用について認識を深め、グループで話し合うなどの
問題解決を通して、その正しい使い方についての知識・技能を身に付ける。

第 7 回　副詞・連体詞
副詞や連体詞の種類や用法についての認識を深め、問題解決を通して、その正しい使い方について技能を身に付ける。

第 8 回　助詞・助動詞
助詞・助動詞の種類や用法についての認識を深め、問題解決を通して、その正しい使い方について技能を身に付ける。

第 9 回　長文読解
長文読解の問題に取り組み、参考資料をもとにして、文脈をつかむ方法などの解決の手法を身に付けていく。

第 10 回　敬語
尊敬語、謙譲語、丁寧語など敬語の種類とその使い方の違いについて理解を深め、グループで話し合いながら問題を解決していく。

第 11 回　対義語・故事成語・四字熟語
対義語・二字熟語・四字熟語などの成り立ちや意味について練習問題に取り組むことで、その認識を豊かにする。

第 12 回　和歌・俳句
和歌や近代短歌・俳句の形式と表現技法についての理解を深め、代表的な作品と作者についての認識を豊かにする。

第 13 回　文学史
日本文学の著名な作品名や作者名などについての練習問題を取り組み、知識を豊かにしていく。

第 14 回　総合問題
国語科や学習指導要領の問題に取り組み、協同的に学びを深める。

第 15 回　総合問題2
国語科や学習指導要領の問題に取り組み、協同的に学びを深める。

〔成績評価〕
授業におけるの問題解決度と学修に取り組む態度を評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00 研究室1

教職総合演習Ⅳ-1（英語）

7012
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
教員採用試験に出題される英語問題に対応できるだけの文法力、読解力の素地を培い、自ら課題を解決する力を身につける。

〔授業の概要〕
英語学習の基礎を培うために、学習した内容を学生相互で確認し合ったり、疑問を出し合い、課題解決の方法を身につける。そして自立学習の素地を培う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業課題の予習90分、授業内容の復習９０分は必至である。

〔授業計画〕

第 1 回　会話の基本表現
出題頻度の高い会話文の基本表現を整理する。
近隣自治体の過去問題の傾向を整理する。

第 2 回　英文法①
名詞、形容詞、副詞、疑問詞の役割を具体例をもとに整理する。

第 3 回　英文法②
時制　現在形、過去形、未来を表す表現を整理する。
また、進行形、完了形の特徴を整理する。

第 4 回　英文法③
受動態と比較・最上級を整理する

第 5 回　英文法④
不定詞、分詞の特徴と役割を整理する。

第 6 回　英文法⑤
関係詞の種類と役割、仮定法の構造と役割を整理する。

第 7 回　長文読解①
名詞構文、無生物主語の構文を含んだ英文の読解方法を整理する。
長文の接続詞thatを見極める。

第 8 回　長文読解②
設問の答えを説明文から見つける方法を学習する。
スキミング、スキャニングなどの技法を学ぶ。メール文やニュース記事などの特徴を整理する。
模擬問題の演習。

第 9 回　長文読解③
関係代名詞と関係副詞を見極め、長文の内容を理解する演習を行う。
模擬問題の演習。

第 10 回　長文読解④　　まとめ

強調・倒置・省略・挿入などの特殊構文を整理する。
模擬問題の演習。

〔成績評価〕
授業毎に実施する確認テストを参考に評価する。

〔教科書〕
小学校学習指導要領　外国語活動・外国語（平成29年告示）
よくわかる総合英語問題集　Gakken

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
毎週木曜日3限、研究室

教職総合演習Ⅳ-1（理科）

7011
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
渡　　康彦

〔到達目標〕
教職に必要な学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と理科の基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付けることができる。

〔授業の概要〕
小学校理科の問題について、協同して課題解決を進めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の予習（90 分）
授業後の問題解答（90 分）

〔授業計画〕
第 1 回　力のはたらき
力の分解とつり合い、バネの伸び、圧力と浮力などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 2 回　力と運動
等速直線運動や等加速度直線運動、自由落下、鉛直投げ上げ投射などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 3 回　エネルギー
力学的エネルギー保存の法則などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 4 回　光と音
光の性質や音の性質などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 5 回　電磁気
オームの法則を用いた電流・電圧・抵抗の大きさや消費電力などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 6 回　物質の構成
物質の分類や化学反応式などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 7 回　物質の状態
質量パーセント濃度や溶解度などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 8 回　物質の変化
酸とアルカリ、中和、酸化還元反応、電気分解などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 9 回　物質の性質
気体の発生と溶液の性質などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 10 回　植物の世界
植物の分類や光合成などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 11 回　動物の世界
ヒトの血液の成分、血液循環、消化酵素、動物の分類などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 12 回　生物のつながり
細胞、遺伝、食物連鎖、物質の循環などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 13 回　大地の変化
火山の形、火成岩の分類、地震などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 14 回　大気の変化
湿度、日本の天気などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 15 回　太陽系と宇宙
星の動き、太陽の南中高度、惑星、星座などについて演習問題を解き、理解を深める。

〔成績評価〕
試験（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説理科編（平成29年7月　文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します

教職総合演習Ⅳ-1（社会）

7014
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
中村　吉次郎

〔到達目標〕
教職に必要な学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と社会科の基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付け、教員採用試験に向けた自学につなげることができる。
〔授業の概要〕
教員採用試験に向けた専門教養社会科の各分野の問題について、課題解決を協働で進めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「授業前の予習（90 分）」
「授業後の問題の復習（90 分）」
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
教員採用試験の過去問題を紹介しながら、講座全体の授業内容のオリエンテーションを行う。
第 2 回　日本史1
「日本の古代から中世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 3 回　日本史2
「日本の近世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 4 回　日本史3
「日本の近代の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 5 回　地理1
「人間と地球に関する」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 6 回　地理2
「世界の国々と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 7 回　地理3
「日本の地理と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 8 回　政治1
「民主主義の基本原理と制度」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 9 回　政治2
「現代政治の特徴」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 10 回　経済1
「現代経済の特質とその働き」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 11 回　経済2
「日本経済史と労働問題や社会福祉等の社会の課題」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 12 回　国際政治
「国際政治に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 13 回　国際経済
「国際経済に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 14 回　環境問題
「環境問題に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 15 回　まとめとテスト
講座全体をふり返り、まとめを行い、評価テストを実施する。
〔成績評価〕
評価テストを実施する。
〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
〇非常勤のためオフィスアワーはない。
連絡者・中村　整七

教職総合演習Ⅳ-2（社会）

7016
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　後期
中村　吉次郎

〔到達目標〕
教職に必要な社会科の学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付け、教員採用試験に向けた自学につなげることができる。
〔授業の概要〕
教員採用試験に向けた専門教養社会科の各分野の問題について、課題解決を協働で進めていく
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「授業前の予習（90 分）」
「授業後の復習（90 分）」
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
教員採用試験の過去問題を紹介しながら、講座全体の授業内容のオリエンテーションを行う。
第 2 回　日本史1
「日本の古代から中世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 3 回　日本史2

「日本の近世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 4 回　日本史3
「日本の近代の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 5 回　地理1
「人間と地球に関する」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 6 回　地理2
「世界の国々と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 7 回　地理3
「日本の地理と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る
第 8 回　政治1
「民主主義の基本原理と制度」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 9 回　政治2
「現代政治の特徴」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 10 回　経済1
「現代経済の特質とその働き」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 11 回　経済2
「日本経済史と労働問題や社会福祉等の社会の課題」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 12 回　国際政治
「国際政治に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 13 回　国際経済
「国際経済に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 14 回　環境問題
「環境問題に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 15 回　まとめとテスト
講座全体をふり返るまとめを行い、評価テストを実施する。

〔成績評価〕
評価テストを実施する。(100%)
〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
○非常勤のためオフィスアワーはない。
連絡者・中村　整七

English ConversationⅢ

3425

臨床教育学部 > 児童教育学科
2単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
正しい発音と日常でよく使われる表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができる力を養う。
〔授業の概要〕
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習内容の復習し、毎回課題を提出
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、英語のリズムとイントネーションについて
第 2 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 3 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 4 回　Unit2 How do you spell that? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 5 回　Unit2 How do you spell that? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 6 回　Unit3 What's the time? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 7 回　Unit3 What's the time? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 8 回　Unit4 Where are you from? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 9 回　Unit4 Where are you from? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 10 回　Unit5 What's your favorite food? ①

英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 11 回　Unit5 What's your favorite food? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 12 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 13 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 14 回　Unit7 What kind of music do you like? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 15 回　Unit7 What kind of music do you like? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

〔成績評価〕
毎回の提出物　100%

〔教科書〕
New Getting Into English　南雲堂

〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布

〔履修条件〕

〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため必ずしも確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyのメッセージ機能で受け付ける。

情報処理技法Ⅱ（文書作成）

3508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
水曜 4限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。

〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　スキルチェック
Wordのスキルチェック

第 2 回　文書の作成と管理②
文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ

第 3 回　文書の作成と管理④
「文書の作成と管理」の確認問題

第 4 回　文字、段落、セクションの書式設定②
文字や段落の書式設定

第 5 回　文字、段落、セクションの書式設定④
「文字、段落、セクションの書式設定」の確認問題

第 6 回　表やリストの作成②
表の変更

第 7 回　表やリストの作成④
「表やリストの作成」の確認問題

第 8 回　参考資料の作成と管理②
「参考資料の作成と管理」の確認問題

第 9 回　グラフィック要素の挿入と書式設定②
グラフィック要素の書式設定

第 10 回　グラフィック要素の挿入と書式設定④
「グラフィック要素の挿入と書式設定」の確認問題

第 11 回　文書表現の応用②
説得力のある文書の作成

第 12 回　模擬試験対策②
模擬試験の実施、解説

第 13 回　模擬試験対策④
模擬試験の実施、解説

第 14 回　模擬試験対策⑥
模擬試験の実施、解説

第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
・富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスターMOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
その他
〔備考〕
水曜日４時限目　情報処理技法Ⅰ（文書作成）も併せて履修すること。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅱ（表計算）

3507
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
金曜 2限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。
〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　スキルチェック
Excelのスキルチェック
第 2 回　ワークシートやブックの作成と管理②
ワークシートやブックの書式設定
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理④
「ワークシートやブックの作成と管理」の確認問題
第 4 回　セルやセル範囲のデータの管理②
セルやセル範囲の書式設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理④
「セルやセル範囲のデータの管理」の確認問題
第 6 回　テーブルの作成②
テーブルのレコードの抽出、並び替え、「テーブルの作成」の確認問題
第 7 回　数式や関数を使用した演算の実行②
関数を使用した条件付きの計算
第 8 回　数式や関数を使用した演算の実行④
「数式や関数を使用した演算の実行」の確認問題
第 9 回　グラフやオブジェクトの作成②
グラフの書式設定
第 10 回　グラフやオブジェクトの作成④
「グラフやオブジェクトの作成」の確認問題
第 11 回　表計算の応用②
目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算②
第 12 回　模擬試験対策②
模擬試験の実施、解説
第 13 回　模擬試験対策④
模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑥
模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
金曜日１時限目　情報処理技法Ⅰ（表計算）も併せて履修すること。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ（文書作成）

3501
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
水曜 3限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。

〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ・Ⅱ（文書作成）の概要
第 2 回　文書の作成と管理①
文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 3 回　文書の作成と管理③
文書の印刷、文書の保存
第 4 回　文字、段落、セクションの書式設定①
文字列や段落の挿入
第 5 回　文字、段落、セクションの書式設定③
文字列や段落の並び替え、グループ化
第 6 回　表やリストの作成①
表の作成と変更
第 7 回　表やリストの作成③
リストの作成、変更
第 8 回　参考資料の作成と管理①
参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 9 回　グラフィック要素の挿入と書式設定①
グラフィック要素の挿入
第 10 回　グラフィック要素の挿入と書式設定③
SmartArtの挿入、書式設定
第 11 回　文書表現の応用①
目的や状況に応じた文書の作成
第 12 回　模擬試験対策①
模擬試験の概要、模擬試験プログラムの学習方法
第 13 回　模擬試験対策③
模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑤
模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
水曜日４時限目　情報処理技法Ⅱ（文書作成）も併せて履修すること。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ（表計算）

3502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　後期
金曜 1限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。
〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ・Ⅱ（表計算）の概要
第 2 回　ワークシートやブックの作成と管理①
ワークシートやブックの作成、移動
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理③
ワークシートやブックのオプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 4 回　セルやセル範囲のデータの管理①
セルやセル範囲へのデータ挿入
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理③
データのまとめ、整理

第 6 回　テーブルの作成①
テーブルの作成、管理、スタイルと設定オプションの管理
第 7 回　数式や関数を使用した演算の実行①
関数を使用したデータ集計
第 8 回　数式や関数を使用した演算の実行③
関数を使用した書式設定、文字列の変更
第 9 回　グラフやオブジェクトの作成①
グラフの作成
第 10 回　グラフやオブジェクトの作成③
オブジェクトの挿入、書式設定
第 11 回　表計算の応用①
目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算①
第 12 回　模擬試験対策①
模擬試験の概要、模擬試験プログラムの学習方法
第 13 回　模擬試験対策③
模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑤
模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
金曜日２時限目　情報処理技法Ⅱ（表計算）も併せて履修すること。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅱ（文書作成）

3505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Wordの応用的な機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。

〔授業の概要〕
文書作成で必要とされるWordを用いて、社会人としてビジネスの場で効果的・効率的に活用できるより高度で実践的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016 Expert」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
※「情報処理技法Ⅰ（文書作成）」の単位を取得済かつ「Microsoft Office Specialist Word 2016」を取得済（または同等レベル以上の証明書あり）が望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅱ（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
Wordのスキルチェック
第 3 回　文書のオプションと設定の管理①
文書作成時の注意点、文書とテンプレートの管理
第 4 回　文書のオプションと設定の管理②
文書の変更の管理、校閲用の文書の準備
第 5 回　文書のオプションと設定の管理③
情報の安全性の確保
第 6 回　高機能を使用した文書のデザイン
高度な編集や書式設定、スタイルの作成
第 7 回　高機能を使用した参考資料の作成①
索引の作成と管理、参考資料の作成と管理
第 8 回　高機能を使用した参考資料の作成②
フォーム、フィールド、差し込み印刷の管理
第 9 回　ユーザー設定のWord要素の作成①
文書パーツ、マクロ、コントロールの作成と変更
第 10 回　ユーザー設定のWord要素の作成②
ユーザー設定のスタイルセットとテンプレートの作成
第 11 回　ユーザー設定のWord要素の作成③
ほかの言語やユーザー補助機能に対応した文書の準備

第 12 回　文書表現の基本
　　文書作成のポイント
第 13 回　文書表現の応用①
　　Wordの利用環境をカスタマイズした文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
　　効率的な文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
小テスト30%（実技）
定期試験70%（実技）

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 Expert対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（3,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
金曜日3時間目
研究棟2階
事前にphollyのメッセージでアポイントを取ってください。

情報処理技法Ⅱ（表計算）

3509
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・Excelの応用的な機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で効果的・効率的に活用できるより高度で実践的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016 Expert」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
※「情報処理技法Ⅰ（表計算）」の単位を取得済かつ「Microsoft Office Specialist Excel 2016」を取得済（または同等レベル以上の証明書あり）が望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
小テスト30%（実技）
定期試験70%（実技）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅱ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
　　Excelのスキルチェック
第 3 回　ブックのオプションと設定の管理
　　管理、校閲の管理
第 4 回　表示形式やレイアウトの適用①
　　ユーザー定義の表示形式と入力規則、条件付き書式やフィルターの適用
第 5 回　表示形式やレイアウトの適用②
　　ユーザー設定のブックの要素の作成と変更
第 6 回　表示形式やレイアウトの適用③
　　ほかの言語に対応したブックの準備
第 7 回　高機能な数式の作成①
　　名前付き範囲とオブジェクトの定義、数式に関数の適用
第 8 回　高機能な数式の作成②
　　関数を使用したデータの検索、高度な日付と時刻の関数の適用
第 9 回　高機能な数式の作成③
　　データ分析・ビジネス分析、数式のトラブルシューティング
第 10 回　高機能なグラフやテーブルの作成①
　　高度な機能を使用したグラフの作成
第 11 回　高機能なグラフやテーブルの作成②
　　ピボットテーブルの作成と管理
第 12 回　高機能なグラフやテーブルの作成③
　　ピボットグラフの作成と管理
第 13 回　表計算の応用①
　　効率的な集計を必要とする表計算
第 14 回　表計算の応用②
　　的確な判断と分析を必要とする表計算
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
小テスト30%（実技）
定期試験70%（実技）

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 Expert対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（3,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
金曜日3時間目
研究棟2階
事前にphollyのメッセージでアポイントを取ってください。

健康スポーツ科学実習

2339
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 児童教育学科
1単位　前期
実務経験有

西光　哲治　別當　和香　伊藤　武徳　武田　光平

〔到達目標〕

1）健康教育である運動・スポーツを実践することができる。

2）運動・スポーツを通して、自身の体力を向上させ、健康的な生活習慣の確立を身に付けることができる。

3）さらに、スポーツを通じて『コミュニケーション能力』『協調性』などの社会人基礎力を図ることができる。

〔授業の概要〕

近年、「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、急務に改善しなければならない問題とされている。このような背景から、実技授業を通して体力の強化やケガをしない身体づくりはもちろんのこと、様々な運動やスポーツのルールの理解や運営方法を学び、スポーツの楽しさや表現力を習得する。実習場所は、福山記念館フロア（①）・第2体育館フロア（②）・卓球場（③）・グランド（④）の4ヶ所でおこない、各週学生が移動をして様々な競技を体験する。

◇受講要件◇

・実技科目にふさわしい服装で受講すること
・体育館では室内シューズを使用すること
・15分を過ぎての入室及び15分以上の退室は欠席扱いとする
・腕時計、ピアス等の着用禁止
・爪は短く、長い者はテーピングで保護する事

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：シラバスを確認し、関連スポーツに関する各競技のルールや特性などをノートにまとめておくこと。(2時間)

復習：実習でできたこと等をノートにまとめ、自身の健康維持・増進に向けて積極的にスポーツの実践を図ること。(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。
担当教員の紹介。（別當・武田）

第 2 回　新体力テスト①
①筋力・筋持久力系のテスト実施　（伊藤・西光）
②持久力・柔軟系のテスト実施　（武田）
③瞬発力系のテスト実施　（別當）

第 3 回　新体力テスト②
①筋力・筋持久力系のテスト実施　（伊藤・西光）
②持久力・柔軟系のテスト実施　（武田）
③瞬発力系のテスト実施　（別當）

第 4 回　新体力テスト③
①筋力・筋持久力系のテスト実施　（伊藤・西光）
②持久力・柔軟系のテスト実施　（武田）
③瞬発力系のテスト実施　（別當）

第 5 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価①
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當

第 6 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価②
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當

第 7 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価③
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當

第 8 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価④
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當

第 9 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑤
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當

第 10 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑥
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當

第 11 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑦
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當

第 12 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑧
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當

第 13 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑨
①ラグビー：伊藤・西光　②インディアカ：武田　④アルティメット：別當

第 14 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑩
①ラグビー：伊藤・西光　②インディアカ：武田　④アルティメット：別當

第 15 回　新体力テスト最終評価
グループ討議及びテストレポート（別當・伊藤）

〔成績評価〕

≪配点内訳≫
授業への意欲・態度（30%）
体力テスト結果(20%)

実技点(30%)
テストレポート(20%)
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領・解説（最新版）
適宜紹介する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
保健授業の経験を活かし、体つくり運動や健康の維持・増進やスポーツ現場における課題や問題の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
毎週木曜日10:00～16:00
事前に下記のメールアドレスに連絡下さい。
tetsuji@ashiya-u.ac.jp
記念館1階西光哲治研究室